茨城県教育財団文化財調査報告第107集

取手都市計画事業下高井特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書

甚五郎崎遺跡
下高井向原Ⅰ遺跡
下高井向原Ⅱ遺跡

平成8年3月

住宅・都市整備公団首都圏都市開発本部
財団法人　茨城県教育財団

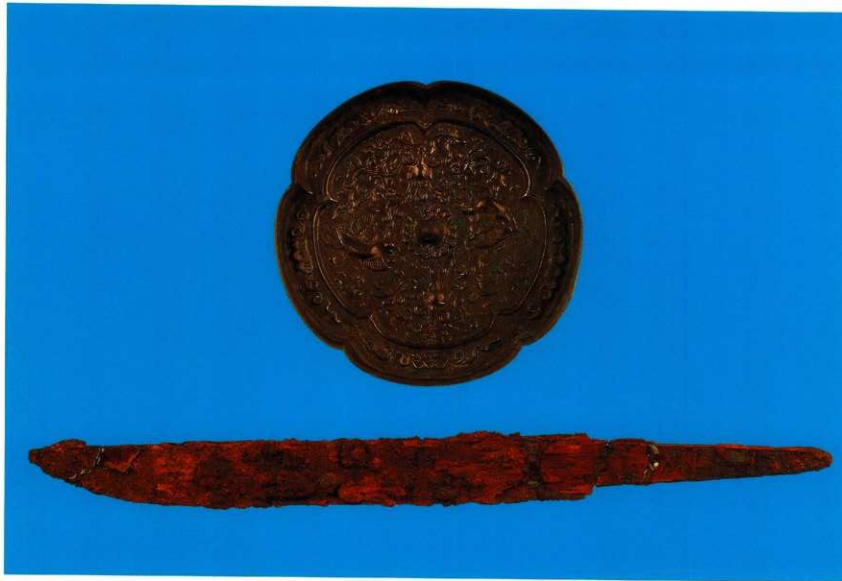
茨城県教育財団文化財調査報告第107集

取手都市計画事業下高井特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書

甚五郎崎遺跡
下高井向原Ⅰ遺跡
下高井向原Ⅱ遺跡

平成8年3月

住宅・都市整備公団首都圏都市開発本部
財団法人　茨城県教育財団



下高井向井原Ⅰ遺跡出土鏡（端花双鳳五花鏡）・刀子

序

取手市と住宅・都市整備公団は，市の西部地区に拠点都市機能を持ち，良好な居住環境を有する住宅の供給を行うための特定土地区画整理事業を進めております。その事業予定地内の下高井地区には，埋蔵文化財包蔵地である甚五郎崎遺跡ほか２遺跡が所在しております。

財団法人茨城県教育財団は，住宅・都市整備公団から開発地内の埋蔵文化財発掘調査事業について委託契約を受け，平成５年10月から平成７年３月にかけて発掘調査を実施してまいりました。

本書は，平成５年度から平成６年度に調査を実施した甚五郎崎遺跡，下高井向原Ⅰ遺跡及び下高井向原Ⅱ遺跡の調査成果を収録したものであります。本書が学術的な研究資料としてはもとより，郷土の歴史の理解を深め，ひいては教育・文化の向上の一助として，活用されることを希望いたします。

なお，発掘調査及び整理を進めるにあたり，委託者である住宅・都市整備公団からいただいた多大な御協力に対し，心から感謝申し上げます。

また，茨城県教育委員会，取手市教育委員会をはじめ，関係各機関及び関係各位から御指導，御協力を賜りましたことに，衷心より感謝の意を表します。

平成８年３月

財団法人　茨城県教育財団
理事長　橋　本　　昌

例　　言

1　本書は，住宅・都市整備公団の委託により，財団法人茨城県教育財団が平成５年10月１日から平成７年３月31日まで実施した，茨城県取手市に所在する甚五郎崎遺跡，下高井向原Ⅰ遺跡及び下高井向原Ⅱ遺跡の発掘調査報告書である。

なお，３遺跡の所在地は次の通りである。

甚五郎崎遺跡　　取手市大字下高井字甚五郎崎1626番地ほか

下高井向原Ⅰ遺跡　　取手市大字下高井字見次1916番地の1ほか

下高井向原Ⅱ遺跡　　取手市大字下高井字向原1961番地ほか

2　甚五郎崎遺跡ほか２遺跡の調査及び整理に関する当教育財団の組織は，次のとおりである。

理事長		磯田　勇	昭和63年６月～平成７年３月
		橋本　昌	平成７年４月～
副理事長		角田芳夫	平成３年７月～平成６年３月
		小林秀文	平成６年４月～
		中島弘光	平成７年４月～
専務理事		中島弘光	平成５年４月～平成７年３月
常務理事		一木邦彦	平成７年４月～
事務局長		藤枝宣一	平成４年４月～平成７年３月
		齊藤紀彦	平成７年４月～
埋蔵文化財部長		安藏幸重	平成５年４月～
埋蔵文化財部長代理		河野佑司	平成６年４月～
企画管理課	課長	水飼敏夫	平成４年４月～
	課長代理	根本達夫	平成７年４月～（平成６年４月～平成７年３月　係長）
	主任調査員	川井正一	平成５年４月～平成６年３月
	主任調査員	海老澤　稔	平成６年４月～
	主事	杉山秀一	平成４年４月～平成６年３月
経理課	課長	小嶋弘明	平成５年４月～
	主査	鈴木三郎	平成７年４月～（平成５年４月～平成７年３月　課長代理）
	課長代理	大髙春夫	平成７年４月～（平成６年４月～平成７年３月　係長）
	主任	飯島康司	平成４年４月～平成６年３月
	主任	小池　孝	平成７年４月～
	主事	車司浩作	平成５年４月～
調査課	課長（部長兼務）	安藏幸重	平成５年４月～
	調査第一班長	小泉光正	平成５年10月～平成６年３月
	調査第四班長	鵜見貞雄	平成６年４月～平成７年３月
	主任調査員	上野修生	平成５年10月～平成６年３月　調査
	主任調査員	横堀孝徳	平成６年４月～平成７年３月　調査
	主任調査員	中山忠久	平成６年７月～平成７年３月　調査
	調査員	吹野富美夫	平成５年10月～平成６年６月　調査

整理課	課長	山本 静男	平成7年4月～
	主任調査員	中山 忠久	平成7年10月～平成8年3月　整理・執筆・編集

3　本書で使用した記号等については，凡例を参照されたい。

4　本書の作成にあたり，貝の成長線分析と貝刃の実測については国立歴史民俗博物館の西本豊弘氏と徳永園子氏，墨書の解読については国立歴史民俗博物館の平川南氏，和鏡の鑑定及び分析については国学院大学の青木豊氏並びに東京国立文化財研究所の平尾良光氏と小林直子氏，陶器の産地同定については出光美術館学芸員の荒川正明氏，地下式壙の性格については日本考古学協会会員の江崎武氏にご指導をいただいた。炭化材の同定については，パリノ・サーヴェイ株式会社に依頼した。

5　発掘調査及び整理に際して，御指導，御協力を賜った関係各機関並びに関係各位に対し，深く感謝の意を表します。

6　遺跡の概略

フリガナ	とりでとしけいかくじぎょうしもたかいとくていとちかくせいりじぎょうちないまいぞうぶんかざいちょうさほうこくしょ
書名	取手都市計画事業下高井特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書
副書名	甚五郎崎遺跡・下高井向原Ⅰ遺跡・下高井向原Ⅱ遺跡
巻次	
シリーズ名	茨城県教育財団文化財調査報告
シリーズ番号	第107集
編著者名	中山 忠久
編集機関	財団法人　茨城県教育財団
所在地	〒310　茨城県水戸市見和1丁目356番地の2　TEL.029(225)6587
発行年月日	1996（平成8）年3月31日

ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
じんごろうざきいせき 甚五郎崎遺跡	いばらきけんとりでしおおあざ 茨城県取手市大字 しもたかいあざじんごろうざき 下高井字甚五郎崎 ばんち 1626番地ほか	08217 －35	35度 55分 23秒	140度 2分 45秒	19940401～ 19950331	11,568㎡	取手都市計画事業下高井特定土地区画整理事業に伴う事前調査
しもたかいかみはらいちいせき 下高井向原Ⅰ遺跡	いばらきけんとりでしおおあざ 茨城県取手市大字 しもたかい あざみつぎ 下高井字見次1916 ばんち 番地の1ほか	08217 －33	35度 55分 25秒	140度 2分 20秒		5,221㎡	
しもたかいかみはらにいせき 下高井向原Ⅱ遺跡	いばらきけんとりでしおおあざ 茨城県取手市大字 しもたかいあざむかいはら 下高井字向原1961 ばんち 番地ほか	08217 －34	35度 55分 35秒	140度 2分 22秒	19931001～ 19950331	11,532㎡	

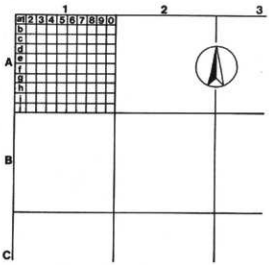
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
甚五郎崎遺跡	集落跡	縄文時代 (早・前期)	竪穴住居跡　5軒 土坑　21基	縄文土器片	・墨書土器が多数出土している。 ・数条の溝によって区画された墓域が形成されている。
		平安時代	竪穴住居跡　3軒	土師器，須恵器，墨書土器	
		中・近世	地下式壙　4基 小竪穴状遺構　7基 土坑　21基	土師器，須恵器，石製品	
		時期不明	掘立柱建物跡　9棟 土坑　128基 溝　27条		
下高井向原Ⅰ遺跡	集落跡	縄文時代	竪穴住居跡　4軒 土坑　11基 土坑内貝塚　2基	縄文土器片 貝輪	・縄文時代早期の貝塚から，貝輪などの装飾品が出土している。 ・平安時代後期の鏡と刀子が出土している。
		古墳時代	竪穴住居跡　1軒	土師器，須恵器	
		平安時代	土坑　1基	土師器，和鏡，刀子	
		時期不明	土坑　11基 溝　5条		
下高井向原Ⅱ遺跡	集落跡	縄文時代	竪穴住居跡　1軒 土坑　12基	縄文土器片	・縄文時代の竪穴住居跡や陥し穴が確認されている。
		時期不明	土坑　13基 溝　21条	陶磁器片	

凡　　例

1　甚五郎崎遺跡，下高井向原Ⅰ遺跡及び下高井向原Ⅱ遺跡の調査区設定は，日本平面直角座標第Ⅸ系を原点とし，X軸（南北）－8,200m，Y軸（東西）＋18,320mの交点を基準点（A1a$_1$）とした。

大調査区は，この基準点を基に遺跡範囲内を40m方眼で区画設定した。さらに，この大調査区を東西，南北に各々10等分し，4m方眼の小調査区を設定した。

大調査区の名称は，アルファベットと算用数字を用い，北から南へA，B，C…，西から東へ1，2，3…とし，その組み合わせで「A1区」，「B1区」のように呼称した。小調査区も同様に，北から南へa，b，c…j，西から東へ1，2，3…0とし，名称は大調査区の名称を冠し，「A1a$_1$区」，「B2b$_1$区」のように呼称した。



第1図　調査区呼称方法概念図

2　遺構，遺物，土層に使用した記号は，以下のとおりである。

遺構　住居跡－SI　土坑－SK　溝－SD　掘立柱建物跡－SB　不明遺構－SX　ピット－P

遺物　土器－P　石器・石製品－Q　土製品－DP　金属製品－M　貝製品－N　拓本土器－TP

土層　撹乱－K

3　遺構，遺物の実測図中の表示は，以下のとおりである。

=炉・電・繊維土器　=焼土　=粘土　=貝塚　=黒色処理　=釉

●　土器　□　石器・石製品　△　金属製品　――――　硬化面

4　土層観察と遺物における色調の判定は，『新版標準土色帖』（小山正忠・竹原秀雄編著日本色研事業株式会社）を使用した。

5　遺構，遺物実測図の作成方法と掲載方法については，以下のとおりである。

(1)　遺跡全体図は縮尺400分の1とし，各遺構の実測図は60分の1の縮尺で掲載することを基本とした。

(2)　遺物は原則として3分の1の縮尺にした。種類や大きさにより異なる場合もあり，それらについては個個にスケールで表示した。

(3)　「主軸方向」は，炉，電をとおる軸線あるいは南北の柱穴を結ぶ軸線を主軸とし，その主軸が座標北からみて，どの方向にどれだけ振れているかを角度で示した。（例　N－10°－E，N－10°－W）

なお，［　　］を付したものは推定である。

(4)　土器の計測値は，A－口径　B－器高　C－底径　D－高台径（脚部径）　E－高台高（脚部高）とし，単位はcmである。

なお，現存値は（　　）を，推定値は［　　］を付して示した。

目　　次

序
例　言
凡　例
第１章　調査経緯 …… 1
　第１節　調査に至る経過 …… 1
　第２節　調査経過 …… 1
第２章　位置と環境 …… 4
　第１節　地理的環境 …… 4
　第２節　歴史的環境 …… 4
第３章　甚五郎崎遺跡 …… 8
　第１節　遺跡の概要 …… 8
　第２節　基本層序 …… 8
　第３節　遺構と遺物 …… 9
　　1　竪穴住居跡 …… 9
　　2　小竪穴状遺構 …… 29
　　3　土坑 …… 37
　　4　掘立柱建物跡 …… 87
　　5　道路跡 …… 99
　　6　溝 …… 99
　　7　遺構外出土遺物 …… 112
　第４節　まとめ …… 124
第４章　下高井向原Ⅰ遺跡 …… 125
　第１節　遺跡の概要 …… 125
　第２節　基本層序 …… 125
　第３節　遺構と遺物 …… 126
　　1　竪穴住居跡 …… 126
　　2　土坑 …… 135
　　3　溝 …… 148
　　4　遺構外出土遺物 …… 149
　第４節　まとめ …… 153
第５章　下高井向原Ⅱ遺跡 …… 154
　第１節　遺跡の概要 …… 154
　第２節　基本層序 …… 154
　第３節　遺構と遺物 …… 155
　　1　竪穴住居跡 …… 155

2　土坑 …… 156
3　溝 …… 165
4　その他の遺構 …… 167
5　遺構外出土遺物 …… 169
第4節　まとめ …… 170
付章 …… 171
1　自然科学分析 …… 171
2　化学組成分析 …… 173

挿図目次

第1図　調査区呼称方法概念図 ……
第2図　甚五郎崎・下高井向原Ⅰ・下高井向原Ⅱ
　　遺跡調査区 ……
第3図　周辺遺跡分布図 ……
甚五郎崎遺跡
第4図　基本土層図 …… 8
第5図　第1号住居跡実測図 …… 10
第6図　第1号住居跡出土遺物実測図 …… 11
第7図　第2号住居跡実測図 …… 12
第8図　第2号住居跡出土遺物拓影図 …… 13
第9図　第4号住居跡実測図 …… 13
第10図　第4号住居跡出土遺物拓影図 …… 14
第11図　第5号住居跡実測図 …… 15
第12図　第5号住居跡出土遺物実測図 …… 16
第13図　第6号住居跡実測図 …… 17
第14図　第6号住居跡出土遺物実測図 …… 18
第15図　第8号住居跡実測図 …… 19
第16図　第8号住居跡出土遺物実測図 …… 20
第17図　第7号住居跡実測図 …… 22
第18図　第7号住居跡出土遺物実測図 …… 23
第19図　第3号住居跡実測図 …… 25
第20図　第3号住居跡出土遺物実測図(1) …… 26
第21図　第3号住居跡出土遺物実測図(2) …… 27
第22図　第1号小竪穴状遺構実測図 …… 29
第23図　第1号小竪穴状遺構出土遺物実測図 …… 30
第24図　第2号小竪穴状遺構実測図 …… 31
第25図　第2号小竪穴状遺構出土遺物実測図 …… 31
第26図　第3号小竪穴状遺構実測図 …… 32
第27図　第4号小竪穴状遺構実測図 …… 33
第28図　第5号小竪穴状遺構実測図 …… 34
第29図　第5号小竪穴状遺構出土遺物実測図 …… 34
第30図　第6号小竪穴状遺構実測図 …… 35
第31図　第7号小竪穴状遺構実測図 …… 36
第32図　炉穴実測図(1) …… 41
第33図　炉穴実測図(2) …… 43
第34図　炉穴出土遺物拓影図 …… 44
第35図　第9, 41, 47号土坑実測図 …… 46
第36図　第50, 55, 75号土坑実測図 …… 48
第37図　第71, 78, 92号土坑実測図 …… 50
第38図　第161, 167号土坑実測図 …… 51
第39図　第171号土坑実測図 …… 52
第40図　陥し穴出土遺物実測図 …… 53
第41図　第10号土坑実測図 …… 54
第42図　第10号土坑出土遺物実測図 …… 55
第43図　第29号土坑実測図 …… 56
第44図　第29号土坑出土遺物実測図 …… 57
第45図　第119号土坑実測図 …… 58
第46図　第119号土坑出土遺物実測図 …… 59
第47図　第177号土坑実測図 …… 60
第48図　第177号土坑出土遺物実測図 …… 61
第49図　粘土貼り遺構実測図 …… 64
第50図　粘土貼り遺構出土遺物実測図 …… 66
第51図　長方形土坑実測図 …… 67
第52図　第139号土坑出土遺物実測図 …… 70
第53図　第149号土坑出土遺物実測図 …… 71
第54図　その他の土坑実測図(1) …… 72

第55図　その他の土坑実測図(2) ……73
第56図　その他の土坑実測図(3) ……74
第57図　その他の土坑実測図(4) ……75
第58図　その他の土坑実測図(5) ……76
第59図　その他の土坑実測図(6) ……77
第60図　その他の土坑実測図(7) ……78
第61図　その他の土坑実測図(8) ……79
第62図　その他の土坑出土遺物実測図(1) ……80
第63図　その他の土坑出土遺物拓影図(2) ……81
第64図　その他の土坑出土遺物拓影図(3) ……82
第65図　第4号掘立柱建物跡実測図 ……88
第66図　第5号掘立柱建物跡実測図 ……89
第67図　第9号掘立柱建物跡出土遺物実測図 ……89
第68図　第9号掘立柱建物跡実測図 ……90
第69図　第1号掘立柱建物跡実測図 ……92
第70図　第2号掘立柱建物跡実測図 ……93
第71図　第3号掘立柱建物跡実測図 ……94
第72図　第6号掘立柱建物跡実測図 ……96
第73図　第7号掘立柱建物跡実測図 ……97
第74図　第8号掘立柱建物跡実測図 ……98
第75図　第2号溝出土遺物実測図 ……99
第76図　第3号溝出土遺物実測図 ……100
第77図　墓域を形成したと思われる
溝実測図 ……101～102
第78図　第5号溝出土遺物実測図 ……103
第79図　第6号溝出土遺物実測図 ……104
第80図　第7A号溝出土遺物実測図 ……104
第81図　第7B号溝出土遺物実測図 ……105
第82図　第8号溝出土遺物実測図 ……106
第83図　第24号溝出土遺物実測図 ……107
第84図　その他の溝土層・断面実測図 ……109
第85図　その他の溝出土遺物実測図 ……109
第86図　遺構外出土遺物拓影図(1) ……113
第87図　遺構外出土遺物拓影図(2) ……114
第88図　遺構外出土遺物実測図(3) ……115
第89図　遺構外出土遺物実測図(4) ……117
第90図　遺構外出土遺物実測図(5) ……118
第91図　遺構外出土遺物実測図(6) ……119
第92図　遺構外出土遺物実測図(7) ……120

下高井向原Ⅰ遺跡

第93図　基本土層図 ……125
第94図　第1号住居跡実測図 ……126
第95図　第1号住居跡出土遺物拓影図 ……127
第96図　第3号住居跡実測図 ……127
第97図　第3号住居跡出土遺物実測図 ……128
第98図　第4号住居跡実測図 ……129
第99図　第4号住居跡出土遺物実測図 ……130
第100図　第5号住居跡実測図 ……131
第101図　第2号住居跡実測図 ……132
第102図　第2号住居跡出土遺物実測図 ……133
第103図　炉穴実測図 ……136
第104図　炉穴出土遺物拓影図 ……139
第105図　第7，8，24号土坑実測図 ……140
第106図　第29号土坑実測図 ……141
第107図　陥し穴出土遺物実測図 ……142
第108図　第18号土坑実測図 ……143
第109図　第18号土坑出土遺物実測図 ……143
第110図　第2，20号土坑実測図 ……144
第111図　第2号土坑出土遺物実測図 ……144
第112図　第20号土坑出土遺物実測図 ……145
第113図　第2号土坑ハマグリ殻長分布図 ……146
第114図　第20号土坑ハマグリ殻長分布図 ……146
第115図　その他の土坑実測図 ……147
第116図　溝土層断面実測図 ……148
第117図　遺構外出土遺物拓影図(1) ……150
第118図　遺構外出土遺物拓影図(2) ……151
第119図　遺構外出土遺物実測図(3) ……152
第120図　遺構外出土遺物実測図(4) ……153

下高井向原Ⅱ遺跡

第121図　基本土層図 ……154
第122図　第1号住居跡実測図 ……155
第123図　第1号住居跡出土遺物拓影図 ……156
第124図　第2，3，4，5号土坑実測図 ……158
第125図　第7，8，9号土坑実測図 ……159
第126図　第10，16，19号土坑実測図 ……160
第127図　第21，22号土坑実測図 ……161

第128図　陥し穴出土遺物実測図 ……163
第129図　その他の土坑実測図 ……164
第130図　溝土層断面実測図 ……166
付図1　甚五郎崎遺跡全体図
付図2　下高井向原Ⅰ遺跡全体図
第131図　第1号溝出土遺物実測図 ……166
第132図　第1，2号不明遺構実測図 ……168
第133図　遺構外出土遺物実測図 ……169
付図3　下高井向原Ⅱ遺跡全体図

表　目　次

表1　甚五郎崎・下高井向原Ⅰ・下高井向原Ⅱ遺跡周辺遺跡一覧表 …… 7
表2　甚五郎崎遺跡住居跡一覧表 ……28
表3　甚五郎崎遺跡小竪穴状遺構一覧表 ……36
表4　甚五郎崎遺跡土坑一覧表 ……83
表5　甚五郎崎遺跡溝一覧表 ……111
表6　下高井向原Ⅰ遺跡住居跡一覧表 ……134
表7　第2号土坑動植物遺存体組成表 ……146
表8　第20号土坑動植物遺存体組成表 ……146
表9　下高井向原Ⅰ遺跡土坑一覧表 ……148
表10　下高井向原Ⅰ遺跡溝一覧表 ……148
表11　下高井向原Ⅱ遺跡土坑一覧表 ……165
表12　下高井向原Ⅱ遺跡溝一覧表 ……166

写真図版目次

PL1　甚五郎崎・下高井向原Ⅰ・下高井向原Ⅱ遺跡遠景，甚五郎崎遺跡南東部調査終了後全景，甚五郎崎遺跡第1号住居跡遺跡出土状況
PL2　甚五郎崎・下高井向原Ⅰ・下高井向原Ⅱ遺跡全景
PL3　第2・3・4・6・7・8号住居跡，第7・8号住居跡竈内遺物出土状況
PL4　第1・4号小竪穴状遺構，第29・119・138・176号土坑，第7号掘立柱建物跡，第29号溝
PL5　下高井向原Ⅰ遺跡第2・3・4・5号住居跡全景及び遺物出土状況
PL6　第2・20・29号土坑全景及び遺物出土状況
PL7　下高井向原Ⅱ遺跡第1号住居跡，第10・17号土坑，第1・2号溝，第1・2号不明遺構全景
PL8　甚五郎崎遺跡出土遺物
PL9　甚五郎崎遺跡出土遺物
PL10　甚五郎崎遺跡出土遺物
PL11　甚五郎崎遺跡出土遺物
PL12　甚五郎崎遺跡出土遺物
PL13　甚五郎崎・下高井向原Ⅰ遺跡出土遺物
PL14　下高井向原Ⅰ・下高井向原Ⅱ遺跡出土遺物
PL15　下高井向原Ⅰ遺跡出土貝
PL16　下高井向原Ⅰ遺跡出土貝
PL17　下高井向原Ⅰ遺跡出土貝，甚五郎崎遺跡出土拓本土器
PL18　甚五郎崎遺跡出土拓本土器
PL19　甚五郎崎遺跡出土拓本土器
PL20　甚五郎崎遺跡出土拓本土器
PL21　甚五郎崎・下高井向原Ⅰ遺跡出土拓本土器
PL22　下高井向原Ⅰ・下高井向原Ⅱ遺跡出土拓本土器

第1章　調査経緯

第1節　調査に至る経過

取手市は，整備された交通網や首都圏40km以内という恵まれた立地条件のもと，工業団地の進出や住宅地の増加が著しく，めざましい発展を遂げている。また，JR常磐新線や首都圏中央連絡自動車道の開発計画に伴い，ますます茨城県南部の業務核都市としての役割を期待されている。そこで，住宅・都市整備公団は，取手市の西部地区に「取手都市計画事業下高井特定土地区画整理事業」を計画した。この事業は，業務機能と都市的機能を備えた良好な居住環境を有した市街地の形成を目指すものである。

これにより，平成4年8月26日，住宅・都市整備公団首都圏都市開発本部は，茨城県教育委員会に対し，この事業計画地区である取手市西部地域における埋蔵文化財の有無の照会をした。これを受け，茨城県教育委員会は，取手市教育委員会と埋蔵文化財の有無の確認とその取り扱いについての協議を行い，平成4年11月25日，表面観察及び試掘調査を実施した結果，甚五郎崎遺跡ほか下高井向原遺跡など数遺跡が所在することを確認し，住宅・都市整備公団あてに回答した。平成5年2月4日から，住宅・都市整備公団と茨城県教育委員会は，埋蔵文化財の取り扱いについて，文化財保護の立場から慎重に協議を重ねた結果，発掘調査による記録保存の措置を講ずることにした。そこで，茨城県教育委員会は，住宅・都市整備公団に，埋蔵文化財の調査機関として財団法人茨城県教育財団を紹介した。

茨城県教育財団は，住宅・都市整備公団と取手都市計画事業下高井特定土地区画整理事業地内の埋蔵文化財発掘調査に関する業務の委託契約を結び，平成5年10月1日から下高井向原II遺跡の発掘調査を開始した。さらに，平成6年度，甚五郎崎遺跡，下高井向原I遺跡及び下高井向原II遺跡の埋蔵文化財発掘調査に関する業務の委託契約を結び，同年4月から3遺跡の発掘調査を実施することとなった。

第2節　調査経過

甚五郎崎遺跡，下高井向原I遺跡及び下高井向原II遺跡の発掘調査を，平成5年10月1日から平成7年3月31日までの1年6か月にわたって実施した。以下，調査の経過について，その概要を月ごとに記述する。

平成5年度－下高井向原II遺跡の調査

10　月　発掘調査を開始するため，現場事務所や倉庫の設置，調査器材の搬入，作業員募集等の諸準備を行った。13日から作業員を投入して，諸施設の整備，下高井向原II遺跡の伐開作業を開始し，22日から試掘調査を実施した。

11　月　3日から山林部分の業者委託による立木の伐開，焼却作業を開始し，これと並行して試掘調査を行った。

12～1月　重機による表土除去及び遺構確認作業を開始し，竪穴住居跡1軒，土坑18基及び溝15条を確認した。

2　月　4日から遺構調査を開始した。

3　月　22日には遺構調査を終了した。その後，諸帳簿や諸記録の点検，発掘現場の安全対策を行い，24日には当遺跡の平成5年度分の8,863m²の現地調査を完了した。

平成６年度－甚五郎崎遺跡，下高井向原Ⅰ遺跡及び下高井向原Ⅱ遺跡の調査

4　月　20日から作業員を投入して，甚五郎崎遺跡の伐開作業を開始し，25日から試掘調査を実施した。

5～6月　甚五郎崎遺跡の試掘範囲を拡張するとともに，下高井向原Ⅰ遺跡，下高井向原Ⅱ遺跡の試掘調査を開始した。

7　月　7日から甚五郎崎遺跡の重機による表土除去を開始し，併せて遺構確認作業を進めた。甚五郎崎遺跡では，竪穴住居跡６軒，土坑101 基，溝25条を確認した。

8　月　4日から遺構調査を開始した。10日から下高井向原Ⅰ遺跡の重機による表土除去を開始し，12日から遺構確認作業を進めた。下高井向原Ⅰ遺跡では，竪穴住居跡５軒，土坑12基，炉穴７基，陥し穴４基，土坑内貝塚２か所，溝５条を確認した。26日から下高井向原Ⅱ遺跡の平成６年度分の2,669 m²について，重機による表土除去と遺構確認作業を開始し，土坑４基，陥し穴３基，溝６条を確認した。９～10月９月６日から甚五郎崎遺跡の遺構調査を再開した。

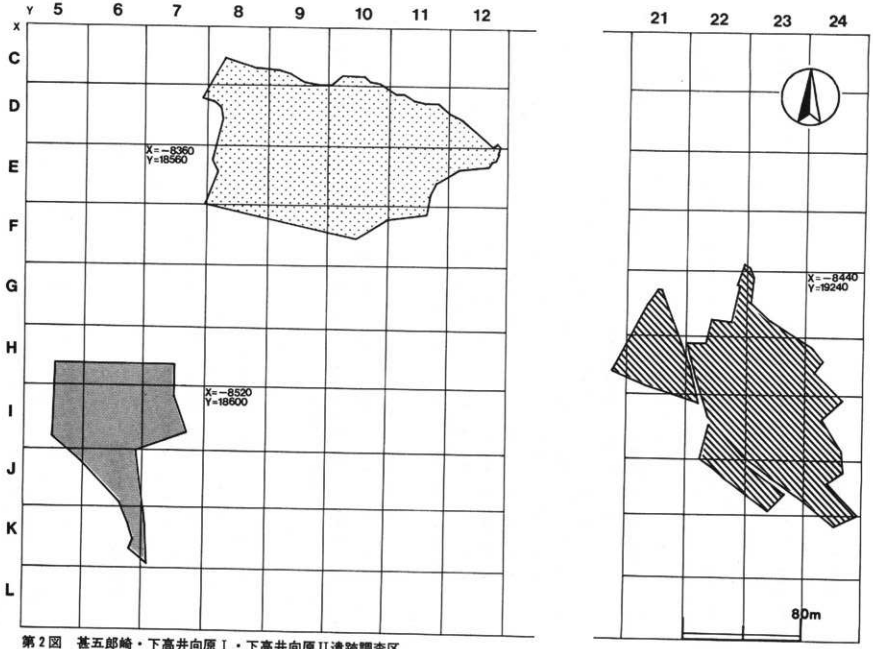
11　月　14日から甚五郎崎遺跡内で，小学校の実習地として残されていた部分の重機による表土除去を開始し，併せて遺構確認作業を行った。竪穴住居跡２軒，溝２条，土坑73基を新たに確認した。

12　月　引き続き，甚五郎崎遺跡の遺構調査を進めた。

1　月　17日に甚五郎崎遺跡の遺構調査を終了した。18日から下高井向原Ⅰ遺跡の遺構調査を進めた。第18号土坑から平安時代後期の白銅鏡と刀子が出土した。

2　月　3日から下高井向原Ⅱ遺跡の遺構調査を開始した。18日には甚五郎崎遺跡において現地説明会を実施した。28日には航空写真撮影を実施し，午後から安全対策の埋め戻し作業を開始した。

3　月　下高井向原Ⅱ遺跡の遺構調査を進めるとともに，９日から撤収作業の準備を開始した。23日には３遺跡の遺構調査を終了した。諸帳簿や諸記録の点検，発掘現場の安全対策を行い，24日には現地調査を完了した。



第2図　甚五郎崎・下高井向原Ⅰ・下高井向原Ⅱ遺跡調査区

第２章　位置と環境

第１節　地理的環境

甚五郎崎遺跡は取手市大字下高井字甚五郎崎1626番地ほか，下高井向原Ⅰ遺跡は取手市大字下高井字向原1916番地の１ほか，下高井向原Ⅱ遺跡は取手市大字下高井字向原1961番地ほかに所在し，いずれも取手市役所の北北西約２kmのところに位置している。

遺跡のある取手市は，茨城県最南部の利根川沿いにあり，東は利根町，龍ヶ崎市，西は守谷町，南は利根川を挟んで千葉県の我孫子市，北は伊奈町，藤代町と境を接している。市域は，南側の利根川沿いの低地と北側の小貝川沿いの低地に挟まれて東西に細長く伸びた北相馬台地を骨格としており，面積は36.84㎢である。市の中央部を，国道６号線とJR常磐線が平行してほぼ南北に通じ，中央部から西に国道294号線と関東鉄道常総線が平行して走っている。交通条件の良さと首都圏40km内にあることから工業団地と併せて大規模住宅団地化が進み，県南部の中枢的商業都市としての発展もめざましい。

取手市の地形は，標高21～25mの北相馬台地と利根川や小貝川水系の低地からなっている。利根川は群馬県を水源とし，市の南側を西から東に流れ，千葉県との県境を形成している。小貝川は栃木県を水源とし，流路蛇行しながら市の東側で利根川と合流している。北相馬台地は，利根川や小貝川の支流が入り込み，複雑な地形となっている。市街地より東では，小文間の小台地や利根町の小台地などが孤立した台地として連なっている。台地の地層は，第四紀洪積世古東京湾時代に堆積した成田層が基盤層となり，下部から成田層下部，成田層上部，竜ヶ崎砂礫層，常総粘土層，関東ローム層の順で堆積している。堆積状況は，水平で単調であり，褶曲や断層はみられない。

甚五郎崎遺跡は，小貝川右岸から南西側に入り込む小支谷に挟まれた標高18～22mの舌状台地の南側に立地している。遺跡のある台地と小支谷の比高は８～10mで，調査前の現況は畑及び山林である。下高井向原Ⅰ遺跡及び下高井向原Ⅱ遺跡は，小支谷がさらに奥深く入り込んだ舌状台地の南側と北側に立地している。調査前の現況は畑及び山林で，遺跡周辺の低湿地は荒地である。

参考文献

茨城県農地部農地計画課　『土地分類基本調査　龍ヶ崎』　1987年12月

蜂須紀夫　『茨城県　地学のガイド』　1986年11月

取手市教育委員会　『取手市史　原始古代（考古）資料編』　1989年３月

取手市教育委員会　『中妻貝塚』　1995年７月

第２節　歴史的環境

甚五郎崎遺跡，下高井向原Ⅰ遺跡及び下高井向原Ⅱ遺跡が所在する取手市は，大小の河川，低地，台地と変化に富んだ自然環境の中で昔から人々の生活が営まれており，数多くの遺跡が残っている。特に，利根川，小貝川水系によって形成された台地上には，旧石器時代から中世までの遺跡が多数分布している。ここでは，当地域の主な遺跡について時代をおって述べることにする。

旧石器時代の遺跡としては，柏原遺跡があり，細石刃核や細石刃，彫器及び削器等が出土している。また，西方貝塚〈1〉，大渡Ⅰ遺跡〈55〉の発掘調査の出土遊物中に旧石器時代と思われる石器や石器剥片が出土している。[2]

縄文時代草創期の遺跡としては，椿山・大日原遺跡〈33〉と市之代遺跡があり，撚糸文土器片や稲荷台式土器片が出土している。[3] 縄文時代早期の遺跡としては，今回報告する下高井向原Ⅰ遺跡，西方貝塚，暮日神社遺跡〈5〉，除戸Ⅰ遺跡〈17〉，東原遺跡〈27〉，市之代遺跡，堀尻遺跡〈53〉，大渡Ⅰ遺跡，甕ノ藤遺跡〈60〉等があり台地の縁辺及び小高い尾根上の台地に立地している。縄文時代前期の遺跡としては，西方貝塚，除戸Ⅰ遺跡，西浦Ⅰ遺跡〈20〉，椿山・大日原遺跡，向山貝塚〈34〉，上高井鞠塚古墳〈40〉，白旗遺跡〈61〉等があり，早期の遺跡と比較して規模が大きくなる。縄文時代中期の遺跡としては，西方貝塚，二本松貝塚，除戸Ⅰ遺跡，陣谷原遺跡〈29〉，下高井向原Ⅰ遺跡，堀尻遺跡，大渡Ⅰ遺跡等がある。特に，西方貝塚は，昭和59年から61年まで断続的に調査が行われ，環状に住居跡が構成された，貝塚を伴う環状集落であることがわかっている。[4] 縄文時代後期の遺跡としては，中妻貝塚〈2〉，谷耕地下貝塚〈3〉，西方遺跡〈4〉，春日神社遺跡，谷耕地遺跡〈7〉，台道南遺跡〈6〉，北中原A遺跡〈14〉，北中原B遺跡〈15〉，除戸Ⅰ遺跡，駒場Ⅰ遺跡〈22〉，天山Ⅰ遺跡〈25〉，熊畑遺跡〈28〉，陣谷原遺跡，甚五郎崎遺跡，山王作遺跡〈37〉，谷坪遺跡〈38〉，神明遺跡〈39〉，前新田遺跡〈41〉，大境遺跡〈42〉，稲向原Ⅰ遺跡〈43〉，稲向原Ⅲ遺跡〈45〉，古戸遺跡〈47〉，惣代八幡遺跡〈49〉，遠道遺跡〈52〉，堀尻遺跡，大渡Ⅰ遺跡，狩ノ代Ⅰ遺跡〈57〉，東山遺跡〈59〉等がある。中妻貝塚は古くから著名な貝塚で，昭和47年から62年までの発掘調査により，堀之内式，加曽利B式から安行式にいたるまでの後期土器が出土している。[5] 厚さ1m以上の貝層が直径200mの円形に展開しており，縄文後期における巨大な馬蹄形の貝塚である。神明遺跡からは，安行Ⅰ式のミミズク型土偶が出土している。[6] 縄文時代晩期の遺跡としては，中妻貝塚，神明遺跡等があり，大規模な後期の遺跡が継続したものであるが，遺跡数は急減している。

弥生時代の遺跡としては，市之代遺跡，大渡Ⅱ遺跡〈56〉，柏原遺跡等がある。当地域における弥生時代の遺跡は少なく，遺構との関係がはっきり確認できていない。

古墳時代の遺跡としては，市之代古墳群，大渡Ⅱ遺跡，宗内郎坂古墳〈8〉，北中原Ⅱ遺跡〈16〉，除戸Ⅱ遺跡〈18〉，大山Ⅱ遺跡〈26〉，下高井向原Ⅱ遺跡，椿山・大日原遺跡，上高井鞠塚古墳群，稲向原Ⅱ遺跡〈44〉，宿畑遺跡〈50〉，竹ノ代Ⅱ遺跡〈58〉等が確認されている。市之代古墳群は，小貝川の沖積地に独立した市之代の台地にあり，小貝川をのぞむ縁辺部に集中して立地している。現在，3基の前方後円墳と12基の円墳が確認されている。

奈良・平安時代の遺跡としては，戸田井遺跡〈9〉，中原遺跡〈11〉，南中原遺跡〈12〉，花輪台遺跡〈13〉，北中原Ⅱ遺跡，除戸Ⅱ遺跡，西浦Ⅱ遺跡〈21〉，駒場Ⅱ遺跡〈23〉，如何崎遺跡〈31〉，東遺跡〈32〉，向山Ⅱ遺跡〈35〉，貝塚新田遺跡〈36〉，稲荷原代遺跡〈46〉，徳Ⅱ遺跡〈51〉，堂ノ脇遺跡，新熊敷遺跡〈62〉，出土遺跡〈63〉，寺田耕地遺跡〈64〉，台宿遺跡等がある。

中世の遺跡としては，小文間城跡〈10〉，大鹿城跡〈19〉，大山遺跡〈24〉，大山Ⅱ遺跡，古戸城跡〈48〉，野々井城跡〈54〉等がある。大鹿城跡は開発により破壊されて昔日の面影がないが，下高井城跡は保存がよくその形状が確認できる。

※　文中の〈 〉内の番号は，表1，第1図中の該当番号と同じである。

注・参考文献

(1)　取手市教育委員会　『取手市史原始古代（考古）資料編』　1989年3月

(2)　取手市教育委員会　『茨城県取手市大渡Ⅰ遺跡平成5年度発掘調査報告書』　1994年

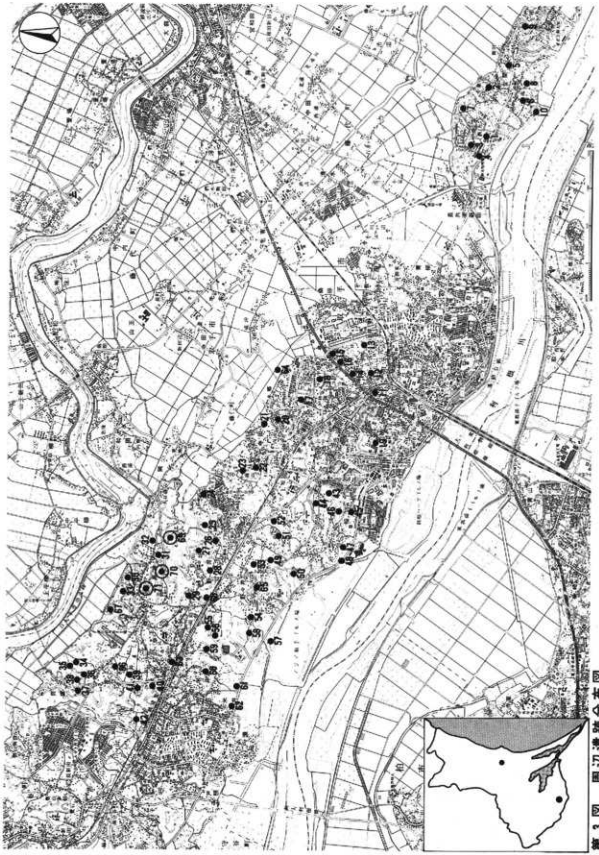
(3)　取手市教育委員会　『取手市小文間における縄文時代中期の貝塚』　1983年

(4)　取手市教育委員会　『茨城県取手市中妻貝塚発掘調査報告書』　1995年

(5) 取手市教育委員会　『取手と先史文化別巻1 －上高井神明貝塚の先史土器－』 1984年

(6) 取手市教育委員会　『市之代古墳群第3号墳調査報告』 1978年

(7) 茨城県教育委員会　『茨城県遺跡地図』 1990年3月



第3図　周辺遺跡分布図

表1　甚五郎崎遺跡，下高井向原Ⅰ遺跡及び下高井向原Ⅱ遺跡周辺遺跡一覧表

番号	遺跡名	県遺跡番号	時代						
			旧石器	縄文	弥生	古墳	奈・平	中世	
1	西方貝塚	2588		○					
2	中妻貝塚	2581		○					
3	谷耕地下貝塚	5569		○					
4	西方遺跡	5570		○					
5	春日神社遺跡	5571		○					
6	台道南遺跡	5572		○					
7	谷耕地遺跡	5573		○					
8	宗四郎坂古墳	3620				○			
9	戸田井遺跡	5574					○		
10	小文間城跡	5575						○	
11	中原遺跡	5577					○		
12	南中原遺跡	5578					○		
13	花輪台遺跡	5579					○		
14	北中原A遺跡	4077		○					
15	北中原B遺跡	4078		○					
16	北中原Ⅱ遺跡	5580					○		
17	除戸Ⅰ遺跡	5581		○					
18	除戸Ⅱ遺跡	5582				○			
19	大鹿城跡	2583						○	
20	西浦Ⅰ遺跡	5584		○					
21	西浦Ⅱ遺跡	5585					○		
22	駒場Ⅰ遺跡	5586		○					
23	駒場Ⅱ遺跡	5587					○		
24	大山遺跡	5588						○	
25	大山Ⅰ遺跡	5589		○				○	
26	大山Ⅱ遺跡	5590		○					
27	東原遺跡	5591		○	○				
28	前畑遺跡	5592		○					
29	陣谷原遺跡	5593		○					
30	下高井城跡	2584						○	
31	如何崎遺跡	5597					○		
32	東遺跡	5598					○		
33	椿山・大日原遺跡	5599		○					
34	向山貝塚	5601		○					
35	向山Ⅱ遺跡	5602					○		
36	貝塚新田遺跡	5603					○		
37	山王作遺跡	5604		○					
38	台坪遺跡	5605		○					
39	神明遺跡	5606		○					
40	上高井鶯塚古墳	5607				○			
41	前新田遺跡	5608		○					
42	大境遺跡	5609		○					
43	稲向原Ⅰ遺跡	5613		○					
44	稲向原Ⅱ遺跡	5614				○			
45	稲向原Ⅲ遺跡	5615		○					
46	稲向原Ⅳ遺跡	5616					○		
47	古戸遺跡	5617		○					
48	古戸城跡	5618							○
49	惣代八幡遺跡	4132		○					
50	宿畑遺跡	5619				○			
51	佃Ⅱ遺跡	5621					○		
52	遠道遺跡	5622		○					
53	堀尻遺跡	5623		○					
54	野々井城跡	5624							○
55	大渡Ⅰ遺跡	4133		○		○			
56	大渡Ⅱ遺跡	4134				○			
57	竹ノ代Ⅰ遺跡	5625		○					
58	竹ノ代Ⅱ遺跡	5626				○			
59	東山遺跡	5627		○					
60	堂ノ脇遺跡	5628					○		
61	白旗遺跡	5629		○					
62	新屋敷遺跡	5630					○		
63	出土遺跡	5631					○		
64	寺田耕地遺跡	5632					○		
65	西光寺前遺跡	5633		○					
66	神明貝塚	2585		○					
67	下高井貝塚	2589		○					
68	柏原遺跡		○	○	○		○		
69	甚五郎崎遺跡	当遺跡		○				○	○
70	下高井向原Ⅰ遺跡	当遺跡		○		○	○		
71	下高井向原Ⅱ遺跡	当遺跡		○					○

第３章　甚五郎崎遺跡

第１節　遺跡の概要

甚五郎崎遺跡は，取手市北西部，小貝川右岸から南西方向に入り込む支谷に突出した標高18～22mの舌状台地上に位置し，縄文時代，奈良・平安時代及び中・近世の複合遺跡である。現況は畑と山林で，面積は11,568㎡である。谷津を挟んだ南側には東原遺跡，700m程西には下高井向原Ⅰ遺跡，下高井向原Ⅱ遺跡がある。

今回の調査によって，縄文時代の竪穴住居跡５軒，奈良・平安時代の竪穴住居跡３軒と，他に小竪穴状遺構７基，土坑174基，掘立柱建物跡９棟，溝27条を確認した。

遺物は，遺物収納箱（60×40×20cm）に27箱出土した。縄文時代の出土遺物は，早期から前期，後期の縄文土器片，石鏃及び石斧である。奈良・平安時代の出土遺物は，土師器の坏，甕，須恵器の坏，甑及び盤である。中・近世の出土遺物は，土師質土器，陶磁器，内耳土器，刀子などの鉄製品，石臼，砥石，五輪塔及び古銭などである。

第２節　基本層序

調査区域西側台地平坦部（H21j$_7$区）にテストピットを設定した。深さ3.5mまで掘り下げ，第４図に示すような土層の堆積状況を確認した。

第１層　厚さ20cmの暗褐色の耕作土で，炭化粒子を極少量含む。

第２層　厚さ25cmの褐色土で，ソフトローム層への漸移層である。

第３層　厚さ20cmの明褐色のソフトローム層である。粘性がややある。

第４層　厚さ35cmの明褐色のハードローム層である。

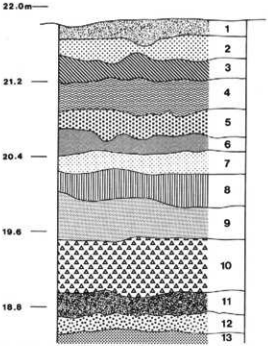
第５層　厚さ20cmの褐色のハードローム層で，炭化粒子，赤色スコリアを極少量含む。

第６層　厚さ30cmの褐色のハードローム層で，第５層よりもやや暗褐色が強く，炭化粒子，赤色スコリアを極少量含む。締まりが強い。

第７層　厚さ25cmの褐色土で，炭化粒子，赤色スコリアを微量含む。やや粘性があり，締まりは強い。

第８層　厚さ30cmの褐色土で，第７層よりロームブロックが多く，粘性，締まり共に強い。

第９層　厚さ40cmの褐色のハードローム層で，炭化粒子，赤色スコリアを極少量含む。やや粘性が強い。



第４図　基本土層図

第10層　厚さ60cmの褐色土で，第８層より青みを持つ。粘性が強い。

第11層　厚さ20cmの褐色土で，炭化粒子を少量，砂粒子を極少量，赤色スコリアを微量含む。粘性，締まり共に強い。

第12層　厚さ20cmのにぶい黄褐色土で，炭化粒子，赤色スコリアを微量含む。粘性は強い。

第13層　厚さ20cmの灰オリーブ色で，やや青みがかった灰白色の粘土層。

遺構は，第１層下面及び第２層上面で平面形が確認され，第２層から第３層にかけて掘り込んでいる。

第３節　遺構と遺物

１　竪穴住居跡

当遺跡から，縄文時代の竪穴住居跡５軒，奈良・平安時代の竪穴住居跡３軒を確認した。以下，確認した住居跡とそこから出土した遺物について記載する。

(1)　縄文時代の住居跡

第１号住居跡（第５図）

位置　調査区の北東部，I24a₅区。

重複関係　本跡は第30，56号土坑と重複している。本跡の西部を第30号土坑が掘り込んでおり，本跡の方が古い。本跡の北部は第56号土坑を掘り込んでおり，本跡の方が新しい。

規模と平面形　長径5.18m，短径4.60mの楕円形である。

長径方向　N－56°－W

壁　壁高は22～36cmで，外傾して立ち上がる。

床　平坦であるが，踏み締まりは弱い。床面の中央部にはローム ブロックが混じっている。

ピット　３か所（P_1～P_3）。P_1は径15cmの円形，深さ20cm，P_2は長径45cm，短径33cmの楕円形，深さ15cm，P_3は径30cmの円形，深さ20cmで，いずれも性格は不明である。

炉　確認されなかった。

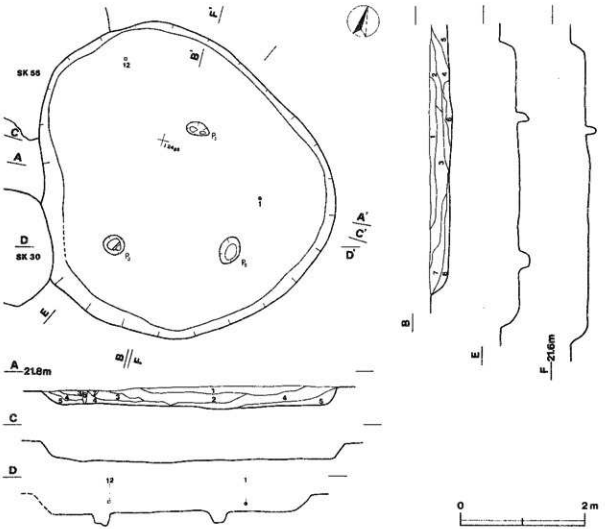
覆土　７層からなり，自然堆積土層と考えられる。

土層解説

1　暗褐色　ローム粒子・ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子極少量
2　暗褐色　ローム粒子少量，焼土粒子極少量
3　暗褐色　ローム粒子・ローム小ブロック少量，焼土小ブロック・焼土粒子・炭化材極少量
4　褐　色　ローム粒子少量，ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子極少量
5　褐　色　ローム粒子多量
6　褐　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック少量，ローム中ブロック・焼土粒子極少量
7　褐　色　ローム粒子・ローム小ブロック少量

遺物　覆土中層から下層にかけて，極少量の縄文土器片，敲石及び剥片が出土している。１の尖底土器底部片は，遺構東側の覆土下層から逆位の形で出土している。２から10は縄文土器片で，２，３は田戸下層式，４は田戸上層式，５～７は茅山式，７，８は興津式，９は槻島台式である。11～13は敲石，14～17はチャートの剥片である。

所見　本跡の時期は，出土遺物が縄文時代早期から前期にまたがっているが，出土量が少ないため不明である。

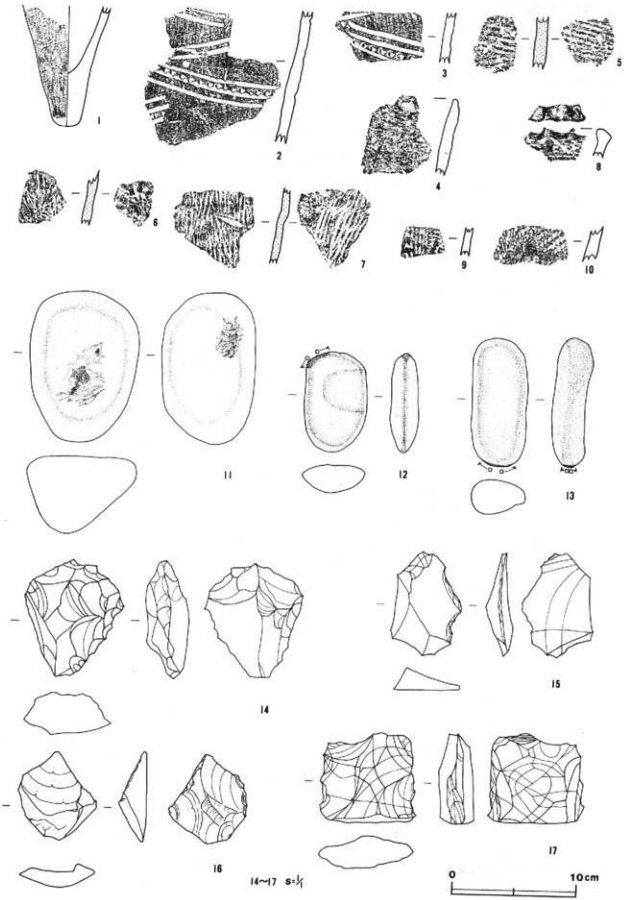


第 5 図　第 1 号住居跡実測図

第 1 号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第 6 図 1	尖底深鉢 縄文土器	B（9.6）	底部から胴部にかけての破片。胴部は外傾して立ち上がる。胴部下端および底部は削って調整されている。	砂粒、長石 にぶい褐色 普通	P1 5% 覆土中 田戸下層式

図版番号	器種	計測値				石質	出土地点	備考
		長さ（cm）	幅（cm）	厚さ（cm）	重量（g）			
第 6 図 11	敲石	12.2	8.8	6.2	923.0	砂岩	覆土中	Q1
12	敲石	8.0	5.1	2.4	138.4	砂岩	覆土中	Q2
13	敲石	10.4	4.6	3.4	202.7	砂岩	覆土中	Q3
14	剥片	3.1	2.6	1.2	7.0	チャート	覆土中	Q4
15	剥片	2.7	1.9	0.7	2.3	チャート	覆土中	Q5
16	剥片	2.4	2.1	0.6	1.7	チャート	覆土中	Q6
17	剥片	2.4	2.6	1.0	6.1	泥岩	覆土中	Q7



第6図　第1号住居跡出土遺物実測図

第2号住居跡（第7図）

位置　調査区の北東部，I24a₃区。

規模と平面形　長径3.92m，短径3.58mの楕円形である。

長径方向　N－35°－E

壁　壁高は12～20cmで，外傾して立ち上がる。

床　平坦で，踏み締めた部分は見られない。床面の中央部には所々にハードロームブロックが混じっている。

ピット　5か所（P_1～P_5）。P_1は径33cmの円形，深さ13cm，P_2は径35cmの円形，深さ10cm，P_4は径33cmの円形，深さ13cm，P_5は径35cmの円形，深さ8cmで，いずれも主柱穴と考えられる。P_3は径45cmの円形，深さ24cmで，性格は不明である。

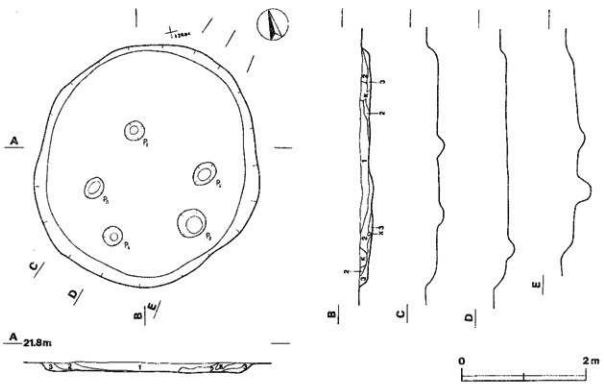
炉　確認されなかった。

覆土　3層からなり，自然堆積土層と考えられる。

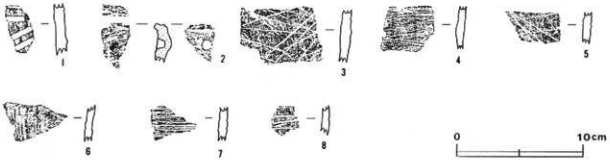
土層解説
1　褐色　ローム小ブロック・ローム粒子少量，炭化粒子極少量
2　褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量
3　褐色　ローム粒子多量，ローム小ブロック少量

遺物　覆土中から少量の縄文土器片が出土している。1は田戸下層式の胴部片である。2は茅山式の口縁部片で，焼成前に内側から盲孔を施し外面を突起させている。3～8は浮島II式土器の胴部片で，3は沈線を格子状にしてモチーフを描き，7は半截竹管で横位に文様が施されている。

所見　本跡の時期は，出土遺物から縄文時代前期の住居跡と考えられる。



第7図　第2号住居跡実測図



第8図　第2号住居跡出土遺物拓影図

第4号住居跡（第9図）

位置　調査区の中央部，I23a₁区。

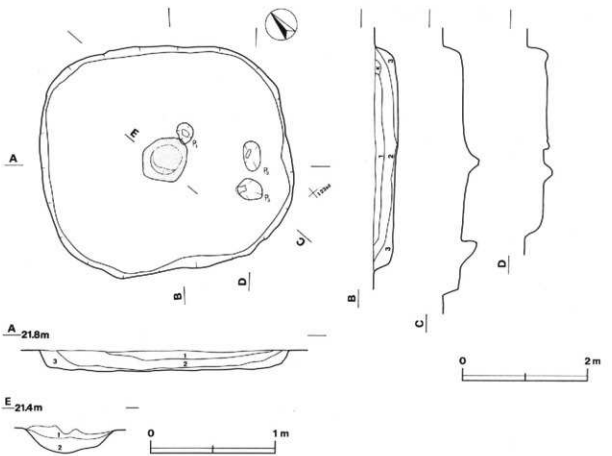
規模と平面形　長軸3.98m，短軸3.60mの隅丸方形である。

長軸方向　N－56°－W

壁　壁高は30～38cmで，やや外傾して立ち上がる。

床　ロームブロックで凹凸がある。

ピット　3か所（P_1～P_3）。P_1は長径30cm，短径25cmの楕円形，深さ15cm，P_2は長径35cm，短径25cmの楕円形，深さ10cm，P_3は長径40cm，短径35cmの楕円形，深さ25cmで，それぞれの性格は不明である。



第9図　第4号住居跡実測図

炉　床中央部に位置し，径70cmの不整円形で，深さ20cmの地床炉である。炉床は熱を受け赤変硬化している。

炉土層解説

1　明赤褐色　焼土粒子多量，ローム小ブロック・ローム粒子少量
2　明 褐 色　ローム粒子多量，ローム大ブロック・ローム中ブロック・焼土小ブロック少量

覆土　3層からなり，自然堆積土層と考えられる。

土層解説

1　暗褐色　ソフトローム大ブロック・中ブロック少量，ローム小ブロック・焼土粒子極少量
2　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子極少量
3　褐 色　ローム粒子少量，焼土粒子極少量

遺物　覆土中層から極少量の縄文土器片が出土している。1はP3の北側から出土した茅山式の胴部片であり，胎土に繊維を含む。2は関山式土器の口縁部片で，沈線で区画した中に刻み目が施され，要所に瘤状突起が施されている。3は北側の覆土下層から出土した関山式の胴部片で，羽状縄文が施されている。

所見　本跡の時期は，出土遺物から縄文時代前期の住居跡と考えられる。

第10図　第4号住居跡出土遺物拓影図

第5号住居跡（第11図）

位置　調査区の中央部，I23b3区。

重複関係　本跡は第124，125A及び125B号土坑と重複している。本跡の北側は第124号土坑を掘り込んでおり，本跡の方が新しい。また，本跡は中央付近やや北側よりの第125A・125B号土坑を掘り込んでおり，本跡の方が新しい。

規模と平面形　径5.44mの不整円形である。

壁　壁高は12～28cmで，外傾して立ち上がる。

床　平坦で，踏み締まりは弱い。

ピット　4か所（P_1～P_4）。P_1は径30cmの楕円形，深さ20cm，P_2は長径30cm，短径20cmの楕円形，深さ30cm，P_3は径30cmの円形，深さ15cm，P_4は長径35cm，短径30cmの楕円形，深さ20cmで，いずれも主柱穴と考えられる。P_2は壁際に寄り過ぎているので，出入り口ピットの可能性も考えられる。

炉　床中央から西壁寄りに位置し，長径80cm，短径65cmの楕円形で，深さ20cmの地床炉である。炉床は熱を受け赤変硬化している。

炉土層解説

1　にぶい赤褐色　焼土粒子・ローム粒子少量
2　にぶい赤褐色　焼土粒子少量，炭化粒子極少量
3　赤 褐 色　焼土粒子多量，ローム小ブロック極少量
4　赤 褐 色　焼土粒子多量
5　赤 褐 色　焼土粒子・ローム中ブロック・ローム粒子少量，ローム小ブロック極少量
6　にぶい赤褐色　焼土粒子中量，ローム小ブロック極少量
7　明赤褐色　焼土粒子多量，ローム小ブロック極少量
8　赤 褐 色　焼土粒子多量，ローム小ブロック極少量

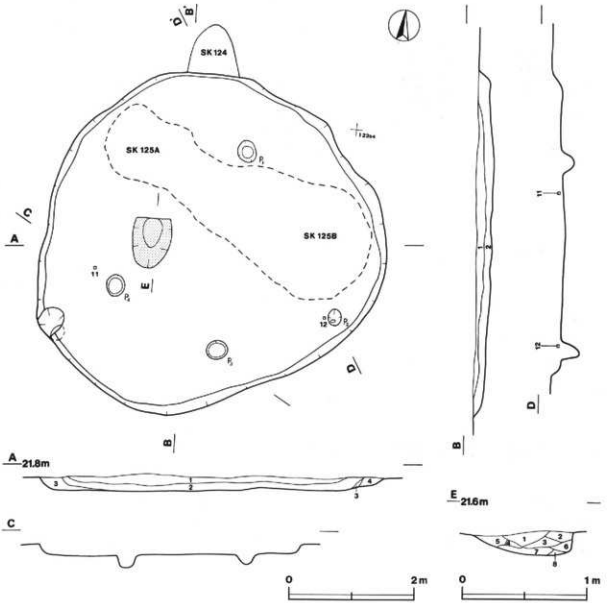
覆土　4層からなり，自然堆積土層と考えられる。

土層解説

1　明褐色　焼土粒子・ローム小ブロック極少量
2　褐　色　ローム粒子中量，焼土粒子・ローム小ブロック極少量
3　明褐色　焼土粒子・ローム小ブロック・ローム粒子極少量
4　褐　色　ローム粒子多量，ローム中ブロック・ローム小ブロック極少量

遺物　覆土下層から少量の縄文土器片や礫片が出土している。1～4は茅山式の胴部片であるが，本跡と重複する第125A・B号土坑に関連する遺物の可能性が考えられる。5～10は関山式の土器片である。5は口縁部外面にコンパス文が施され，胴部には附加条の縄文が施されている。6は口縁に粘土紐を貼り付けた後，刻み目が施され，胴部は組み紐で施文されている。7～10片は胴部片で，8，9，10は羽状縄文で菱形構成がなされている。遺構西側の覆土中から11の磨石が出土し，南側の覆土下層から12の礫石斧が出土している。

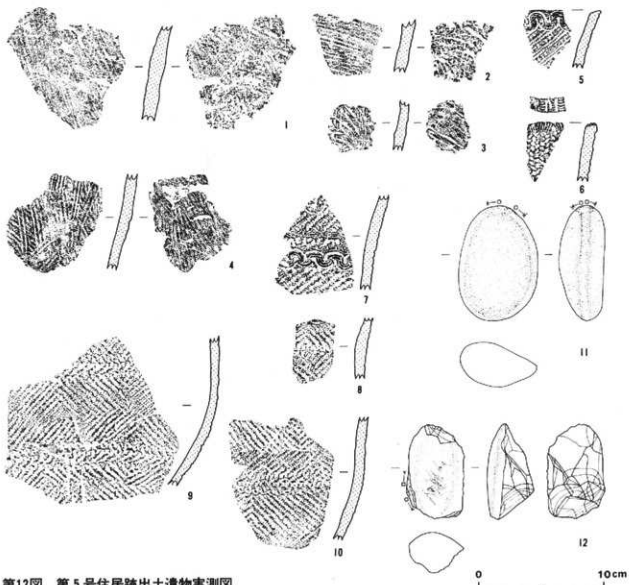
所見　本跡の時期は，出土遺物から縄文時代前期の住居跡と考えられる。



第11図　第5号住居跡実測図

第５号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値				石質	出土地点	備考
		長さ（cm）	幅（cm）	厚さ（cm）	重量（g）			
第12図11	磨石	9.2	6.4	3.5	272.1	砂岩	覆土中	Q8
12	礫石斧	7.6	4.6	3.8	130.6	砂岩	覆土中	Q9



第12図　第５号住居跡出土遺物実測図

第６号住居跡（第13図）

位置　調査区の中央部，H23j$_4$区。

規模と平面形　径5.16mの円形である。

壁　壁高は12～22cmで，外傾して立ち上がる。

床　ほぼ平坦で，踏み締まりは弱い。

ピット　７か所（P_1～P_7）。P_1は径35cmの円形，深さ25cm，P_2は長径35cm，短径30cmの楕円形，深さ30cm，P_3は径35cmの円形，深さ25cm，P_6は長径40cm，短径25cmの楕円形，深さ23cm，P_7は長径40cm，短径30cmの楕円形，深さ21cmで，いずれも主柱穴と考えられる。P_4は径25cmの円形，深さ14cm，P_5は長径30cm，短径24cmの楕円形，

深さ15cmで，性格は不明である。

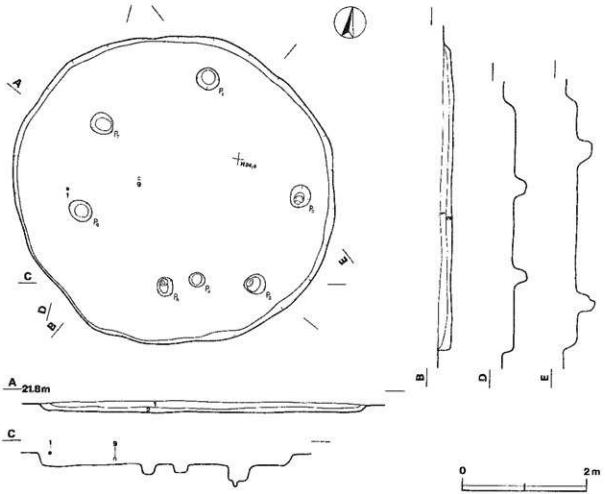
覆土　2層からなり，自然堆積土層と考えられる。

土層解説

1　暗褐色　ローム粒子少並，黒色土混入　　2　暗褐色　ローム粒子中量

遺物　覆土中から少量の茅山式土器片や礫が出土している。1は尖底深鉢の底部片で，外面に縦位の貝殻条痕文が施されている。2は口縁部片で，3～8は胴部片である。いずれも内・外面に縦位，横位あるいは斜位の貝殻条痕文が施されている。9は中央の覆土中層から出土した礫石器である。

所見　本跡の時期は，出土遺物から縄文時代早期の住居跡と考えられる。

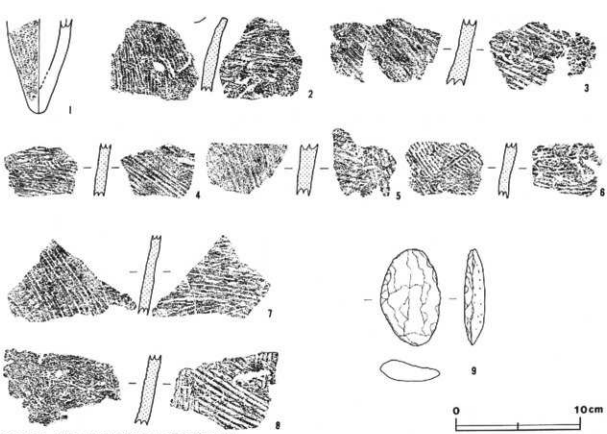


第13図　第6号住居跡実測図

第6号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値（cm）	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第14図 1	尖底深鉢 縄文土器	H（7.6）	底部片。底部は尖頭形をし，縦位の貝殻条痕文が施されている。胎土に繊維を含む。	砂粒，長石 にぶい橙色 普通	P18 5%　覆土中

図版番号	器種	計測値 長さ（cm）	幅（cm）	厚さ（cm）	重量（g）	石質	出土地点	備考
第14図 9	礫石器	7.8	4.9	1.7	59.2	安山岩	覆土中	Q10



第14図　第６号住居跡出土遺物実測図

(2)　平安時代の住居跡

第８号住居跡（第15図）

位置　調査区の南東部，J23a7区。

規模と平面形　長軸6.34m，短軸4.70mの隅丸長方形である。

主軸方向　N－9°－W

壁　壁高は26～34cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　壁下を全周し，上幅７～20cm，深さ約８cmで，断面は「∪」状である。

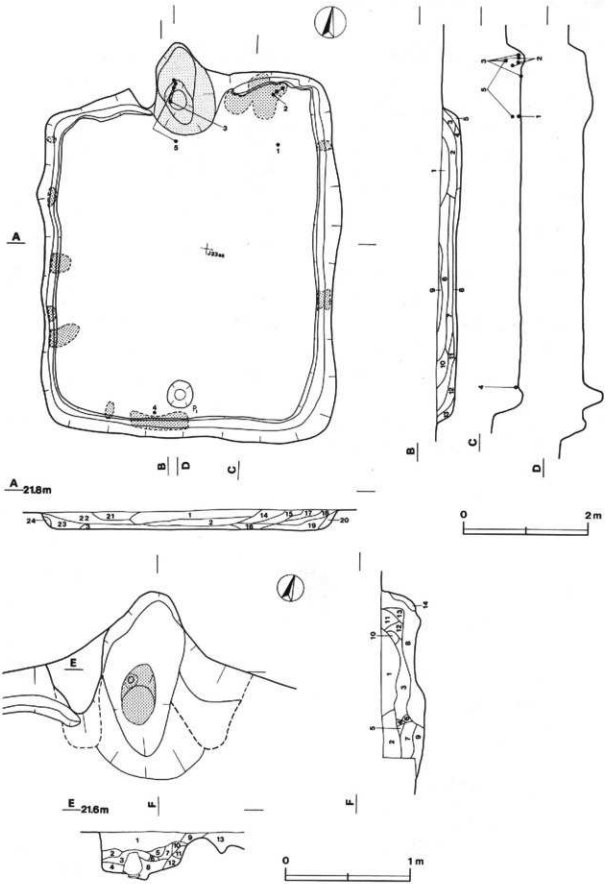
床　ほぼ平坦で，ロームブロックがローム土に埋まった感じで一面に広がっている。

ピット　径42cmの円形，深さ32cmで，出入り口ピットと思われる。

竈　北壁中央部を壁外に約60cm掘り込み，袖基部を掘り残して，砂や粘土で構築されている。規模は長さ150cm，幅150cmである。天井部は崩落しているが，西側袖部は一部現存している。燃焼部には焼土ブロック，焼土粒子及び炭化粒子等がみられる。火床部は約5cm掘り窪められ，熱を受けて赤変硬化している。

竈土層解説

1　にぶい赤褐色　焼土粒子少量，ローム小ブロック・炭化粒子極少量
2　暗　褐　色　焼土粒子少量，ローム粒子少量，ローム小ブロック極少量
3　にぶい赤褐色　焼土粒子中量，ローム粒子少量，ローム小ブロック・焼土大ブロック極少量
4　暗　褐　色　焼土粒子・ローム粒子極少量
5　暗　褐　色　焼土粒子・ローム粒子・炭化粒子極少量
6　暗　褐　色　焼土粒子・ローム粒子少量
7　暗　褐　色　焼土粒子・ローム粒子少量，ローム小ブロック・炭化粒子極少量
8　赤　褐　色　焼土粒子多量，ローム粒子・焼土大ブロック少量
9　暗赤褐色　焼土粒子・ローム粒子少量，炭化材極少量
10　暗赤褐色　砂粒中量，焼土小ブロック少量
11　にぶい赤褐色　砂粒少量，焼土粒子極少量
12　にぶい赤褐色　砂粒中量
13　にぶい赤褐色　砂粒中量
14　明　褐　色　ローム小ブロック・ローム中ブロック少量



第15図　第８号住居跡実測図

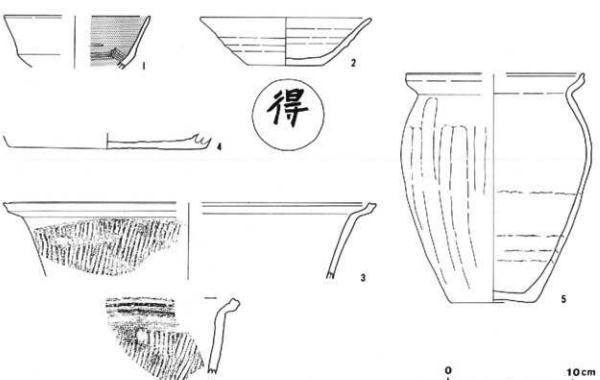
覆土　24層からなり，自然堆積土層と考えられる。

土層解説

1　黒　　色　ローム小ブロック・ローム粒子少量
2　黒 褐 色　ローム小ブロック・ローム粒子少量，ローム大ブロック極少量
3　黒 褐 色　焼土粒子・ローム小ブロックローム粒子少量
4　暗 褐 色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量
5　暗 褐 色　ローム小ブロック・ローム粒子少量
6　黒　　色　ローム粒子極少量
7　黒　　色　ローム粒子・ソフトローム中ブロック極少量
8　極暗褐色　ローム粒子少量，ローム中ブロック・ローム小ブロック極少量
9　黒 褐 色　ソフトローム大ブロック・ローム粒子極少量
10　黒 褐 色　ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子極少量
11　極暗褐色　焼土粒子・ローム粒子極少量
12　黒 褐 色　焼土粒子・ローム粒子少量
13　暗 褐 色　ローム小ブロック・ローム粒子少量
14　極暗褐色　ローム粒子少量，焼土粒子極少量
15　極暗褐色　ローム粒子少量
16　暗 褐 色　ソフトローム中ブロック・ローム粒子少量，ローム小ブロック極少量
17　暗 褐 色　ローム粒子少量
18　暗 褐 色　ローム粒子少量
19　暗 褐 色　焼土粒子・ローム粒子少量，ローム小ブロック極少量
20　褐　　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量
21　極暗褐色　ローム粒子少量，ローム小ブロック極少量
22　極暗褐色　ソフトローム大ブロック・ローム粒子少量，ローム小ブロック極少量
23　褐　　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，焼土粒子極少量
24　褐　　色　ローム粒子多量

遺物　覆土中層から床面にかけて，土師器や須恵器の坏，埦，鉢及び甕の部片が出土している。1は土師器坏の底部～口縁部片で，北東部の床面直上から出土している。内面が黒色処理されている。2は須恵器坏で，電東側の壁際近くの床面から出土している。底部に「得」の文字が墨書されている。3は須恵器鉢の口縁部片で，竈内から出土している。4は須恵器甕の底部片で，南部のピット近くの焼土の下から出土している。5は土師器甕で，竈内から逆位で出土している。支脚に転用されていた可能性が考えられる。6は須恵器の口縁部片で竈内から出土している。

所見　本跡の時期は，出土遺物から9世紀前半の住居跡と考えられる。竈東側の底面及び周溝の所々に焼土塊が見られ，焼失家屋の可能性も考えられるが，床面及び覆土中に炭化材はあまり見られなかった。



第16図　第8号住居跡出土遺物実測図

第８号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第16図 1	坏 土師器	A [11.8] B (4.3)	体部から口縁部にかけての破片。体部下位に稜を持ち，その後，直線的に立ち上がる。	内面から体部外面ナデ。内面ヘラ磨き。	砂粒 にぶい黄橙色 普通	P27 5% 床面 内面黒色処理
2	坏 須恵器	A 13.8 B 3.9 C 6.0	底部から口縁部にかけての破片，平底。体部は直線的に立ち上がる。	内面から体部外面ナデ。体部下端，底部回転ヘラ削り。	砂粒，長石，石英 灰色 良好	P28 65% 床面 [母] 底部外面墨書
3	鉢 須恵器	A [29.6] B (6.5)	体部から口縁部にかけての破片。体部は外傾して立ち上がる。口縁は強く屈曲し，端部は上方につまみ上げられ，一条の沈線を有す。	口縁部横ナデ。体部外面平行叩き。	砂粒 にぶい黄橙色 良好	P29 10% 床面
4	甕 須恵器	B (1.3) C 16.0	底部片。平底。	底部回転ヘラ削り。	砂粒，長石，石英，雲母，スコリア 明褐色 普通	P30 5% 床面
5	甕 土師器	A [14.4] B 18.3 C 6.9	底部から口縁部にかけての破片。器肉は全体的に薄い。口縁端部は外上方につまみ上げられている。上げ底。	口縁部横ナデ。体部外面縦方向ナデ。体部内面ヘラナデ，輪積み痕を残す。	炭石，石英，スコリア にぶい橙色 普通	P31 65% 床面

第７号住居跡（第17図）

位置　調査区の中央部，123e$_4$区。

重複関係　本跡は第７，24号溝と重複している。２つの溝が合流して，本跡を北東から南西にかけて貫いて掘り込んでおり，本跡の方が古い。

規模と平面形　長軸5.55m，短軸3.72mの隅丸長方形である。

主軸方向　N－72°－E

壁　壁高は26～34cmで，ほぼ垂直に立ち上がる。

床　ほぼ平坦で，踏み締まりは見られない。

ピット　長径42cm，短径30cmの楕円形，深さ15cmで，出入り口ピットと考えられる。

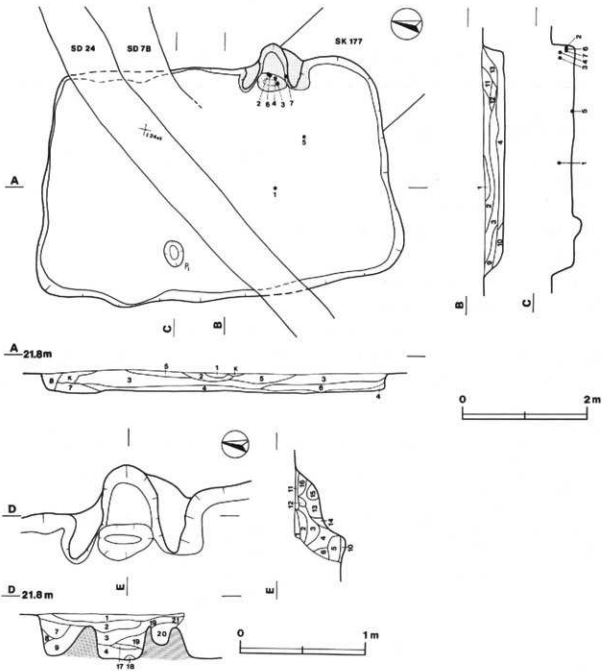
竈　東壁中央部よりやや南側を壁外に約35cm掘り込み，袖基部を掘り残して，砂混じりの粘土で構築されている。規模は長さ75cm，幅115cmである。天井部は崩落しているが，袖部は残っている。燃焼部や火床部に焼土があまり見られない。

竈土層解説

1　黒褐色　ローム小ブロック・ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子極少量
2　暗褐色　砂中量，ローム粒子少量，焼土粒子・粘土粒子極少量
3　暗褐色　ローム中ブロック・砂少量，ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子極少量
4　暗褐色　ローム小ブロック・砂中量，ローム粒子・炭化粒子少量，焼土粒子極少量
5　暗褐色　砂中量，炭化粒子少量，ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子極少量
6　褐　色　砂多量，粘土粒子少量
7　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子少量
8　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子少量
9　暗褐色　ローム小ブロック少量，ローム粒子・ローム中ブロック・炭化粒子極少量
10　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量
11　暗褐色　砂・焼土粒子少量，ローム粒子・炭化粒子極少量
12　褐　色　砂多量，粘土粒子少量，炭化粒子極少量
13　暗褐色　砂中量，粘土粒子少量，焼土粒子極少量
14　褐　色　砂中量，焼土粒子少量，炭化粒子極少量
15　褐　色　砂少量，ローム粒子・粘土粒子極少量
16　褐　色　砂少量，ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子極少量
17　暗褐色　砂多量，焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子極少量
18　褐　色　ローム粒子少量，ローム小ブロック極少量
19　暗褐色　砂多量，粘土粒子少量，焼土粒子・ローム小ブロック極少量
20　暗褐色　砂多量，粘土粒子中量，炭化粒子・ローム粒子極少量
21　極暗褐色　砂少量，ローム粒子極少量

土層解説

1 黒　色　炭化粒子少量，焼土粒子極少量
2 黒 褐 色　炭化粒子・焼土粒子・ローム粒子極少量
3 極暗褐色　ローム粒子少量，炭化粒子・焼土粒子極少量
4 暗 褐 色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，炭化粒子・焼土粒子極少量
5 黒　色　炭化材少量，炭化粒子・焼土粒子・ローム粒子極少量
6 黒 褐 色　炭化粒子・焼土粒子・ローム粒子極少量
7 暗 褐 色　ローム粒子少量，炭化粒子・焼土粒子・ローム小ブロック極少量
8 黒 褐 色　ローム粒子少量，ローム小ブロック極少量
9 暗 褐 色　ローム粒子少量，炭化粒子・ローム小ブロック極少量
10 暗 褐 色　ローム粒子少量，炭化粒子・焼土粒子・ローム小ブロック極少量
11 黒 褐 色　炭化粒子・ローム粒子少量，焼土粒子・粘土粒子極少量
12 黒 褐 色　炭化粒子少量，焼土粒子・ローム粒子極少量
13 黒 褐 色　炭化粒子・ソフトロームブロック少量，焼土粒子・ローム粒子極少量

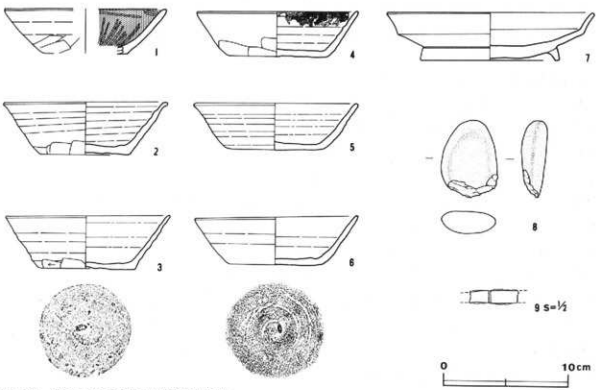


第17図　第７号住居跡実測図

覆土　13層からなり，自然堆積土層と考えられる。

遺物　覆土中から土師器や須恵器の坏，盤等が出土している。1は土師器坏の底部～口縁部片で，中央部の覆土中層から出土している。内面が黒色処理されている。2，4，6は須恵器坏で，竈中央部覆土下層から出土している。4，6は斜位で出土しているが，2と一緒に重なっていたものと考えられる。3は須恵器坏で，竈中央部の覆土中層から出土している。5は須恵器坏で，竈西側の床面から出土している。7は須恵器盤で，竈中央部覆土下層から斜位で出土している。内面中央部が磨かれたようにつるつるしている。8は礫石斧で，覆土上層から出土している。9は鉄製品刀子で，覆土中から出土している。

所見　本跡の時期は，出土遺物から9世紀後半の住居跡と考えられる。竈は，あまり使用した痕跡がなく，内側に完形の須恵器坏が3枚重ねて出土しており，竈祭祠が行われた可能性が考えられる。



第18図　第7号住居跡出土遺物実測図

第7号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値（cm）	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第18図 1	坏 土師器	A［13.1］ B（3.6） C［6.6］	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部はわずかに丸みを持って立ち上がる。	内面から体部外面ナデ。体部下端手持ちヘラ削り。	雲母，石英，黒色，スコリア 内面 赤褐色 外面 黒褐色 普通	P19 15%　床面 内面黒色処理
2	坏 須恵器	A　13.2 B　4.3 C　7.0	平底。体部は直線的に外傾して立ち上がり，口縁部はわずかに外反する。	内面から体部外面ナデ。体部下端，底部手持ちヘラ削り。	砂粒，長石 にぶい黄色 良好	P20 100%　竈内
3	坏 須恵器	A　13.4 B　4.4 C　7.6	平底。体部は直線的に外傾して立ち上がる。	内面から体部外面ナデ。体部下端，底部手持ちヘラ削り。	砂粒 黄灰色 良好	P21 100%　竈内
4	坏 須恵器	A　13.0 B　3.7 C　8.0	平底。体部は直線的に外傾して立ち上がる。	内面から体部外面ナデ，外面その後，回転ヘラ削り。体部下端，底部手持ちヘラ削り。	雲母，長石，石英，黒母 にぶい黄橙色 普通	P22 100%　竈内 内面 口縁部線付着
5	坏 須恵器	A　13.2 B　3.8 C　7.7	平底。体部は直線的に外傾して立ち上がる。	内面から体部外面ナデ。体部下端回転ヘラ削り。底部横方向へのヘラ削り。	砂粒，長石，石英 褐灰色 良好	P23 20%　床面

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第18図6	坏 須恵器	A 13.2 B 4.0 C 7.6	平底。体部は直線的に外傾して立ち上がる。	内面から体部外面ナデ。その後，回転ヘラナデ。体部下端，底部回転ヘラ削り。	砂粒，長石，密母 にぶい黄橙色 普通	P24 80% 床面
7	盤 須恵器	A 16.8 B 3.9 D 11.2 E 10.5	丸底ぎみ。体部は直線的に外傾して立ち上がり，口縁部は外上方に直立する。	内面から体部外面ナデ。底部貼り付け高台の後，ナデ。	砂粒，長石 オリーブ黄色 良好	P25 80% 覆内

図版番号	器種	計測値				石質	出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
第18図8	磨石類	6.2	4.5	1.7	67.6	貫岩	覆土中	Q11

図版番号	器種	計測値				備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	
第18図9	刀子	3.5	1.0	0.15	3.6	M1，覆土中

第3号住居跡（第19図）

位置　調査区の北西部G21i6区。

規模と平面形　長軸3.34m，短軸2.94mの隅丸長方形である。

主軸方向　N－13°－E

壁　壁高は9～15cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　南側中央の一部分にだけ見られる。上幅5～10cm，深さ約5cm，断面形は「∪」状である。

床　平坦で，中央部に踏み締まりがある。

ピット　2か所。P_1は径20cmの円形，深さ15cmで，性格は不明である。P_2は南壁際中央に位置し，長径25cm，短径18cmの楕円形，深さ18cmで，出入り口ピットと考えられる。

竈　南壁中央部を壁外に約50cm掘り込んで構築されているが，天井部及び袖部はほとんど残っていない。規模は長さ105cm，幅80cmである。燃焼部には焼土粒子，炭化粒子等がみられ，火床面は床面を10cm程掘り窪めている。

竈土層解説

1　暗赤褐色　焼土粒子多量，粘土粒子中量，炭化粒子少量
2　極暗赤褐色　焼土粒子少量，炭化粒子極少量
3　暗赤褐色　焼土粒子中量，炭化粒子少量

覆土　13層からなり，自然堆積土層と考えられる。

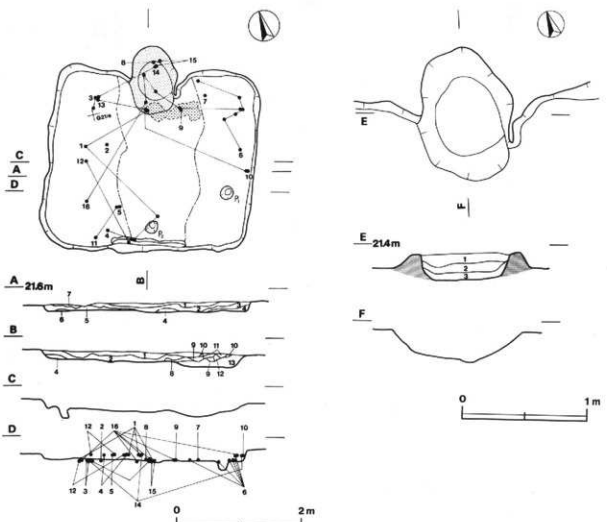
土層解説

1　極黒褐色　ローム粒子中量，焼土粒子極少量
2　暗褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・焼土粒子極少量
3　暗褐色　ローム小ブロック中量，ローム中ブロック・焼土粒子・炭化材細片極少量
4　黒褐色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子極少量
5　褐色　ローム粒子多量，焼土粒子・炭化粒子極少量
6　明褐色　ローム粒子多量
7　赤褐色　焼土粒子多量，炭化粒子・焼土小ブロック少量
8　極暗赤褐色　焼土粒子中量，焼土小ブロック・炭化材小片少量
9　黒褐色　焼土粒子少量，炭化粒子極少量
10　暗赤褐色　焼土粒子少量
11　暗赤褐色　焼土大ブロック少量
12　黒褐色　焼土粒子中量
13　暗褐色　焼土粒子多量，炭化粒子極少量

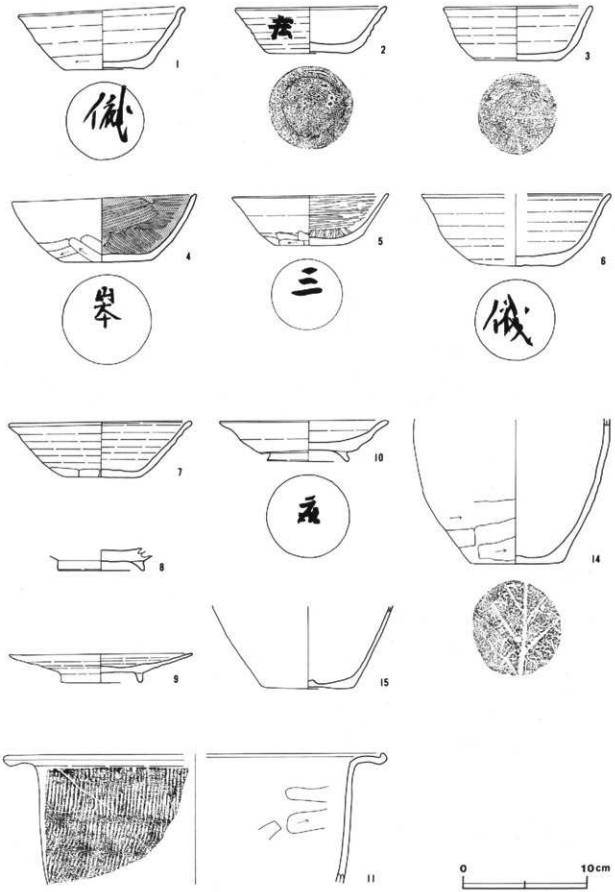
遺物　覆土中層から床面にかけて，土師器や須恵器の坏，皿，鉢及び甕が出土している。1～6は土師器坏である。1は南西壁中央部近くの床面から出土し，底部に「袋」の文字が墨書されている。2は中央部西寄りの床面から出土し，体部外面に「庄」の文字が墨書されている。3は竈西側の床面から正位で出土している。4は南西壁中央部近くの床面から正位で出土し，内面が黒色処理され，底部に「山本」の文字が墨書されている。5は中央部南寄りの床面から出土し，内面が黒色処理され，底部に「三」の文字が墨書されている。6は南東

壁東コーナー近くの床面から出土し，底部に「袋」の文字が墨書されている。7は須恵器坏で，竈東側の床面から逆位で出土している。8は土師器高台付坏の高台部片で，竈内覆土中層から出土している。9は土師器高台付皿で，竈燃焼部付近の覆土中から出土している。10は土師器高台付皿で，南東壁中央部の覆土中から逆位で出土している。底部に「庄」の文字が墨書されている。11，12は須恵器鉢の体部片で，南西壁中央部近くから斜位で出土している。13は土師器甕の体部～口縁部片で，竈内から出土している。14，15は土師器甕の底部～体部片で，竈内から出土している。14は逆位で出土しており，支脚に転用された可能性が考えられる。16は須恵器甕の底部～体部片で，竈内から出土している。体部下位から上位にかけて斜位の叩き目が施されている。17は須恵器甕の体部片で，竈内から出土している。

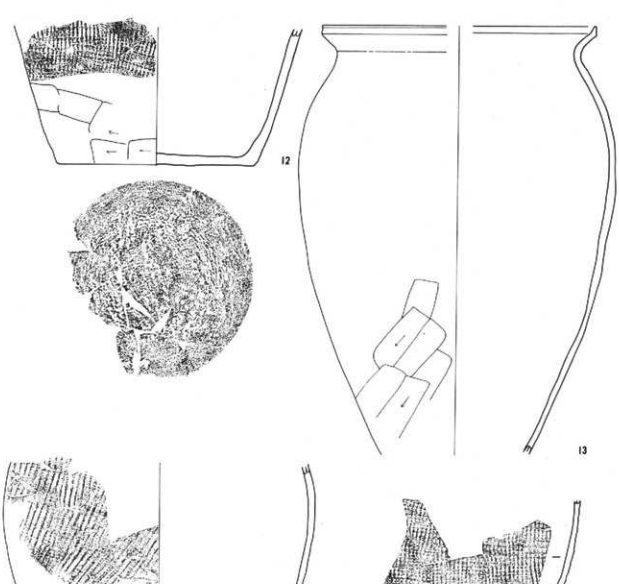
所見　本跡の時期は，出土遺物から9世紀後半の住居跡と考えられる。床面に焼土塊や炭化材が散乱して出土していることから，焼失家屋の可能性が考えられる。



第19図　第3号住居跡実測図



第20図　第３号住居跡出土遺物実測図(1)



第21図　第３号住居跡出土遺物実測図(2)

第３号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第20図 1	坏 土師器	A 13.3 B 5.0 C 6.2	平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁端部で外反する。口唇部は玉縁状で肥厚する。	内面から体部外面ナデ。体部下端及び底部外周回転ヘラ削り。底部に回転糸きり痕を残す。	砂粒，スコリアにぶい橙色 普通	P2 100%　床面 「袋」底部外面墨書
2	坏 土師器	A 12.0 B 3.7 C 6.8	平底。体部は外傾して立ち上がり，そのまま口縁部に至る。	内面から体部外面ナデ。体部下端及び底部外周回転ヘラ削り。底部に回転糸きり痕を残す。	砂粒，長石，石英にぶい橙色 普通	P3 100%　床面 「庄」体部外面墨書
3	坏 土師器	A 12.1 B 4.4 C 6.5	平底。体部下端で外傾し，稜を持つ。その後，直線的に立ち上がる。	内面から体部外面ナデ。体部下端及び底部回転ヘラ削り。	砂粒，石英，雲母，スコリア明褐色 普通	P4 100%　床面

図版番号	器種	計測値（cm）	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第20図 4	坏 土師器	A 15.1 B 5.5 C 7.2	体部下位から口縁部一部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がる。	内面から体部外面ナデ。体部下端手持ちヘラ削り。内面ヘラ磨き。底部多方向のヘラ削り。	砂粒、長石 外面にぶい赤褐 内面黒色 普通	P5 75% 内面黒色処理 「山本」底部外面墨書
5	坏 土師器	A 12.6 B 4.1 C 5.6	底部から口縁部一部欠損。平底。体部下端で外傾し、稜を持つ。その後、直線的に立ち上がる。	内面から体部外面ナデ。体部下端手持ちヘラ削り。内面ヘラ磨き。底部一方向のヘラ削り	砂粒、長石 にぶい赤褐色 普通	P6 70% 内面黒色処理 「三」底部外面墨書
6	坏 土師器	A [15.2] B 5.8 C 6.5	底部に口縁部にかけての破片。平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部で外反する。	内面から体部外面ナデ。体部下端回転ヘラ削り。底部回転ヘラ切り後、回転ヘラ削り。	砂粒、石英、雲母、スコリア 橙色 普通	P7 50% 床面 「筑」底部外面墨書
7	坏 須恵器	A 14.7 B 4.5 C 5.7	底部から口縁部一部欠損。平底。体部は大きく外傾して立ち上がり、口縁部は玉縁状で肥厚する。	内面から体部外面ナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部回転ヘラ削り。	砂粒、石英、スコリア 褐色 不良	P8 70% 床面
8	高台付坏 土師器	B（1.2） D 7.0 E 0.8	高台から底部にかけての破片。平底。高台は直線的に開く。	内面ナデ。底部ヘラナデ。	砂粒、長石、スコリア 橙色 普通	P9 5% 床面
9	高台付皿 土師器	A 13.8 B 2.3 D 6.6 E 0.8	平底。高台は短く直線的に開く。体部は直線的に外傾して立ち上がる。	内面から体部外面ナデ。体部下端、底部ヘラナデ。	砂粒、石英、雲母、スコリア 明赤褐色 普通	P10 100% 床面
10	高台付皿 土師器	A 13.7 B 3.4 D 6.6 E 0.8	体部下端から口縁部一部欠損。平底。高台は直線的に開く。体部は直線的に外傾して立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	内面から体部外面ナデ。体部下端回転ヘラ切り。底部ヘラナデ。	砂粒、スコリア 橙色 普通	P11 80% 床面 「庄」底部外面墨書
11	鉢 須恵器	A [30.4] B (10.4)	体部から口縁部にかけての破片。体部は直線的に立ち上がる。口縁部は外反、端部はつまみ上げられている。	体部内面指頭による押圧後、指ナデ。体部外面平行叩き。	砂粒、バミュス 褐灰色 良好	P12 5% 床面
第21図 12	鉢 須恵器	B（11.1） C 8.0	底部から体部にかけての破片。平底。体部は内彎気味に外傾して立ち上がる。	体部格子目叩き。体部下位、底部外周下持ちヘラ削り。底部に円形状の編み物の圧痕が残る。	砂粒、長石、スコリア、雲母 褐色 黒色 灰色 にぶい赤色 普通	P13 40% 床面
13	甕 土師器	A [22.2] B (34.5)	体部から口縁部にかけての破片。体部はなだらかに立ち上がる。頸部は「く」の字状をしている。口縁端部は上方につまみ上げられている。	口縁部横ナデ。体部外面下位縦方向のヘラ削り。内面ヘラナデ。	砂粒、長石、雲母 明赤褐色 普通	P14 40% 床面
第20図 14	甕 土師器	B（11.6） C 7.5	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内彎気味に立ち上がる。	体部外面下位横方向のヘラナデ。底部に木葉痕を残す。内面ヘラナデ。	砂粒、長石、石英、雲母 にぶい橙色 普通	P15 40% 竈内
15	甕 土師器	B（6.6） C 7.6	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は直線的に外傾して立ち上がる。	体部ナデ調整。	長石、石英、雲母、砂粒 にぶい橙色 普通	P16 35% 床面
第21図 16	甕 須恵器	B（18.6） C [13.6]	底部から体部にかけての破片。体部は丸みを帯びて立ち上がる。	体部外面中位平行叩き。体部外面下位、内面下位横方向のヘラ削り。	砂粒、長石、石英、雲母 にぶい褐色 良好	P17 20% 床面

表２　甚五郎崎遺跡住居跡一覧表

住居跡番号	位置	主軸方向	平面形	規模（m）（長軸×短軸）	壁高（cm）	床面	柱穴	周溝	ピット	入口	炉	竈	覆土	出土遺物	備考 新旧関係（古→新）
1	124a3	N−56° W	楕円形	5.18×4.60	22~36	平坦	／	／	3	／	／	／	自然	縄文土器細片、鏃	SK−56→本跡→SK→30
2	124a3	N−38° E	楕円形	3.92×3.58	12~26	平坦	4	／	1	／	／	／	自然	縄文土器細片、鏃	
3	G211i6	N 12° E	隅丸長方形	3.34×2.94	9~15	平坦	／	／	2	1	北東	入口	人為	上師器、須恵器、縄文土器細片、礫	
4	123a0	N−56° W	隅丸方形	3.98×3.60	30~38	平坦	／	／	3	／	炉	有然	自然	縄文土器細片	
5	123b3	―	不整円形	直5.44	12~26	平坦	4	／	／	／	炉	自然	自然	縄文土器細片、鏃	SK−124、125A、125B→本跡
6	H23j4	―	円形	径5.16	12~22	平坦	5	／	2	／	／	自然	自然	縄文土器細片、鏃	
7	123e4	N−72° E	隅丸長方形	5.55×3.72	26~34	平坦	／	／	／	1	東竈	有然	自然	土師器、須恵器、縄文土器細片、礫	本跡→SD−7、24
8	H23j4	N−9° E	隅丸長方形	6.34×4.70	26~34	平坦	／	／	／	1	北竈	自然	自然	土師器、須恵器、縄文土器細片、礫	

2　小竪穴状遺構

第16，23，112，121，145，152及び153号土坑として調査した遺構については，平面形が方形に近く，柱穴があり，床面隅に火を焚いた跡とみられる焼土混じりの灰が見られることから，それぞれを第１～７号小竪穴状遺構と改称した。以下，小竪穴状遺構と出土遺物について記載する。

第１号小竪穴状遺構［ＳＫ－16］（第22図）

位置　調査区の南東部，Ｊ24b₂区。

規模と平面形　一辺が2.20mの隅丸方形である。

主軸方向　Ｎ－46°－Ｅ

出入り口　南西壁中央部から西寄りの位置に，南西に向かって壁外に突出して，床面から確認面に至る不明瞭な２段の階段状の出入り口部を有している。規模は長さ75cm，幅65cmである。

壁　壁高は80～92cmで，垂直に立ち上がる。

床　平坦で，硬く踏み締められている。北コーナー部分に長径60cm，短径30cmの楕円形で，厚さ約7cmの焼土混じりの灰の層が見られる。

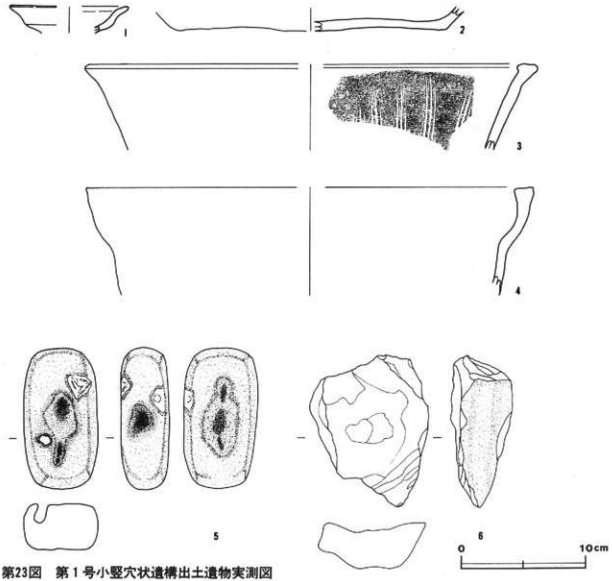
ピット　２か所（P_1～P_2）。P_1は長径30cm，短径20cmの楕円形，深さ20cm，P_2は径20cmの円形，深さ35cmで，いずれも主柱穴と考えられる。

覆土　９層からなり，ロームブロックを含む人為堆積土層である。

遺物　覆土中から土師器や土師質土器の細片や石製品が出土している。１は土師器高坏の体部～口縁部片で，覆土中から出土している。２，３，４は土師質土器の細片である。２は鉢の底部片で覆土中から出土している。３は擂鉢の体部～口縁部片，４は内耳鍋の体部～口縁部片で，いずれも床面中央部から出土している。５は敲石で，覆土中層から出土している。６は石臼で，覆土下層から出土している。

所見　本跡の時期は，出土遺物から15世紀後半と考えられる。

第22図　第１号小竪穴状遺構実測図



第23図　第１号小竪穴状遺構出土遺物実測図

第１号小竪穴状遺構［SK－16］出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第23図 1	高坏 土師器	A［9.6］ B（2.2）	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎気味に外傾して立ち上がり，口縁部は外反する。	体部内・外面横ナデ。	砂粒 にぶい橙色 普通	P38 5%　覆土中
2	鉢 土師質土器	B（1.9） C［22.2］	底部から体部下位にかけての破片。平底。体部は外傾して立ち上がる。	体部下位及び底部内面ナデ。	砂粒，長石，石英 褐色 普通	P39 10%　覆土中
3	擂鉢 土師質土器	A［36.5］ B（7.0）	体部から口縁部にかけての破片。体部は外傾して立ち上がり，口縁部は肥厚し，端部は内側に突出する。	体部内・外面ナデ。内面には３本１単位の櫛目が施されている。	長石，砂粒 橙色 普通	P40 10%　覆土中
4	内耳鍋 土師質土器	A［36.0］ B（8.7）	体部から口縁部にかけての破片。体部は外傾して立ち上がる。口縁部は肥厚し，内彎気味に立ち上がる。	体部内・外面ナデ。	雲母，石英，長石，砂粒，スコリア 褐色 普通	P42 10%　覆土中

図版番号	器種	計測値 長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	石質	出土地点	備考
第23図5	敲石	11.3	6	3.7	401.5	安山岩	覆土中	Q13
6	石臼	12.2	9.6	5.1	486.3	安山岩	覆土中	Q14

第２号小竪穴状遺構［ＳＫ－23］（第24図）

位置　調査区の東部，Ｊ24g_2区。

規模と平面形　長軸2.10m，短軸1.88mの隅丸長方形である。

主軸方向　Ｎ－45°－Ｅ

出入り口　南西壁西コーナーに，南西に向かって壁外に突出して，床面から確認面に至る２段の階段状の出入り口部を有している。規模は長さ115cm，幅60cmである。

壁　壁高は55～67cmで，垂直に立ち上がる。

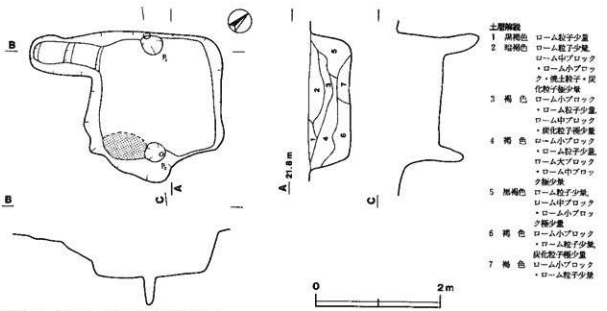
床ほぼ平坦で，硬く踏み締められている。南西壁南コーナー部分に長径70cm，短径40cmの楕円形で，厚さ12cmの焼土混じりの灰の層が見られる。

ピット　２か所（P_1～P_2）。P_1は長径35cm，短径30cmの不整楕円形，深さ60cm，P_2は径31cmの円形，深さ45cmで，いずれも主柱穴と考えられる。

覆土　７層からなり，覆土中層にロームブロックを含む人為堆積土層である。

遺物　覆土中から土師質土器皿の細片が出土している。

所見　本跡の時期は，出土遺物や遺構の形態から15世紀後半と考えられる。



第24図　第２号小竪穴状遺構実測図

第２号小竪穴状遺構［ＳＫ－23］出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値（cm）	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第23図 1	皿 土師質土器	A 7.0 B（1.5）	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎気味に外傾して立ち上がる。	内面から体部外面ナデ。	砂粒，石英，スコリア 明褐色 普通	P43 5%　覆土中

第25図　第２号小竪穴状遺構出土遺物実測図

第3号小竪穴状遺構［SK－112］（第26図）

位置　調査区の東部，I23b8区。

規模と平面形　長軸2.30m，短軸1.94mの長方形である。

主軸方向　N－55°－E

出入り口　南東壁東コーナーの位置に，南東に向かって壁外に突出して，床面から確認面に至る不明瞭な3段の階段状の出入り口部を有している。規模は長さ140cm，幅45cmである。

壁　壁高は90～95cmで，垂直に立ち上がる。

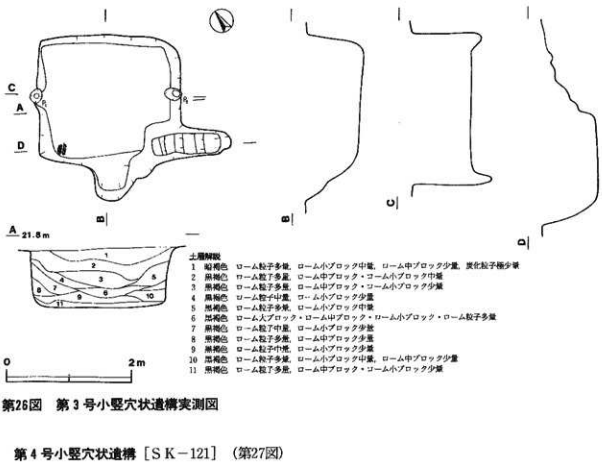
床　平坦で，硬く踏み締められている。西コーナー部分に長径60cm，短径30cmの長楕円形の焼土混じりの灰の層が見られる。

ピット　2か所（P_1～P_2）。P_1は長径25cm，短径20cmの楕円形，深さ32cm，P_2は長径25cm，短径18cmの楕円形，深さ18cmで，いずれも主柱穴と考えられる。

覆土　11層からなり，黒褐色土の中にローム粒子とロームブロックを多量に含む人為堆積土層である。

遺物　覆土中から混入と思われる縄文土器片が出土している。

所見　時期を判定する遺物は出土していないが，遺構の形態から第1号小竪穴状遺構と同時期の15世紀後半と推定される。



第26図　第3号小竪穴状遺構実測図

第4号小竪穴状遺構［SK－121］（第27図）

位置　調査区の東部，I23e9区。

重複関係　本跡は第120，122及び154号土坑と重複している。本跡の北側を第122号土坑が掘り込んでおり，本跡の方が古い。本跡の北西側で第120号土坑と重複しているが，新旧関係は不明である。本跡の東側を第154号土坑が掘り込んでおり，本跡の方が古い。

規模と平面形　長軸2.42m，短軸2.20mの長方形である。

主軸方向　N－40°－E

出入り口　南東壁南コーナーの位置に南東に向かって壁外に突出して，床面から確認面に至る角度45°のスロープ状の出入り口部を有している。規模は長さ100cm，幅60cmである。

壁　壁高は約100cmで，ほぼ垂直に立ち上がる。

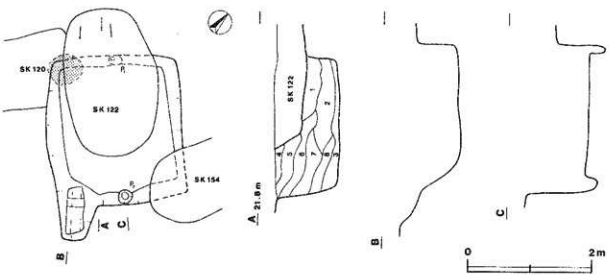
床　平坦で，硬く踏み締められている。西コーナー部分に一辺が約50cmの隅丸方形で，厚さ20cmの焼土混じりの灰の層が見られる。

ピット　2か所（P_1～P_2）。P_1は長径23cm，短径15cmの楕円形，深さ27cm．P_2は径21cmの円形，深さ20cmで，いずれも主柱穴と考えられる。

覆土　8層からなり，ロームブロックを含む人為堆積土層である。

遺物　覆土中から混入と思われる縄文土器片が出土している。

所見　時期を判定する遺物が出土していないが，遺構の形態から第1号小竪穴状遺構と同時期の15世紀後半と推定される。



土層解説
1　黒褐色　ローム小ブロック・ローム粒子少量
2　黒褐色　ローム小ブロック・ローム粒子中量，ローム中ブロック極少量
3　黒褐色　ローム小ブロック・ローム粒子少量，焼土粒子極少量
4　暗褐色　ローム粒子多量，ローム小ブロック微少量
5　黒褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・ローム中ブロック少量
6　黒褐色　ローム粒子多量，ローム小ブロック少量，ローム中ブロック少量
7　暗褐色　ローム粒子多量，ローム中ブロック中量，ローム小ブロック少量，焼土粒子極少量
8　暗褐色　ローム粒子多量，ローム小ブロック中量，ローム中ブロック，ローム大ブロック少量

第27図　第4号小竪穴状遺構実測図

第5号小竪穴状遺構［SK－145］（第28図）

位置　調査区の東部，I23g₇区。

規模と平面形　長軸2.39m，短軸2.06mの不定形である。

長軸方向　N－50°－W

壁　壁高は90～100cmで，ほぼ垂直に立ち上がる。

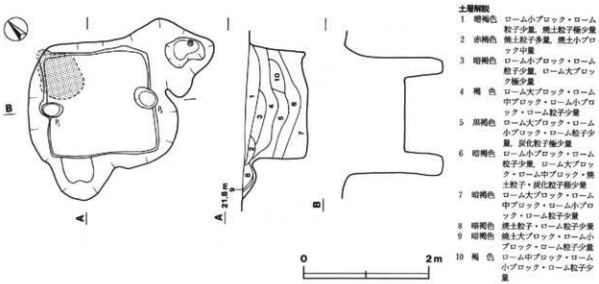
床　ほぼ平坦で，硬く踏み締められている。北コーナー部分に長軸75cm，短軸60cmの不整長方形で，厚さ22cmの焼土混じりの灰の層が見られる。

ピット　2か所（P_1～P_2）。P_1は長径32cm，短径24cmの楕円形，深さ60cm，P_2は長径40cm，短径30cmの楕円形，深さ60cmで，いずれも主柱穴と考えられる。

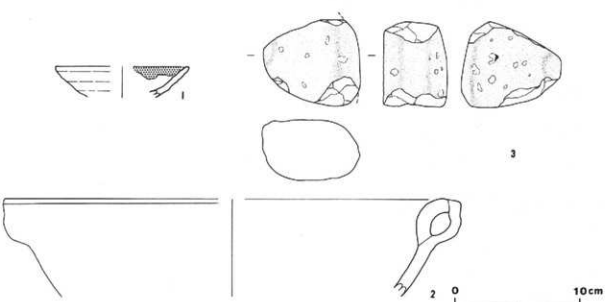
覆土　10層からなる。覆土上層の土層2，9に焼土ブロックや焼土粒子を含んでいることから火を焚いた様子が見られる。土層中段にロームブロックを含む人為堆積土層と考えられる。

遺物　覆土中から陶器や土師器の細片が出土している。1は陶器皿の体部～口縁部片で，覆土中から出土している。2は内耳鍋の体部～口縁部片で，中央部覆土下層から出土している。3は石皿で，覆土中から出土している。

所見　本跡の時期は，出土遺物から15世紀後半と考えられる。



第28図　第5号小竪穴状遺構実測図



第29図　第5号小竪穴状遺構出土遺物実測図

第５号小竪穴状遺構［ＳＫ－145］出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第29図1	土師器 皿	A [10.8] B (2.5)	体部から口縁部にかけての破片。体部は直線的に外傾して立ち上がる。	口縁部，体部内・外面ナデ。口縁部に灰釉が施されている。口縁部，体部内・外面ナデ。	砂粒 内面 灰オリーブ，外面 灰黄色 良好	P82 15%　覆土中
2	内耳鍋 土師質土器	A [36.8] B (7.9)	体部から口縁部にかけての破片。体部は外傾して立ち上がり，口縁部は肥厚し，口縁端部は内側に突出す	口縁部，体部内・外面ナデ。	雲母，石英，スコリア 灰褐色 普通	P85 15%　覆土中

図版番号	器種	計測値				石質	出土地点	備考
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)			
第29図3	石皿	6.9	7.8	4.8	335.7	安山岩	覆土中	Q22

第６号小竪穴状遺構［ＳＫ－152］（第30図）

位置　調査区の東部，I24f₁区。

重複関係　本跡は第151号土坑と重複している。本跡は第151号土坑の北側を掘り込んでおり，本跡の方が新しい。

規模と平面形　一辺が約1.90mの不整方形である。

主軸方向　N－58°－W

出入り口　南東壁南コーナーの位置に南東に向かって壁外に突出して，壁中段から確認面に至る角度25°のスロープ状の出入り口と思われる部分を有している。規模は長さ90cm，幅120cmである。

壁　壁高は50～52cmで，ほぼ垂直に立ち上がる。

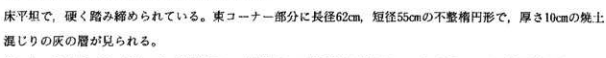
床平坦で，硬く踏み締められている。東コーナー部分に長径62cm，短径55cmの不整楕円形で，厚さ10cmの焼土混じりの灰の層が見られる。

ピット　２か所（P_1～P_2）。P_1は長径22cm，短径17cmの楕円形，深さ27cm，P_2は径34cmの不整円形，深さ47cmで，いずれも主柱穴と考えられる。

覆土　５層からなり，ロームブロックを含む人為堆積土層である。

遺物　覆土中から土師質土器の細片11点と流れ込みと思われる縄文土器片が出土している。

所見　時期を判定する遺物が出土していないが，土師質土器が出土していることと遺構の形態から第１号小竪穴状遺構と同時期の15世紀後半と推定される。



第30図　第６号小竪穴状遺構実測図

第7号小竪穴状遺構［ＳＫ－153］（第31図）

位置　調査区の東部，I23d₀区。

重複関係　本跡は第155号土坑と重複している。本跡は第155号の南側を掘り込んでおり，本跡の方が新しい。

規模と平面形　長軸2.23m，短軸2.10mの長方形である。

主軸方向　N－45°－E

壁　壁高は100～105cmで，ほぼ垂直に立ち上がる。

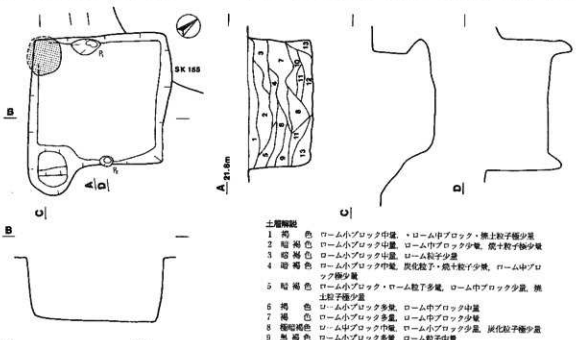
床　平坦で，硬く踏み締められている。南コーナー部分に長径62cm，短径54cmの楕円形で，厚さ11cmの焼土混じりの灰の層が見られる。

ピット　２か所（P_1～P_2）。P_1は長径45cm，短径25cmの不整楕円形，深さ33cm，P_2は長径20cm，短径16cmの楕円形，深さ23cmで，いずれも主柱穴と考えられる。

覆土　13層からなり，土層中段にローム粒子とロームブロックを多量に含む人為堆積土層である。

遺物　覆土中から混入と思われる縄文土器片が出土している。

所見　時期を判定する遺物が出土していないが，第１号小竪穴状遺構と同時期の15世紀後半と推定される。



土層解説
1 褐　色　ローム小ブロック中量，・ローム中ブロック・焼土粒子極少量
2 暗褐色　ローム小ブロック中量，ローム中ブロック少量，炭化粒子極少量
3 暗褐色　ローム小ブロック中量，ローム粒子少量
4 暗褐色　ローム小ブロック中量，炭化粒子・焼土粒子少量，ローム中ブロック極少量
5 暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子多量，ローム中ブロック少量，焼土粒子極少量
6 褐　色　ローム小ブロック多量，ローム中ブロック中量
7 褐　色　ローム小ブロック多量，ローム中ブロック少量
8 極暗褐色　ローム小ブロック中量，ローム小ブロック少量，炭化粒子極少量
9 黒褐色　ローム小ブロック多量，ローム粒子中量
10 明褐色　ローム粒子多量，ローム小ブロック少量
11 褐　色　ローム小ブロック中量，ローム中ブロック少量
12 褐　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック中量
13 明褐色　ローム小ブロック多量，ローム粒子中量

第31図　第７号小竪穴状遺構実測図

表３　小竪穴状遺構一覧表

番号	位置	主軸方向	平面形	規模（m）（長軸×短軸）	壁高（cm）	床面	ピット	人口	重複	覆土	出土遺物	備考 新旧関係（古→新）
1	J24bz	N－46°－E	隅丸方形	2.24×2.20	80～92	平坦	2	1	1	人為	土師器細片，土師器土等細片，須恵器細片，縄文土器細片，礫，鉄	
2	I24gz	N－45°－E	隅丸長方	2.10×1.88	67	平坦	2	1	1	人為	土師器土器細片，縄文土器細片，礫片	
3	J23bs	N－55°－W	長方形	2.30×1.94	97	平坦	2	1	1	人為	縄文土器細片	
4	I23eo	N－46°－E	長方形	2.40×2.20	102	平坦	2	1	1	人為	礫片，縄文土器細片	本跡→SK－122，154 新→SK－126
5	I23gt	N－50°－W	不定形	2.39×2.06	100	平坦	2		1	人為	土師器土器細片，陶器細片，土師器細片，縄文土器細片，鉄	
6	I24fi	N 42°－W	不定形	1.86×1.86	53	平坦	2	1	1	人為	土師器土器細片，縄文土器細片	SK－151→本跡
7	I24co	N 45°－E	長方形	2.23×2.10	103	平坦	2		1	人為	縄文土器細片，礫片	

3　土坑

当遺跡では，174基の土坑を確認したが，出土遺物が少なく時期や性格について不明確な点が多い。ここでは，形状や規模，覆土の状態や出土遺物について特徴のある46基の土坑について説明し，その他は一覧表（表4）で記載する。

(1) 炉穴

第5号土坑（第32図）

位置　調査区の南東部，J24g6区。

規模と形状　掘り方は長径4.08m，短径2.30mの不定形で，深さ40cmの炉穴である。底面は平坦で，地山に沿って緩やかに傾斜しているが，南側は木の根による撹乱のため大きく窪んでいる。壁は外傾して緩やかに立ち上がる。

長径方向　N－39°－W

炉　5か所。炉1は北東壁側に位置し，径90cmの半月形で，5cmの厚さで焼土が堆積している。炉2は北壁側に位置し，長径90cm，短径55cmの楕円形で，7cmの厚さで焼土が堆積している。炉3は北西壁側に位置し，長軸135cm，短軸90cmの不定形で，13cmの厚さで焼土が堆積している。炉4は炉3の南西側に位置し，長軸85cm，短軸54cmの不定形で，19cmの厚さで焼土が堆積している。炉5は炉4の南側に位置し，長軸68cm，短軸55cmの不定形で，20cmの厚さで焼土が堆積している。

炉1　土層解説

1　赤　褐　色　焼土粒子多量，焼土小ブロック中量，焼土中ブロック少量，炭化粒子極少量
2　暗赤褐色　焼土粒子多量，焼土小ブロック少量

炉2　土層解説

1　赤　褐　色　焼土粒子多量，焼土小ブロック中量
2　暗赤褐色　焼土粒子多量，焼土小ブロック少量
3　暗赤褐色　焼土中ブロック・焼土粒子多量，焼土小ブロック中量
4　暗赤褐色　焼土中ブロック・焼土小ブロック中量，焼土粒子少量，炭化粒子・ローム小ブロック極少量

炉3，4土層解説

1　赤　褐　色　焼土粒子中量，焼土小ブロック少量
2　赤　褐　色　焼土粒子多量，焼土中ブロック・焼土小ブロック少量
3　赤　褐　色　焼土粒子多量，焼土中ブロック中量，焼土小ブロック少量
4　にぶい赤褐色　焼土粒子少量，焼土小ブロック極少量

5　暗赤褐色　焼土粒子多量，焼土小ブロック中量，焼土中ブロック少量，炭化粒子・ローム粒子極少量
6　赤　褐　色　焼土粒子多量，焼土小ブロック少量，炭化粒子極少量
7　赤　褐　色　焼土粒子中量，焼土大ブロック・焼土小ブロック極少量
8　褐　　色　焼土小ブロック・焼土粒子少量

炉5　土層解説

1　赤褐色　焼土小ブロック・焼土粒子中量，炭化粒子・ローム小ブロック極少量
2　赤褐色　焼土粒子多量，焼土小ブロック少量

覆土　13層からなる。ロームブロックやローム粒子を含む褐色土が中心で，土層1～10までは焼土ブロックや焼土粒子を含んでいる。

土層解説

1　暗　褐　色　焼土粒子・ローム小ブロック少量
2　褐　　色　焼土小ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量，炭化粒子極少量
3　褐　　色　焼土小ブロック中量，焼土粒子・ローム小ブロック少量，炭化粒子極少量
4　褐　　色　ローム粒子少量，焼土粒子極少量
5　にぶい褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，焼土粒子極少量
6　褐　　色　ローム粒子中量，ローム中ブロック・ローム小ブロック少量，焼土粒子極少量
7　褐　　色　ローム粒子中量，焼土小ブロック・ローム中ブロック少量
8　褐　　色　焼土粒子中量，焼土小ブロック・ローム粒子少量，炭化粒子極少量
9　暗　褐　色　ローム粒子・ローム粒子少量，焼土粒子極少量
10　褐　　色　焼土小ブロック・ローム粒子少量
11　明　褐　色　ローム粒子・黒色土粒子中量，ローム小ブロック少量
12　褐　　色　ローム粒子・黒色土粒子中量
13　明　褐　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量

遺物　覆土中から茅山式期の縄文土器片が出土している。1は表裏条痕文で，胎土に繊維を含んでいる。

所見　炉3は炉4によって掘り込まれており，炉3のほうが古い。その他の新旧関係は不明である。本跡の時期は，覆土中から茅山式期の土器片が出土していることと遺構の性格から，縄文時代早期末と考えられる。

第39号土坑（第32図）

位置　調査区の東部，H23g_6区。

重複関係　本跡は第8号溝と重複している。本跡の東側を第8号溝が掘り込んでおり，本跡の方が古い。

規模と形状　掘り方は，長径2.70m，短径2.10mの不定形で，深さ26cmの炉穴である。底面はやや凹凸が見られ，壁は外傾して立ち上がる。

長径方向　N－48°－W

炉　2か所。炉1は北側に位置し，径52cmの円形で，8cmの厚さで焼土の堆積が見られる。炉2は炉1の南西側に位置し，径52cmの円形で，13cmの厚さで焼土の堆積が見られる。

炉1　土層解説
1　暗　赤　褐　色焼土粒子少量
2　にぶい赤褐色　焼土粒子少量
3　赤　褐　色　焼土ブロック中量，焼土粒子少量

炉2　土層解説
1　暗赤褐色　焼土粒子少量，ローム中ブロック極少量
2　暗　褐　色　焼土粒子・ローム中ブロック少量，ローム粒子極少量

覆土　10層からなる。壁際からの自然堆積土層と考えられる。

土層解説
1　暗褐色　焼土粒子少量，焼土小ブロック・炭化粒子・ローム粒子極少量
2　暗褐色　焼土粒子・ローム粒子極少量
3　暗褐色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子極少量
4　暗褐色　焼土粒子少量，焼土小ブロック・炭化粒子極少量
5　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子・ローム小ブロック極少量
6　褐　色　ローム粒子中量，焼土粒子極少量
7　褐　色　ローム粒子中量，焼土粒子極少量
8　褐　色　ローム粒子中量，ローム中ブロック極少量
9　褐　色　ローム粒子中量
10　褐　色　ローム粒子中量，焼土粒子極少量

遺物　覆土中から縄文土器の細片がら出土している。2は口縁部片で口唇部が肥厚し，外反が著しい。3，4は胴部片である。3は表裏に貝殻条痕文が施されている。4は数条の沈線が垂下するように施されている。所見本跡の時期は，覆土中から茅山式期の土器片が出土していることと遺構の性格から，縄文時代早期末と考えられる。

第44号土坑（第32図）

位置　調査区の東部，H23g_7区。

規模と形状　掘り方は長径3.35m，短径2.70mの不定形で，深さ46cmの炉穴である。底面は少し凹凸が見られ，壁面は緩やかに外傾して立ち上がる。底部中央より北側に径25cm，深さ40cmの円形の柱穴がある。

長径方向　N－90°－W

炉　6か所。炉1は北東部に位置し，径55cmの円形で，11cmの厚さで焼土の堆積が見られる。炉2は炉1の西側に位置し，長径60cm，短径42cmの楕円形で，9cmの厚さで焼土の堆積が見られる。炉3は炉2の南西側に位置し，長径68cm，短径50cmの楕円形で，15cmの厚さで焼土の堆積が見られる。炉4は炉3の南側に位置し，径70cmの円形で，20cmの厚さで焼土の堆積が見られる。炉5は炉4の南西側に位置し，長径40cm，短径27cmの楕円形で，10cmの厚さで焼土の堆積が見られる。炉6は北東部に位置し，径70cmの円形である。

炉1　土層解説
1　にぶい赤褐色　焼土粒子・ローム粒子極少量
2　赤　褐　色　焼土粒子少量
3　赤　褐　色　焼土粒子中量，ローム粒子少量
4　褐　色　ローム粒子中量，焼土粒子極少量
5　褐　色　ローム粒子多量，ローム中ブロック少量，焼土粒子極少量

炉3　土層解説

1　暗赤褐色　焼土粒子少量
2　にぶい赤褐色　焼土粒子中量
3　褐　　色　ローム小ブロック少量，焼土粒子極少量

炉4　土層解説

1　暗赤褐色　焼土粒子中量
2　にぶい赤褐色　焼土粒子少量，焼土小ブロック極少量
3　明赤褐色　焼土粒子中量
4　赤　褐　色　焼土粒子多量
5　暗赤褐色　焼土粒子中量
6　赤　褐　色　焼土粒子中量，ローム中ブロック極少量
7　赤　褐　色　焼土粒子多量

炉5　土層解説

1　極暗褐色　焼土粒子少量
2　暗赤褐色　焼土粒子多量
3　暗赤褐色　焼土粒子少量
4　暗赤褐色　焼土粒子少量
5　赤　褐　色　焼土粒子多量，ローム粒子少量

覆土　8層からなる。ロームブロック，ローム粒子及び焼土粒子を含んでいるが，壁際からの自然堆積土層である。

土層解説

1　極暗褐色　焼土小ブロック・ローム小ブロック中量，焼土粒子・ローム粒子少量
2　暗褐色　ローム粒子中量，焼土小ブロック・焼土粒子・ローム小ブロック少量
3　黒褐色　焼土小ブロック・焼土粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量
4　褐　　色　ローム粒子少量，ローム小ブロック・炭化粒子極少量
5　褐　　色　ローム粒子中量
6　褐　　色　焼土粒子少量，ソフトローム中ブロック・炭化粒子極少量
7　褐　　色　ローム粒子少量，焼土粒子・ローム小ブロック極少量
8　褐　　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子極少量

遺物　覆土中から茅山式期の縄文土器片が出土している。5は口縁部片，6は胴部片でいずれも表裏に貝殻条痕文が施されている。

所見　各炉床部の新旧関係は不明である。本跡の時期は，覆土中から茅山式期の土器片が出土していることと遺構の性格から，縄文時代早期末と考えられる。

第56号土坑（第33図）

位置　調査区の東部，H24j$_4$区。

重複関係　本跡は第1号住居跡と重複している。本跡の東側を第1号住居跡が掘り込んでおり，本跡の方が古い。

規模と形状　掘り方は長径2.96m，短径1.96mの不定形で，深さ52cmの炉穴である。底面は緩やかに傾斜している。壁は南側がほぼ垂直に立ち上がり，北側は外傾して緩やかに立ち上がる。

長径方向　N－11°－E

炉　3か所。炉1は南壁際に位置し，長径110cm，短径75cmの楕円形で，20cmの厚さで焼土の堆積が見られる。炉2は北壁際に位置し，長径90cm，短径70cmの楕円形で，24cmの厚さで焼土の堆積が見られる。炉3は中央に位置し，径70cmの円形で，15cmの厚さで焼土の堆積が見られる。

炉1土層解説

1　暗褐色　ローム中ブロック中量，ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子少量
2　赤褐色　焼土粒子多量，ローム中ブロック・ローム小ブロック少量
3　赤褐色　焼土小ブロック・ローム中ブロック多量
4　赤　褐　色　焼土粒子多量，焼土小ブロック中量，炭化粒子少量
5　にぶい赤褐色　焼土粒子多量，焼土小ブロック中量，炭化粒子少量
6　暗　褐　色　焼土小ブロック・焼土粒子中量，炭化粒子少量，ローム粒子極少量
7　赤　褐　色　焼土粒子多量，焼土中ブロック中量
8　にぶい赤褐色　焼土粒子・ローム粒子中量，焼土中ブロック・炭化粒子極少量

炉2，3土層解説

1　暗　褐　色　焼土粒子・炭化材・炭化物・ローム粒子中量
2　暗青褐色　焼土粒子多量，焼土小ブロック・炭化粒子少量
3　暗　褐　色　焼土粒子中量，炭化粒子・ローム小ブロック少量

覆土　6層からなる。木の根による撹乱が数箇所見られるが，自然堆積土層と考えられる。

土層解説

1　暗 褐 色　ローム粒子少量，炭化粒子極少量
2　極暗褐色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子極少量
3　暗 褐 色　ローム粒子少量，焼土粒子極少量
4　極暗褐色　焼土粒子・ローム粒子少量
5　暗 褐 色　ローム中ブロック・ローム粒子少量，ローム大ブロック極少量
6　褐　　色　ローム粒子少量，焼土粒子・ローム小ブロック極少量

遺物　覆土中から縄文土器の細片が出土している。

所見　炉3は炉2によって掘り込まれており，炉3の方が古い。炉1との新旧関係は不明である。時期を判定する遺物は出土していないが，遺構の性格から縄文時代早期末と考えられる。

第99号土坑（第32図）

位置　調査区の中央部，II23g₀区。

規模と形状　掘り方は長径1.06m，短径0.89mの楕円形で，深さ14cmの炉穴である。底面は皿状をしており，壁は外傾して立ち上がる。

長径方向　N－27°－W

炉　南壁際に位置し，径40cmの円形で，14cmの厚さで焼土の堆積が見られる。

炉土層解説

1　暗 褐 色　焼土粒子少量，ローム粒子極少量
2　明赤褐色　焼土中ブロック・焼土粒子中量，焼土小ブロック少量
3　暗 褐 色　焼土粒子中量，ローム粒子極少量
4　にぶい赤褐色　焼土小ブロック・焼土粒子中量
5　暗 褐 色　焼土小ブロック中量，焼土粒子・ローム粒子少量

土層　6層からなる。壁際からの自然堆積土層と考えられる。

土層解説

1　暗褐色　焼土小ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量，炭化粒子極少量
2　褐　色　焼土小ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量，炭化粒子極少量
3　赤褐色　焼土小ブロック中量，焼土中ブロック少量，ローム小ブロック極少量
4　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子少量，焼土粒子極少量
5　褐　色　ローム粒子少量
6　褐　色　焼土小ブロック・焼土粒子・ローム粒子極少量

遺物　出土していない。

所見　時期を判定する遺物は出土していないが，遺構の性格から縄文時代早期末と考えられる。

第124号土坑（第33図）

位置　調査区の中央部，I23a₃区。

重複関係　本跡は第5号住居跡と重複している。本跡を第5号住居跡が掘り込んでおり，本跡の方が古い。

規模と形状　掘り方は長径1.50m，短径0.80mの楕円形で，深さ15cmの炉穴である。底面はやや凹凸が見られ，壁は緩やかに外傾して立ち上がる。

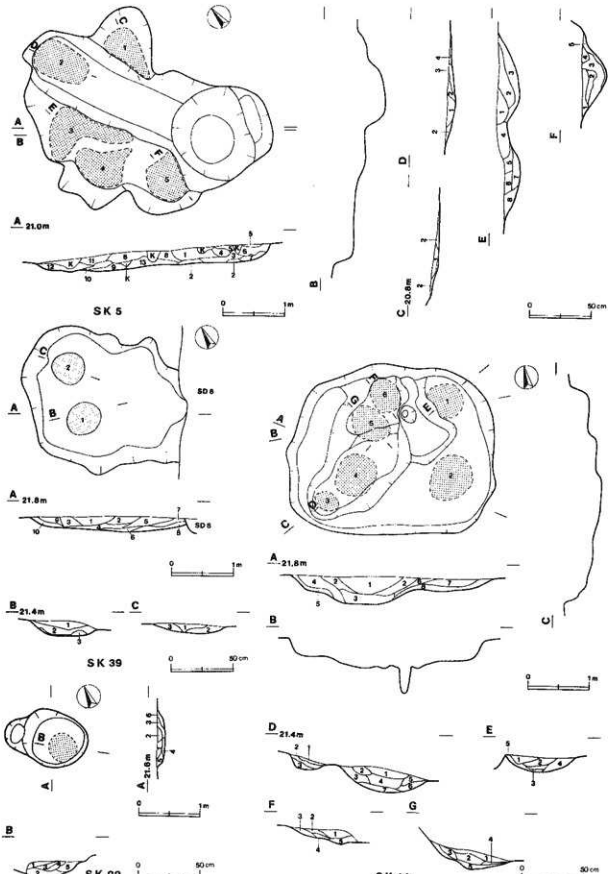
長径方向　N－3°－W

炉　2か所。第5号住居跡に削平されていて，炉床部以外不明である。

土層　9層からなる。覆土上層は第5号住居跡によって掘り込まれている。

土層解説

1　赤 褐 色　焼土粒子多量，焼土小ブロック少量
2　赤 褐 色　焼土粒子多量，焼土小ブロック中量
3　にぶい赤褐色　焼土粒子中量，焼土小ブロック少量
4　暗赤褐色　焼土粒子・ローム粒子少量
5　褐　　色　ローム粒子少量，焼土粒子，ローム中ブロック極少量
6　暗赤褐色　焼土粒子・焼土小ブロック・ローム粒子少量
7　暗赤褐色　焼土粒子・ローム粒子少量
8　にぶい赤褐色　ローム粒子中量，ローム中ブロック・焼土粒子・焼土小ブロック少量


SK 5
SK 39
SK 99
SK 44
SD 5
A 21.0m
A 21.8m
B 21.4m
A 21.6m
C 20.8m
A 21.8m
D 21.4m
0 1m
0 50cm

第32図　炉穴実測図(1)

土層　9層からなる。覆土上層は第5号住居跡によって掘り込まれている。

土層解説

1　赤　褐　色　焼土粒子多量，焼土小ブロック少量
2　赤　褐　色　焼土粒子多量，焼土小ブロック中量
3　にぶい赤褐色　焼土粒子中量，焼土小ブロック少量
4　暗赤褐色　焼土粒子・ローム粒子少量
5　褐　　色　ローム粒子少量，焼土粒子・ローム中ブロック極少量
6　暗赤褐色　焼土粒子・焼土小ブロック・ローム粒子少量
7　暗赤褐色　焼土粒子・ローム粒子少量
8　にぶい赤褐色　ローム粒子中量，ローム中ブロック・焼土粒子・焼土小ブロック少量
9　褐　　色　ローム粒子中量，ローム中ブロック少量

遺物　出土していない。

所見　時期を判定する遺物は出土していないが，遺構の性格から縄文時代早期末と考えられる。

第125A号土坑（第33図）

位置　調査区の中央部，I23b3区。

重複関係　本跡は第5号住居跡と第125B号土坑と重複している。本跡全体を第5号住居跡が掘り込んでおり，本跡の方が古い。本跡の東側を第125B号土坑が掘り込んでおり，本跡の方が古い。

規模と形状　掘り方は長径2.60m，短径0.90mの不定形で，深さ64cmの炉穴である。底面は緩やかに傾斜しており，炉床部分はさらに深く掘り窪められている。

長径方向　N－67°－W

炉　土坑下段東壁際に位置し，径55cmの円形で，8cmの厚さで焼土の堆積が見られる。

炉土層解説

1　赤　褐　色　焼土粒子・ローム粒子少量
2　明赤褐色　焼土粒子中量
3　明赤褐色　焼土粒子中量，焼土小ブロック少量
4　明赤褐色　焼土粒子多量
5　明赤褐色　焼土粒子多量

遺物　覆土中から縄文時代の土器片が出土している。7，8は口縁部片，9は胴部片でいずれも表裏に貝殻条痕文が施されている。10は流れ込みと思われる関山式の土器片である。

所見　本跡の時期は，覆土中から茅山式期の土器片が出土していることと遺構の性格から，縄文時代早期末と考えられる。

第125B号土坑（第33図）

位置　調査区の中央部，I23b3区。

重複関係　本跡は第5号住居跡と第125A号土坑と重複している。本跡全体を第5号住居跡が掘り込んでおり，本跡の方が古い。本跡の西側は第125A号土坑を掘り込んでおり，本跡の方が新しい。

規模と形状　掘り方は長径2.05m，短径1.75mの不定形で，深さ75cmの炉穴である。

長径方向　N－67°－W

炉　3か所。炉1は東壁際に位置し，長径68cm，短径48cmの楕円形で，21cmの厚さで焼土の堆積が見られる。炉2は中央に位置し，長径60cm，短径42cmの楕円形で，13cmの厚さで焼土の堆積が見られる。炉3は西側に位置し，長径65cm，短径45cmの楕円形で，5cmの厚さで焼土堆積が見られる。

炉土層解説

1　暗赤褐色　焼土粒子少量，ローム小ブロック・ローム粒子極少量
2　にぶい赤褐色　焼土粒子中量，ローム小ブロック・ローム粒子少量，焼土大ブロック極少量
3　暗赤褐色　焼土粒子中量，焼土小ブロック・ローム粒子少量，ローム小ブロック極少量
4　暗赤褐色　焼土小ブロック・焼土粒子少量
5　暗赤褐色　焼土粒子少量・ローム粒子極少量

遺物　覆土中から縄文時代の土器片が出土している。11は口縁部片で表裏に貝殻条痕文が施されている。

所見　本跡の時期は，覆土中から茅山式期の土器片が出土していることと遺構の性格から，縄文時代早期末と考えられる。

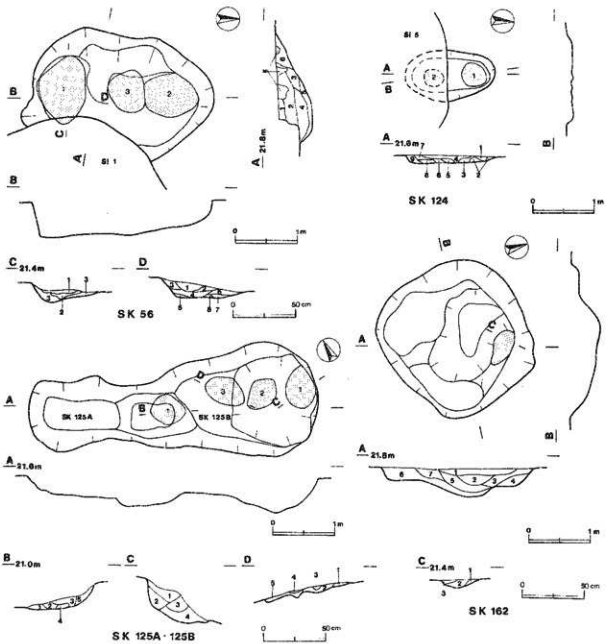
第162号土坑（第33図）

位置　調査区の中央部，I23d₂区。

規模と形状　掘り方は長軸2.36m，短軸2.25mの隅丸長方形で，深さ45cmの炉穴である。底面は皿状で，壁は外傾して立ち上がる。

長径方向　N－4°－E

炉　北壁側に位置し，長径60cm，短径30cmの不整長楕円形で，6cmの厚さで焼土の堆積が見られる。



第33図　炉穴実測図(2)

炉土層解説

1　赤褐色　焼土粒子・ローム粒子少量
2　赤褐色　焼土粒子・焼土小ブロック中量，ローム粒子少量
3　赤褐色　ローム中ブロック中量，焼土粒子・ローム粒子少量

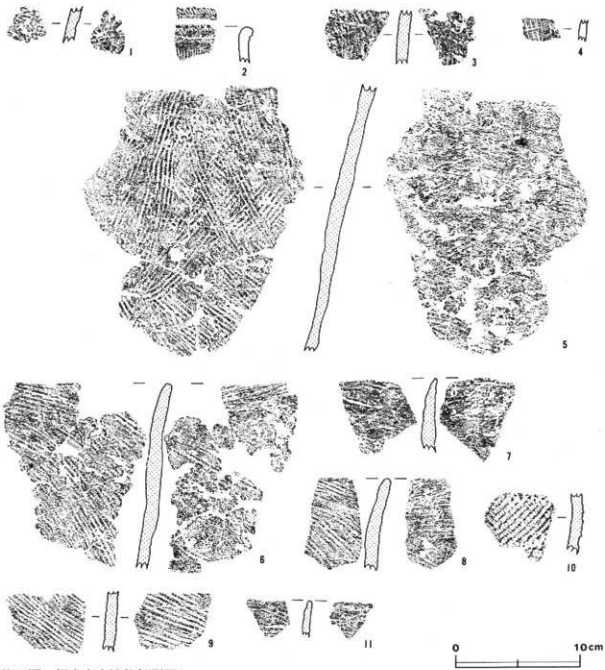
覆土　7層からなり，壁際からの自然堆積土層と考えられる。

土層解説

1　暗褐色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック極少量
2　暗褐色　ローム粒子・ローム小ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子極少量
3　暗褐色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
4　褐　色　ローム粒子中量，焼土粒子少量，ローム中ブロック極少量
5　褐　色　ローム粒子・ローム小ブロック少量，焼土粒子極少量
6　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子極少量
7　褐　色　ローム粒子・ローム小ブロック少量，焼土粒子極少量

遺物　覆土中から礫片が出土している。

所見　本跡の時期は，判定する遺物が出土していないが，遺構の性格から縄文時代早期末と考えられる。



第34図　炉穴出土遺物拓影図

(2) 陥し穴

第9号土坑（第35図）

位置　調査区の南東部，J24d$_2$区。

規模と形状　掘り方は長径3.00m，短径1.06mの長楕円形で，深さ1.80mである。底面は平坦で，壁は内削ぎ状に入り込んだ後，垂直に立ち上がる。

長径方向　N－80°－E

覆土　7層からなり，自然堆積土層と考えられる。

遺物　覆土中から縄文土器の細片が出土している。1～3は胴部片，4は口縁部片である。1は表裏に貝殻条痕文が施されている。2は羽状縄文，4は縄巻縄文が施されている。

所見　遺構の形態から陥し穴と考えられる。本跡の時期は，覆土中から縄文時代早期，前期及び後期の土器片が出土しているので，縄文時代と考えられる。

第41号土坑（第35図）

位置　調査区の北東部，H23f$_6$区。

規模と形状　掘り方は長径3.70m，短径(1.28m)の長楕円形で，深さ2.58mである。底面はやや凹凸が見られ，壁は内削ぎ状に入り込んだ後，垂直に立ち上がる。

長径方向　N－48°－E

覆土　10層からなり，ハードロームブロックを含んでいるが，自然堆積土層と考えられる。

遺物　覆土中から縄文土器の細片が出土している。5は縄文が斜位に施されている。6は表裏に貝殻条痕文が施されている。7はLRの単節縄文が施されている。

所見　遺構の形態から陥し穴と考えられる。本跡の時期は，覆土中から縄文時代早期や後期の土器片が出土していることから縄文時代と考えられる。

第47号土坑（第35図）

位置　調査区の北部，G23h$_4$区。

規模と形状　本跡は遺構が調査区域外に伸びており，全容は不明である。調査範囲での結果は，長径(2.07m)，短径1.70mの半楕円形であり，深さ2.23mである。底面は平坦で，壁は中層下部で内削ぎ状に入り込んだ後，垂直に立ち上がる。

長径方向　N－43°－E

覆土　13層からなり，ロームブロックを含んでいるが，自然堆積土層と考えられる。

遺物　出土していない。

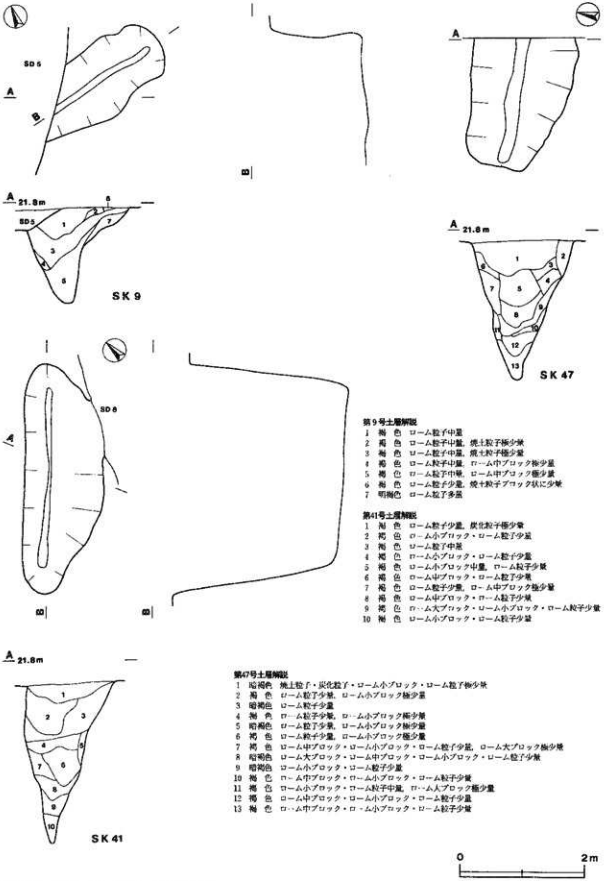
所見　遺構の形態から陥し穴と考えられる。出土遺物がないため，時期は不明である。

第50号土坑（第36図）

位置　調査区の北部，G22h$_9$区。

規模と形状　掘り方は長径3.60m，短径1.90mの楕円形で，深さ2.83mである。底面は平坦で，壁は垂直に立ち上がる。

長径方向　N－68°－E



第9号土層解説

1 褐 色 ローム粒子中量
2 褐 色 ローム粒子中量，焼土粒子極少量
3 褐 色 ローム粒子中量，焼土粒子極少量
4 褐 色 ローム粒子中量，ローム中ブロック極少量
5 褐 色 ローム粒子中量，ローム中ブロック極少量
6 褐 色 ローム粒子少量，焼土粒子ブロック状に少量
7 明褐色 ローム粒子多量

第41号土層解説

1 褐 色 ローム粒子少量，炭化粒子極少量
2 褐 色 ローム小ブロック・ローム粒子少量
3 褐 色 ローム粒子中量
4 褐 色 ローム小ブロック・ローム粒子少量
5 褐 色 ローム小ブロック中量，ローム粒子少量
6 褐 色 ローム小ブロック・ローム粒子少量
7 褐 色 ローム粒子少量，ローム中ブロック極少量
8 褐 色 ローム中ブロック・ローム粒子少量
9 褐 色 ローム大ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量
10 褐 色 ローム小ブロック・ローム粒子少量

第47号土層解説

1 暗褐色 焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子極少量
2 褐 色 ローム粒子少量，ローム小ブロック極少量
3 暗褐色 ローム粒子少量
4 褐 色 ローム粒子少量，ローム小ブロック極少量
5 暗褐色 ローム粒子少量，ローム小ブロック極少量
6 褐 色 ローム粒子少量，ローム小ブロック極少量
7 褐 色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量，ローム大ブロック極少量
8 暗褐色 ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量
9 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量
10 褐 色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量
11 褐 色 ローム小ブロック・ローム粒子中量，ローム大ブロック極少量
12 褐 色 ローム小ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量
13 褐 色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量

第35図　第9，41，47号土坑実測図

覆土　11層からなり，ロームブロックを含んでいるが，自然堆積土層と考えられる。

遺物　覆土中から縄文時代の土器の細片が出土している。8は斜方向に沈線が施されている。堀之内式期の土器片である。

所見　遺構の形態から陥し穴と考えられる。本跡の時期は，出土遺物から縄文時代後期前葉と考えられる。

第55号土坑（第36図）

位置　調査区の北部中央寄り，H23e_3区。

規模と形状　掘り方は長径2.90m，短径0.85mの長楕円形で，深さ1.24mである。底面はほぼ平坦で，壁は内削ぎ状に入り込んだ後，垂直に立ち上がる。

長径方向　N－27°－W

覆土　長軸方向に土層を切ったので，下層の土層は調査できず，4層のみ調査した。自然堆積土層と考えられる。

遺物　出土していない。

所見　遺構の形態から陥し穴と考えられる。出土遺物がないため，時期は不明である。

第71号土坑（第37図）

位置　調査区北西部，G21g_6区。

規模と形状　掘り方は長径3.82m，短径2.70mの不定形で，深さ2.77mである。底面はやや凹凸が見られ，壁は北側はほぼ垂直に立ち上がり，南側は外傾して立ち上がる。

長径方向　N－21°－E

土層　10層からなり，堆積状況から自然堆積土層と考えられる。

遺物　覆土中から縄文時代の土器片が出土している。9は縄文土器の底部片である。10は口縁部片で貼り付けた隆帯に沈線や刺突文が施されている。11は胴部片で変形爪形文が施されている。12は口縁部片で無文である。

所見　遺構の形態から陥し穴と考えられる。本跡の時期は，覆土中から縄文時代前期と後期の土器片が出土しているので，縄文時代と考えられる。

第75号土坑（第36図）

位置　調査区の北西部，H21f_9区。

規模と形状　掘り方は長径2.78m，短径1.64mの楕円形で，深さ2.52mである。底面は平坦であるが，壁は垂直に立ち上がる。本跡に関係すると思われるピットが4か所確認されている。

長径方向　N－50°－W

土層　14層からなり，ロームブロックを含んでいるが，自然堆積土層と考えられる。

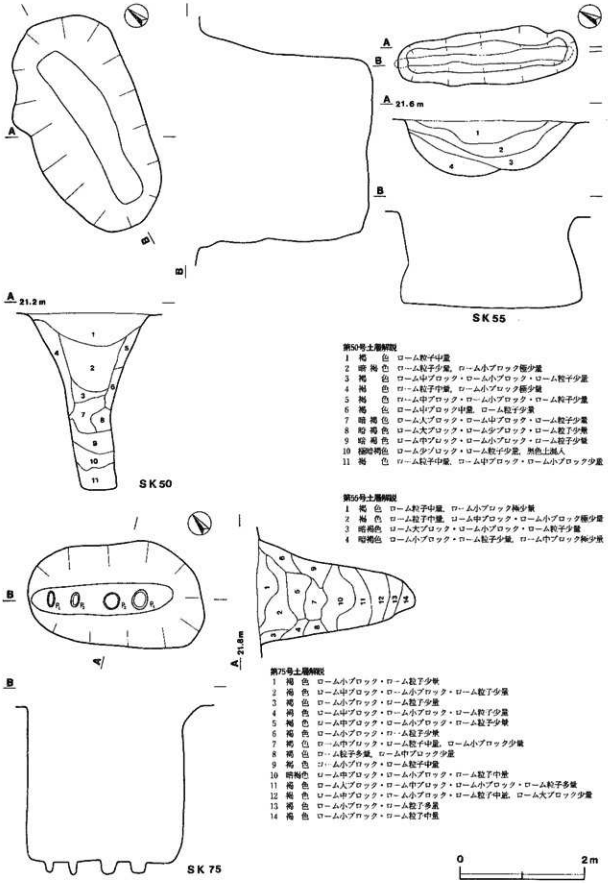
遺物　覆土中から25の剣片が出土している。

所見　遺構の形態から陥し穴と考えられる。判定する遺物が出土していないため，時期は不明である。

第78号土坑（第37図）

位置　調査区の北西部，I21e_0区。

規模と形状　本跡は遺構が調査区域外に伸びており，全容は不明である。調査範囲での結果は，長径1.48m，



第50号土層解説

1 褐 色 ローム粒子中量
2 暗褐色 ローム粒子少量，ローム小ブロック極少量
3 褐 色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量
4 褐 色 ローム粒子中量，ローム小ブロック極少量
5 褐 色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量
6 褐 色 ローム中ブロック中量，ローム粒子少量
7 暗褐色 ローム大ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量
8 暗褐色 ローム大ブロック・ローム少ブロック・ローム粒子少量
9 暗褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量
10 極暗褐色 ローム少ブロック・ローム粒子少量，無色土混入
11 褐 色 ローム粒子中量，ローム中ブロック・ローム小ブロック少量

第55号土層解説

1 褐 色 ローム粒子中量，ローム小ブロック極少量
2 褐 色 ローム粒子中量，ローム中ブロック・ローム小ブロック極少量
3 暗褐色 ローム大ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量
4 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量，ローム中ブロック極少量

第75号土層解説

1 褐 色 ローム小ブロック・ローム粒子少量
2 褐 色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量
3 褐 色 ローム小ブロック・ローム粒子少量
4 褐 色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量
5 褐 色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量
6 褐 色 ローム小ブロック・ローム粒子少量
7 褐 色 ローム中ブロック・ローム粒子中量，ローム小ブロック少量
8 褐 色 ローム粒子多量，ローム中ブロック少量
9 褐 色 ローム小ブロック・ローム粒子中量
10 暗褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子中量
11 褐 色 ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子多量
12 褐 色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子中量，ローム大ブロック少量
13 褐 色 ローム小ブロック・ローム粒子多量
14 褐 色 ローム小ブロック・ローム粒子中量

第36図　第50，55，75号土坑実測図

短径0.93mの不定形で，深さ1.70mである。底面は平坦で，壁は垂直に立ち上がる。

長径方向　N－10°－W

土層　9層からなり，ロームブロックを含んでいるが，自然堆積土層と考えられる。

遺物　出土していない。

所見　遺構の形態から陥し穴と考えられる。出土遺物がないため，時期は不明である。

第92号土坑（第37図）

位置　調査区の中央部，I22d$_1$区。

規模と形状　掘り方は長径2.07m，短径1.41mの楕円形で，深さ1.92mである。底面は平坦で，壁はほぼ垂直に立ち上がる。

長径方向　N－49°－W

覆土　9層からなり，堆積状況から自然堆積土層と考えられる。

遺物　覆土中から縄文時代の土器片が出土している。13は胴部片で関山式期の土器片である。14は口縁部片で称名寺式期の土器片である。覆土中から26，27の剥片が出土している。

所見　遺構の形態から陥し穴と考えられる。本跡の時期は，覆土中から縄文時代前期と後期の土器片が出土しているので，縄文時代と考えられる。

第161号土坑（第38図）

位置　調査区の南東部中央寄り，I23h$_7$区。

規模と形状　掘り方は長径3.98m，短径2.66mの楕円形で，深さ2.90mである。底面は平坦で，壁は南北とも底面から70cm程のところで内削ぎ状に入り込んだ後，垂直に立ち上がる。

長径方向　N－39°－W

土層　13層からなり，ロームブロックを含んでいるが，壁際からの自然堆積土層と考えられる。

遺物　覆土中から縄文土器の細片が出土している。

所見　遺構の形態から陥し穴と考えられる。出土遺物が少ないため，時期は不明である。

第167号土坑（第38図）

位置　調査区の北部，J23e$_3$区。

重複関係　本跡は第166号土坑と重複している。本跡の西側を第166号土坑が掘り込んでおり，本跡の方が古い。

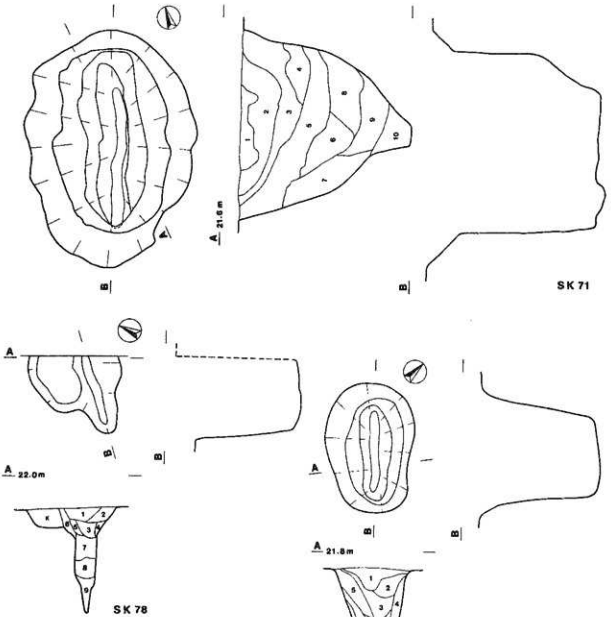
規模と形状　掘り方は長径2.84m，短径2.46mの不定形で，深さ2.00mである。底面は平坦で，内削ぎ状に入り込んだ後，垂直に立ち上がる。

長径方向　N－77°－E

土層　12層からなり，自然堆積土層と考えられる。

遺物　覆土中から縄文時代の土器片が出土している。15～17は口縁部片，18～21は胴部片である。いずれも称名寺式期の土器片である。

所見　本跡の時期は，出土遺物から縄文時代後期前葉と考えられる。



第71号土層解説

1 暗褐色 ローム粒子中量，ローム中ブロック少量
2 褐 色 ローム大ブロック・ローム粒子中量，焼土粒子極少量
3 褐 色 ローム大ブロック・ローム粒子中量
4 明褐色 ローム大ブロック多量，ローム中ブロック・ローム粒子少量
5 褐 色 ローム大ブロック・ローム粒子中量
6 暗褐色 ローム粒子・ローム小ブロック多量，ローム中ブロック中量
7 褐 色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子中量
8 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子多量，ローム中ブロック中量
9 褐 色 ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子多量
10 褐 色 ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子多量

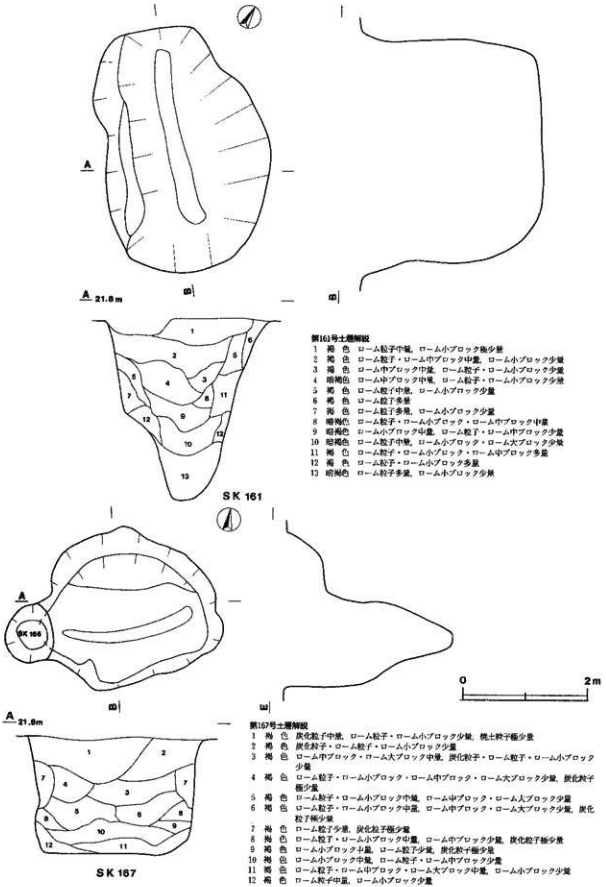
第78号土層解説

1 褐 色 ローム粒子中量，ローム小ブロック少量
2 褐 色 ローム小ブロック・ローム粒子少量，ローム中ブロック・炭化粒子極少量
3 褐 色 ローム小ブロック・ローム粒子少量，炭化粒子極少量
4 褐 色 ローム小ブロック・ローム粒子中量，ローム中ブロック少量
5 褐 色 ローム小ブロック・ローム粒子少量，ローム中ブロック極少量
6 褐 色 ローム小ブロック・ローム粒子少量
7 褐 色 ローム小ブロック中量，ローム中ブロック・ローム粒子少量
8 褐 色 ローム粒子中量，ローム中ブロック・ローム小ブロック少量
9 褐 色 ローム小ブロック・ローム粒子多量

第92号土層解説

1 褐 色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量
2 暗褐色 ローム中ブロック多量，ローム小ブロック・ローム粒子少量
3 明褐色 ローム中ブロック・ローム粒子中量，ローム小ブロック少量
4 褐 色 ローム小ブロック・ローム粒子中量
5 褐 色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子中量
6 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量，ローム中ブロック少量
7 明褐色 ローム中ブロック・ローム粒子多量，ローム小ブロック中量
8 褐 色 ローム小ブロック・ローム粒子多量
9 褐 色 ローム小ブロック・ローム粒子多量，ローム中ブロック少量

第37図 第71，78，92号土坑実測図



第161号土層解説

1 褐　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック微少量
2 褐　色　ローム粒子・ローム中ブロック中量，ローム小ブロック少量
3 褐　色　ローム中ブロック中量，ローム粒子・ローム小ブロック少量
4 暗褐色　ローム中ブロック中量，ローム粒子・ローム小ブロック少量
5 褐　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック多量
6 褐　色　ローム粒子多量
7 褐　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック少量
8 暗褐色　ローム粒子・ローム小ブロック・ローム中ブロック中量
9 暗褐色　ローム小ブロック中量，ローム粒子・ローム中ブロック少量
10 暗褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・ローム大ブロック少量
11 褐　色　ローム粒子・ローム小ブロック・ローム中ブロック多量
12 褐　色　ローム粒子・ローム小ブロック多量
13 暗褐色　ローム粒子多量，ローム小ブロック少量

第167号土層解説

1 褐　色　炭化粒子中量，ローム粒子・ローム小ブロック少量，焼土粒子極少量
2 褐　色　炭化粒子・ローム粒子・ローム小ブロック少量
3 褐　色　ローム中ブロック・ローム大ブロック中量，炭化粒子・ローム粒子・ローム小ブロック少量
4 褐　色　ローム粒子・ローム小ブロック・ローム中ブロック・ローム大ブロック少量，炭化粒子極少量
5 褐　色　ローム粒子・ローム小ブロック中量，ローム中ブロック・ローム大ブロック少量
6 褐　色　ローム粒子・ローム小ブロック中量，ローム中ブロック・ローム大ブロック少量，炭化粒子微少量
7 褐　色　ローム粒子少量，炭化粒子極少量
8 褐　色　ローム粒子・ローム小ブロック中量，ローム中ブロック少量，炭化粒子極少量
9 褐　色　ローム小ブロック中量，ローム粒子少量，炭化粒子極少量
10 褐　色　ローム小ブロック中量，ローム粒子・ローム中ブロック少量
11 褐　色　ローム粒子・ローム中ブロック・ローム大ブロック中量，ローム小ブロック少量
12 褐　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量

第38図　第161，167号土坑実測図

第171号土坑（第39図）

位置　調査区の北部，J22c6区。

重複関係　本跡は第26号溝と重複している。本跡の中央を第26号溝が掘り込んでおり，本跡の方が古い。

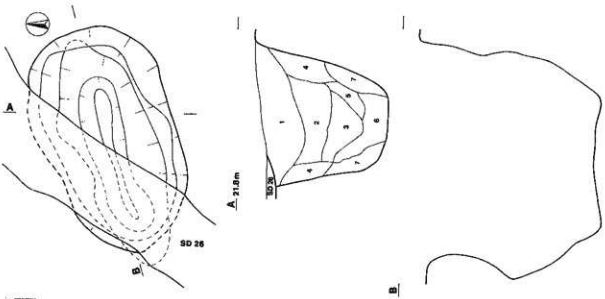
規模と形状　掘り方は長径3.70m，短径2.10mの楕円形で，深さ2.03mである。底面は平坦で，壁は内湾ぎ状に入り込んだ後，垂直に立ち上がる。

長径方向　N－71°－E

土層　7層からなり，壁際からの自然堆積土層と考えられる。

遺物　覆土中から縄文時代の土器片が出土している。22，23は口縁部片，24は底部片である。いずれも称名寺式期の土器片である。

所見　本跡の時期は，出土遺物から縄文時代後期前葉と考えられる。



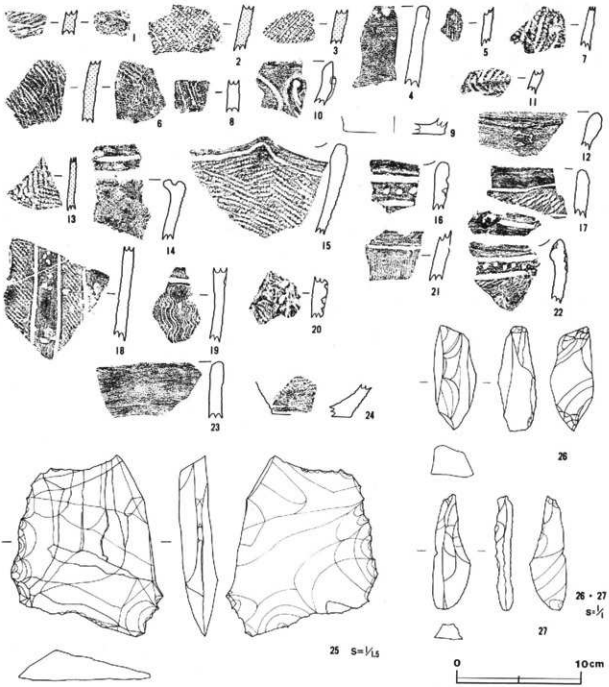
第39図　第171号土坑実測図

第71号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値（cm）	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第40図 9	深鉢 縄文土器	A（1.4） B〔8.2〕	底部片。	砂粒，長石，スコリア 橙色　普通	P61 5%　覆土中

第75号土坑出土遺物

図版番号	器種	計測値				石質	出土地点	備考
		長さ（cm）	幅（cm）	厚さ（cm）	重量（g）			
第40図25	剥片	7.2	6.1	1.6	53.8	凝灰岩	覆土中	Q17



第40図　陥し穴出土遺物実測図

第92号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種		計測値				石質	出土地点	備考
			長さ（cm）	幅（cm）	厚さ（cm）	重量（g）			
第40図26	剥	片	2.7	1.1	1.0	2.9	チャート	覆土中	Q18
27	剥	片	3.1	1.0	0.5	1.0	チャート	覆土中	Q19

(3) 地下式壙

第10号土坑（第41図）

位置　調査区の南東部，I24i₄区。

主軸方向　N－59°－W

竪坑　上面は長径3.05m，短径2.85mの不定形で，深さは2.70mである。底面は一辺が0.9mの方形である。一段下に主室が設けられている。

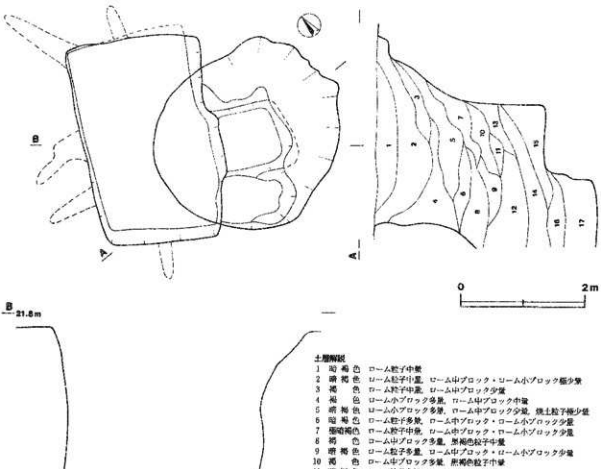
主室　底面は長軸3.30m，短軸2.00mの長方形で，平坦である。底面から天井部までの高さは1.34～2.25mである。確認面から底面までの深さは3.55mである。

壁　竪坑は垂直に立ち上がり，その後外傾して立ち上がる。主室は垂直に立ち上がる。

覆土　17層からなる。崩落したブロック土が混じっているが，自然堆積土層と考えられる。

遺物　覆土中から内耳鍋や須恵器の土器片が出土している。1は内耳鍋の把手付口縁部片である。2は体部片である。3は須恵器の擂鉢の体部から口縁部にかけての土器片で覆土中層から出土している。

所見　本跡の時期は，出土遺物と遺構の形態から中世と考えられる。



第41図　第10号土坑実測図

第10号土坑（第１号地下式壙）出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値（cm）	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第42図 1	内耳鍋 土師質土器	A［26.0］ B（6.2）	口縁部片。口縁部は内彎気味に立ち上がる。	口縁部内・外面横ナデ。	砂粒，長石，石英，雲母 明赤褐色 普通	P35 5% 覆土中
2	内耳鍋 土師質土器	B（6.0） C［18.0］	底部から体部にかけての破片。体部は直線的に立ち上がる。	体部内・外面横ナデ。	砂粒，長石，雲母，スコリア にぶい褐色 普通	P36 5% 覆土中
3	擂鉢 須恵器	A［28.8］ B（10.2）	体部から口縁部にかけての破片。体部は大きく外傾して立ち上がり，口縁部は肥厚する。	体部内・外面ナデ。内面に３本１単位の櫛目が施されている。	砂粒，長石 にぶい褐色 良好	P37 5% 覆土中

第29号土坑（第43図）

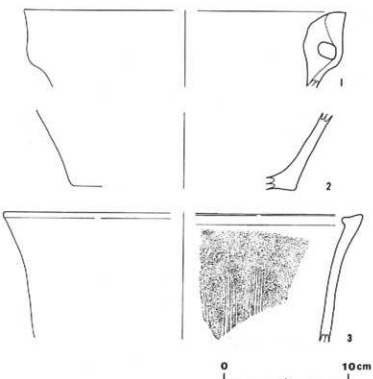
位置　調査区の南々東部，I24d₂区。

重複関係　本跡は第８号溝と重複している。本跡の東側を第８号溝が掘り込んでおり，本跡の方が古い。

主軸方向　N－42°－E

竪坑　上面は崩落が激しく確認できなかった。底面は長軸0.9m，短軸0.5mの長方形で，確認面からの深さは2.5mである。一段下に主室が設けられている。底面中央に径20cm程度の穴が掘り込まれており，主室南西壁下層からの掘り込みと通じている。

主室　底面は長軸2.95m，短軸1.75mの長方形で，平坦である。竪坑からの入り口の部分に長軸0.9m，短軸0.2mの隅丸長方形で，深さ20cmの窪みがある。底面の周囲に枠組みのような掘り込みが見られた。確認面から底面までの深さは2.95mである。



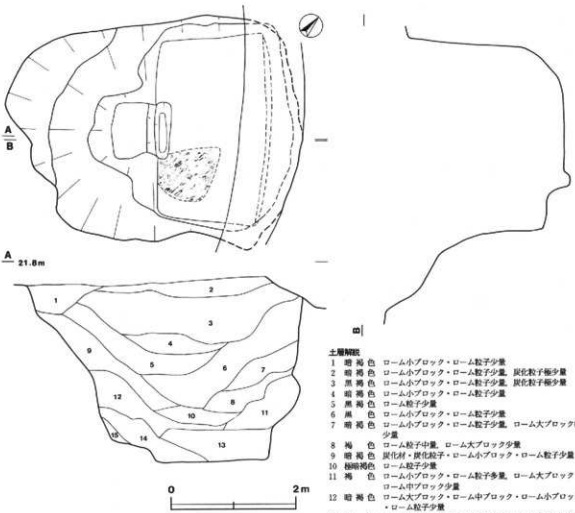
第42図　第10号土坑出土遺物実測図

壁　竪坑，主室ともに崩落が激しく外傾して立ち上がるように見えるが，垂直に立ち上がっていたものと予想される。

覆土　15層からなる。竪坑部分は堆積状況から流れ込みと見られ，主室部分は堆積土下層に天井部の崩落土が見られる。天井部が崩落した後，自然に堆積した土層と考えられる。

遺物　覆土中から床面にかけて土師質土器や陶器の細片が出土している。１～３は土師質土器皿の細片，４は陶器皿の細片，５，６は擂鉢の細片でいずれも覆土中から出土している。７は仏花瓶の底部片，８は香炉の底部～口縁部片で，いずれも覆土中層から出土している。９，10は土師質鍋の細片で，いずれも主室の床面から出土している。11は土師質土器擂鉢の細片である。12は覆土中から出土した古銭で，宋通元宝（北宋銭）という渡来銭である。

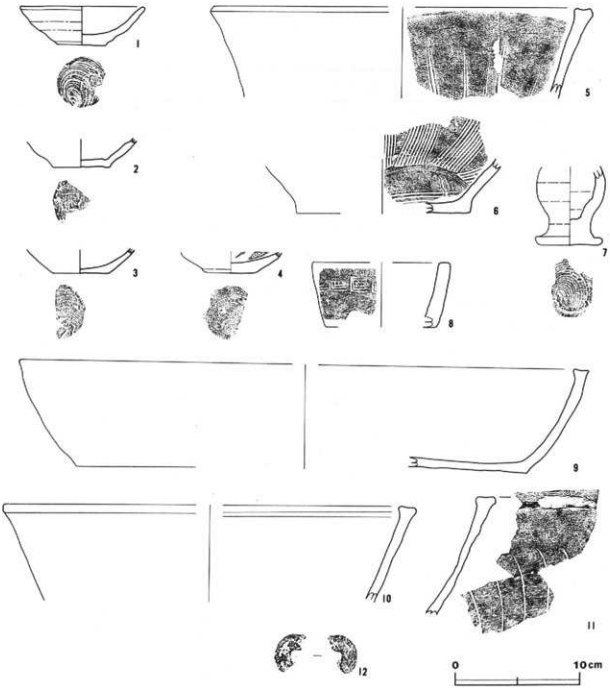
所見　本跡の時期は，出土遺物と遺構の形態から中世と考えられる。



第43図　第29号土坑実測図

第29号土坑（第２号地下式壙）出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値（cm）	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第44図 1	皿 土師質土器	A 10.0 B 3.1 C 4.0	体部下位から口縁部一部欠損。平底。体部は直線的に外傾して立ち上がる。	内面から体部外面ナデ。底部回転糸切り。	砂粒、スコリア にぶい黄橙色 普通	P 45 75%　覆土中
2	皿 土師質土器	B（2.3） C 4.6	底部から体部にかけての破片。平底。体部は大きく外傾して立ち上がる。	内面から体部外面ナデ。底部回転糸切り。	砂粒、雲母、スコリア にぶい橙色 普通	P 47 15%　覆土中
3	皿 土師質土器	B（2.0） C 4.6	底部から体部下位にかけての破片。体部は直線的に外傾して立ち上がる。	内面から体部外面ナデ。底部回転糸切り。	砂粒、長石、雲母、スコリア にぶい橙色 普通	P 48 10%　覆土中
4	皿 陶器	B（1.7） C 4.2	底部から体部下位にかけての破片。平底。体部は大きく外傾して立ち上がる。	底部回転糸切り。口縁部周辺に灰釉が施されている。	砂粒 にぶい黄橙色 良好	P 49 10%　覆土中 瀬戸・美濃系
5	擂鉢 土師質土器	A［31.0］ B（7.3）	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎気味に外傾して立ち上がり、口縁部で強く外反する。口縁端部は内側に突出し、片口を持つ。	体部内・外面横ナデ。内面には３本１単位の櫛目が施されている。	砂粒、スコリア 橙色 普通	P 50 10%　覆土中



第44図　第29号出土遺物実測図

図版番号	器種	計測値（cm）	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第44図 6	擂鉢 陶器	B（4.4） C［14.0］	底部から体部下位にかけての破片。体部は直線的に大きく外傾して立ち上がる。	内面には10本1単位の櫛目が施されている。	砂粒 にぶい黄橙色 普通	P52 15%　覆土中
7	仏花瓶 陶器	B（6.3） C　4.8	台脚部から胴部にかけての破片。平底。台脚部は根端部にわずかな稜を持ち，胴部は丸い。	内面から体部外面ナデ。底部回転糸切り。胴部から台脚部まで灰釉が施されている。	砂粒，石英 浅黄色 良好	P53 5%　覆土中
8	香炉 土師質土器	A［11.2］ B　5.2 C［8.8］	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は直線的に外傾して立ち上がる。	体部外面中央に方形の渦巻紋が横位に連続して施されている。	長石，雲母 橙色 普通	P54 5%　覆土中
9	鍋 土師質土器	A［46.2］ B　8.4 C［36.6］	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内湾気味に外傾して立ち上がり，口縁端部は肥厚する。	口縁端部，体部内・外面横ナデ。	砂粒，長石，雲母 にぶい赤褐色 普通	P55 30%　床面

図版番号	器 種	計測値（cm）	器 形 の 特 徴	手 法 の 特 徴	胎土・色調・焼成	備 考
第44図 10	鍋 土師質土器	A［33.3］ B（7.8）	体部から口縁部にかけての破片。体部は直線的に外傾して立ち上がる。口唇端部は内側に突出する。	体部内・外面ナデ。	砂粒，長石，石英に赤い黄褐色普通	P57 5% 床面

第29号土坑（第２号地下式壙）出土古銭一覧表

図版番号	銭 名	初鋳年（西暦） 時 代	年号（西暦）	出 土 地 点	備 考
第44図12	宋 通 元 宝	北 宋	960年	覆 土 中	M6，覆土中

第119号土坑（第45図）

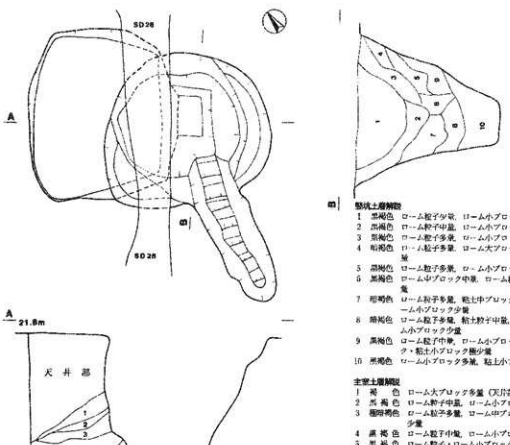
位置 調査区の南東部中央寄り，I23e6区。

重複関係 本跡は第28号溝と重複している。本跡竪坑の西側を第28号溝が掘り込んでおり，本跡の方が古い。

主軸方向 N－39°－E

竪坑 上面は長径2.69m，短径2.40mの楕円形で，深さは2.30mである。底面は長軸0.64m，短軸0.4mの長方形である。一段下に主室が設けられている。

主室 底面は長軸2.73m，短軸(2.39)mの隅丸長方形で，平坦である。底面から天井部までの高さは1.20～2.10mである。確認面から底面までの深さは2.98mである。



第45図 第119号土坑実測図

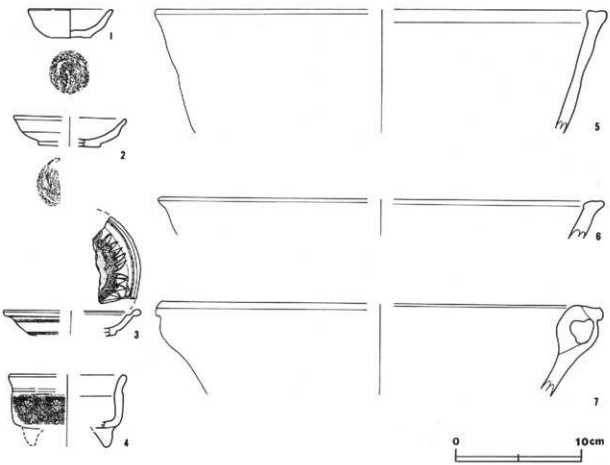
壁　竪坑は東側では外傾し，西側では垂直に立ち上がる。主室は垂直に立ち上がる。

竪坑覆土　10層からなる。崩落したブロック土が混じっているが，自然堆積土層と考えられる。

主室覆土　11層からなり，自然堆積土層と考えられる。

遺物　覆土中から土師質土器や陶器片が出土している。1，2は土師質土器皿の底部～口縁部片である。3は灰釉陶器で内面に菊花状の文様が施されている。4は香炉で体部外面中位に菊花の押印文が施されている。5～7は土師質土器鍋の体部～口縁部片である。

所見　本跡の時期は，出土遺物と遺構の形態から中世と考えられる。



第46図　第119号土坑出土遺物実測図

第119号土坑（第3号地下式壙）出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値（cm）	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第46図 1	皿 土師質土器	A 6.8 B 2.3 C 3.5	体部から口縁部一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がる。口縁部は外反する。	口縁部，体部内・外面ナデ。底部回転糸切り。	砂粒，雲母，スコリアにぶい橙色 普通	P66 60%　覆土中
2	皿 土師質土器	A［9.2］ B 2.3 C［5.0］	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部は外反する。	口縁部，体部内・外面ナデ。底部回転糸切り。	砂粒，スコリア 橙色 普通	P67 40%　覆土中
3	皿 陶器	A［11.0］ B（2.2） C［6.8］	底部から口縁部にかけての破片。低い削り出し高台。口縁部を折り縁にし，端を折り曲げて丸めている。	内面は丸のみによる削ぎが菊花状に施されている。内・外面灰釉。	砂粒 淡黄色 良好	P69 10%　覆土中

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第46図 4	壺 土師質土器	A ［ 9.6］ B ［ 5.8 D ［ 7.3］ E 1.6	底部から口縁部にかけての破片。足有り。平底。体部は垂直に立ち上がり，口縁部は外反する。	体部内面，外面及び口縁部ナデ。体部外面中段に菊花の押圧跡。口縁部下端に2条の沈線が施されている。	砂粒 にぶい黄橙色 普通	P 70 20%　覆土中
5	鍋 土師質土器	A ［36.4］ B ［ 9.9）	体部から口縁部にかけての破片。体部は直線的に立ち上がり，口縁部は肥厚する。	体部内・外面ナデ。口縁部内面に突起を巡らす。	砂粒，長石，石英，雲母 灰褐色 普通	P 72 5%　覆土中
6	鍋 土師質土器	A ［36.0］ B ［ 3.0）	体部から口縁部にかけての破片。体部は直線的に立ち上がり，口唇部は肥厚する。	内・外面ナデ。口唇部内面は内削ぎ状である。	砂粒，長石，石英，雲母 灰褐色 普通	P 74 5%　覆土中
7	内耳鍋 土師質土器	A ［36.0］ B ［ 7.3）	体部から口縁部にかけての破片。体部は外傾して立ち上がり，口縁部は肥厚する。	口縁部，体部内・外面ナデ。	砂粒，長石，石英，雲母 赤褐色 普通	P 77 10%　覆土中

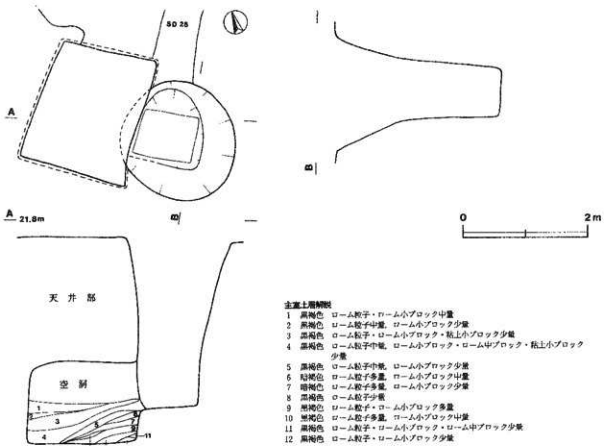
第177号土坑（第47図）

位置　調査区の南東部中央寄り，I23e₅区。

重複関係　本跡は第7号住居跡及び第28号溝と重複している。本跡主室は第7号住居跡の遺構地下を掘り込んでおり，本跡の方が新しい。本跡竪坑の中央を途中まで第28号溝が掘り込んでおり，本跡の方が古い。

主軸方向　N－38°－E

竪坑　上面は径1.80mの円形で，深さは2.67mである。底面は長軸0.92m，短軸0.75mの長方形である。一段下に主室が設けられている。



第47図　第177号土坑実測図

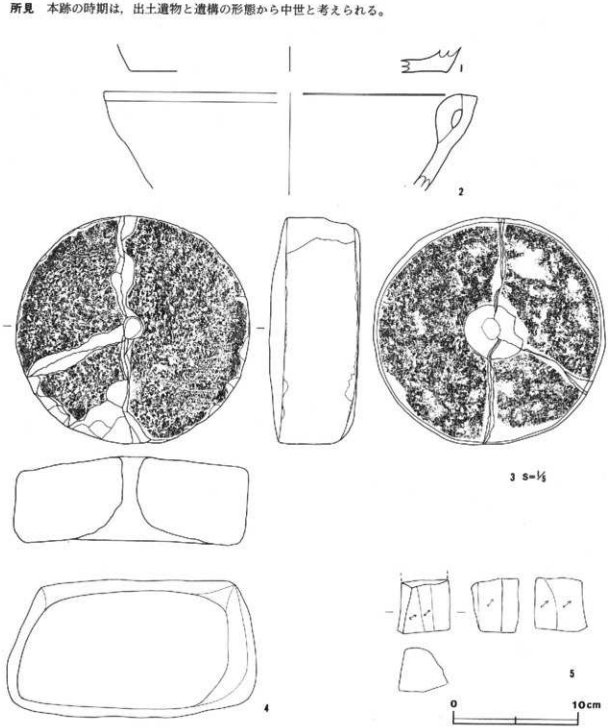
主室　底面は長軸2.00m，短軸1.63mの長方形で，平坦である。底面から天井部までの高さは1.15～1.37m，確認面から底面までの深さは3.30mである。

壁　竪坑は垂直に立ち上がり，その後外傾して立ち上がる。主室は垂直に立ち上がる。

主室覆土　12層からなり，自然堆積土層と考えられる。

遺物　覆土中や床面から内耳鍋の土器片や礫片が出土している。1，2は覆土中から出土した内耳鍋の底部や体部から口縁部にかけての土器片である。3は床面から出土した石臼で，第1号小竪穴状遺構や第29号土坑から出土した石臼と併せると復元することができる。4は五輪塔の一部で風化が激しい。5は砥石の破片である。

所見　本跡の時期は，出土遺物と遺構の形態から中世と考えられる。



第48図　第177号土坑出土遺物実測図

第177号土坑（第4号地下式壙）出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第48図 1	鍋 土師質土器	B（2.2） C［25.4］	底部片。平底。	底部内面ナデ。	砂粒，長石，雲母 灰褐色 普通	P91 5% 覆土中
2	内耳鍋 土師質土器	A［30.0］ B（7.6）	体部から口縁部にかけての破片。体部は外傾して立ち上がる。	口縁部，体部内・外面ナデ。	砂粒，雲母 橙色 普通	P92 5% 覆土中

図版番号	器種	計測値 長さ（cm）	幅（cm）	厚さ（cm）	重量（g）	石質	出土地点	備考
第48図3	石臼	30.3	31.3	12.1	13,601.1	安山岩	床面	Q23
4	五輪塔	11.2	20	—	7,000.0	石英質	砂岩覆土	Q24
5	砥石	4.3	4.3	3.8	85.6	凝灰岩	覆土中	Q29

(4) 粘土貼り土坑

第24号土坑（第49図）

位置　調査区の南東部中央寄り，I23j$_0$区。

主軸方向　N－34°－E

規模と形状　掘り方は長軸1.05m，短軸0.60mの長方形で，深さ6cmである。底面は平坦で，北側は撹乱されている。粘土貼りの厚さは10cm程である。

覆土　削平されていて確認できなかった。

遺物　出土していない。

所見　出土遺物はないが，遺構の形態から中世の墓壙跡と考えられる。

第25号土坑（第49図）

位置　調査区の南東部，I23g$_0$区。

主軸方向　N－55°－W

規模と形状　掘り方は長軸(1.74m)，短軸1.02mの長方形で，深さ15cmである。壁は，外傾して立ち上がる。底面は平坦で，粘土貼りの厚さは10cm程である。

覆土　2層からなり，人為堆積土層と考えられる。

土層解説
1　灰白色　粘土粒子多量
2　褐　色　ローム粒子多量

遺物　出土していない。

所見　出土遺物はないが，遺構の形態から中世の墓壙跡と考えられる。

第37号土坑（第49図）

位置　調査区の南東部，I24h$_2$区。

重複関係　本跡は第7号溝と重複している。本跡の北側を第7号溝が掘り込んでおり，本跡の方が古い。

主軸方向　N－55°－W

規模と形状　長軸2.09m，短軸1.17mの隅丸長方形で，深さ27cmである。壁は外傾して立ち上がる。底面は平坦で，粘土貼りの厚さは20cm程である。

覆土　2層からなり，人為堆積土層と考えられる。

土層解説

1　灰オリーブ色　粘土粒子多量，黒色土混入
2　灰オリーブ色　粘土粒子多量

遺物　覆土中から流れ込みと思われる縄文土器片と磨石が出土している。2は覆土中層から出土した磨石である。

所見　時期を判定する遺物は出土していないが，遺構の形態から中世の墓壙跡と考えられる。

第117号土坑（第49図）

位置　調査区の南東部，I23d$_8$区。

主軸方向　N－57°－W

規模と形状　掘り方は長軸1.38m，短軸0.94mの隅丸長方形で，深さ15cmである。壁は外傾して立ち上がる。底面はやや皿状で，ブロック状の粘土を14cmの厚さで硬く敷き詰めている。

覆土　2層からなり，人為堆積土層と考えられる。

土層解説

1　灰褐色　粘土粒子多量，ローム粒子・ローム小ブロック極少量
2　暗灰褐色　粘土粒子多量

遺物　覆土中から流れ込みと思われる縄文土器片が出土している。

所見　時期を判定する遺物は出土していないが，遺構の形態から中世の墓壙跡と考えられる。

第126号土坑（第49図）

位置　調査区の南部中央寄り，I23g$_5$区。

主軸方向　N－47°－W

規模と形状　掘り方は長径1.32m，短径0.71mの楕円形で，深さ15cmである。壁は外傾して立ち上がる。底面は平坦で，ブロック状の粘土を硬く敷き詰めている。

覆土　7層からなり，北部は攪乱を受けている。人為堆積と考えられる。

土層解説

1　黒褐色　ローム粒子少量
2　褐　色　ローム粒子・ローム中ブロック少量
3　褐　色　粘土粒子・ローム粒子・ローム小ブロック・ローム中ブロック少量
4　灰褐色　粘土粒子多量，ローム粒子少量
5　褐　色　粘土粒子・ローム粒子少量
6　暗褐色　粘土粒子・粘土小ブロック多量，ローム粒子・ローム小ブロック少量
7　暗褐色　粘土粒子・粘土小ブロック多量，ローム粒子・ローム小ブロック少量

遺物　出土していない。

所見　出土遺物はないが，遺構の形態から中世の墓壙跡と考えられる。

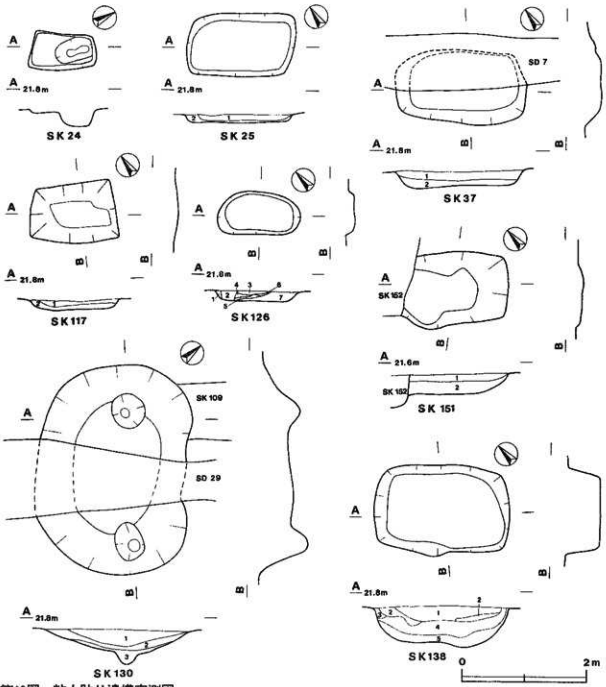
第130号土坑（第49図）

位置　調査区の南東部中央寄り，J23g$_4$区。

重複関係　本跡は第109号土坑及び第29号溝と重複している。本跡は第109号土坑の北側を掘り込んでおり，本跡の方が新しい。本跡の東側を第29号溝が掘り込んでおり，本跡の方が古い。

主軸方向　N－35°－W

規模と形状　掘り方は長径2.72m，短径2.27mの楕円形で，深さは0.58mである。底面は皿状で，壁は緩やかに立ち上がる。北西部に径40cm，深さ25cmのピットが確認され，土層の堆積状況から本跡に関係するピットと



第49図　粘土貼り遺構実測図

考えられる。

覆土　3層からなる。土層1の褐色土には粘土の大・中・小ブロックが多量に混じっており，土層2，3にはロームブロックが混じっていることから，人為堆積土層と考えられる。

土層解説

1　褐　色　粘土大ブロック・粘土中ブロック・粘土小ブロック多量
2　黒褐色　ローム小ブロック・ローム粒子少量
3　暗褐色　ローム中ブロック・ローム小ブロック少量，ローム粒子極少量

遺物　出土していない。

所見　出土遺物がないため，時期は不明である。遺構の形態から「流し溜」と考えられる。

第138号土坑（第49図）

位置　調査区の南東部，I23i_6区。

主軸方向　N－48°－W

規模と形状　掘り方は長軸2.17m，短軸1.40mの隅丸長方形で，深さ67cmである。壁は外傾して立ち上がる。底面はやや皿状で，ブロック状の粘土を10cmの厚さで硬く敷き詰めている。

覆土　5層からなる。ロームブロックを含んでおり，人為堆積と考えられる。

土層解説

1　暗褐色　ローム粒子少量，ローム大ブロック・粘土小ブロック極少量
2　褐　色　ローム小ブロック少量，粘土小ブロック極少量
3　暗褐色　ローム粒子少量
4　暗褐色　粘土ブロック少量，ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム小ブロック極少量
5　黄褐色　粘土ブロック多量

遺物　覆土中から中世の土師質土器片が出土している。1は覆土中層から出土した土師質土器片皿の底部から口縁部にかけての土器片である。

所見　本跡の時期は，出土遺物と遺構の形態から中世と考えられる。

第151号土坑（第49図）

位置　調査区の南東部，I24f_1区。

重複関係　本跡は第6号小竪穴状遺構と重複している。本跡の北西部を第6号小竪穴状遺構が掘り込んでおり，本跡の方が古い。

主軸方向　N－49°－W

規模と形状　掘り方は長軸1.77m，短軸1.17mの長方形で，深さ10cmである。壁は外傾して立ち上がる。底面はやや皿状で，ブロック状の粘土を20cmの厚さで硬く敷き詰めている。

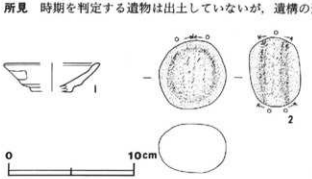
覆土　2層からなり，人為堆積土層と考えられる。

土層解説

1　褐　色　粘土粒子・粘土小ブロック多量，ローム小ブロック少量
2　黄褐色　粘土粒子多量，ローム粒子極少量

遺物　覆土上層から鉄の細片が3点出土している。

所見　時期を判定する遺物は出土していないが，遺構の形態から中世の墓壙跡と考えられる。



第50図　粘土貼り遺構出土遺物実測図

第130号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値（cm）	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第50図 1	皿 土師質土器	A［7.8］ B　2.4 C［3.2］	底部から口縁部にかけての破片。平底。底部は突出気味。体部は外傾して立ち上がり，口縁部は外反する。	口縁部，体部内・外面ナデ。	砂粒，スコリアにぶい褐色 普通	P79 10%　覆土中

第37号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値				石質	出土地点	備考
		長さ（cm）	幅（cm）	厚さ（cm）	重量（g）			
第50図2	磨石	5.5	5.4	3.9	161.4	安山岩	覆土中	Q15

(5) 長方形土坑

第12号土坑（第51図）

位置 調査区の南東部，J23a$_4$区。

重複関係 本跡は第5号溝と重複している。本跡の南西部を第5号溝が掘り込んでおり，本跡の方が古い。

主軸方向 N－53°－W

規模と形状 長軸1.68m，短軸1.05mの長方形で，深さ26cmである。底面は平坦で，硬く締まっている。壁は外傾して立ち上がる。

覆土 5層からなる。ロームブロックや炭化粒子を含んでおり，人為堆積と考えられる。

土層解説

1 黒褐色 ローム粒子少量
2 暗褐色 ローム粒子少量，炭化粒子・焼土粒子極少量
3 暗褐色 ローム粒子少量，炭化粒子極少量
4 暗褐色 ローム粒子少量，ローム小ブロック極少量
5 褐色 ローム粒子中量，ローム中ブロック少量

遺物 覆土上層から流れ込みと思われる縄文土器片が出土している。

所見 時期を判定する遺物は出土していないが，遺構の形態から中世の墓壙跡と考えられる。

第13号土坑（第51図）

位置 調査区の南東部，J24a$_3$区。

主軸方向 N－50°－W

規模と形状 長軸1.06m，短軸0.48mの長方形で，深さ50cmである。底面は平坦で，硬く締まっている。壁は外傾して立ち上がる。

覆土 4層からなり，炭化粒子，ロームブロックを含む人為堆積土層と考えられる。

土層解説

1 褐色 ローム粒子少量，炭化粒子極少量
2 褐色 ローム小ブロック少量，炭化粒子・ローム粒子極少量
3 褐色 ローム小ブロック少量，炭化粒子・ローム粒子極少量
4 褐色 ローム粒子・ローム小ブロック少量

遺物 覆土上層から流れ込みと思われる縄文土器片が出土している。

所見 時期を判定する遺物は出土していないが，遺構の形態から中世の墓壙跡と考えられる。

第17号土坑（第51図）

位置 調査区の南東部，J24a3区。

重複関係 本跡は第5号溝と重複している。本跡の南東部を第5号溝が掘り込んでおり，本跡の方が古い。

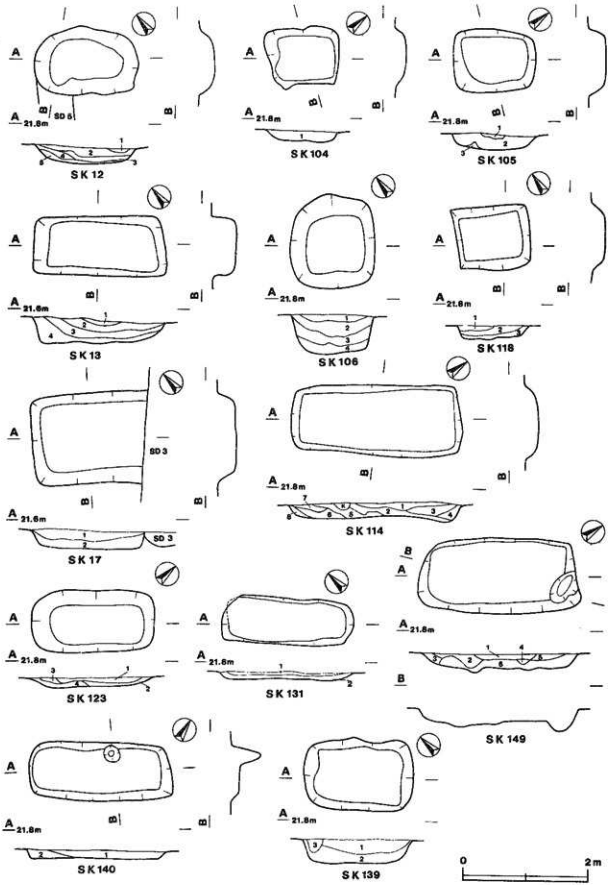
主軸方向 N－47°－W

規模と形状 長軸1.37m，短軸0.72mの隅丸長方形で，深さは30cmである。底面は平坦で，硬く締まっている。壁は外傾して立ち上がる。

覆土 2層からなり，人為堆積土層と考えられる。

土層解説

1 暗褐色 ローム粒子少量，ローム小ブロック・炭化粒子極少量
2 褐色 ローム粒子・ローム小ブロック極少量



第51図　長方形土坑実測図

遺物　出土していない。

所見　出土遺物はないが，遺構の形態から中世の墓壙跡と考えられる。

第104号土坑（第51図）

位置　調査区の南部東寄り，I23g$_4$区。

主軸方向　N－40°－E

規模と形状　長軸1.11m，短軸0.85mの隅丸長方形で，深さは18cmである。底面は平坦で，硬く締まっている。壁は外傾して立ち上がる。

覆土　1層で，ロームブロックを含んでおり，人為堆積土層と考えられる。

土層解説

1　黒褐色　ローム粒子・ローム中ブロック・ローム小ブロック少量

遺物　出土していない。

所見　出土遺物はないが，遺構の形態から中世の墓壙跡と考えられる。

第105号土坑（第51図）

位置　調査区の南部東寄り，I23g$_4$区。

主軸方向　N－40°－E

規模と形状　長軸1.31m，短軸0.97mの隅丸長方形で，深さは27cmである。底面は平坦で，硬く締まっている。壁は外傾して立ち上がる。

覆土　3層からなり，人為堆積土層と考えられる。

土層解説

1　暗褐色　ローム粒子・ローム小ブロック少量
2　黒　色　ローム粒子極少量
3　褐　色　炭化材・ローム粒子少量，ローム小ブロック極少量

遺物　出土していない。

所見　出土遺物はないが，遺構の形態から中世の墓壙跡と考えられる。

第106号土坑（第51図）

位置　調査区の南部東寄り，I23g$_5$区。

主軸方向　N－39°－E

規模と形状　長軸1.49m，短軸1.33mの隅丸長方形で，深さは65cmである。底面は平坦で，硬く締まっている。壁は外傾して立ち上がる。

覆土　4層からなる。ロームブロックを含んでおり，人為堆積土層と考えられる。

土層解説

1　褐　色　ローム粒子・ローム小ブロック・ローム中ブロック少量，粘土小ブロック・炭化粒子極少量
2　暗褐色　ローム粒子・ローム小ブロック・ローム中ブロック少量，粘土小ブロック極少量
3　暗褐色　ローム粒子・ローム小ブロック・ローム中ブロック少量，粘土小ブロック極少量
4　暗褐色　ローム粒子・ローム小ブロック・ローム中ブロック少量

遺物　出土していない。

所見　出土遺物はないが，遺構の形態から中世の墓壙跡と考えられる。

第114号土坑（第51図）

位置　調査区の東部南寄り，I23d$_9$区。

主軸方向　N－37°－E

規模と形状　長軸2.73m，短軸1.11mの長方形で，深さ26cmである。底面は平坦で，硬く締まっている。壁は外傾して立ち上がる。

覆土　8層からなる。ロームブロックを含んでおり，人為堆積土層と考えられる。

土層解説

1　黒褐色　ローム粒子中量，ローム大ブロック・ローム小ブロック少量，粘土粒子極少量
2　黒褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量
3　黒褐色　ローム粒子多量，ローム小ブロック中量
4　黒褐色　ローム粒子多量，ローム中ブロック少量
5　暗褐色　ローム粒子多量，ローム小ブロック中量，ローム中ブロック少量
6　黒褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量
7　黒　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック極少量
8　暗褐色　ローム粒子少量，ローム小ブロック極少量

遺物　覆土上層から流れ込みと思われる縄文土器片が出土している。

所見　時期を判定する遺物は出土していないが，遺構の形態から中世の墓壙跡と考えられる。

第118号土坑（第51図）

位置　調査区の東部南寄り，I23e$_8$区。

重複関係　本跡は，第117号土坑と重複している。本跡は第117号土坑の南東部を掘り込んでおり，本跡の方が新しい。

主軸方向　N－57°－W

規模と形状　掘り方は長軸1.18m，短軸1.03mの隅丸長方形で，深さは24cmである。底面は中央が少し窪んでいるが，ほぼ平坦である。壁は外傾して立ち上がる。

覆土　3層からなる。ロームブロックを含んでおり，人為堆積土層と考えられる。

土層解説

1　暗褐色　ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量，粘土中ブロック極少量
2　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・粘土中ブロック・粘土小ブロック少量
3　暗褐色　ローム粒子・粘土小ブロック少量

遺物　覆土上層から流れ込みと思われる縄文土器片が出土している。

所見　時期を判定する遺物は出土していないが，遺構の形態から中世の墓壙跡と考えられる。

第123号土坑（第51図）

位置　調査区の南東部，I23j$_5$区。

主軸方向　N－42°－E

規模と形状　掘り方は長軸1.97m，短軸0.98mの隅丸長方形で，深さは13cmである。底面は平坦である。壁は緩やかに外傾して立ち上がる。北側はピットによる攪乱を受けている。

覆土　4層からなり，人為堆積土層と考えられる。

土層解説

1　黒褐色　焼土粒子・粘土小ブロック・ローム粒子・ローム小ブロック極少量
2　黒褐色　ローム粒子少量，ローム中ブロック極少量
3　黒褐色　ローム粒子少量
4　褐　色　ローム粒子多量

遺物　覆土上層から流れ込みと思われる縄文土器片が出土している。

所見　時期を判定する遺物は出土していないが，遺構の形態から中世の墓壙跡と考えられる。

第131号土坑（第51図）

位置　調査区の南部，I23i₄区。

主軸方向　N－40°－W

規模と形状　掘り方は長軸2.11m，短軸0.73mの隅丸長方形で，深さ12cmである。底面は平坦である。壁は外傾して立ち上がる。

覆土　2層からなり，ロームブロックを含む人為堆積土層と考えられる。

土層解説

1　極暗褐色　ローム粒子少量
2　極暗褐色　ローム中ブロック・ローム粒子・粘土粒子少量

遺物　出土していない。

所見　出土遺物はないが，遺構の形態から中世の墓壙跡と考えられる。

第139号土坑（第51図）

位置　調査区の南東部，I23h₆区。

主軸方向　N－44°－W

規模と形状　掘り方は長軸1.76m，短軸1.16mの隅丸長方形で，深さ37cmである。底面は平坦である。壁は外傾して立ち上がる。

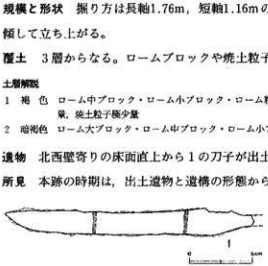
覆土　3層からなる。ロームブロックや焼土粒子を含んでおり，人為堆積土層と考えられる。

土層解説

1　褐　色　ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量，焼土粒子極少量
2　暗褐色　ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量，焼土粒子極少量
3　黒褐色　ローム小ブロック少量，焼土粒子・炭化材極少量

遺物　北西壁寄りの床面直上から1の刀子が出土している。

所見　本跡の時期は，出土遺物と遺構の形態から中世の墓壙跡と考えられる。



第52図　第139号土坑出土遺物実測図

第139号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値				備考
		長さ（cm）	幅（cm）	厚さ（cm）	重量（g）	
第52図1	刀子	17.6	2	0.3	28.5	M7 床面

第140号土坑（第51図）

位置　調査区の南東部，I23i₆区。

主軸方向　N－58°－E

規模と形状　掘り方は長軸2.26m，短軸0.95mの隅丸長方形で，深さは14cmである。底面は平坦である。壁は外傾して立ち上がる。

覆土　2層からなる。ロームブロックを含んでおり，人為堆積土層と考えられる。

土層解説

1　暗褐色　ローム大ブロック・ローム粒子極少量
2　暗褐色　ローム粒子少量，ローム小ブロック極少量

遺物　覆土上層から流れ込みと思われる縄文土器片が出土している。

所見　時期を判定する遺物は出土していないが，遺構の形態から中世の墓壙跡と考えられる。

第149号土坑（第51図）

位置　調査区の南東部，I23d$_8$区。

主軸方向　N－30°－E

規模と形状　掘り方は，長軸2.50m，短軸1.22mの隅丸長方形で，深さ24cmである。底面は少し凸凹している。壁は外傾して立ち上がっている。

覆土　6層からなる。ロームブロックを含んでおり，人為堆積と考えられる。

土層解説

1　暗褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，黒色粒子極少量
2　暗褐色　ローム粒子多量，ローム小ブロック・黒色土中ブロック中量，ローム中ブロック少量
3　極暗褐色　ローム粒子・ローム中ブロック多量，ローム小ブロック中量
4　暗褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量
5　暗褐色　ローム粒子多量，ローム小ブロック少量
6　褐　色　ローム小ブロック多量

遺物　覆土上層から流れ込みと思われる縄文土器片が出土している。1は縄文土器の底部から胴部にかけての細片である。

所見　時期を判定する遺物は出土していないが，遺構の形態から中世の墓壙跡と考えられる。

第53図　第149号土坑出土遺物実測図

第149号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第53図 1	深鉢 縄文土器	B（2.3） C［12.8］	底部片。平底。	砂粒，スコリア によい褐色 普通	P87 5%　覆土中

(6)　その他の土坑

第107号土坑出土遺物観察表

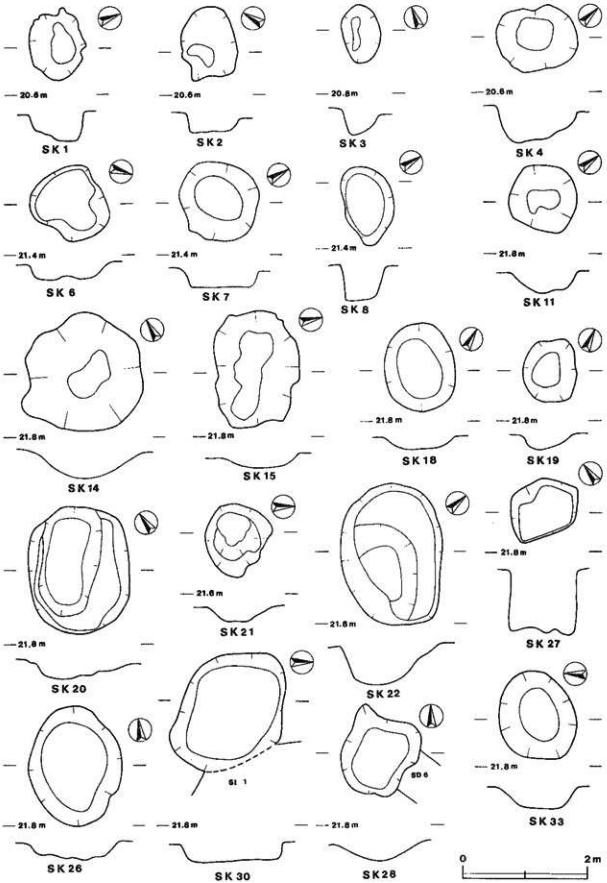
図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第62図 1	皿 土師質土器	B（1.1） C　4.1	底部片。底部は突出気味。	底部回転糸切り。	砂粒 によい橙色 普通	P62 40%　覆土中

第109号土坑出土遺物観察表

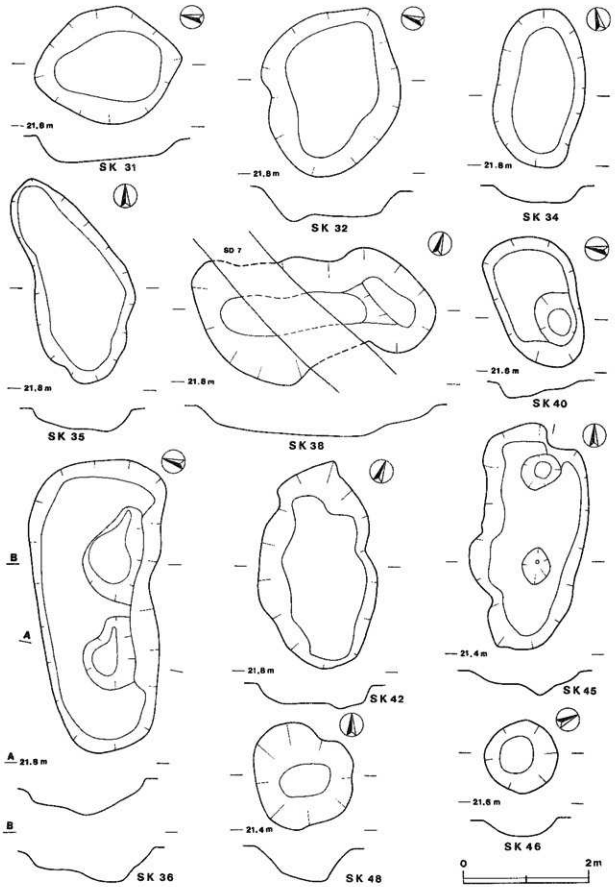
図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第62図 2	皿 土師質土器	A　8.6 B　2.7 C　4.6	平底。体部は内彎気味に外傾して立ち上がる。	口縁部，体部内・外面ナデ。底部回転糸切り後，ヘラ調整。	砂粒，スコリア 浅黄橙色 普通	P63 100%　覆土中

第110号土坑出土遺物観察表

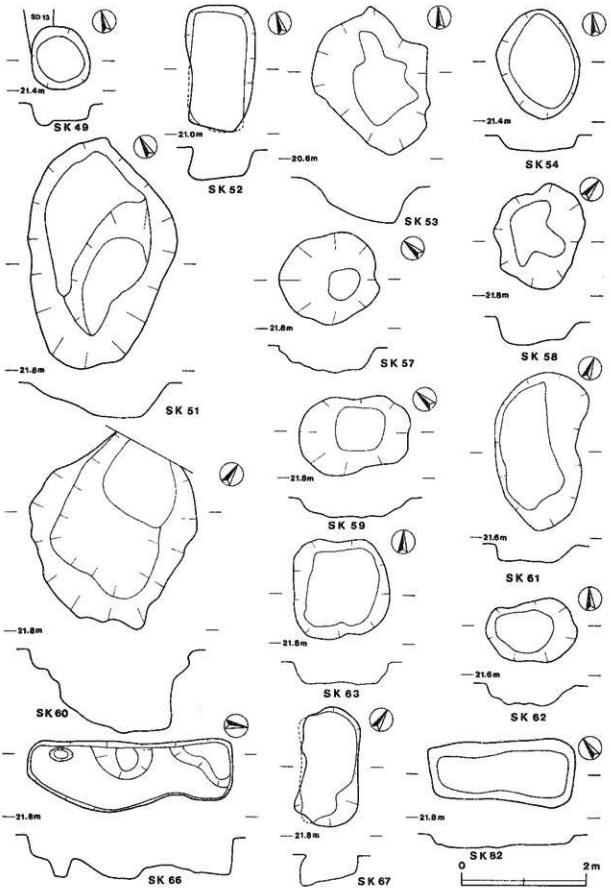
図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第62図 3	深底深鉢 縄文土器	B（7.4）	底部片。底部は砲弾形をし，横位の貝殻条痕文が施されている。胎土に繊維を含む。	砂粒，石英 明褐色 普通	P64 5%　覆土中



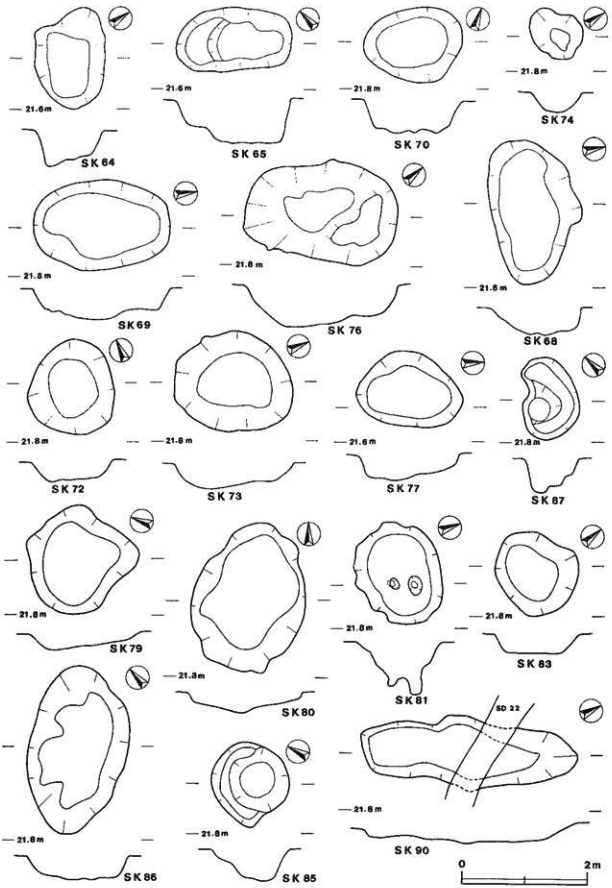
第54図　その他の土坑実測図(1)



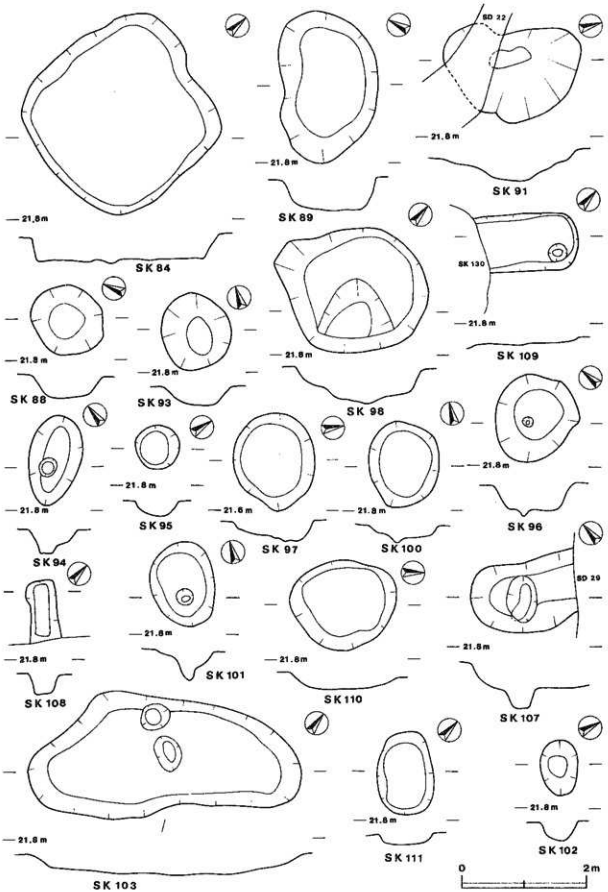
第55図　その他の土坑実測図(2)



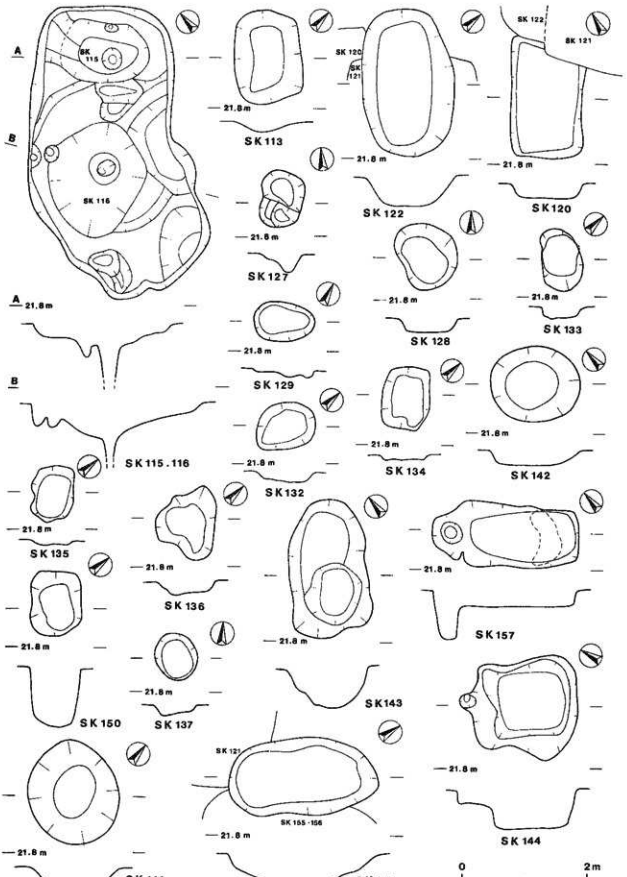
第56図　その他の土坑実測図(3)



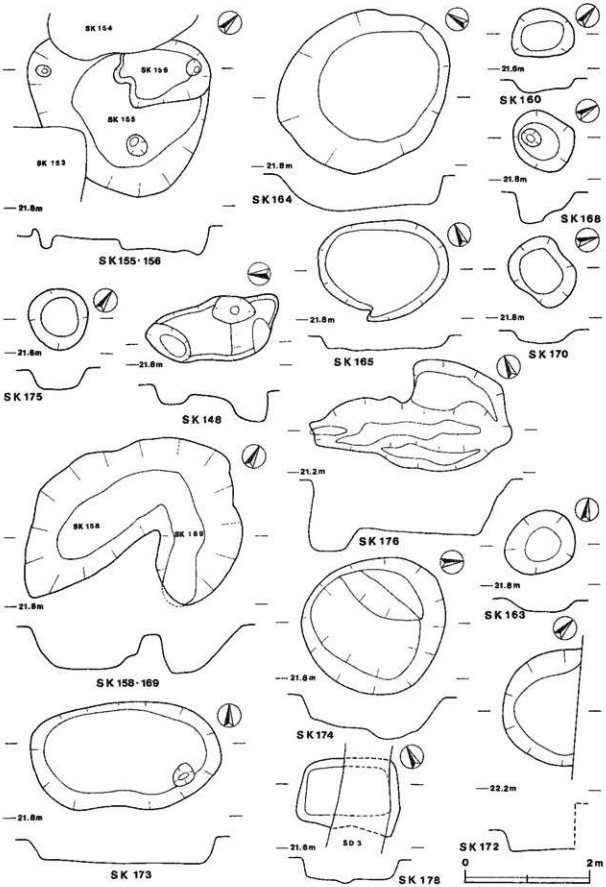
第57図　その他の土坑実測図(4)



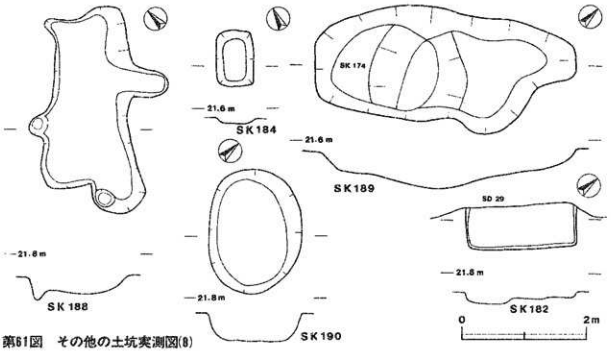
第58図　その他の土坑実測図(5)



第59図　その他の土坑実測図(6)



第60図　その他の土坑実測図(7)



第61図　その他の土坑実測図(8)

第116号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第62図 4	鉢 陶器	B (2.8) C [14.0]	底部から体部下位にかけての破片。平底。体部は外傾して立ち上がる。	体部外面ナデ。	砂粒 灰黄色 良好	P65 5% 覆土中

第129号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第62図 5	鉢 土師質土器	A [9.0] B 2.7 C 4.4	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内彎気味に外傾して立ち上がる。	口縁部、体部内・外面ナデ。底部回転糸切り。	砂粒、スコリア 橙色 普通	P78 60% 覆土中

第148号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第62図 6	鍋 土師質土器	B (1.1) C [22.6]	底部片。平底。	底部内面ナデ。	砂粒、石英、スコリア 灰褐色 普通	P86 10% 覆土中

第188号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第62図 7	皿 土師質土器	B (1.0) C 3.6	底部片。平底。	底部回転糸切り。	砂粒、雲母、スコリア にぶい黄橙色 普通	P94 10% 覆土中

第7号上坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値				石質	出土地点	備考
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)			
第62図8	砥石	5.0	3.6	2.1	53.8	砂岩	覆土中	Q12

第69号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値				石質	出土地点	備考
		長さ（cm）	幅（cm）	厚さ（cm）	重量（g）			
第62図9	剥片	5.1	3.2	1.6	17.2	黒曜石	覆土中	Q16

第110号土坑出土遺物観察表

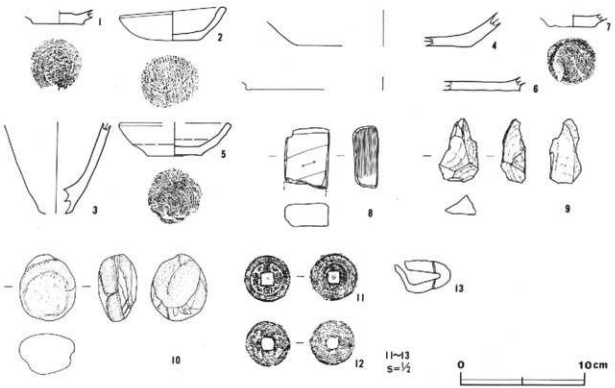
図版番号	器種	計測値				石質	出土地点	備考
		長さ（cm）	幅（cm）	厚さ（cm）	重量（g）			
第62図10	不明石器	5.4	4.4	3.1	94.5	砂岩	覆土中	Q20

第27号土坑出土古銭一覧表

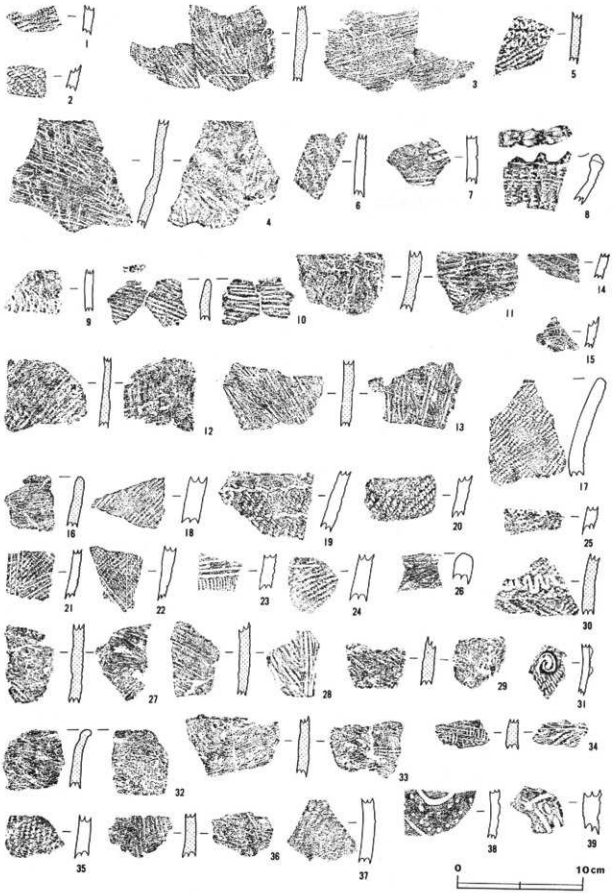
図版番号	銭名	初鋳年（西暦）		出土地点	備考
		時代	年号（西暦）		
第62図11	皇宋通宝	北宋	1038年	覆土中	M4
12	宋通元宝	北宋	960年	覆土中	M5

第185号土坑出土遺物観察表

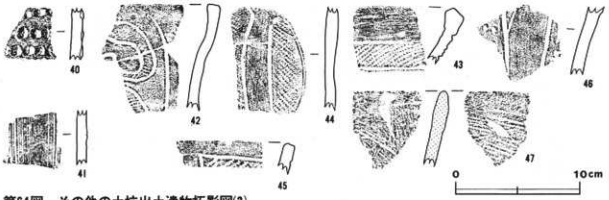
図版番号	器種	計測値				備考
		長さ（cm）	幅（cm）	厚さ（cm）	重量（g）	
第62図13	切羽	4	2.4	－	3.9	M10、覆土中



第62図　その他の土坑出土遺物実測図(1)



第63図　その他の土坑出土遺物拓影図(2)



第64図　その他の土坑出土遺物拓影図(3)

その他の土坑出土遺物拓影図（第63・64図）

第63・64図（1～47）は遺構に伴わない縄文土器の拓影図である。1，2は第4号土坑から出土した土器片である。1は単節ＬＲ，2は複節ＬＲＬの縄文が施されている。3～5は第20号土坑から出土した土器片である。3，4は胴部片で表裏に貝殻条痕文が施されている。5は胴部片で胎土に繊維を含みループ文と縄文が施されている。6，7は第30号土坑から出土した土器片である。6は縄文，7は三角刺突文と沈線が施されている。8，9は第31号土坑から出土した土器片である。8は波状口縁の口縁部片で口唇部は押圧による凹凸が施され，胴部には偏平な三角刺突文が横方向に連続して施されている。9は波状貝殻文が施されている。10～13は第51号土坑から出土した土器片である。10は口縁部片，11～13は胴部片であるが，いずれも表裏に貝殻条痕文が施されている。14～18は第53号土坑から出土した土器片である。14，15は胴部片で沈線による直線や曲線の文様が施されている。16は口縁部片で整形痕が残されている。17は口縁部片で単節ＲＬの縄文が施されている。18は胴部片で沈線が斜方向に施されている。19～20は第56号土坑から出土した土器片である。19は縄の片方を別な縄で縛った縄文が施されている。20は単節ＬＲが施されている。21～23は第60号土坑から出土した土器片である。21，22は縄文地文に沈線での区画がされている。23は半截竹管による横方向への沈線と垂下する貝殻複縁文が施されている。24は第61号土坑から出土した土器片である。24は単節ＬＲの縄文が施されている。25は第64号土坑から出土した土器片である。25は貝殻複縁による文様が施されている。26は第71号土坑から出土した土器片である。26は口縁部片である。27～30は第81号土坑から出土した土器片である。27～29は胴部片で表裏に条痕文が施されている。30は胴部片で縄文地文に縦長のコンパス文が施されている。31は第89号土坑から出土した土器片である。31は三十稲葉式土器の蓋のつまみ部分であり，刺突文が施されている。32，33は第110号土坑，34，35は第112号土坑，36，37は第115号土坑からそれぞれ出土した土器片である。32～34，36は表裏に貝殻条痕文が施されている。35，37は胴部片で縄文が施されている。38は第161号土坑から出土した土器片である。38は三十稲葉式土器の胴部片で太沈線で区画された中に刺突文が施されている。39～41は第166号土坑から出土した土器片である。39，40は胴部片で沈線で区画された中に刺突文が施されている。41は沈線が垂下して施されている。42～44は第175号土坑から出土した土器片である。42は口縁部片で沈線による曲線的な文様が区画され，区画内に縄文が施されている。43は口縁部片で沈線によって区画された中に縄文が施されている。44は胴部片で沈線によって区画された中に縄文が施されている。45～47は第178号土坑から出土した土器片である。45は口縁部片で口縁下端から沈線で区画され，区画内に縄文が施されている。46は胴部片で沈線によって区画された中に刺突文が施されている。47は口縁部片で表裏に貝殻条痕文が施されている。

表4　甚五郎崎遺跡土坑一覧表

土坑番号	位置	長径方向（長軸方向）	平面形	規模 長径×短径 (m)	規模 深さ (cm)	壁面	底面	覆土	出土遺物	備考 新旧関係（古→新）
1	H24j6	N−66°−W	不定形	1.05×0.85	30	外傾	ほぼ平坦	自然		
2	H24i6	N−34°−E	楕円形	1.12×0.88	47	外傾	凹凸	自然		
3	H24i6	N−12°−E	楕円形	0.97×0.62	26	外傾	ほぼ平坦	自然	縄文土器片	
4	H24h7	N−42°−E	楕円形	1.20×0.89	56	外傾	凹凸	自然	縄文土器片	
5	H24j6	N−39°−W	不定形	4.08×2.30	37	外傾	凹凸	自然	縄文土器片，土師器片	炉穴
6	H24g4	N−12°−W	不定形	1.25×1.00	24	外傾	凹凸	自然		
7	H24e4	N−30°−W	円形	1.25×1.24	25	緩斜	ほぼ平坦	自然	縄文土器片，土師質土器片	
8	H24d4	N−53°−W	楕円形	1.26×0.78	40	垂直	平坦	自然	縄文土器片，礫片	
9	H24d2	N−80°−E	長楕円形	3.00×1.06	180	垂直	平坦	自然	縄文土器片，土師器片	細し穴　本跡→SD−5
10	H24i4	主軸N−39°−W 補助 −	長方形 円形	3.30×2.00 3.03×2.85	355 270	緩傾斜 直立	平坦 平坦	人為 人為	縄文土器片，上師器片，須恵器片，土師質土器片，礫片	地下式壙
11	H24j3	N−28°−E	円形	1.10×1.05	32	緩斜	凹凸	自然	縄文土器片，須恵器片	
12	H24a4	N−53°−W	隅丸長方形	1.68×1.05	26	外傾	平坦	人為	縄文土器片，須恵器片	長方形土坑　本跡→SD−5
13	H24a3	N−50°−W	長方形	1.06×0.48	40	段状傾斜	平坦	人為	縄文土器片	長方形十坑
14	H24c1	N−40°−W	不定形	1.95×1.90	40	緩斜	皿状	自然	縄文土器片，土師質土器片	
15	H24c2	N−71°−W	不定形	1.90×1.38	22	緩斜	皿状	自然	縄文土器片，土師器片，土師質土器片	
17	H24b3	N−47°−W	隅丸長方形	1.37×0.72	30	外傾	平坦	人為	土師器片	長方形土坑　本跡→SD−5
18	H24j1	N−38°−W	楕円形	1.40×1.13	20	外傾	平坦	自然	土師器片	
19	H24j1	N−21°−W	楕円形	0.98×0.85	22	外傾	ほぼ平坦	自然		
20	H23a9	N−35°−E	楕円形	2.10×1.62	30	外傾	凹凸	自然	縄文土器片	
21	H24g1	N−52°−W	不定形	1.16×1.00	18	緩斜	ほぼ平坦	自然	縄文土器片，土師器片，礫片	
22	H24f2	N−32°−W	楕円形	2.56×1.60	72	外傾	凹凸	自然	縄文土器片，鉄滓	
24	H23j0	N−34°−E	長方形	1.05×0.60	6	外傾	皿状	人為		粘土貼り遺構
25	H23g0	N−35°−W	長方形	(1.74)×1.02	15	外傾	皿状	人為		粘土貼り遺構
26	H23f0	N−10°−W	楕円形	1.90×1.47	30	外傾	凹凸	自然	縄文土器片	
27	H24f3	N−53°−W	不定形	(1.10)×0.91	107	擂鉢	凹凸	人為	古銭	
28	H24f2	N−32°−E	不定形	1.26×1.05	20	外傾	平坦	自然		本跡→SD−6
29	H24d3	主軸N−42°−E 補助 −	長方形 不定形	2.95×1.75 −×−	295 250	垂直 垂直	平坦 平坦	人為 人為	縄文土器片，土師質土器片，陶器片，鉄滓，銭片古銭	地下式壙　本跡→SD−8
30	H24a4	N−62°−W	楕円形	2.12×1.67	27	外傾	平坦	自然	縄文土器片，土師器片，礫片	本跡→SD−1
31	H24j1	N−5°−W	楕円形	2.30×1.87	40	外傾	中央平坦	自然	縄文土器片，土師器片，礫片	
32	H24j1	N−90°−W	不定形	2.82×2.32	34	外傾	ほぼ平坦	自然	縄文土器片，礫片	
33	H24j2	N−66°−E	楕円形	1.48×1.20	41	外傾	ほぼ平坦	自然	縄文土器片	
34	H24j2	N−17°−E	楕円形	2.55×1.40	36	外傾	ほぼ平坦	自然		
35	H23i0	N−21°−W	不定形	3.43×1.58	38	外傾	凹凸	自然	礫片	
36	H23a6	N−70°−E	隅丸長方形	4.68×1.85	53	外傾	凹凸	自然	縄文土器片，礫片	
37	H24b2	N−59°−W	隅丸長方形	2.09×1.17	27	外傾	平坦	人為	縄文土器片，礫片	粘土貼り遺構　本跡→SD−7A
38	H24g1	N−67°−E	不定形	3.57×1.77	45	外傾	平坦	自然	縄文土器片	本跡→SD−7A
39	H23g0	N−48°−W	不定形	2.73×2.05	24	外傾	凹凸	自然	縄文土器片	炉穴

土坑番号	位置	主軸方向（長軸方向）	平面形	規模 長径×短径（m）	規模 深さ（cm）	壁面	底面	覆土	出土遺物	備考 新旧関係（古→新）
40	I23a9	N－80°－W	楕円形	2.17×1.30	25	外傾	凹凸	自然	縄文土器片	
41	H23f6	N－68°－E	楕円形	3.70×(1.28)	258	垂直	凹凸	自然	縄文土器片	陥し穴 本跡→SD－8
42	H23h7	N－23°－W	不定形	3.20×1.90	27	外傾	凹凸	自然	縄文土器片，礫片	
44	H23g7	N－90°－W	不定形	3.35×2.70	46	外傾	凹凸	人為	縄文土器片，礫片	炉穴
45	H23c8	N－3°－E	不定形	3.65×1.68	43	外傾	凹凸	人為		
46	H23e5	N－21°－E	円形	1.20×1.13	20	外傾	ほぼ平坦	自然	縄文土器片	
47	G23h4	N－42°－E	半楕円形	(2.07)×1.70	223	垂直	平坦	自然		陥し穴
48	H23c4	N－10°－W	円形	1.58×1.58	46	外傾	凹凸	自然		
49	H23c3	N－24°－W	円形	0.54×0.49	36	外傾	凹凸	自然	縄文土器片，礫片	本跡→SD－13
50	G22h6	N－68°－E	楕円形	3.60×1.90	283	垂直	平坦	自然	縄文土器片	陥し穴
51	H23b6	N－28°－E	楕円形	3.67×2.20	57	外傾	凹凸	自然	縄文土器片，礫片	
52	G23g1	N－18°－E	隅丸長方形	(2.02)×1.12	47	垂直	ほぼ平坦	人為		
53	G23b1	N－15°－W	不定形	2.27×1.80	50	外傾	平坦	自然	縄文土器片，陶器片，礫片	
54	H23b1	N－4°－E	楕円形	1.75×1.30	23	外傾	平坦	自然	縄文土器片，礫片	
55	H23e3	N－27°－W	長楕円形	2.90×0.85	124	垂直	平坦	自然		陥し穴
56	H24j4	N－11°－E	不定形	2.94×1.96	52	外傾	凹凸	人為	縄文土器片，礫片	炉穴 本跡→SI－1
57	H22d3	N－40°－E	円形	1.55×1.46	35	外傾	凹凸	自然		
58	H22c3	N－26°－W	不定形	1.62×1.33	38	外傾	ほぼ平坦	自然		
59	H22c2	N－38°－W	楕円形	1.75×1.10	32	外傾	ほぼ平坦	自然		
60	H22c2	N－2°－E	不定形	2.98×2.52	110	外傾	凹凸	自然	縄文土器片，礫片	
61	H22d5	N－25°－W	楕円形	2.50×1.30	30	外傾	凹凸	自然	縄文土器片	
62	H22f5	N－76°－W	楕円形	1.44×0.98	30	外傾	凹凸	自然		
63	H22g7	N－77°－E	円形	1.50×1.47	30	外傾	ほぼ平坦	自然		
64	H22g8	N－54°－W	楕円形	1.64×1.12	46	外傾	凹凸	自然	縄文土器片	
65	H22g7	N－43°－W	楕円形	1.84×1.01	63	垂直	平坦	自然		
66	H22g8	N－7°－W	不定形	3.32×1.14	63	外傾	凹凸	自然		
67	H22g8	N－33°－W	隅丸長方形	1.93×(0.90)	38	外傾	ほぼ平坦	自然		
68	H22g9	N－12°－E	楕円形	2.32×1.45	25	外傾	ほぼ平坦	自然		
69	H22j5	N－2°－E	楕円形	2.20×1.45	32	外傾	凹凸	自然		
70	I22a5	N－69°－E	楕円形	1.60×1.23	43	外傾	凹凸	自然		
71	G21g6	N－21°－E	不定形	3.82×2.70	277	垂直	凹凸	自然	縄文土器片，礫片	陥し穴
72	H21c7	N－33°－E	円形	1.18×1.35	27	外傾	ほぼ平坦	自然		
73	H21e7	N－37°－E	楕円形	1.90×1.62	40	外傾	ほぼ平坦	自然		
74	H21f6	N－70°－E	不定形	0.91×0.71	29	外傾	緩斜	自然	礫片	
75	H21f9	N－56°－W	楕円形	2.78×1.64	252	垂直	凹凸	自然	礫片	陥し穴
76	H21f9	N－44°－E	楕円形	2.44×1.59	48	外傾	凹凸	自然	土師器片	
77	H22h7	N－3°－E	楕円形	1.73×1.21	40	外傾	凹凸	自然	縄文土器片	
78	H21e8	N－10°－W	不定形	1.48×0.93	170	垂直	平坦	自然		陥し穴
79	H23j2	N－66°－W	不定形	1.60×1.50	18	緩斜	ほぼ平坦	自然		

土坑番号	位置	長径方向(長軸方向)	平面形	規模 長径×短径(m)	規模 深さ(cm)	壁面	底面	覆土	出土遺物	備考 新旧関係(古→新)
80	I23a3	N-11°-E	不定形	2.40×1.80	26	緩斜	凹凸	自然	縄文土器片，礫片	
81	H23j3	N-65°-E	不定形	1.64×1.32	50	外傾	凹凸	自然	縄文土器片，礫片	
82	I22a6	N-50°-W	隅丸長方形	2.30×0.94	23	外傾	皿状	人為		
83	I22d6	N-81°-E	楕円形	1.40×1.15	33	外傾	凹凸	自然	縄文土器片	
84	I22c6	N-29°-W	不定形	3.21×3.08	41	外傾	凹凸	自然	礫片	
85	I22c6	N-25°-W	円形	1.35×1.25	50	外傾	凹凸	自然	縄文土器片	
86	I22c9	N-53°-E	楕円形	2.70×1.58	33	外傾	ほぼ平坦	自然		
87	I22d9	N-30°-E	不定形	1.32×0.89	43	外傾	凹凸	自然		
88	I22f6	N-27°-W	円形	1.17×1.12	30	外傾	ほぼ平坦	自然		
89	I22f6	N-59°-E	楕円形	2.45×1.52	46	外傾	ほぼ平坦	自然		
90	I22e7	N-22°-E	不定形	3.42×0.98	20	外傾	ほぼ平坦	自然		本跡→SD-22
91	I22f7	N-12°-E	不定形	2.17×1.45	42	外傾	凹凸	自然	縄文土器片，須恵器片，礫片	本跡→SD-22
92	I22d1	N-49°-W	楕円形	2.07×1.41	192	垂直	平坦	自然	縄文土器片，礫片	掘し穴
93	I22a9	N-10°-W	円形	1.20×1.10	30	外傾	ほぼ平坦	自然		
94	I23b1	N-48°-E	楕円形	1.46×0.83	25	外傾	ほぼ平坦	自然	礫片	
95	I22c0	N-11°-E	円形	0.71×0.70	22	外傾	ほぼ平坦	自然		
96	H23i0	N-80°-E	円形	1.44×1.25	41	外傾	ほぼ平坦	自然	縄文土器片，礫片	
97	H23i2	N-85°-E	楕円形	1.52×1.30	35	外傾	ほぼ平坦	自然		
98	H23h2	N-12°-E	円形	2.18×2.13	60	外傾	凹凸	自然	縄文土器片，礫片	
99	H23g2	N-27°-W	楕円形	1.06×0.89	13	外傾	凹凸	自然		多穴
100	I22g0	N-7°-E	楕円形	1.38×1.13	23	緩斜	凹凸	自然	縄文土器片	
101	I22f0	N-5°-E	楕円形	1.35×1.03	44	緩斜	凹凸	自然		
102	I23g2	N-53°-W	楕円形	0.87×0.62	28	外傾	傾斜	自然		
103	I22h0	N-51°-E	不定形	4.31×1.70	36	緩斜	皿状	自然		
104	I23g4	N-40°-E	隅丸長方形	1.11×0.85	18	外傾	凹凸	自然	縄文土器片	長方形土坑
105	I23g4	N-40°-E	隅丸長方形	1.31×0.97	27	外傾	ほぼ平坦	自然		長方形土坑
106	I23f5	N-39°-E	隅丸長方形	1.49×1.33	65	垂直	ほぼ平坦	自然	縄文土器片，土師質土器片	長方形土坑
107	I23g3	N-60°-W	[不定形]	2.31×1.16	64	外傾	傾斜	自然	縄文土器片，土師質土器片，礫片	
108	I23g5	N-48°-W	[隅丸長方形]	(1.10)×0.52	23	外傾	傾斜	自然		
109	I23g4	N-41°-E	[隅丸長方形]	(1.88)×0.92	11	外傾	凹凸	自然	土師質土器片，礫片	
110	I23c4	N-5°-W	楕円形	1.71×1.44	27	緩斜	傾斜	自然	縄文土器片，礫片	
111	I23c5	N-45°-W	楕円形	1.34×0.89	21	緩斜	ほぼ平坦	自然		
113	I23c9	N-45°-E	隅丸長方形	1.50×1.07	19	緩斜	ほぼ平坦	自然		
114	I23d9	N-37°-E	長方形	2.73×1.11	26	外傾	ほぼ平坦	人為	縄文土器片	長方形土坑
115	I23c7	N-42°-E	不定形	1.42×0.95	42	外傾	凹凸	自然	縄文土器片，礫片	本跡→SK-116
116	I23c7	N-42°-E	不定形	4.70×2.27	50	外傾	凹凸	自然	縄文土器片，陶器片	SK-115・本跡・SD-7A
117	I23d8	N-57°-W	隅丸長方形	1.38×0.94	15	外傾	平坦	人為	縄文土器片	粘土貼り遺構 本跡→SK-118
118	I23e8	N-57°-W	隅丸長方形	1.18×1.03	24	外傾	やや凹凸	人為	縄文土器片	長方形土坑 SK-117→本跡
119	I23e8	主軸N-39°-E 壁溝N-68°-W	隅丸長方形 楕円形	2.73×(2.39) 2.69×2.40	298 230	垂直 垂直	平坦 平坦	人為 人為	縄文土器片，土師質土器片，陶器片，礫片	地下式壙 本跡→SD-28

土坑番号	位置	長径方向(長軸方向)	平面形	規模 長径×短径(m)	深さ(cm)	壁面	底面	覆土	出土遺物	備考 新旧関係(古→新)
120	123e9	N-54°-E	隅丸長方形	(1.88)×1.02	29	外傾	平坦	人為		本跡→SK-122, 第4号小規穴遺構
122	123d9	N-39°-E	楕円形	2.22×1.50	45	外傾	ほぼ平坦	自然		SK-120→本跡→第4号小規穴遺構
123	123g5	N-42°-E	隅丸長方形	1.97×0.98	14	緩斜	平坦	自然	縄文+器片	長方形土坑
124	123a2	N-4°-W	楕円形	2.91×1.65	30	緩斜	ほぼ平坦	人為		8穴 本跡→SI-5
125A	123b3	N-67°-W	不定形	1.44×1.04	19	緩斜	傾斜	自然	縄文土器片, 礫片	9穴 本跡→SK-125B, SI-5
125B	123b3	N-67°-W	不定形	2.32×1.55	55	緩斜	ほぼ平坦	自然	縄文土器片	9穴 SK-125A→本跡→SI
126	123g5	N-47°-W	楕円形	1.32×0.71	15	外傾	平坦	人為		粘土貼り遺構
127	123h6	N-5°-E	不定形	0.93×0.66	28	外傾	傾斜	自然		
128	123h6	N-30°-W	不定形	1.12×0.86	28	外傾	傾斜	自然	縄文土器片	
129	123h6	N-68°-E	楕円形	0.98×0.64	11	外傾	凹凸	自然	土師四土器片	
130	123g4	N-35°-W	[楕円形]	2.72×2.27	58	緩斜	凹凸	人為	縄文土器片, 礫片	粘土貼り遺構 SK-109→本跡→SD-29
131	123h4	N-40°-W	隅丸長方形	2.11×0.73	12	外傾	皿状	人為		長方形土坑
132	123h4	N-15°-E	楕円形	1.03×0.77	9	緩斜	ほぼ平坦	自然		
133	123h4	N-53°-W	楕円形	1.00×0.64	18	外傾	やや凹凸	自然		
134	123h4	N-44°-W	隅丸方形	1.01×0.97	7	緩斜	ほぼ平坦	人為		
135	123h4	N-45°-W	不定形	0.91×0.65	7	緩斜	やや凹凸	人為		
136	123h5	N-59°-W	不定形	1.08×0.94	31	外傾	傾斜	自然	縄文土器片	
137	123h5	N-62°-W	楕円形	0.79×0.66	18	外傾	平坦	人為		
138	123h6	N-42°-W	隅丸長方形	2.17×1.40	67	外傾	平坦	自然	縄文土器片, 土師質土器片, 陶器片, 礫	粘土貼り遺構
139	123h6	N-44°-W	隅丸長方形	1.76×1.16	37	外傾	平坦	自然	縄文土器片, 礫片	長方形土坑
140	123i6	N-58°-E	隅丸長方形	2.56×0.95	14	緩斜	皿状	自然	縄文土器片	長方形土坑
141	123a6	N-40°-W	円形	0.84×0.72	30	緩斜	平坦	自然		
142	123h6	N-35°-W	円形	0.73×0.61	23	緩斜	平坦	自然	縄文土器片, 礫片	
143	123b7	N-36°-E	楕円形	2.24×1.24	37	垂直	ほぼ平坦	人為	縄文土器片	
144	123g8	N-36°-W	楕円形	1.70×1.35	62	垂直	凹凸	人為	縄文土器片, 土師質土器片, 礫片	
148	123g9	N-15°-W	不定形	2.12×0.88	28	外傾	凹凸	自然	縄文土器片, 土師器片, 土師質土器片, 礫片	
149	123d8	N-30°-E	隅丸長方形	2.50×1.22	24	外傾	凹凸	人為	縄文土器片, 礫片	長方形土坑
150	123c7	N-56°-W	隅丸長方形	1.04×0.80	92	垂直	凹凸	自然	十師器片	
151	124f1	N-49°-W	長方形	1.77×1.17	10	外傾	平坦	人為	鉄滓	粘土貼り遺構 本跡→SK-152
154	123d0	N-34°-E	長楕円形	2.40×1.16	52	外傾	皿状	人為		SK-155, 156→本跡→第4号小型竪穴遺構
155	123b0	N-37°-E	不定形	2.60×(2.43)	35	外傾	ほぼ平坦	自然		本跡→SK-156, 154 第7号小型竪穴遺構
156	124m1	N-37°-E	不定形	1.48×(0.73)	40	外傾	平坦	人為	縄文土器片, 礫片	SK-155→本跡→SK-154
157	123g8	N-46°-W	長楕円形	2.05×1.00	39	垂直	平坦	人為	縄文+器片, 土師甕+器片, 礫片	
158	123f7	N-24°-E	不定形	3.70×1.62	63	外傾	傾斜	自然		
160	123e7	N-42°-E	楕円形	1.00×0.75	20	外傾	ほぼ平坦	自然		
161	123h7	N-39°-W	楕円形	3.98×2.66	290	垂直	平坦	自然	縄文土器片, 礫片, 十師器片	貯し穴
162	123c3	N-4°-E	隅丸方形	2.36×2.25	45	外傾	傾斜	自然	縄文土器片, 礫片	炉穴
163	123a3	N-38°-E	円形	0.59×0.58	17	緩斜	平坦	自然	縄文土器片	
164	123j3	N-31°-E	楕円形	2.92×2.43	57	外傾	ほぼ平坦	自然	縄文土器片, 土師器片	

土坑番号	位置	長軸方向（長軸方向）	平面形	規模 長径×短径（m）	規模 深さ（cm）	壁面	底面	覆土	出土遺物	備考 新旧関係（古→新）
165	I23a4	N－17°－E	楕円形	2.07×1.60	21	外傾	平坦	人為	縄文土器片	
166	I23f2	N－6°－W	円形	0.94×(0.80)	24	外傾	平坦	人為	縄文土器片	
167	I23e3	N－77°－E	不定形	2.84×2.46	200	垂直	平坦	自然	縄文土器片，土師器片，陶器片，鐵片	掘り穴　本跡→SK－156
168	I23e2	N－50°－E	楕円形	1.02×0.87	31	外傾	凹凸	自然	縄文土器片	
169	I23i7	N－34°－W	不定形	2.66×1.30	77	外傾	平坦	人為		
170	I23e2	N－63°－E	不定形	1.3×0.82	22	外傾	平坦	自然	縄文土器片	
171	I22c0	N－71°－E	楕円形	3.70×2.10	203	垂直	ほぼ平坦	自然	縄文土器片	掘り穴　本跡→SD－26
172	I22c8	N－43°－W	不定形	1.87×1.17	33	外傾	平坦	自然		
173	I22a6	N－84°－E	楕円形	3.04×1.74	42	外傾	平坦	自然		
174	I22j7	N－3°－E	円形	2.31×2.17	78	外傾	傾斜	自然		
175	I22d9	N－20°－W	円形	1.00×0.95	32	外傾	ほぼ平坦	自然	縄文土器片	
176	I22a0	N－72°－W	不定形	3.20×1.71	75	外傾	凹凸	自然	縄文土器片	
177	I23e3	主軸N 38°E 壁沈N－55°－W	長方形 円形	2.00×1.63 (1.85)×1.80	330 267	垂直 傾斜	平坦 平坦	人為 人為	縄文土器片，土師質土器片，鐵片	地下式壙　SI－7・本跡→SD 28
178	I24e1	N－67°－W	長方形	1.60×1.10	35	垂直	凹凸	人為		SD－3と重複　不明
182	I23c6	N－36°－E	長方形	1.74×0.70	17	外傾	凹凸	人為		SD－29と重複　不明
184	I23h0	N－23°－E	長方形	1.96×0.60	10	緩斜	平坦	自然		
188	I23f8	N－43°－E	不定形	2.78×1.25	28	外傾	凹凸	人為		
189	I22i6	N－39°－E	不定形	4.21×1.75	60	外傾	ほぼ平坦	自然		
190	I23b5	N－47°－W	楕円形	2.00×1.48	46	外傾	ほぼ平坦	自然		

4　掘立柱建物跡

当調査区で確認した掘立柱建物跡は９棟である。遺構は調査区全域にわたって存在し，長軸方向の違いから２分して考えられる。第４，５及び９号掘立柱建物跡の長軸は，北西から南東方向に直伸しているのに対し，第１，２，３，…号掘立柱建物跡の長軸方向は，ほぼ西から東に直伸している。以下，その特徴について記載する。

第４号掘立柱建物跡（第65図）

位置　調査区の中央部，I22b₀区。

規模　東西３間，南北１間の建物で，柱間寸法は桁行2.1m，梁行3.1mである。柱穴の掘り方は長径0.3～0.4m，短径0.25～0.3mの楕円形で，深さは0.2～0.5mである。柱痕跡は確認できなかった。

長軸方向　N－58°－W

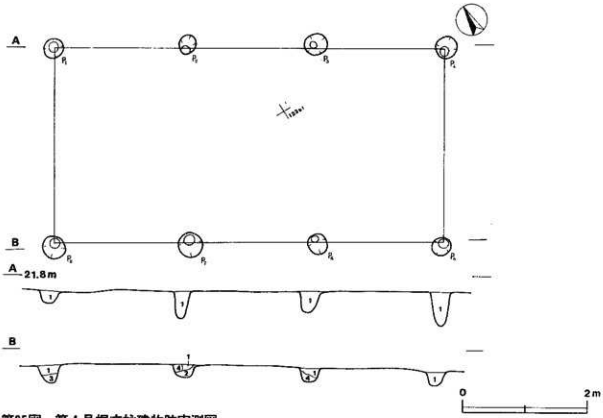
覆土　ロームブロックを含む黒色土や暗褐色土を中心に版築されている。

P_{1-4}土層解説

1　黒　色　ローム小ブロック少量，ローム粒子・ローム中ブロック極少量
2　褐　色　ローム粒子・ローム小ブロック少量
3　黒褐色　ローム粒子少量，ローム小ブロック極少量
4　黒　色　ローム粒子・ローム小ブロック極少量

遺物　出土していない。

所見　時期を判定する遺物は出土していないが，第９号掘立柱建物跡と長軸方向が近いことから，それと同時期と思われる。



第65図　第4号掘立柱建物跡実測図

第5号掘立柱建物跡（第66図）

位置　調査区の中央部，I23c$_7$区。

規模　東西3間，南北1間の建物で，柱間寸法は桁行1.9～2.1m，梁行3.0～3.3mである。柱穴の掘り方は長径0.35～0.65m，短径0.35～0.45mの楕円形で，深さは0.2～0.4mである。柱痕跡は確認できなかった。

長軸方向　N－56°－W

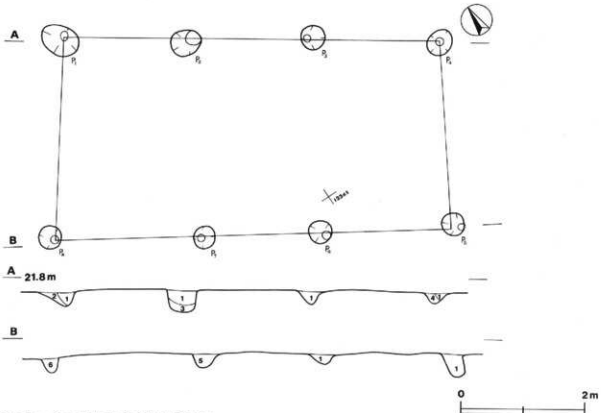
覆土　ロームブロックを含む黒褐色土や暗褐色土を中心に版築されている。

P_{1-6}土層解説

1　黒褐色　ローム粒子多量，ローム小ブロック中量，ローム中ブロック少量
2　暗褐色　ローム粒子多量，ロ…ム中ブロック少量
3　褐　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック少量
4　褐　色　ローム粒子少量，黒色土粒子少量
5　暗褐色　ローム粒子少量，ローム小ブロック中量
6　暗褐色　ローム粒子少量，ローム小ブロック中量

遺物　覆土中から流れ込みと思われる縄文土器片が出土している。

所見　時期を判定する遺物は出土していないが，第9号掘立柱建物跡と長軸方向が近いことから，それと同時期と思われる。



第66図　第５号掘立柱建物跡実測図

第９号掘立柱建物跡（第68図）

位置　調査区の南東部，J23j₀区。

重複関係　本跡は第７号溝と重複している。本跡を第７号溝が掘り込んでおり，本跡の方が古い。

規模　東西５間，南北１間の建物で，柱間寸法は桁行2.4～2.6m，梁行4.9m前後である。柱穴の掘り方は長径0.9～1.5m，短径0.8～1.4mの不整楕円形で，深さは0.6～1.1mである。柱痕跡は確認できなかった。

長軸方向　N－53°－W

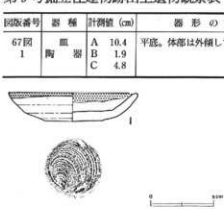
覆土　ロームブロックを含む褐色土や暗褐色土で版築されている。

遺物　P_2の覆土中から，１の15世紀後半と思われる瀬戸産の灰釉皿が出土している。

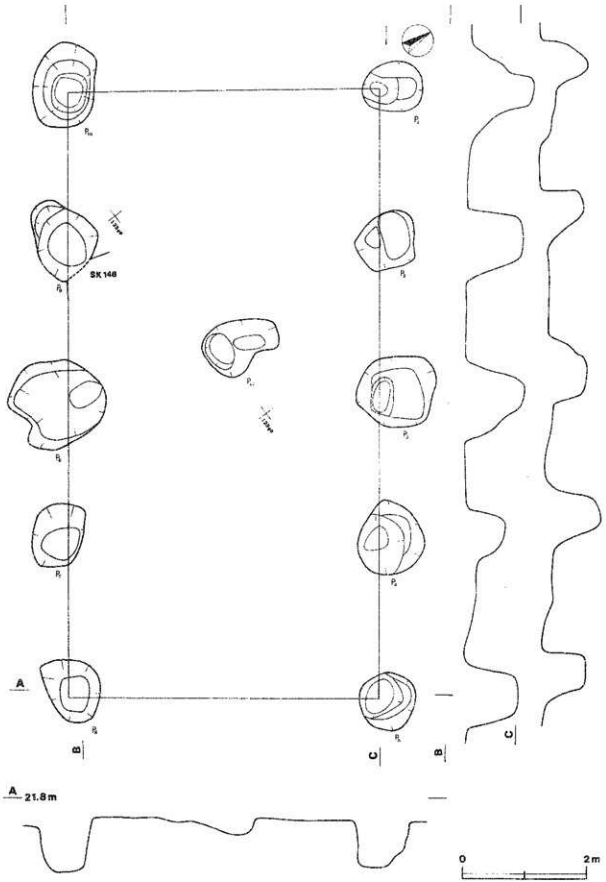
所見　本跡の時期は，出土遺物から中世後半の建物跡と考えられる。

第９号掘立柱建物跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値（cm）	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
67図 1	皿 陶器	A 10.4 B 1.9 C 4.8	平底。体部は外傾して立ち上がる。	口縁部，体部内外面ナデ。口縁部に緑灰色の釉が施されている。底部回転糸切り。	砂粒，石英 浅黄色 良好	P93 100%　覆土中 瀬戸灰釉皿



第67図　第９号掘立柱建物跡出土遺物実測図



第68図　第9号掘立柱建物跡実測図

第1号掘立柱建物跡（第69図）

位置　調査区の北部中央寄り，H22a6区。

規模　東西3間，南北2間の建物で，柱間寸法は桁行1.6～2.2m，梁行2.3m前後である。柱穴の掘り方は長径0.7～1.0m，短径0.6～0.9mの楕円形で，深さは0.3～0.7mである。柱痕跡はすべてのピットで確認されており，柱寸法は径20～30cmである。

長軸方向　N－72°－E

覆土　ロームブロックを含む黒褐色土や暗褐色土を中心に版築されている。

P_1土層解説
1　暗褐色　ローム粒子少量，ローム小ブロック・ローム中ブロック極少量
2　黒褐色　ローム粒子・ローム小ブロック・ローム中ブロック・黒色土粒子少量
3　褐　色　ローム粒子・ローム小ブロック・ローム中ブロック少量

P_2土層解説
1　黒褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・黒褐色土小ブロック少量
2　極暗褐色　ローム粒子多量，ローム小ブロック・ローム中ブロック少量
3　黒褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量
4　黒褐色　ローム中ブロック中量，ローム粒子・ローム小ブロック少量

P_3土層解説
1　黒褐色　ローム粒子・ローム小ブロック少量
2　極暗褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量

P_4土層解説
1　黒褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・ローム中ブロック・炭化粒子少量
2　暗褐色　ローム粒子多量，ローム小ブロック・ローム中ブロック少量
3　黒褐色　ローム粒子・ローム小ブロック・ローム中ブロック中量

P_5土層解説
1　極暗褐色　ローム小ブロック多量，ローム粒子・ローム中ブロック少量
2　暗褐色　ローム粒子多量，ローム小ブロック中量

P_6土層解説
1　黒褐色　ローム小ブロック少量，ローム粒子・ローム中ブロック極少量
2　黒褐色　ローム粒子・ローム小ブロック少量
3　褐　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック中量
4　暗褐色　ローム粒子多量，ローム小ブロック少量

P_7土層解説
1　黒褐色　ローム粒子多量，ローム小ブロック少量
2　暗褐色　ローム粒子多量，ローム小ブロック少量
3　暗褐色　ローム大ブロック多量

P_8土層解説
1　黒褐色　ローム粒子・ローム小ブロック少量
2　褐　色　ローム粒子・ローム小ブロック中量

P_9土層解説
1　黒褐色　ローム粒子・ローム小ブロック少量
2　黒褐色　ローム粒子少量

P_{10}土層解説
1　黒　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量
2　黒　色　ローム粒子・ローム小ブロック・ローム中ブロック中量
3　黒褐色　ローム粒子多量，ローム小ブロック中量
4　黒褐色　ローム粒子・ローム小ブロック中量
5　黒褐色　ローム小ブロック中量，ローム粒子少量

遺物　覆土上層から流れ込みと思われる縄文土器片が出土している。

所見　時期を判定する遺物が出土していないため，時期は不明である。

第2号掘立柱建物跡（第70図）

位置　調査区の北西部中央寄り，H22c3区。

規模　東西3間，南北2間の建物で，柱間寸法は桁行1.8～2.2m，梁行2.1m前後である。柱穴の掘り方は長径0.8～1.80m，短径0.7～0.9mの楕円形で，深さは0.4～0.6mである。柱痕跡は$P_{1\sim4}$，$P_{6\sim8}$及びP_{10}で確認されており，柱寸法は径20～25cmである。

長軸方向　N－75°－E

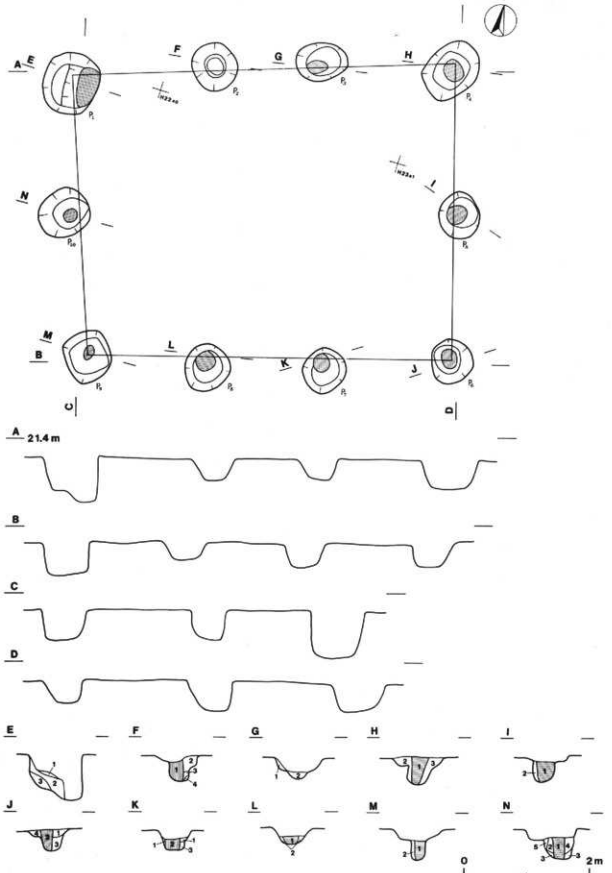
覆土　ロームブロックを含む黒褐色土や暗褐色土を中心に版築されている。

P_1土層解説
1　黒褐色　ローム粒子・ローム中ブロック極少量
2　黒褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量
3　黒褐色　ローム粒子・ローム小ブロック中量

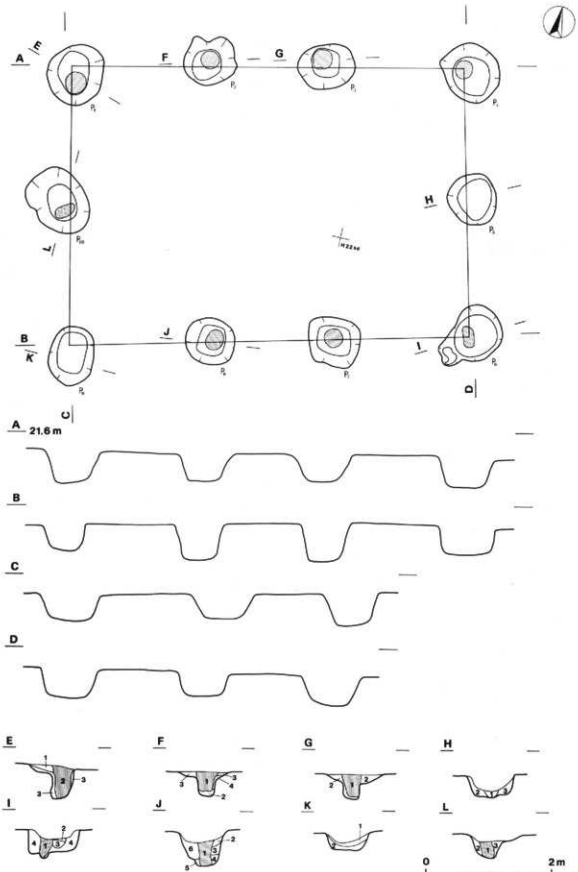
P_2土層解説
1　黒褐色　ローム粒子・ローム小ブロック中量，ローム中ブロック極少量
2　黒褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，ローム中ブロック極少量
3　黒褐色　ローム粒子・ローム小ブロック少量，ローム大ブロック極少量
4　黒褐色　ローム粒子少量，ローム中ブロック極少量

P_3土層解説
1　黒褐色　ローム粒子中量
2　黒褐色　ローム粒子・ローム小ブロック少量・ローム中ブロック極少量

P_4土層解説
1　黒褐色　ローム粒子少量，ローム中ブロック極少量
2　黒褐色　ローム粒子・ローム小ブロック少量，ローム中ブロック極少量
3　黒褐色　ローム粒子多量，ローム小ブロック中量，ローム中ブロック極少量



第69図　第１号掘立柱建物跡実測図



第70図　第２号掘立柱建物跡実測図

P_1土層解説
1　黒 褐 色　ローム粒子・ローム小ブロック少量
2　黒 褐 色　ローム粒子・ローム小ブロック少量
3　極暗褐色　ローム粒子・ローム小ブロック・ローム中ブロック中量
4　極暗褐色　ローム粒子・ローム小ブロック中量
P_3土層解説
1　黒褐色　ローム粒子・ローム小ブロック中量
2　黒褐色　ローム粒子・ローム小ブロック中量
3　暗褐色　ローム粒子多量，ローム小ブロック中量
4　暗褐色　ローム粒子・ローム小ブロック多量
5　黒褐色　ローム粒子中量
6　暗褐色　ローム粒子多量，ローム中ブロック中量，ローム小ブロック少量
P_4土層解説
1　黒褐色　ローム粒子・ローム小ブロック中量
2　黒褐色　ローム粒子多量，ローム小ブロック中量，ローム中ブロック少量
P_5土層解説
1　黒 色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量
2　黒 色　ローム粒子・ローム小ブロック多量，ローム中ブロック中量
3　黒褐色　ローム中ブロック・ローム小ブロック中量，ローム粒子少量

遺物　出土していない。

所見　出土遺物がないため，時期は不明である。

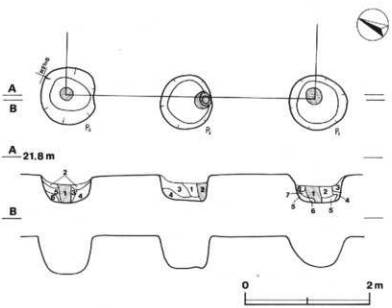
第3号掘立柱建物跡（第71図）

位置　調査区の北西部，H21do区。

規模　本跡は大部分が調査区外で，西側の3柱穴のみが確認されている。柱間寸法は1.8～2.2mである。柱穴の掘り方は径0.8～0.9mの円形で，深さは0.5mである。柱痕跡は$P_{1\sim3}$とも確認できた。

長軸方向　［N－70°－E］

覆土　ロームブロックを含む黒褐色土や暗褐色土を中心に版築されている。



第71図　第3号掘立柱建物跡実測図

P_1土層解説
1　黒褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・ローム中ブロック極少量
2　暗褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・炭化粒子少量，ローム中ブロック極少量
3　黒褐色　ローム粒子多量，ローム小ブロック中量，炭化粒子少量
4　黒褐色　ローム粒子多量，ローム小ブロック中量，ローム中ブロック少量
5　褐　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック・ローム中ブロック中量
6　褐　色　ローム粒子・ローム小ブロック中量
7　暗褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量
8　褐　色　ローム粒子・ローム小ブロック多量，ローム中ブロック中量
P_2土層解説
1　黒褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量
2　暗褐色　ローム粒子多量，ローム小ブロック少量
3　黒褐色　ローム粒子・ローム小ブロック多量，ローム中ブロック少量
4　黒褐色　ローム粒子・ローム小ブロック多量，ローム中ブロック・ローム大ブロック少量
P_3土層解説
1　暗褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量
2　褐　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック中量，ローム中ブロック少量
3　褐　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック中量
4　褐　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック・ローム中ブロック・炭化粒子少量
5　褐　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック中量，炭化粒子少量
6　褐　色　ローム粒子・ローム中ブロック中量，ローム小ブロック少量

遺物　出土していない。

所見　第1号，第2号掘立柱建物跡と平行して建てられていることが予想されるので，本跡の3柱穴は西側の梁行と考えられる。出土遺物がないため，時期は不明である。

第6号掘立柱建物跡（第72図）

位置　調査区の南部，J23g₀区。

規模　本跡は西側が調査区外に伸びており，全容は不明である。東西3間，南北2間の建物と予想される。柱間寸法は桁行2.0～2.4m，梁行2.2m前後である。柱穴の掘り方は長径0.9～1.1m，短径0.8～1.0mの楕円形で，深さ0.55～0.75mである。柱痕跡はP6，P7で確認できたが，それ以外ははっきりしなかった。

長軸方向　N－75°－E

覆土　ロームブロックを含む黒褐色土や暗褐色土を中心に版築されている。

P_1土層解説
1　黒褐色　ローム粒子少量，ローム小ブロック極少量
2　黒褐色　ローム粒子少量，ローム小ブロック・ローム中ブロック極少量
3　黒褐色　ローム粒子少量，ローム小ブロック極少量
4　褐　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック・ローム大ブロック少量
5　黒褐色　ローム粒子・ローム小ブロック少量
6　褐　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・ローム中ブロック・ローム大ブロック少量
7　褐　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量

P_2土層解説
1　暗褐色　ローム粒子・ローム小ブロック中量
2　黒褐色　ローム小ブロック・ローム中ブロック中量，ローム粒子少量
3　暗褐色　ローム粒子・ローム小ブロック・ローム中ブロック中量
4　褐　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック・ローム小ブロック少量

P_3土層解説
1　黒褐色　ローム粒子・ローム小ブロック少量，焼土粒子極少量
2　暗褐色　ローム粒子・ローム小ブロック・ローム大ブロック少量
3　暗褐色　ローム粒子・ローム小ブロック少量
4　暗褐色　ローム粒子・ローム小ブロック・ローム中ブロック少量

P_4土層解説
1　黒褐色　ローム粒子・ローム小ブロック・ローム中ブロック少量
2　極暗褐色　ローム粒子・ローム小ブロック・ローム中ブロック少量，ローム大ブロック極少量
3　暗褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量
4　黒褐色　ローム粒子少量，ローム小ブロック極少量
5　暗褐色　ローム粒子・ローム小ブロック・ローム中ブロック・ローム大ブロック少量

P_5土層解説
1　黒褐色　ローム粒子・ローム小ブロック・ローム中ブロック少量，焼土粒子極少量
2　黒褐色　ローム粒子・ローム小ブロック・ローム中ブロック少量
3　黒褐色　ローム粒子・ローム小ブロック少量
4　暗褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・ローム中ブロック少量，ローム大ブロック極少量
5　褐　色　ローム粒子少量

P_6土層解説
1　黒褐色　ローム粒子・ローム小ブロック少量，炭化粒子極少量
2　黒褐色　ローム粒子・ローム小ブロック少量
3　褐　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・ローム中ブロック・ローム大ブロック少量
4　極暗褐色　ローム粒子・ローム小ブロック・ローム中ブロック少量
5　褐　色　ローム粒子中量，ローム中ブロック・ローム小ブロック少量

P_7土層解説
1　黒褐色　ローム粒子・ローム小ブロック・ローム中ブロック・炭化粒子少量
2　暗褐色　ローム粒子・ローム小ブロック・ローム中ブロック少量
3　黒褐色　ローム粒子少量，ローム中ブロック極少量
4　褐　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・ローム中ブロック少量

遺物　覆土上層から流れ込みと思われる縄文土器片が出土している。

所見　時期を判定する遺物が出土していないため，時期は不明である。

第7号掘立柱建物跡（第73図）

位置　調査区の南西部，I22i₀区。

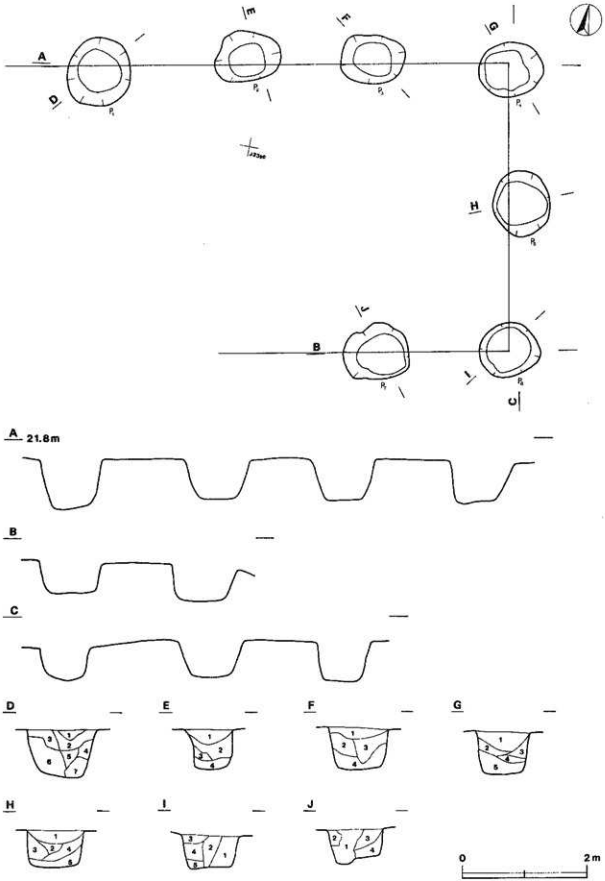
規模　本跡は東側が調査区外に伸びており，全容は不明である。東西4間，南北3間の建物と予想される。柱間寸法は桁行1.6～2.1m，梁行1.5～1.6mである。柱穴の掘り方は長径0.85～1.05m，短径0.75～0.90mの楕円形で，深さ0.3～0.6mである。柱痕跡は全てのピットから確認できた。

長軸方向　N－61°－E

覆土　ロームブロックを含み，黒色土と暗褐色土が互層に版築されている。

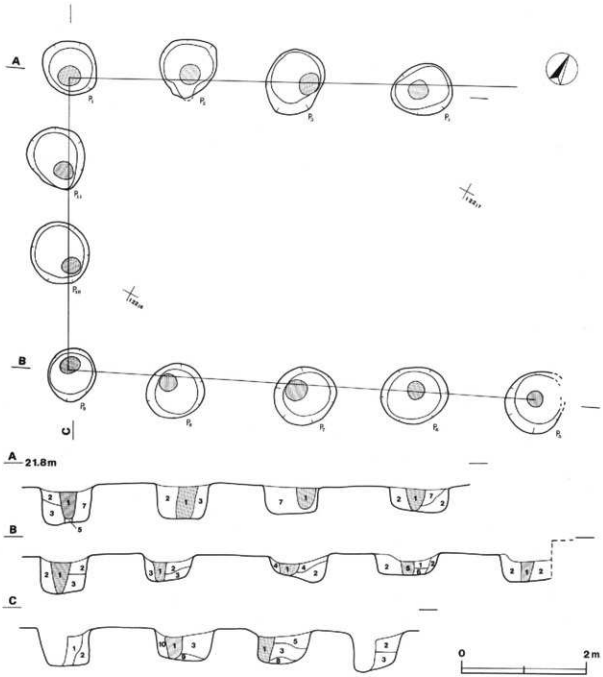
P_{1-2}土層解説
1　極暗褐色　ローム小ブロック少量
2　暗褐色　ローム中ブロック・黒褐色土少量
3　暗褐色　ローム粒子・黒褐色土中ブロック少量
4　黒褐色　ローム粒子極少量
5　黒褐色　ローム小ブロック中量，ローム中ブロック少量
6　極暗褐色　黒色土小ブロック少量，ローム粒子極少量
7　黒褐色　ローム小ブロック中量，ローム中ブロック少量
8　黒　色　ローム小ブロック少量
9　暗褐色　ローム中ブロック・黒色土小ブロック少量

遺物　覆土上層から流れ込みと思われる縄文土器片が出土している。



第72図　第6号掘立柱建物跡実測図

所見　時期を判定する遺物が出土していないため，時期は不明である。



第73図　第７号掘立柱建物跡実測図

第８号掘立柱建物跡（第74図）

位置　調査区の南部，J23b$_4$区。

規模　本跡は西側が調査区外に伸びており，全容は不明である。東西３間，南北２間の建物と予想される。柱間寸法は桁行1.9～2.4m，梁行2.0～2.2mである。柱穴の掘り方は長径0.8～1.1m，短径0.7～1.0mの楕円形で，深さ0.4～0.7mである。柱痕跡は全てのピットから確認できた。

長軸方向　N－89°－W

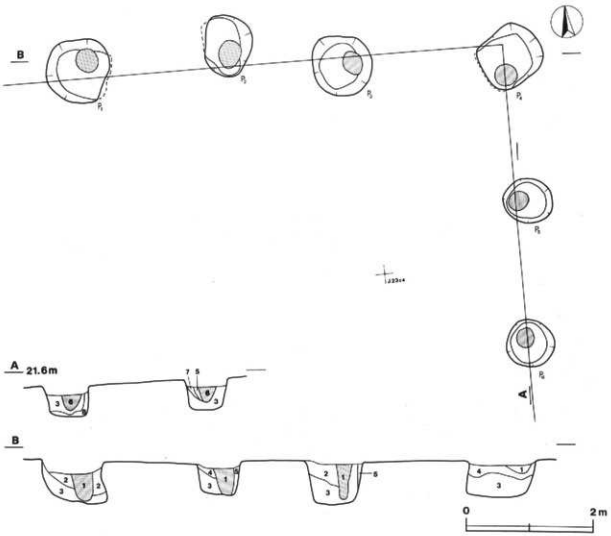
覆土　ロームブロックを含む黒褐色土や暗褐色土を中心に版築されている。

P_{1-6}土層解説

1　黒 褐 色　ローム粒子多量
2　黒 褐 色　ローム小ブロック中量，ローム中ブロック少量
3　極暗褐色　ローム中ブロック中量，ローム小ブロック少量
4　暗 褐 色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量
5　暗褐色　ローム粒子少量，ローム小ブロック極少量
6　暗褐色　ローム小ブロック極少量，ローム大ブロック極少量
7　褐　色　ローム小ブロック少量
8　黒　色　ローム粒子少量

遺物　覆土上層から流れ込みと思われる縄文土器片が出土している。

所見　時期を判定する遺物が出土していないため，時期は不明である。



第74図　第8号掘立柱建物跡実測図

5　道路跡

第16，17号溝として調査した遺構については，底面に硬化面が見られることから，それぞれを第1，2号道路跡と改称した。以下，確認した遺構と遺物について記載する。

第1号道路跡［SD－16］付図1

位置　調査区の西部，H21a$_9$区～H21j$_6$区。

規模と形状　南北両方面とも調査区外に延びているため，全容は不明である。確認した部分の規模は上幅1.0～1.3m，下幅0.7～0.8m，深さ20～25cm，全長（40m）である。断面形は「＼_／」状をしており，底面は平坦である。

方向　南側調査区外から北方向（N－3°－E）に12m程直線的に延び，H21g6区で北東方向（N－25°－E）に28m延びて調査区外に至る。

道路面　底面の中央40cm幅程が非常に硬く踏み締められており，両側は中央部に比べやや柔らかい。

覆土　4層からなる。土層4はたたき締められた土層である。

土層解説

1　黒 褐 色　ローム粒子極少量
2　極暗褐色　ローム粒子少量
3　暗 褐 色　ローム中ブロック少量，ローム粒子極少量
4　黒 褐 色　ローム粒子中量，ローム小ブロック極少量

遺物　出土していない。

所見　出土遺物がないため，時期は不明である。

第2号道路跡［SD－17］付図1

位置　調査区の西部，H21e$_6$区～H21g$_8$区。

規模と形状　東側は調査区外に延びているため，全容は不明である。確認した部分の規模は上幅0.6～1.2m，下幅0.2～0.9m，深さ25cm，全長（12m）である。断面形は「＼_／」状をしており，底面は平坦である。

方向　H21e$_5$区から東方向（N－80°－E）へ5m程直線的に延び，H21e$_7$区で南西方向（N－22°－W）に12m延びて調査区外に至る。

道路面　底面の中央40cm幅程が非常に硬く踏み締められており，両側は中央部に比べやや柔らかい。遺構中央の屈折部付近では硬化面が見られない。

覆土　3層からなる。自然堆積土層と考えられる。

土層解説

1　黒　色　黒色土粒子多量
2　黒褐色　ローム粒子極少量
3　褐　色　ローム粒子多量

遺物　出土していない。

所見　出土遺物がないため，時期は不明である。

6　溝

当調査区の全域にわたって27条の溝を確認したが，大部分は出土遺物も少なく，性格は不明である。その中で，墓域を区画していると思われる溝について解説し，その他については一覧表（表5）で記載する。

第2号溝（第77図）

位置　調査区の南東部，I23j$_3$区～J24i$_4$区。

重複関係　本跡は第6号掘立柱建物跡と重複している。本跡がP_2を掘り込んでおり，本跡の方が新しい。

規模と形状　上幅0.6～1.6m，下幅0.3～1.0m，全長55mである。断面形は「◡」状をしており，底面は凹凸がある。

方向　調査区のI23j$_3$区から南東方向（N－45°－W）に36m程直線的に延び，J23f$_9$区でさらに南東方向（N－64°－W）に19m延びている。

覆土　4層からなり，自然堆積土層と考えられる。

土層解説

1　極暗褐色　ローム粒子・ローム小ブロック極少量
2　暗褐色　ローム粒子・ローム小ブロック少量，ローム大ブロック極少量
3　極暗褐色　ローム粒子少量
4　褐　色　ローム粒子多量，ローム大ブロック少量

遺物　覆土中から流れ込みと思われる縄文土器片と土師質土器細片が出土している。1は縄文土器深鉢の底部～胴部片である。2，3は縄文地文に沈線で区画をし，磨消帯が設けられている。

第75図　第2号溝出土遺物実測図

所見　遺構の性格は，墓域を区画するものと考えられる。

第9号掘立柱建物跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値（cm）	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第67図 1	皿 陶器	A 10.4 B 1.9 C 4.8	平底。体部は外傾して立ち上がる。	口縁部，体部内外面ナデ。口縁部に緑灰色の釉が施されている。底部回転糸切り。	砂粒，石英 浅黄色 良好	P93 100%　覆土中 瀬戸灰釉皿

第3号溝（第77図）

位置　調査区の南東部，J24a$_3$区～J24i$_5$区。

重複関係　本跡は第178号土坑と重複している。新旧関係は不明である。

規模と形状　上幅0.6～1.2m，下幅0.2m，全長42mである。断面形は「◡」状をしており，底面は凹凸がある。

第76図　第3号溝出土遺物実測図

方向　調査区のJ24a$_3$区から南西方向（N－36°－E）に20m程直線的に延び，J23e$_6$区で南東方向（N－54°－W）に22m延びている。

覆土　4層からなり，自然堆積土層と考えられる。

土層解説

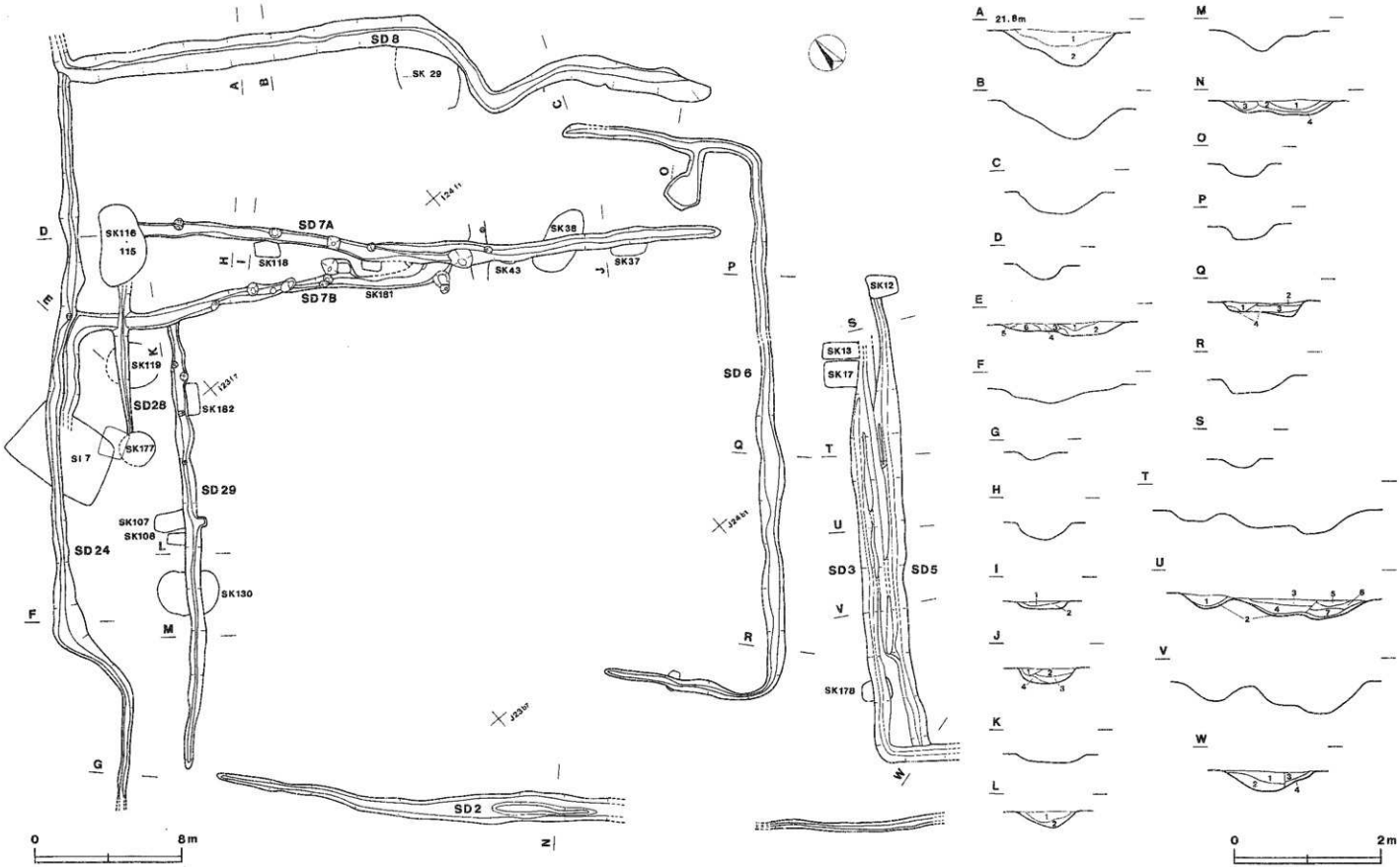
1　黒褐色　ローム粒子少量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子極少量
2　暗褐色　ローム粒子・ローム小ブロック中量，ローム中ブロック極少量
3　黒褐色　ローム粒子・ローム小ブロック極少量，炭化粒子微量
4　褐　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック少量，炭化粒子極少

遺物　覆土中から土師質土器の細片が出土している。

所見　本跡の時期は，出土遺物から中世と考えられる。遺構の性格は，墓域を区画するものと考えられる。

第3号溝出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値（cm）	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第76図 1	鍋 土師質土器	B（1.9） C［18.6］	底部から体部にかけての破片。平底。体部は外傾して立ち上がる。	体部内・外面ナデ。	砂粒，石英，スコリア 灰褐色 普通	P99 5%　覆土中



第77図　墓域を形成したと思われる溝実測図

第５号溝（第77図）

位置　調査区の南東部，J24f₁区～J24d₄区。

重複関係　本跡は第9号土坑と重複している。本跡が第9号土坑を掘り込んでおり，本跡の方が新しい。

規模と形状　上幅1.0～1.2m，下幅0.2m，全長25mである。断面形は「⌒」状をしており，底面は凹凸がある。

方向　調査区のJ24f₁区から北東方向（N－35°－E）に直線的に延びている。

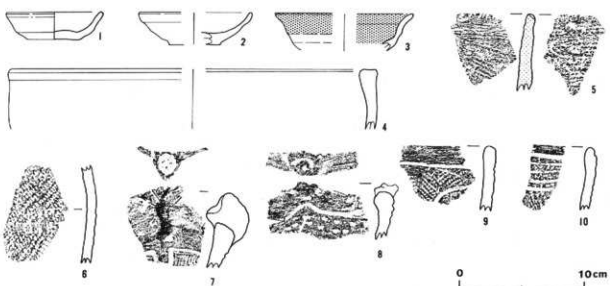
覆土　7層からなり，自然堆積土層と考えられる。

3・5号溝土層解説

1　暗褐色　ローム粒子極少量
2　褐　色　ローム粒子極少量
3　暗褐色　ローム粒子・ローム小ブロック極少量
4　暗褐色　ローム粒子少量，ローム小ブロック極少量
5　暗褐色　ローム粒子少量，ローム小ブロック極少量
6　暗褐色　ローム粒子少量，ローム小ブロック極少量
7　暗褐色　ローム粒子少量

遺物　覆土中から土師質土器の細片が出土している。1，2，4は覆土中から出土した土師質土器である。3は陶器皿の底部～口縁部片である。5～10は縄文土器片でいずれも覆土中から出土している。5は表裏に貝殻条痕文が施されている。6はＬＲの縄文が斜行気味に施されている。7，8は波状口縁の波頂部に押圧を加えている。9，10は縄文地文に沈線で区画が施されている。

所見　本跡の時期は，出土遺物から中世と考えられる。遺構の性格は，墓域を区画するものと考えられる。



第78図　第５号溝出土遺物実測図

第５号溝出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値（cm）	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第78図 1	皿 土師質土器	A［7.6］ B 2.2 C［4.4］	平底。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部は外反する。	口縁部，体部内・外面ナデ。	砂粒，雲母，スコリアにぶい赤褐色 普通	P100 30%　覆土中
2	皿 土師質土器	A［9.2］ B 2.6 C［4.2］	底部から口縁部にかけての破片。体部は内彎気味に立ち上がる。	口縁部，体部内・外面ナデ。	砂粒，雲母 にぶい褐色 普通	P101 30%　覆土中
3	皿 陶器	A［11.2］ B（3.0）	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部は外反する。	口縁部，体部内・外面ナデ。内面及び口縁部外面に釉が施されている。	砂粒 灰オリーブ色 良好	P102 20%　覆土中
4	鍋 土師質土器	A［29.6］ B（4.8）	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎気味に外傾して立ち上がる。	口縁部，体部内・外面ナデ。	雲母，長石，石英，雲母，スコリア にぶい橙色 普通	P103 5%　覆土中

第６号溝（第77図）

位置　調査区の南東部，I24f$_2$区～J23b$_8$区。

重複関係　本跡は I24f$_2$ 区で第28号土坑と重複している。本跡が第28号土坑を掘り込んでおり，本跡の方が新しい。

規模と形状　上幅0.6～1.6m，下幅0.2～0.8m，全長49mである。平面形は「コ」の字状で，断面形は「◡」状をしており，底面は凹凸がある。

方向　調査区のI24f$_2$区から南東方向（N－44°－W）に10m程直線的に延び，I24h$_4$区で南西方向（N－48°－E）に30m程直線的に延び，さらにJ23d$_9$区で北西方向（N－55°－W）に9m延びている。

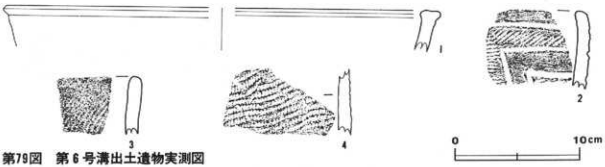
覆土　4層からなり，自然堆積土層と考えられる。

土層解説

1　褐　色　ローム粒子多量，炭化粒子極少量
2　褐　色　ローム粒子多量，黒色土混入
3　褐　色　ローム粒子多量
4　褐　色　ローム粒子多量

遺物　覆土中から土師質土器や流れ込みと思われる縄文土器片が出土している。1は土師質土器鍋の体部～口縁部片である。2は口縁部片で太沈線で区画された中に短沈線で文様が施されている。3，4は縦位の縄文施されている。

所見　本跡の時期は，出土遺物から中世と考えられる。遺構の性格は，墓域を区画するものと考えられる。



第79図　第６号溝出土遺物実測図

第６号溝出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値（cm）	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第79図 1	鍋 土師質土器	A〔32.2〕 B（3.3）	体部から口縁部にかけての破片。体部は外傾して立ち上がり，口縁部は肥厚する。	口縁部，体部内・外面ナデ。	砂粒，長石，雲母にぶい橙色 普通	P106 5%　覆土中

第７Ａ号溝（第77図）

位置　調査区の南東部東寄り，I23c$_7$区～I24h$_3$区。

重複関係　本跡は，I23c$_7$区で第116，180号土坑を，I23d$_8$区で第179号土坑を，I23f$_{9\sim0}$区で第９号掘立柱建物跡を，I24g$_1$区で第38号土坑を，I24h$_2$区で第37号土坑を，I23f$_0$区で第７Ｂ号溝をそれぞれ掘り込んでおり，本跡の方が新しい。

第80図　第７Ａ号溝出土遺物実測図

規模と形状　上幅0.7～1.0m，下幅0.2～0.4m，全長32mである。断面形は「◡」状をしており，底面は凹凸がある。

方向　調査区のＩ23ｃ7区から南東方向（N－49°－W）に直線的に延びている。

覆土　4層からなり，自然堆積土層と考えられる。

土層解説I
1　暗褐色　ローム粒子・ローム小ブロック少量
2　褐　色　ローム小ブロック多量

土層解説J
1　暗褐色　ローム粒子・炭化粒子極少量
2　暗褐色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子極少量
3　褐　色　ローム粒子少量
4　褐　色　ローム粒子多量

覆土　2層からなり，自然堆積土層と考えられる。

遺物　覆土中から土師質土器や陶器の細片が出土している。

所見　本跡の時期は，出土遺物や第9号掘立柱建物跡や墓壙を掘り込んでいることから中世以降と考えられる。

第7A号溝出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第80図 1	皿 土師質土器	A ［ 9.6］ B （ 2.6）	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎気味に外傾して立ち上がり，口縁部は外反する。	口縁部，体部内・外面ナデ。	砂粒 明赤褐色 普通	P107 10%　覆土中
2	皿 陶器	B （ 1.8） C ［ 6.4］	底部片。削り出し高台。	内・外面施釉。	砂粒 オリーブ灰色 良好	P109 5%　覆土中

第7B号溝（第77図）

位置　調査区の南東部，I23e$_4$区～I23f$_0$区。

重複関係　本跡はI23e$_4$区で第7号住居跡を，I23e$_4$区で第24号溝をそれぞれ掘り込んでおり，本跡の方が新しい。また，I23d$_{6\sim7}$区で第28，29号溝と，I23f$_0$区で第7A号溝とそれぞれ重複しており，いずれも掘り込まれているので，本跡の方が古い。

第81図　第7B号溝出土遺物実測図

規模と形状　本跡は第7A，28及び29号溝に掘り込まれているので，全容は不明である。確認した部分の規模は上幅0.6～1.4m，下幅0.2～0.6m，全長26mである。断面形は「⌒」状をしており，底面は凹凸がある。

方向　調査区のI23e$_4$区から北東方面（N－48°－E）に6m程直線的に延び，I23d$_6$区で南東方向（N－61°－W）に20m程直線的に延びている。

遺物　覆土中から須恵器細片が出土している。

所見　本跡の時期は，第7A号溝より古いが，中世以降と考えられる。

第7B号溝出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第81図 1	壺 須恵器	A ［18.0］ B （ 4.1）	体部から口縁部にかけての破片。口縁部は外反する。	口縁部，体部内・外面ナデ。口縁部下端に7本1単位の細い沈線による波線が横位に施されている。	砂粒，長石 暗灰色 良好	P112 5%　覆土中

図版番号	器種	計測値				備考
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	
第81図2	刀子	4.4	1.5	0.2	4	M11，覆土中

第8号溝（第77図）

位置　調査区の北東部から南東部にかけて，H24j$_8$区～I24g$_4$区。

重複関係　本跡はH23f$_0$区で第41号土坑を，H23g$_9$区で第39号土坑を，H23h$_0$区で第11号溝を，I23a$_8$区で第10，24号溝を，I24d$_2$区で第29号土坑をそれぞれ掘り込んでおり，本跡の方が新しい。

規模と形状　北東部，南東部両方向とも調査区外に延びているため，全容は不明である。確認した部分の規模

は上幅1.2～1.6m，下幅0.2～0.6m，全長［69m］である。断面形は「◡」状をしており，底面は凹凸がある。

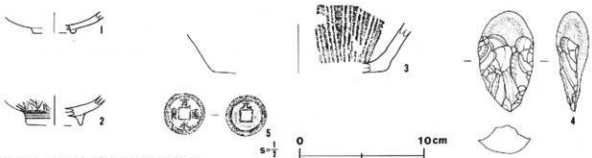
方向　調査区のH24j_6区から南西方向（N－31°－E）に23m程直線的に延び，I23a_8区で南東方向（N－57°－W）に20m程直線的に延び，I24d_2区で南に5m程延び，I24e_2区で南東方向（N－56°－W）に11m程直線的に延びている。

覆土　2層からなり，自然堆積土層と考えられる。

土層解説
1　暗褐色　ローム粒子・焼土粒子・炭化材極少量　　子極少量
2　暗褐色　ローム粒子少量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒

遺物　覆土中から土師質土器や陶器の細片が出土している。

所見　本跡の時期は，出土遺物や第2号地下式壙を掘り込んでいることから，中世以降と考えられる。



第82図　第8号溝出土遺物実測図

第8号溝出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値（cm）	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第82図1	茶碗 陶磁器	B（1.7） D［3.6］ E　0.3	底部から体部下位にかけての破片。削り出し高台。体部は内彎気味に立ち上がる。	内・外面透明釉。絵柄は型紙絵付け。	砂粒 浅黄色 良好	P114 5%　覆土中
2	茶碗 陶磁器	B（2.4） D［4.6］ E　1.0	底部から体部下位にかけての破片。削り出し高台。体部は内彎気味に立ち上がる。	内・外面透明釉。絵柄は紙型絵付け。	砂粒 灰白色 良好	P115 5%　覆土中
3	擂鉢 土師質土器	B（3.9） C［14.2］	底部から体部下位にかけての破片。平底。体部は直線的に立ち上がる。	体部外面ナデ。内面に6本1単位の櫛目が施されている。	砂粒，石英 黒褐色 普通	P116 10%　覆土中

図版番号	器種	計測値				石質	出土地点	備考
		長さ（cm）	幅（cm）	厚さ（cm）	重量（g）			
第82図4	碑	8	4.4	2.6	77.5	頁岩	覆土中	Q31

図版番号	銭名	初鋳年（西暦）		出土地点	備考
		時代	年号（西暦）		
第82図5	寛永通宝	江戸	1668年	覆土中	M12，覆土中

第24号溝（第77図）

位置　調査区の中央部，I23a_8区～J22d_8区。

重複関係　本跡はI23a_8区で第8号溝に，J22d_8区で第27号溝にそれぞれ掘り込まれており，本跡の方が古い。また，本跡は第7号住居跡を掘り込んでおり，本跡の方が新しい。

規模と形状　本跡は第8，27号溝にそれぞれ掘り込まれているため，全容は不明である。確認した部分の規模は上幅0.6～1.6m，下幅0.2～0.6m，全長「66m」である。断面形は「◡」状をしており，底面は凹凸がある。

方向　調査区のI23a8区から南西方向（N－41°－E）に32m程直線的に延び，南方向（N－12°－W）に3m程延び，さらに南西方向（N－39°－E）に31m程直線的に延びている。

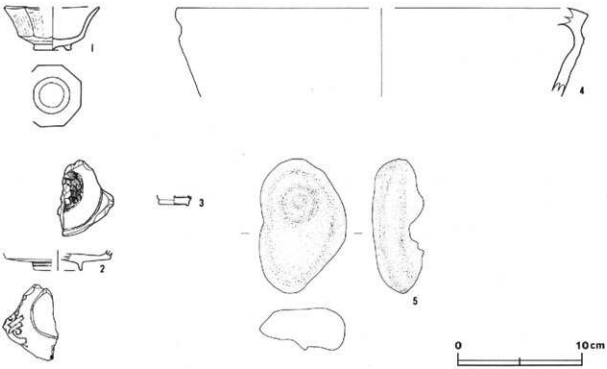
覆土　6層からなり，自然堆積土層と考えられる。

土層解説

1　黒褐色　ローム粒子・ローム小ブロック・焼土粒子極少量
2　黒褐色　ローム中ブロック・焼土粒子少量
3　黒褐色　ローム粒子・ローム小ブロック・炭化粒子少量
4　褐　色　ローム粒子多量
5　暗褐色　ローム粒子・ローム小ブロック少量，ローム中ブロック極少量
6　暗褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量

遺物　覆土中から土師質土器や陶磁器の細片が出土している。

所見　本跡の時期は，出土遺物から中世と考えられる。遺構の性格は，墓域を区画するものと考えられる。



第83図　第24号溝出土遺物実測図

第24号溝出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値（cm）	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第83図 1	白磁八角皿	A［7.6］ B 3.5 D 3.0 E 0.5	底部から口縁部にかけての破片。低い高台を有す。体部は下位で屈曲して立ち上がり，口縁部は外反する。全体は八角形を成す。	内・外面透明釉。体部下位から底部無釉。	砂粒 灰白色 良好	P 123 40%　覆土中
2	高台付皿 陶磁器	B（1.6） C［3.8］	底部片。削り出し高台。	内・外面施釉。絵柄は型紙絵付け。	砂粒 灰白色 良好	P 124 10%　覆土中
3	壺 陶磁器	B（0.7） C 2.4	底部片。削り出し高台。	内・外面鉄釉。高台部無釉。	砂粒 にぶい黄色 良好	P 125 5%　覆土中
4	内耳鍋 土器質土器	A［33.0］ B（7.1）	体部から口縁部にかけての破片。体部は外傾して立ち上がる。	口縁部，体部内・外面ナデ。	砂粒 明褐色 普通	P 126 5%　覆土中

第28号溝（第77図）

位置　調査区の中央部，I23d$_7$区～I23e$_5$区。

重複関係　本跡はI23d$_7$区で第115号土坑を，I23d$_6$区で第７Ｂ号溝と第３号地下式壙を，I23e$_5$区で第４号地下式壙をそれぞれ掘り込んでおり，本跡の方が新しい。

規模と形状　確認した部分の規模は上幅0.5～0.8m，下幅0.2m，全長「7.4m」である。断面形は「◡」状をしており，底面は凹凸がある。

方向　調査区のI23d$_7$区から南西方向（N－41°－E）に直線的に延びている。

遺物　出土していない。

所見　本跡の時期は，第３，４号地下式壙を掘り込んでおり，中世以降と考えられる。

第29号溝（第77図）

位置　調査区の南東部，I23d$_7$区～I23i$_3$区。

重複関係　本跡はI23d$_7$区で第７Ｂ号溝を，I23e$_5$区で第182号土坑を，I23g$_5$区で第130号土坑をそれぞれ掘り込んでおり，本跡の方が新しい。

規模と形状　確認した部分の規模は上幅0.6～1.0m，下幅0.2～0.4m，全長「25m」である。断面形は「◡」状をしており，底面は凹凸がある。

方向　調査区のI23d$_7$区から南西方向（N－37°－E）に直線的に延びている。

覆土　２層からなり，自然堆積土層と考えられる。

土層解説
1　暗褐色　ローム粒子・ローム小ブロック中量，粘土小ブロック少量
2　褐　色　ローム粒子中量

遺物　出土していない。

所見　本跡の時期は，第130，182号土坑を掘り込んでおり，中世以降と考えられる。

その他の溝（付図１）

第１号溝土層解説
1　褐　色　ローム粒子・ローム小ブロック少量，焼土粒子極少量
2　褐　色　ローム粒子・焼土粒子極少量
3　褐　色　ローム粒子少量
4　褐　色　ローム粒子少量

第４号溝土層解説
1　暗褐色　ローム粒子・焼土粒子極少量
2　暗褐色　ローム粒子・焼土粒子極少量
3　褐　色　ローム粒子・ローム小ブロック極少量

第９号溝土層解説
1　暗褐色　ローム粒子・ローム小ブロック・ローム中ブロック極少量
2　褐　色　ローム粒子多量

第10号溝土層解説
1　暗褐色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子極少量
2　褐　色　ローム粒子少量，ローム小ブロック極少量
3　褐　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック極少量

第11号溝土層解説
1　極暗褐色　ローム粒子・ローム中ブロック中量，ローム小ブロック少量
2　褐　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・ローム中ブロック少量
3　暗褐色　ローム粒子中量，ローム中ブロック少量

第14号溝土層解説
1　黒褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量
2　暗褐色　ローム粒子多量，ローム小ブロック中量

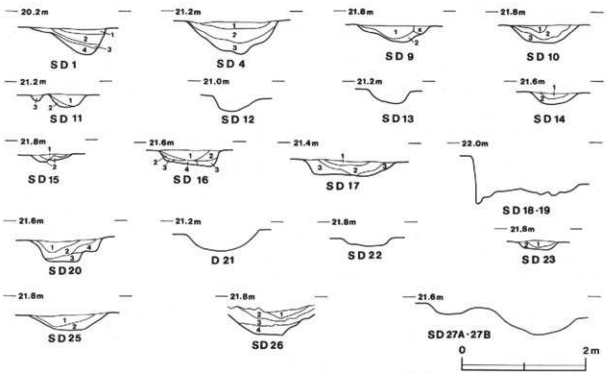
第15号溝土層解説
1　暗褐色　ローム粒子・ローム小ブロック少量
2　褐　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック少量

第20号溝土層解説
1　褐　色　ローム粒子・ローム小ブロック極少量
2　暗褐色　ローム粒子・ローム小ブロック極少量
3　褐　色　ローム粒子中量
4　暗褐色　ローム小ブロック中量，ローム粒子少量

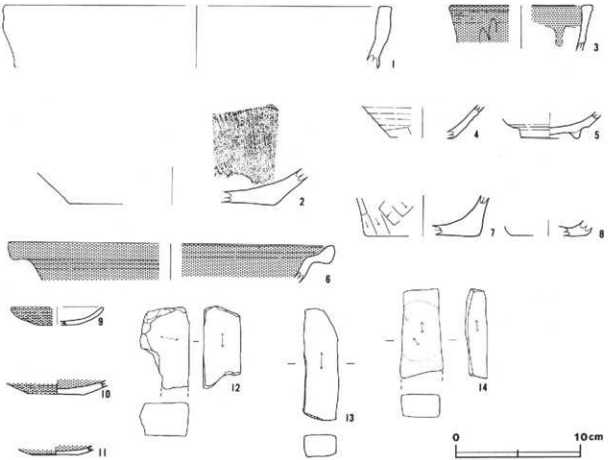
第23号溝土層解説
1　暗褐色　ローム粒子極少量，黒色土混入
2　暗褐色　ローム粒子少量，黒色土混入

第25号溝土層解説
1　暗褐色　ローム粒子・ローム小ブロック少量，焼土粒子極少量
2　暗褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量

第26号溝土層解説
1　褐　色　ローム粒子中量，炭化粒子極少量
2　暗褐色　ローム粒子・ローム小ブロック少量，ローム大ブロック極少量
3　暗褐色　ローム粒子・ローム小ブロック・ローム中ブロック少量
4　暗褐色　ローム粒子・ローム小ブロック・ローム中ブロック少量，焼土粒子極少量



第84図　その他の溝土層・断面実測図



第85図　その他の溝出土遺物実測図

第1号溝出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第85図 1	鉢 土師質土器	A [31.2] B (5.0)	体部から口縁部にかけての破片。体部は外傾して立ち上がり，口縁部は肥厚する。	口縁部　体部内・外面ナデ。	砂粒，雲母，スコリアにぶい橙色 普通	P95 5%　覆土中

第11号溝出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第85図 2	鉢 土師質土器	B (3.0) C [16.6]	底部から体部下位にかけての破片。体部は外傾して立ち上がる。	口縁部，体部内・外面ナデ。内面に5本1単位の細い櫛目紋が施されている。	砂粒，長石 橙色 普通	P118 10%　覆土中
3	壺 陶器	A [11.6] B (3.6)	口縁部片。口縁部は肥厚する。	体部内・外面ナデ。内・外面施釉。	砂粒 黄褐色 良好	P119 5%　覆土中

第14号溝出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第85図 4	坏 須恵器	B (2.7) C [5.0]	底部から体部にかけての破片。体部は直線的に立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。	砂粒 灰黄褐色 良好	P120 5%　覆土中

第18号溝出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第85図 5	大甕系碗 陶器	B　2.1 C　4.8	底部から体部にかけての破片。削り出し高台。体部は内彎気味に立ち上がる。	体部内・外面ナデ。体部外面下位無釉。	砂粒 灰白色 良好	P121 10%　覆土中

第19号溝出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第85図 6	壺 陶器	A [26.0] B (3.0)	頸部～口縁部片。頸部は直線的に立ち上がる。口縁部は大きく外反し，口縁端部は上方につまみあげられている。	体部内・外面ナデ。。口縁部，体部内・外面鉄釉。	砂粒，石英 明赤褐色 良好	P122 5%　覆土中

第26号溝出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴及び文様	胎土・色調・焼成	備考
第85図 7	深鉢 縄文土器	B (3.3) C [9.2] B (1.2)	底部片。底面近く は，縦位のナデが施されている。	砂粒，長石，不明，雲母 にぶい黄橙色 普通	P127 5%　覆土中
8	深鉢 縄文土器	C [6.4]	底部片。平底。	砂粒 にぶい橙色 普通	P128 5%　覆土中

第27号溝出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第85図 9	皿 陶器	A [7.5] B (1.5) C [3.0]	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部は屈折して立ち上がる。	体部内・外面ナデ。底部回転糸切り。体部内面，口縁部外面鉄釉。体部外面無釉。	砂粒 灰白色，黒色，黒褐色 良好	P129 10%　覆土中
10	皿 陶器	B (1.2) C [4.2]	底部から体部にかけての破片。平底。体部は大きく外傾して立ち上がる。	体部内・外面ナデ。体部内面鉄釉。体部外面，底部無釉。	砂粒 灰黄，黒色，黒褐，灰白色 良好	P130 10%　覆土中
11	皿 陶器	B (0.7) C [3.2]	底部から体部下位にかけての破片。体部は大きく外傾して立ち上がる。	体部内・外面ナデ。体部内面鉄釉。体部外面，底部無釉。	砂粒 灰褐，黒色，灰白，黒褐色 良好	P131 5%　覆土中

第11号溝出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 長さ（cm）	幅（cm）	厚さ（cm）	重量（g）	石質	出土地点	備考
第85図12	砥石	6.6	3.9	2.7	90.2	花崗岩	覆土中	Q32

第12号溝出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 長さ（cm）	幅（cm）	厚さ（cm）	重量（g）	石質	出土地点	備考
第85図13	砥石	9	2.8	1.8	72.3	凝灰岩	覆土中	Q34
14	砥石	7.3	3.5	1.9	66.6	花崗岩	覆土中	Q35

表5　甚五郎崎遺跡溝一覧表

溝番号	位置	方向	形状	規模 長さ（m）	上幅（cm）	下幅（cm）	深さ（cm）	壁面	底部	覆土	出土遺物	備考 新旧関係（古・新）
1	K24区	西→東	ほぼ直線状	16	180	92	26	緩斜	凹状	自然	縄文土器片，土師質土器片，鞴片	
2	J23区	北西→南東	直進状	55	70	27	9	緩斜	平坦	自然	縄文土器片，土師質土器片	SI－6→本跡
3	J24区	北東→南東	L字状	43	86	23	25	外傾	平坦	自然	土師質土器片，鞴片，貝	本跡→SD－5
4	J24区	北東→南西	直進状	15	140	40	51	外傾	平坦	自然	縄文土器片	
5	J24区	北東→南西	直進状	25	80	20	22	外傾	平坦	自然	縄文土器片，土師質土器片，陶器片	SK－9→本跡
6	I24区	北西→北東	コの字状	49	118	60	20	外傾	平坦	自然	土師質土器片，鞴片	SK－29→本跡
7A	I23区	北西→南東	直進状	32	94	34	10	外傾	平坦	自然	縄文土器片，土師質土器片，陶器片	SK 27,32,1K,D3,5K,SB4SD 7B→本跡
7B	I23区	北西→南東	直進状	26	96	56	11	緩斜	平坦	自然	縄文土器片，土師質土器片，須恵器片	SD-24,SI-7→本跡→SD 7A,29,29
8	H23区	南東→北東	L字状	69	155	28	50	外傾	凹状	自然	縄文土器片，土師質土器片，陶器片	SK－39, 41, SD 10, 11, 24→本跡
9	I24区	南西→北東	直進状	19	114	14	23	外傾	凹状	自然	縄文土器片	
10	I23区	南東→北西	直進状	20	110	40	27	外傾	平坦	自然		本跡→SD－8
11	H23区	南東→北東	クランク状	43	160	80	33	外傾	凸凹	自然	縄文土器片，土師質土器片，陶器片	
12	G23区	東→西	直進状	15	74	36	27	外傾	平坦	自然		
13	G23区	南→北	直進状	22	68	34	20	外傾	平坦	自然	縄文土器片	
14	H23区	西→東	直進状	40	84	32	38	緩斜	平坦	自然	縄文土器片，須恵器片	
15	I 23区	北→南	ほぼ直進状	13	70	28	15	緩斜	傾斜	自然		
18	H21区	北→南	ほぼ直進状	17	94	50	12	外傾	平坦	自然	縄文土器片，陶器片	
19	H21区	北→南	ほぼ直進状	10	38	10	20	外傾	平坦	自然	縄文土器片，土師質土器片，陶器片	
20	H21区	北西→南	L字状	25	114	56	32	緩斜	平坦	自然		
21	H20区	北→南	直進状	7	110	58	25	外傾	凹状	自然		
22	I 22区	北西→南東	直進状	22	54	28	13	緩斜	平坦	自然		
23	I 22区	北西→南東	直進状	10	60	35	15	緩斜	平坦	自然		
24	I 23区	南西→北東	ほぼ直進状	66	94	36	25	緩斜	平坦	自然	縄文土器片，土師質土器片，陶器片	SI 7→本跡→SD－8, 27
25	J 23区	北東→南東	L字状	40	106	18	25	緩斜	平坦	自然	縄文土器片，土師質土器片	
26	J 22区	北東→南西	直進状	27	130	20	45	外傾	平坦	自然	縄文土器片，須恵器片，土師質土器片	
27	J 22区	北西→南	L字状	29	140	108	16	外傾	平坦	自然	縄文土器片，須恵器片，陶器片	
28	I 22区	南西→北東	直進状	7.4	80	20	14	緩斜	凹状	自然		SK 115, 119, 177→本跡
29	I 22区	南西→北東	直進状	25	60	20	30	外傾	平坦	自然		

7　遺構外出土遺物

当調査区の遺構外から出土した遺物について，縄文土器は拓影図で紹介し，他の遺物は一覧表で紹介する。

縄文土器片拓影図（第86～92図）

第１群の土器（第86図１～９）縄文時代早期に比定される土器を本群とする。

a類　井草式に比定される土器

１は口唇部が肥厚で外反し，口縁部下に撚糸で横方向に施文されている。

b類　田戸下層式に比定される土器

２は胴部片で，２本の太沈線が平行に横位，斜位に施され，太沈線の間に刺突文が施されている。

c類　茅山下層式に比定される土器

３～７は口縁部片，８，９は胴部片で，表裏に条痕文が施されている。

第２群の土器（第86・87図10～36，82，83）縄文時代前期に比定される土器を本群とする。

a類　関山式に比定される土器

10，11はコンパス文，12，13は組紐縄文，14はループ文で口縁部に斜位の沈線文が施されている。15は組紐と単節で羽状構成がなされている。

b類　浮島式に比定される土器

16は爪形文，17は貝殻腹縁文が施されている。18は条線，19は沈線で文様が施されている。20～23は口唇に刻み目が施され，20，21は沈線文，22，23は爪形文が施されている。24，25は胴部片で，変形爪形文，三角刺突文が施されている。

c類　興津式に比定される土器

26～29は口縁部片で，口縁に短沈線が施文されている。30は連続三角刺突文と条線文，31は波状貝殻文，32は変形爪形文が施されている。

d類　諸磯式に比定される土器

33は口縁部片で，地文縄文に浮線文と刻み目が施されている。

e類　粟島台式に比定される土器

34は口縁部片，35，36は胴部片で，縄紐の直曲文的圧痕文が施されている。

第３群の土器（第86・87図37～53）縄文時代後期に比定される土器を本群とする。

a類　称名寺Ⅰ式に比定される土器

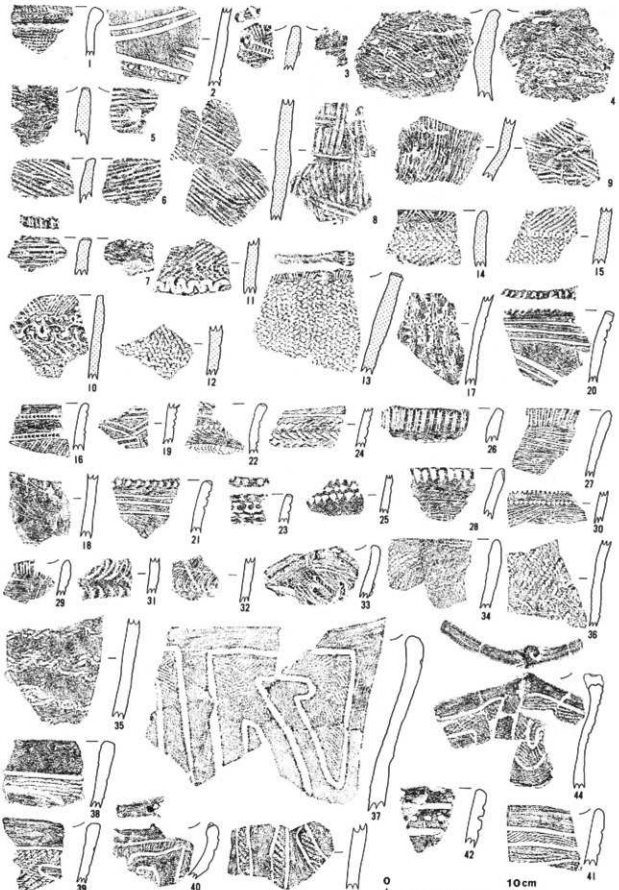
37～41，43は縄文を施し，太沈線で文様を描き区画内が磨消されている。46はさらに区画外に円形竹管による刺突文が施されている。44は波状口縁で波頂部に小突起が見られ，区画内に縄文が施されている。

b類　称名寺Ⅱ式に比定される土器

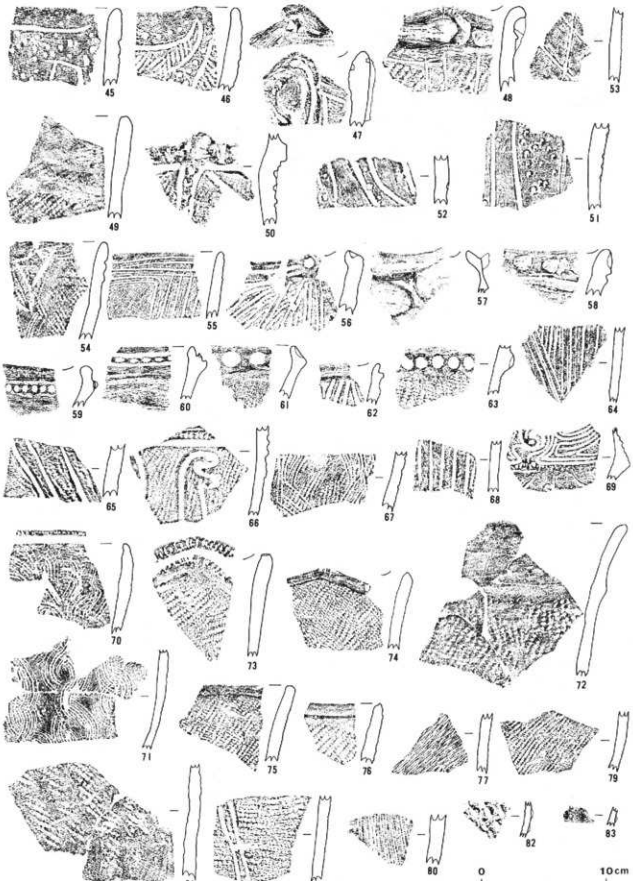
42，45は太沈線で描かれた区画内に刺突文がを施されている。47～49は波状口縁で，太沈線で描かれた区画内に縄文や刺突文が施されている。50～52は胴部片で，区画内に刺突文が施されている。53は沈線で斜格子文が施されている。

c類　堀之内Ⅰ式に比定される土器

54は縄文地文に短沈線が施され，55は半截竹管による平行沈線で区画されている。56は口縁外面に沈線が巡らされ，波頂に刺突文がを施され，縦位，斜位の沈線がを施されている。57は波状口縁で，隆帯を用いて楕円形のモチーフが描かれている。58，61は口縁外面に指頭による押圧がを施されている。59，60，62



第86図　遺構外出土遺物拓影図(1)



第87図　遺構外出土遺物拓影図(2)

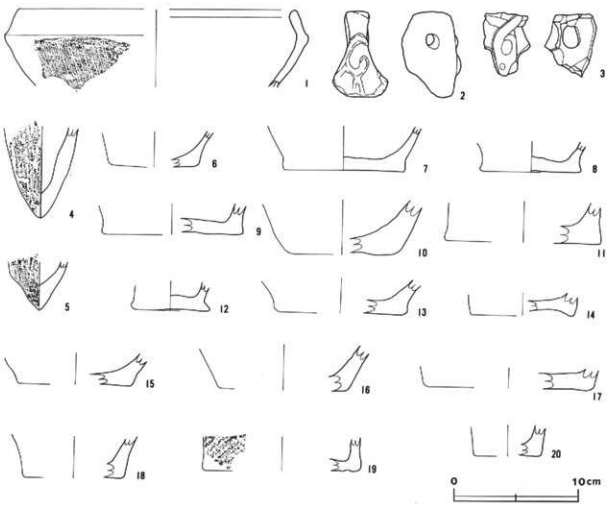
は口縁外面に沈線がを巡らされている。63，65～68は胴部片で，縄文地文に沈線が施されている。64は沈線による縦位，斜位の文様が施されている。70，71は櫛歯状工具による細沈線が連続して施されている。73，74は波状口縁で，73は口唇に刻み目が施されている。75，76，79は縄文が横方向に施され，78は複節縄文地文に縦位の太沈線が２本施されている。77は撚りもどしの縄文が施されている。80は条線で文様が施されている。81は単節の縄文が粗く施されている。

d 類　堀之内Ⅱ式に比定される土器

69は胴部で，沈線で直，曲線的な文様が描かれている。

第４群の土器（第87図82，83）新潟県地方の三十稲葉式土器様式

82は篦状工具による刺突文が施され，83とともに豆粒状突起がを施されている。

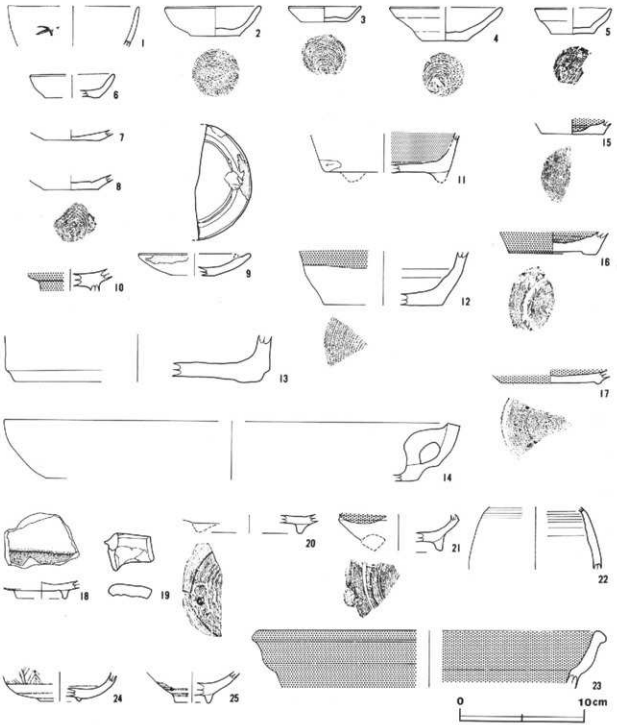


第88図　遺構外出土遺物実測図(3)

遺構外出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第88図 1	浅鉢 縄文土器	A [22.0] B (8.2)	胴部から口縁部にかけての破片。胴部は外傾して立ち上がり，口縁部は内彎気味に立ち上がる。胴部には斜位の条線が施されている。	砂粒，石英，スコリア 橙色 普通	P143 5% 表面採集
2	深鉢 縄文土器		把手片。中央に孔が穿たれている。外面には粘土紐の貼り付けによるC字状の隆帯がある。	砂粒 橙色 普通	P145 5% 表面採集

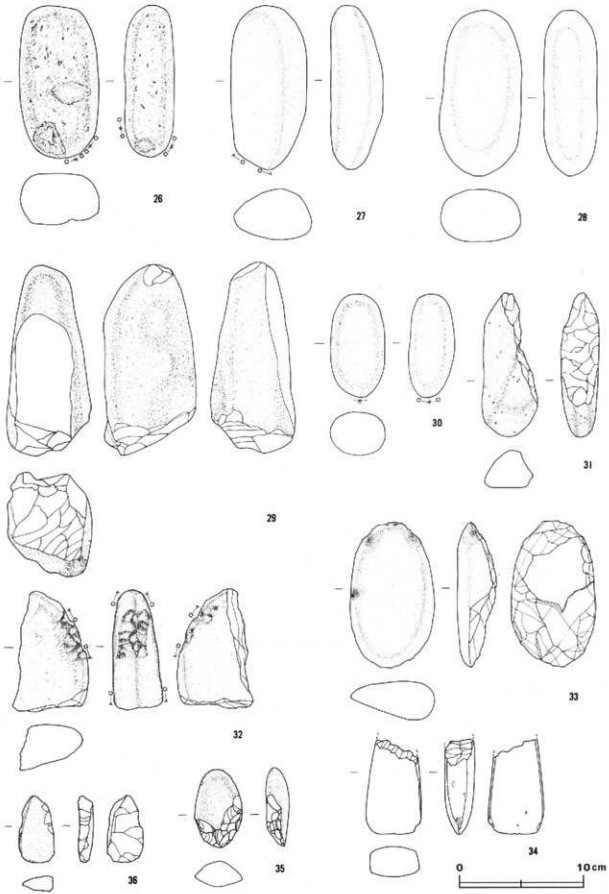
図版番号	器種	計測値 (cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第88図 3	深鉢 縄文土器		把手片。中央と上面に孔が穿たれている。外面中央には刺突文が施されている。	砂粒、石英 にぶい橙色 普通	P 146 5% 表面採集
4	尖底深鉢 縄文土器	B (7.3)	底部片。底部は楕円形をし、外面に縦位の貝殻条痕文が施されている。胎土に繊維を含む。	砂粒、長石 内面 褐色 外面 明褐色 普通	P 147 5% 表面採集
5	尖底深鉢 縄文土器	B (3.8)	底部片。底部は楕円形をし、外面に縦位の貝殻条痕文が施されている。胎土に繊維を含む。	砂粒、長石 内面 褐色 外面 褐色 普通	P 148 5% 表面採集
6	深鉢 縄文土器	B (2.9) C [7.0]	底部から胴部にかけての破片。平底。胴部は外傾して立ち上がる。	砂粒 にぶい褐色 普通	P 149 5% 表面採集
7	深鉢 縄文土器	B (3.6) C [9.8]	底部から胴部にかけての破片。底部は突出気味。胴部は外傾して立ち上がる。	砂粒 にぶい橙色 普通	P 150 5% 表面採集
8	深鉢 縄文土器	B (2.5) C 8.2	底部から胴部にかけての破片。平底。底部は突出気味で、内面は中央が盛り上がっている。胴部は外傾して立ち上がる。	砂粒、スコリア 灰褐色 普通	P 151 5% 表面採集
9	深鉢 縄文土器	B (2.5) C [11.4]	底部から胴部にかけての破片。平底。底部は突出気味で、胴部は直角に近い角度で立ち上がる。	砂粒、石英、雲母 にぶい橙色 普通	P 152 5% 表面採集
10	深鉢 縄文土器	B (4.4) C [8.8]	底部から胴部下位にかけての破片。平底。胴部は外傾して立ち上がる。	砂粒 にぶい橙色 普通	P 153 5% 表面採集
11	深鉢 縄文土器	B (3.3) C [12.8]	底部から胴部下位にかけての破片。平底。胴部は直角に近い角度で立ち上がる。	砂粒、石英、雲母 にぶい赤褐色 普通	P 154 5% 表面採集
12	深鉢 縄文土器	B (2.4) C 8.2	底部から胴部下位にかけての破片。底部は突出しており、胴部は直角に近い角度で立ち上がる。	砂粒、石英 にぶい褐色 普通	P 155 5% 表面採集
13	深鉢 縄文土器	B (2.9) C [10.8]	底部片。底部は突出気味で胴部は外傾して立ち上がる。	砂粒 にぶい褐色 普通	P 156 5% 表面採集
14	深鉢 縄文土器	B (1.9) C [8.2]	底部片。上げ底気味の底部で中央は凹くなる。	砂粒、石英 にぶい橙色 普通	P 157 5% 表面採集
15	深鉢 縄文土器	B (2.6) C [9.2]	底部から胴部下位にかけての破片。胴部は内彎気味に立ち上がる。	砂粒 橙色 普通	P 158 5% 表面採集
16	深鉢 縄文土器	B (3.7) C [10.4]	底部から胴部下位にかけての破片。胴部は外傾して立ち上がる。	砂粒、石英、長石 明赤褐色 普通	P 159 5% 表面採集
17	深鉢 縄文土器	B (1.7) C [13.8]	底部片。	砂粒、長石、石英、雲母 にぶい褐色 普通	P 160 5% 表面採集
18	深鉢 縄文土器	B (3.4) C [8.2]	底部から胴部下位にかけての破片。胴部は外傾して立ち上がる。	砂粒、石英 にぶい橙色 普通	P 161 5% 表面採集
19	深鉢 縄文土器	B (2.7) C [12.8]	底部から胴部下位にかけての破片。胴部は直角に近い角度で立ち上がる。胴部は簡単な縄文が施されている。	砂粒 にぶい褐色 普通	P 162 5% 表面採集
20	深鉢 縄文土器	B (2.5) C [5.4]	底部から胴部下位にかけての破片。胴部は直角に近い角度で立ち上がる。無紋。	砂粒、石英 にぶい赤褐色 普通	P 163 5% 表面採集



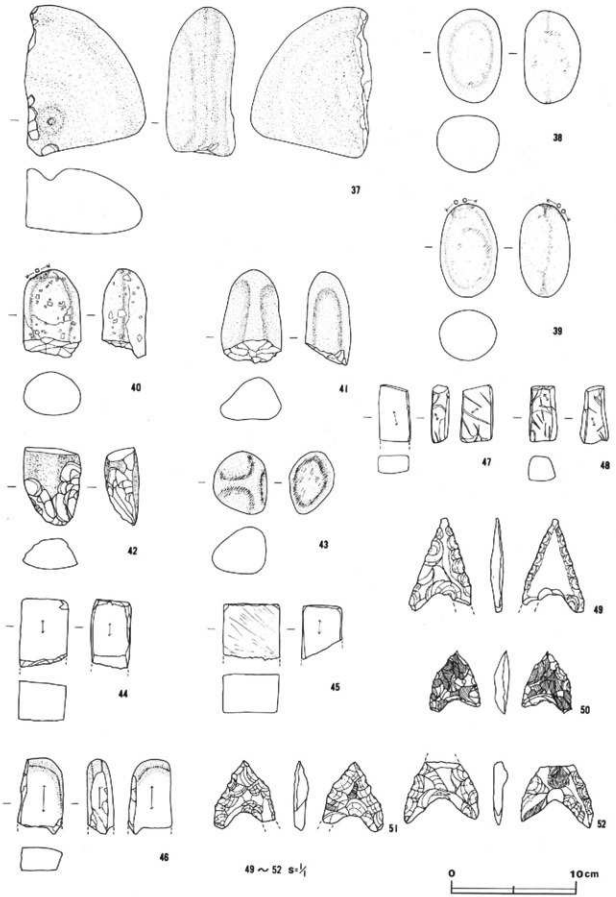
第89図　遺構外出土遺物実測図(4)

遺構外出土遺物観察表

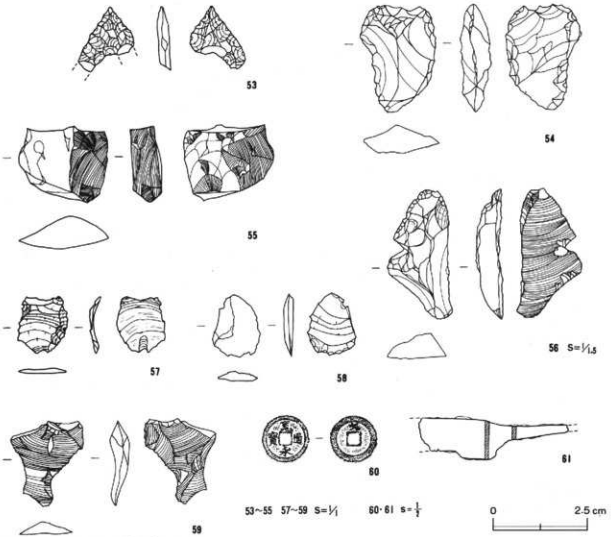
図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第20図 1	茶碗 陶磁器	A [10.4] B (3.2)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎気味に立ち上がる。	内・外面透明釉。外面に紙型絵付けによる絵柄。	砂粒 灰白色 良好	P132 5%　表面採集
2	皿 土師質土器	A 7.8 B 2.5 C 4.0	平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部はわずかに外反する。	内面，口縁部外面ナデ。底部回転糸切り。	砂粒，雲母，スコリア にぶい橙色 普通	P133 100%　表面採集



第90図　遺構外出土遺物実測図(5)



第91図　遺構外出土遺物実測図(6)



第92図　遺構外出土遺物実測図(7)

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第89図 3	Ⅲ 土師質土器	A 5.8 B 1.3 C 3.7	体部、口縁部一部欠損。平底。体部は直線的に立ち上がる。	内・外面ナデ。底部回転糸切り。	砂粒 にぶい橙色 普通	P 134 75% 表面採集
4	Ⅲ 土師質土器	A [9.0] B 2.8 C 3.6	体部、口縁部一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がる。	内・外面ナデ。底部回転糸切り。	砂粒 浅黄橙色 普通	P 135 50% 表面採集
5	Ⅲ 土師質土器	A [6.2] B 2.1 C 3.6	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内彎気味に立ち上がり，に外反する。口縁部は外反する。	内・外面ナデ。底部回転糸切り。	砂粒 にぶい橙色 普通	P 136 45% 表面採集
6	Ⅲ 土師質土器	A [6.8] B 1.9 C [4.4]	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内彎気味に立ち上がる。	内・外面ナデ。底部回転糸切り。	砂粒、雲母、スコリア にぶい橙色 普通	P 137 45% 表面採集
7	Ⅲ 土師質土器	B (0.9) C 4.4	底部から体部下位にかけての破片。平底。体部は大きく外傾して立ち上がる。	底部回転糸切り。	砂粒、雲母 にぶい橙色 普通	P 138 25% 表面採集
8	Ⅲ 土師質土器	B (1.2) C 4.4	底部から体部下位にかけての破片。平底。体部は大きく外傾して立ち上がる。	底部回転糸切り。	砂粒 にぶい黄橙色 普通	P 139 25% 表面採集

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第89図 9	灯明皿 陶器	A [9.0] B 1.8 C [3.4]	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内彎して立ち上がる。口縁部はかえりを巡らせている。	内・外面ナデ。	砂粒、長石 明赤褐色 良好	P 140 45% 表面採集 口縁部に煤付着
10	碗 陶器	B (1.8)	底部から体部下位にかけての破片。削り出し高台。体部は内彎気味に大きく外傾して立ち上がる。	底部内面透明釉。体部外面に緑灰釉。	砂粒 内面 灰白色 外面 淡黄色 良好	P 141 5% 表面採集
11	香炉 瓦質土器	B (3.8) D [10.0] E (0.9)	底部から体部下位にかけての破片。平底。足を有す。体部は内彎気味に立ち上がる。	底部内・外面ナデ。	砂粒、長石、雲母 内面 黒褐色 外面 灰黄色 普通	P 164 10% 表面採集
12	壺 陶器	B (4.3) C [9.6]	底部から体部下位にかけての破片。体部は内彎気味に立ち上がる。	内・外面ナデ。底部回転糸切り。体部外面中位に鉄釉。	砂粒 灰褐色 普通	P 165 5% 表面採集
13	鍋 土師質土器	B (3.8) C [19.8]	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は底部に立ち上がる。	体部内・外面ナデ。	砂粒、長石、石英、雲母、スコリア 褐灰色 普通	P 167 10% 表面採集
14	内耳鍋 土師質土器	A [36.6] B (4.7) C [29.6]	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内彎気味に立ち上がる。	体部内・外面ナデ。	砂粒、長石、石英、雲母 明赤褐色 普通	P 168 5% 表面採集
15	皿 陶器	B (1.2) C 5.0	底部片。平底。	底部内面鉄釉。外面無釉。	砂粒、長石 内面 赤褐色 外面 にぶい赤褐色 普通	P 170 10% 表面採集
16	碗 陶器	B (1.8) C 7.2	底部片。底部は低い削り出し高台。	底部内・外面鉄釉。	砂粒 黒褐色 普通	P 171 5% 表面採集
17	皿 陶器	B (1.0) C 8.0	底部片。削り出し高台。平底。	底部内・外面透明釉。	砂粒 灰白色 良好	P 172 5% 表面採集
18	碗 陶器	B (1.4) D [4.0] E 0.7	底部片。丸みを帯びた平底にハの字状に開いた低い高台を持つ。	内・外面に鉄釉と灰釉の流し分けがなされている。	砂粒、長石 浅黄色 良好	P 173 10% 表面採集
19	片口 陶器		片口から口縁部にかけての破片。口縁端部内側にかえりを巡らせ、片口部分で切れる。片口は半円状。	口縁部、片口灰釉。	砂粒、長石 オリーブ黄色 良好	P 174 5% 表面採集
20	香炉 陶器	B (1.7) D [6.4] E 0.9	底部片。平底。足を有す。	内・外面ナデ。無釉。	砂粒、長石 浅黄色 普通	P 176 5% 表面採集
21	香炉 陶器	B (3.0) D [7.0] E 1.4	底部から体部にかけての破片。平底。足を有す。体部は内彎気味に外傾した後、垂直に立ち上がる。	内・外面ナデ。体部内・外面中位鉄釉。体部外面下位、底部無釉。	砂粒 内面 褐色 外面 淡黄色 普通	P 177 10% 表面採集
22	壺 陶器	B (5.0)	体部片。	内・外面ナデ。	砂粒 明黄褐色 普通	P 178 5% 表面採集
23	甕 陶器	A [28.4] B (4.6)	頸部から口縁部にかけての破片。口縁部は外反して立ち上がる。外側ぎ状で口唇部外面に突起を巡らす。	内・外面ナデ。内・外面鉄釉。	砂粒 にぶい赤褐色 普通	P 179 5% 表面採集
24	碗 磁器	B (2.3) D [3.2] E 0.3	底部から体部にかけての破片。削り出し高台。体部は内彎して立ち上がる。	内・外面ナデ。絵柄は型紙絵付けで、透明釉。	砂粒 灰白色 普通	P 180 5% 表面採集
25	碗 陶器	B (2.5) D [3.0] E 0.6	底部から口縁部下位にかけての破片。削り出し高台。体部は内彎気味に立ち上がる。	絵柄は紙型絵付けで、透明釉。	砂粒 灰白色 良好	P 181 5% 表面採集

遺構外出土遺物

図版番号	器種	計測値 長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	石質	出土地点	備考
第90図26	敲石	12.2	6.3	4.1	517.9	安山岩	SK－29	Q36
27	敲石	13.2	6.2	4.1	458	安山岩	SK－29	Q37
28	磨石	13.3	6.7	4.2	589.5	安山岩	表面採集	Q38
29	スタンプ形石器	15.2	7.5	6.9	898.4	砂岩	表面採集	Q39
30	磨石	8.2	4.4	3.5	181.5	安山岩	表面採集	Q40
31	磨石	11.5	4.4	3.3	168.9	凝灰岩	SK－119	Q41
32	磨石	9.6	6.1	4	270.4	安山岩	表面採集	Q42
33	石斧	11.7	6.8	3.5	282.2	砂岩	SK－26	Q43
34	磨製石斧	7.6	4.4	2.4	151.8	緑色片岩	SK－119	Q45
35	磨石斧	6.4	4	1.9	54.5	安山岩	表面採集	Q46
36	石斧	5.4	2.8	1.2	22.1	安山岩	表面採集	Q48
第91図37	臼	12	9.8	5.6	848.5	安山岩	表面採集	Q49
38	磨石	7.5	5	4.6	244.5	安山岩	SK－29	Q53
39	磨石	7.4	4.6	4.6	194.6	安山岩	表面採集	Q54
40	敲石	7.1	4.6	3.5	149.8	安山岩	SK－32	Q55
41	敲石	7.4	4.9	3.4	144.1	安山岩	表面採集	Q56
42	磨石斧	6.1	4.6	2.7	89.5	砂岩	表面採集	Q57
43	磨石	5	4.3	3.8	97.4	安山岩	SI－8覆土	Q58
44	砥石	6.5	3.9	3.1	111.6	泥岩	表面採集	Q61
45	砥石	4.6	4.6	3.1	103.4	花崗岩	表面採集	Q62
46	砥石	6.2	3.7	1.9	66.2	砂岩	表面採集	Q63
47	砥石	4.6	2.6	1.4	27.4	安山岩	表面採集	Q64
48	砥石	4.5	2.3	2.2	30.4	凝灰岩	表面採集	Q65
49	石鏃	2.5	1.7	0.4	0.9	チャート	表面採集	Q66
50	石鏃	1.6	1.3	0.3	0.6	黒曜石	表面採集	Q67
51	石鏃	1.8	1.6	0.4	0.7	黒曜石	SB－8 表採	Q68
52	石鏃	1.7	2	0.4	0.8	頁岩	表面採集	Q69 先端欠
第92図53	石鏃	1.7	1.5	0.4	0.5	チャート	SD－9 表採	Q70 右脚欠
54	剥片	2.8	1.9	0.3	4	チャート	表面採集	Q71
55	剥片	2	2.4	8	3.7	黒曜石	表面採集	Q72
56	剥片	3.1	2.7	1.1	9.7	黒曜石	表面採集	Q73
57	剥片	1.5	1.3	0.2	0.1	黒曜石	表面採集	Q74
58	剥片	1.6	1.3	0.3	0.4	チャート	表面採集	Q75
59	剥片	2.3	1.9	0.5	0.8	黒曜石	表面採集	Q76

遺構外出土金属製品観察表

図版番号	器種	計測値 長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	備考
第92図61	刀子	10.6	2.3	0.3	24	M13 表面採集

遺構外出土古銭一覧表

図版番号	銭名	初鋳年（西暦） 時代	年号（西暦）	出土地点	備考
第92図60	寛永通宝	江戸	1668年	表面採集	M14, 覆土中

第4節　まとめ

今回の調査によって，当遺跡は縄文時代，奈良・平安時代及び中・近世の複合遺跡であることが明らかになった。ここでは，各時期ごとに概観してまとめとしたい。

縄文時代

当遺跡における縄文時代の住居跡は5軒で，東側の台地縁辺部から中央部にかけて不規則に存在している。時期別に見ると，早期1軒（第6号），前期3軒（第2・4・5号）及び不明1軒（第1号）である。出土遺物から見ると，早期の第6号住居跡からは，茅山下層式の表裏貝殻条痕文の土器片が主に出土しており，早期後半に比定される。さらに，住居跡周辺に9基の屋外炉が存在し，その内6基から茅山下層式の土器片が出土している。前期の住居跡では，第4・5号住居跡から関山式土器片，第2号住居跡から浮島式土器片が主に出土している。第4・5号住居跡は竈内に炉を持った住居跡である。時期不明の住居跡は，出土した土器片の量が少ないうえに田戸下層式，田戸上層式，茅山式，鵜津式及び粟島台式と時期差も大きく違う土器が混在し出土しているため，時期判定はできなかった。小貝川の支流が作った複雑な支谷に南方へ舌状に張り出した当地には，縄文時代早期後半の早い段階から人々の生活が始められていたことが窺える。遺構は発見できなかったが，称名寺式，堀之内式など後期の土器片も多く出土しており，当遺跡周辺に当時も人々が生活していた可能性が考えられる。しかし，縄文時代中期の土器片はほとんど出土しておらず，この時期には人々の生活が中断していることがわかる。

奈良・平安時代

当遺跡における奈良・平安時代の住居跡は3軒で，遺跡南東部に2軒（第7・8号），北西部に1軒（第3号）確認されている。出土遺物から時期別に見ていくと，いずれも9世紀中頃から後半にかけての住居跡で，第3，8号住居跡からは7点の墨書土器が出土している。特に第3号住居跡は長軸3.34m，短軸2.94mの隅丸長方形の小型の住居跡であるが，同一住居跡から6点もの墨書土器が出土している点が注目される。墨書された文字や土器の出土位置などについては，次のとおりである。

遺構名	出土位置	釈文	種別	器種	部位	備考
ＳＩ３	中央部床面	袋	土師器	坏	底部外面	
ＳＩ３	中央部床面	庄	土師器	坏	体部外面	
ＳＩ３	南西部床面	山　本	土師器	坏	底部外面	内面黒色処理，縦位に記入
ＳＩ３	中央部床面	三	土師器	坏	底部外面	内面黒色処理
ＳＩ３	南東部床面	袋	土師器	坏	底部外面	
ＳＩ３	南東部覆土	庄	土師器	高台付皿	底部外面	
ＳＩ８	竈東側壁際	得	須恵器	坏	底部外面	

本県南部における墨書土器の出土例は，龍ヶ崎市の「外八代遺跡」[1]，江戸崎町の「思川遺跡」[2]，桜川村の「柏木古墳群」[3]など数多く存在している。それらの遺跡からの墨書土器の時期をみると，9世紀後半頃が最も多く，この時期に読み，書きができ，文字の意味を理解できる人々が増加していたことがわかる。

中・近世

当遺跡南東部の台地縁辺部に，溝で区画された墓域と思われる遺構が確認された。区画内には７基の小竪穴状遺構，４基の地下式壙，８基の粘土貼り遺構，13基の長方形土坑及び１棟の掘立柱建物跡が確認されている。区画内中央部北寄りに第９号掘立柱建物跡が位置し，掘立柱建物跡の三方を囲むように第１～７号小竪穴状遺構や第１～４号地下式壙が点在する。そして，掘立柱建物跡の南西側に粘土貼り遺構や長方形土坑が点在する。これらの遺構から，刀子や古銭などの副葬品，仏花瓶や香炉などの仏具が出土している。北西方向に所在する中世の高井城跡と関連する可能性も考えられる。

注

(1) 茨城県教育財団　『外八代遺跡』　茨城県教育財団文化財調査報告Ⅱ　1979年

(2) 茨城県教育財団　『思川遺跡』　茨城県教育財団文化財調査報告第65集　1990年

(3) 茨城県教育財団　『柏木古墳群』　茨城県教育財団文化財調査報告第74集　1991年

参考文献

○ 海老澤　稔　「常陸国信太郡出土墨書土器集成から」『研究ノート』３号　茨城県教育財団　1994年

○ 平川　　南　「墨書土器とその字形－古代村落における文字の実相－」
『国立歴史民族博物館研究報告』第35集1991年

○ 茨城県教育財団　『南三島３・４区（II）』　茨城県教育財団文化財調査報告第49集　1989年

○ 茨城県教育財団　『西ノ脇・前田村遺跡』　茨城県教育財団文化財調査報告第87集　1993年

第4章　下高井向原Ⅰ遺跡

第1節　遺跡の概要

下高井向原Ⅰ遺跡は，取手市北西部，小貝川右岸から南西方向に入り込む支谷に面した標高18～22mの舌状台地上にあり，当遺跡の東方700mには甚五郎崎遺跡，北側には下高井向原Ⅱ遺跡，東側には下高井城跡，如何崎遺跡及び東遺跡がある。当遺跡は縄文時代，古墳時代，奈良・平安時代の複合遺跡である。現況は山林で，面積は5,221㎡である。

今回の調査によって縄文時代の竪穴住居跡4軒，土坑13基，古墳時代の住居跡1軒，奈良・平安時代の土坑墓1基を確認し，他に時期不明の土坑11基，溝5条を確認した。

遺物は，遺物収納箱（60×40×20cm）に31箱出土している。縄文時代の出土遺物は，早期から前期，後期の縄文土器片，貝，石鏃及び磨製石斧である。古墳時代の出土遺物は，土師器の埦，高坏及び壺である。奈良・平安時代の出土遺物は，和鏡「瑞花双鳳五花鏡」と刀子である。

第2節　基本層序

調査区域北東側の台地平坦部（16i₅区）にテストピットを設定した。深さ4.0mまで掘り下げ，第93図に示すような土層の堆積状況を確認した。

第1層　厚さ25cmの褐色土で，黒色土が混じり，ローム粒子を少量含む。粘性は弱いが締まりは強い。

第2層　厚さ20cmの褐色土で，ローム粒子を中量，ローム小ブロックを極少量含む。

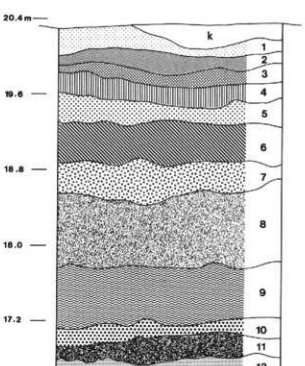
第3層　厚さ15cmの褐色土で，粘性は弱いが締まりは強い。

第4層　厚さ20cmの褐色土で，ローム粒子を中量，ローム小ブロックを少量含む。

第5層　厚さ30cmの褐色土で，ローム粒子を中量，ローム小ブロックを少量含む。粘性は弱いが締まりは強い。

第6層　厚さ50cmの褐色土で，ローム粒子を少量含み，粘性がある。

第7層　厚さ30cmの褐色土で，ローム粒子を極少量，粘土粒子を中量含む。粘性があり，締まりは強い。



第93図　基本土層図

第8層　厚さ80cmの褐色土で，ローム粒子を少量，粘土粒子を中量含む。粘性があり，締まりは強い。

第9層　厚さ60cmの褐色土で，粘土粒子を多量に含む。粘性があり，締まりは強い。

第10層　厚さ20cmの褐色土で，砂が混じり粘土粒子を多量に含む。粘性があり，締まりは強い。

第11層　厚さ25cmのにぶい褐色土で，含水率が高い。粘土粒子を多量に含み，締まりが強い。

第12層　厚さ20cmの褐灰色土で，赤色含有物を含む。粘土粒子を多量に含み，締まりが強い。

第3節　遺構と遺物

1　竪穴住居跡

(1)　縄文時代の住居跡

第1号住居跡（第94図）

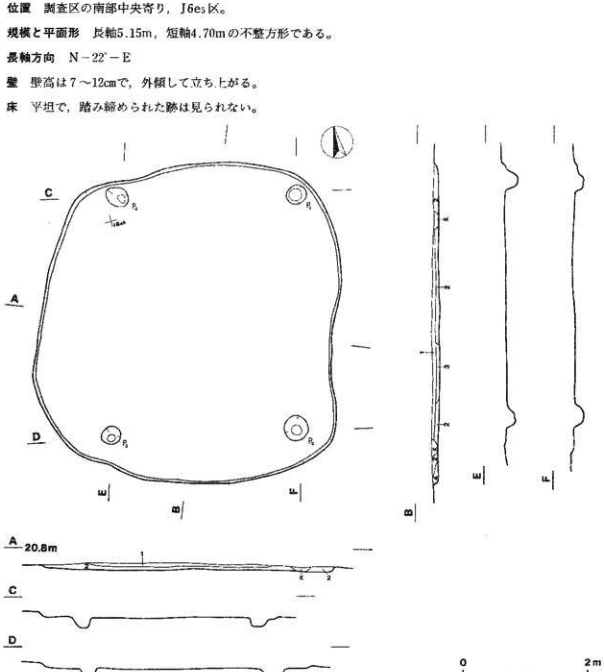
位置　調査区の南部中央寄り，J6es区。

規模と平面形　長軸5.15m，短軸4.70mの不整方形である。

長軸方向　N－22°－E

壁　壁高は7～12cmで，外傾して立ち上がる。

床　平坦で，踏み締められた跡は見られない。



第94図　第1号住居跡実測図

ピット　4か所（P_1～P_4）。$P_{1\sim4}$は径30～40㎝の円形，深さ18～22㎝で，いずれも主柱穴と考えられる。

炉　確認されなかった。

第95図　第1号住居跡出土遺物拓影図

覆土　4層からなり，所々に耕作による攪乱を受けているが自然堆積土層と考えられる。

土層解説

1　褐　色　ローム粒子・ローム小ブロック中量
2　褐　色　ローム粒子・ローム小ブロック中量
3　暗褐色　ローム粒子・ローム小ブロック少量
4　褐　色　ローム粒子中量

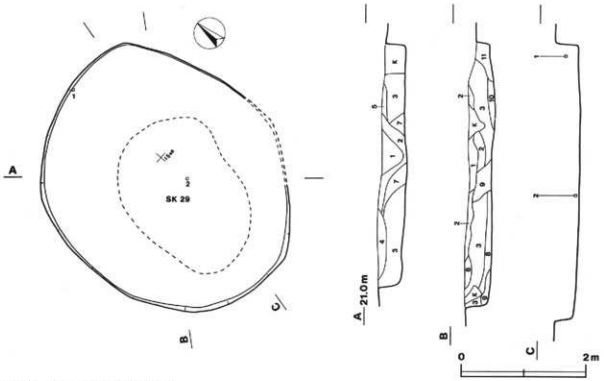
遺物　覆土中や床面から極少量の縄文土器片や礫が出土している。1，2は南東壁際中央部付近から出土した表裏貝殻条痕文の土器片である。1は条痕が内・外面とも縦走，2は内面が斜走，外面が斜走，横走されている。

所見　本跡の時期は，炉や明確な床面等の確認はできなかったが，遺構の規模や平面形，周辺に多数の屋外炉を有していること及び条痕文系の土器片が少量出土していることから縄文時代早期の住居跡と考えられる。

第3号住居跡（第96図）

位置　調査区中央部西寄り，$J6a_1$区。

重複関係　本跡は第29号土坑と重複している。本跡が第29号土坑全体を掘り込んでおり，本跡の方が新しい。



第96図　第3号住居跡実測図

規模と平面形　長径4.50m，短径3.30mの楕円形である。南西側は耕作による撹乱が激しい。

長径方向　N－24°－E

壁　壁高は32～40cmで，ほぼ垂直に立ち上がる。

床　平坦で，踏み締められた跡は見られない。

炉　確認されなかった。

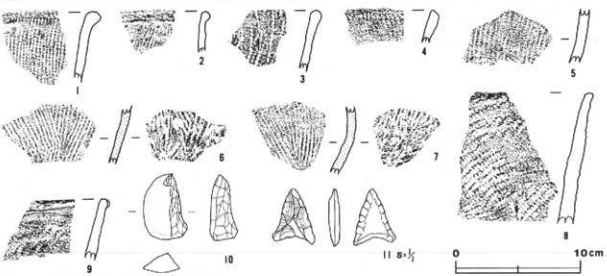
覆土　11層からなる。撹乱を受けた箇所が多いが，壁際からの自然堆積土層と考えられる。

土層解説

1　暗褐色　ローム小ブロック中量，ローム粒子少量
2　暗褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量
3　褐　色　ローム粒子・ローム小ブロック中量
4　暗褐色　ローム粒子・ローム小ブロック中量
5　褐　色　ローム粒子・ローム小ブロック中量
6　暗褐色　ローム粒子・ローム小ブロック中量
7　暗褐色　ローム粒子少量，炭化粒子極少量
8　褐　色　ローム粒子中量
9　褐　色　ローム粒子中量
10　褐　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量
11　褐　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック極少量

遺物　覆土中から少量の縄文土器片や石鏃が出土している。1～7は縄文時代早期の土器片である。1～5は北部覆土中層から出土した土器片で，いずれも縄文が縦走している。1，2は井草式，3～5は夏島式土器片である。6，7は中央部の覆土下層から出土した土器片で条痕文が施されている。8，9は北東部覆土中層から出土した土器片で，縄文時代前期の土器片である。10は北部壁際の床面から出土した礫石器である。11は中央部床面から出土した石鏃である。

所見　本跡の時期は，出土遺物が縄文時代早期から前期にまたがっているが，出土量が少ないため不明である。



第97図　第3号住居跡出土遺物実測図

第3号住居跡出土石器

図版番号	器種	計測値 長さ（cm）	幅（cm）	厚さ（cm）	重量（g）	石質	出土地点	備考
第97図10	礫石器	5.3	3.5	1.6	25.4	泥岩	覆土中	Q1
11	石鏃	1.5	1.1	0.3	0.3	チャート	覆土中	Q2

第4号住居跡（第98図）

位置　調査区の中央部，16h₃区。

重複関係　本跡は第24，27号土坑と重複している。本跡が第24，27号を掘り込んでおり，本跡の方が新しい。

規模と平面形　長径3.98m，短径3.27mの楕円形である。

長径方向　N－50°－W

壁　壁高は19～14cmで，外傾して立ち上がる。

床　平坦で，踏み締められた跡は見られない。

炉　確認されなかった。

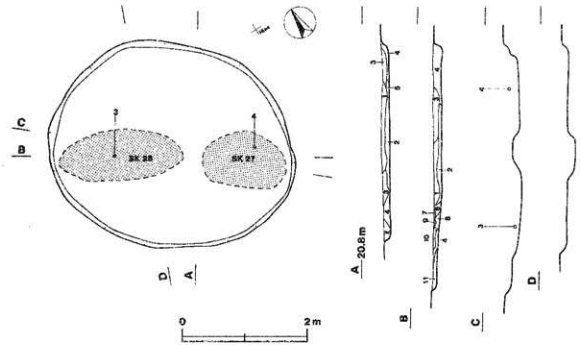
覆土　11層からなり，自然堆積土層と考えられる。

土層解説

1　暗褐色　ローム粒子・ローム小ブロック少量，ローム中ブロック・焼土粒子・炭化粒子極少量
2　暗褐色　ローム粒子・ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子極少量
3　褐　色　ローム粒子中量，ローム中ブロック極少量
4　褐　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック極少量
5　褐　色　ローム粒子少量，炭化粒子極少量
6　褐　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック極少量
7　暗褐色　ローム粒子・ローム小ブロック少量
8　暗褐色　ローム粒子・ローム小ブロック中量，炭化粒子・焼土粒子少量
9　暗褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・焼土粒子少量
10　褐　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量
11　暗褐色　ローム粒子・ローム小ブロック少量

遺物　覆土中や床面から縄文土器や礫が出土している。1～13は条痕文系の土器片である。1～6は口縁部片で南東部の床面から出土している。7～12は胴部片で中央部や南東部の床面直上から出土している。13は底部片で南東部中央の床面直上から出土している。14は北西部の床面から出土した黒曜石製の不明石器である。15は南東部の床面から出土した礫石斧である。

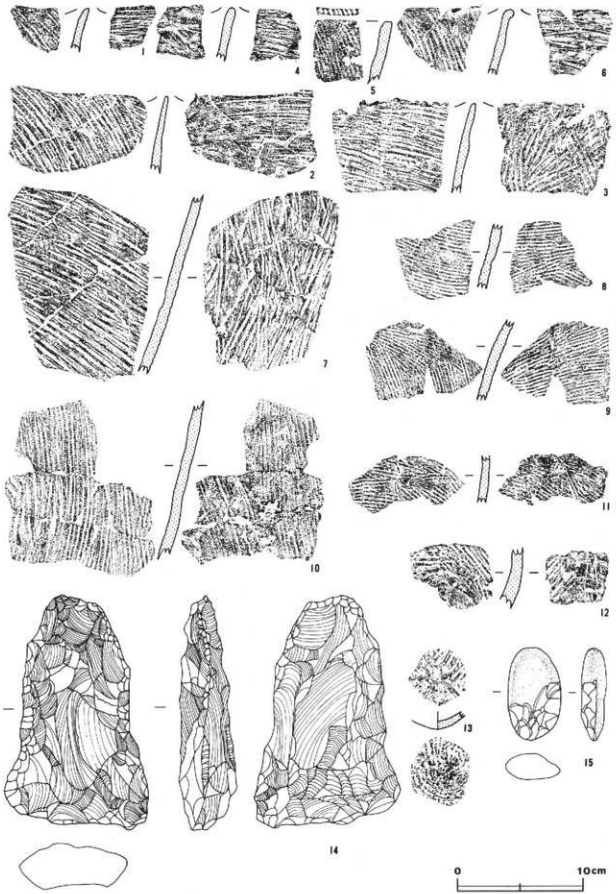
所見　本跡の時期は，炉や明確な床面等の確認はできなかったが，遺構の規模や平面形，周辺に多数の屋外炉を有していること及び条痕文系の土器片が少量出土していることから縄文時代早期の住居跡と考えられる。



第98図　第4号住居跡実測図

第4号住居跡出土石器

図版番号	器　種	計測値				石　質	出土地点	備　考
		長さ（cm）	幅（cm）	厚さ（cm）	重量（g）			
第99図14	不明石器	6.2	3.8	1.5	29.7	黒曜石	覆土中	Q3
15	礫石斧	7.4	4.3	2.1	80.7	砂岩	覆土中	Q4



第99図　第４号住居跡出土遺物実測図

第5号住居跡（第100図）

位置　調査区の北東部，I7a$_4$区。

規模と平面形　壁面は概に削平されている。床と思われる一部の硬化面，炉の底面及びピットが確認できたのみで，全容は不明である。

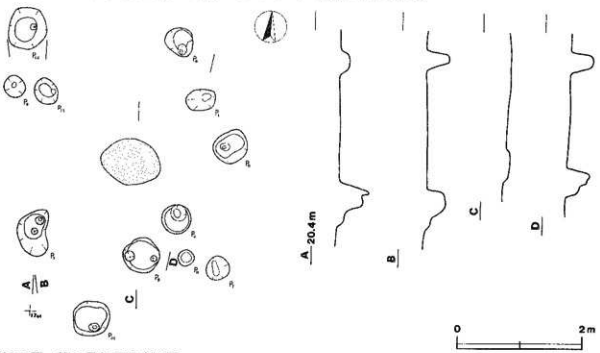
床　炉周辺が部分的に踏み締められている。

ピット　12か所（P_1～P_{12}）。$P_{1\sim4}$は径35～50cmの円形，深さ35～50cmで，いずれも主柱穴と考えられる。$P_{5\sim12}$は径30～60cmの円形，深さ10～15cmで，性格は不明である。

炉　主柱穴を結んで囲った部分のほぼ中央部にあり，長径95cm，短径75cmの楕円形である。炉床は赤変硬化している。

遺物　出土していない。

所見　本跡の時期は，縄文時代の住居跡と思われるがその詳細は不明である。



第100図　第5号住居跡実測図

(2)　古墳時代の住居跡

第2号住居跡（第101図）

位置　調査区の中央部西寄り，J6a$_1$区。

規模と平面形　長軸4.75m，短軸4.10mの長方形である。

長軸方向　N－52°－W

壁　壁高は9～22cmで，外傾して立ち上がる。

床　ほぼ平坦で，炉や貯蔵穴の周辺が硬く踏み締められている。

ピット　貯蔵穴の南西側南東壁付近にあり，長径29cm，短径22cmの楕円形，深さ21cmである。位置から出入り口ピットと考えられる。

炉　床中央から北西壁寄りにあり，長径60cm，短径50cmの楕円形，深さ10cmの地床炉である。炉床部分は赤変硬化している。

炉土層解説

1 赤 褐 色 焼土小ブロック・焼土粒子少量，炭化材を含む
2 にぶい赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子中量
3 赤 褐 色 焼土小ブロック・焼土粒子多量
4 にぶい赤褐色 焼土粒子中量，焼土小ブロック少量
5 褐 色 焼土粒子・ローム粒子中量，焼土小ブロック少量
6 赤 褐 色 焼土小ブロック・焼土粒子多量，焼土中ブロック少量
7 褐 色 焼土小ブロック・焼土粒子・ローム粒子少量
8 褐 色 焼土粒子中量，焼土小ブロック極少量

貯蔵穴 北東壁東コーナー付近にあり，一辺が55cmの不整方形，深さ56cmである。断面形は箱状である。

貯蔵穴土層解説

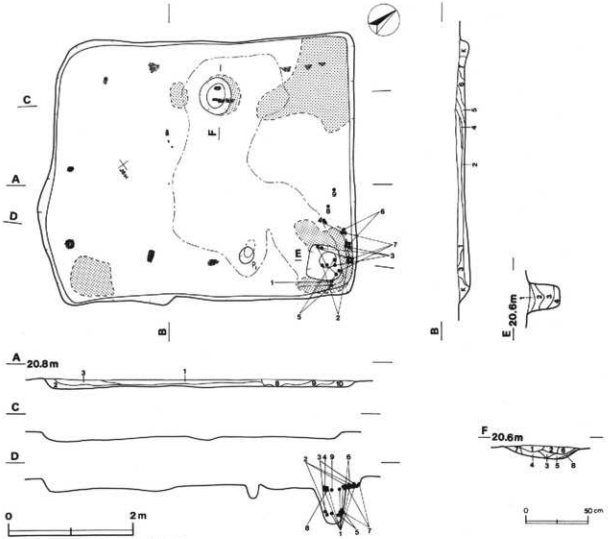
1 暗褐色 ローム粒子・ローム小ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子極少量
2 暗褐色 ローム粒子中量，焼土粒子少量，炭化粒子極少量
3 黒褐色 焼土粒子・ローム粒子少量
4 暗褐色 ローム粒子中量

覆土 10層からなり，自然堆積土層と考えられる。

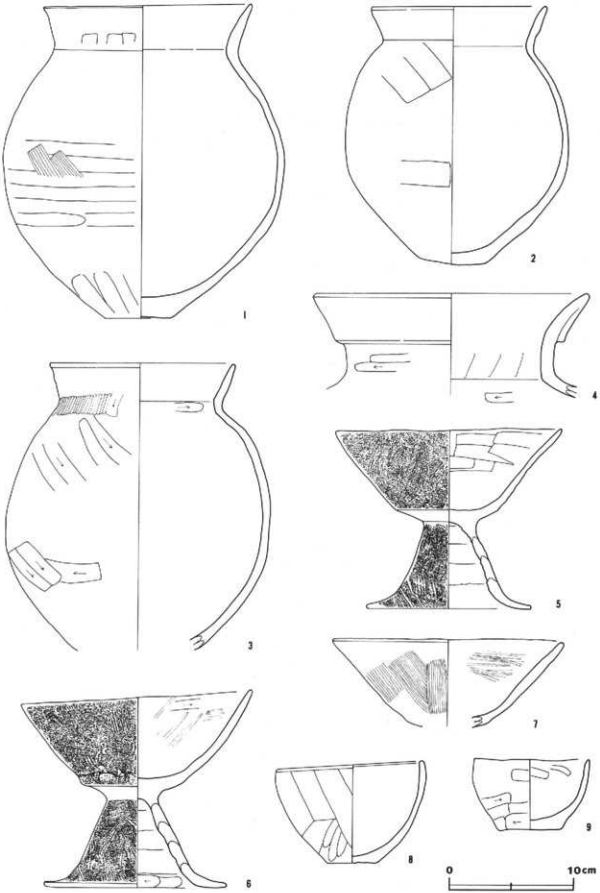
土層解説

1 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量，炭化粒子極少量
2 暗褐色 ローム粒子多量，ローム小ブロック中量
3 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量
4 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量，炭化材
5 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量，炭化粒子少量，焼土粒子極少量
6 暗褐色 ローム粒子中量，ローム小ブロック・炭化粒子・焼土粒子少量
7 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子中量，ローム小ブロック・炭化粒子少量
8 暗褐色 ローム粒子少量，ローム小ブロック・炭化粒子・焼土粒子極少量
9 褐 色 ローム小ブロック・ローム粒子少量，炭化粒子・焼土粒子極少量
10 褐 色 ローム粒子中量，ローム小ブロック・炭化粒子・焼土粒子極少量

遺物 1～9は北東部東コーナー付近の床面から出土した土師器である。1～3は甕，4は壺の頸部～口縁部片，5～7は高坏，8，9は埦である。各コーナー部や床面の所々に焼土や炭化材が出土している。北部の床



第101図 第2号住居跡実測図



第102図　第２号住居跡出土遺物実測図

面には丸材が炭化して出土している。

所見　本跡の時期は，出土遺物から５世紀前半の住居跡と考えられる。床面に焼土や炭化材が出土していることから，本跡は焼失家屋の可能性が考えられる。

第２号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値（cm）	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第102図 1	壺 土師器	A 16.8 B 25.2 C 5.4	平底。体部は内弯して立ち上がり，体部下位に最大径を持つ。口縁部は外反して立ち上がる。	口縁部内・外面ヘラナデ。体部外面ハケナデ後，ヘラ削り。	砂粒，長石，雲母 橙色 普通	P1 80%　床面
2	壺 土師器	A 14.3 B 20.5 C 5.3	口縁部一部欠損。平底。体部は内弯して立ち上がり，体部下位に最大径を持つ。口縁部は外反して立ち上がる。	口縁部内・外面ヘラナデ。体部外面ヘラ削り。	砂粒，石英，スコリア 橙色 普通	P2 80%　床面
3	壺 土師器	A 13.0 B (23.6)	底部欠損。体部は内弯して立ち上がり，体部下位で最大径を持つ。口縁部は外反して立ち上がる。	口縁部内・外面ヘラナデ。頸部縦方向のハケナデ。体部外面ヘラ削り。	砂粒，長石，スコリア 橙色 普通	P3 50%　床面
4	壺 土師器	A 22.4 B (8.3)	口縁部片。口縁部は接合口縁で外反して開く。	口縁部内・外面ヘラナデ。	砂粒，雲母，スコリア にぶい橙色 普通	P4 15%　床面
5	高坏 土師器	A 18.3 B 14.5 C 13.9 D 7.0	脚部はハの字状で，裾部で水平近くに広がる。坏部は下位に稜を持ち，内彎気味に立ち上がり，口縁部で中外反する。	口縁部内・外面ヘラナデ。坏部外面刷毛目調整後，斜方向への磨き。脚部外面縦方向への磨き。内面横方向へのヘラナデ。	砂粒，石英 褐色 普通	P5 90%　床面
6	高坏 土師器	A 18.4 B 15.9 C 14.6 D 7.1	脚部はハの字状で，裾部で水平近くに広がる。坏部は下位に稜を持ち，内彎気味に立ち上がる。	口縁部内・外面ヘラナデ。坏部外面刷毛目調整後，斜方向への磨き。脚部外面縦方向への磨き。内面横方向へのヘラナデ。	砂粒，長石，スコリア 橙色 普通	P6 90%　床面
7	高坏 土師器	A 18.7 B (7.1)	坏部片。坏部は下位に不明瞭な稜を持ち，外傾して立ち上がる。	口縁部内・外面ヘラナデ。坏部外面刷毛目調整後，斜方向への磨き。	砂粒，長石 橙色 普通	P7 40%　床面
8	坩 土師器	A 12.0 B 8.2 C 4.0	平底。体部は内彎気味に立ち上がる。	体部外面ヘラ削り。体部下端ヘラ削り。	砂粒，石英 褐色 普通	P8 95%　床面
9	手焙形土器 土師器	A 9.4 B 5.9 C 5.2	平底。体部は内弯気味に立ち上がる。	体部外面横方向へのナデ。	砂粒，雲母，スコリア にぶい黄褐色 普通	P9 100%　床面

表６　下高井向原Ⅰ遺跡住居跡一覧表

住居跡番号	位置	主軸方向	平面形	規模（m）（長軸×短軸）	壁高（cm）	床面	内部施設					炉	覆土	出土遺物	備考
							柱穴	周溝	穴	ピット	入口				埋没時期区（古・新）
1	J6e1	N 22° E	不整方形	5.15×4.70	7～12	平坦	4	／	1	／	／	自然	縄文土器細片，礫		
2	J6a1	N 22° W	長方形	4.83×4.10	9～22	平坦	／	1	／	1	？	自然	縄文土器細片，礫		
3	I5e2	N 24° E	楕円形	4.50×3.30	32～42	平坦	／	／	／	／	／	自然	土師器，須恵器，縄文土器細片，礫		SK－29・4跡
4	I5h2	N 52° W	楕円形	3.98×3.27	10～14	平坦	／	／	／	／	／	自然	縄文土器細片		SK－27，28・4跡
5	I7a1	—	—	－	－	—	4	／	8	／	／	？	－	縄文土器細片，礫	

2　土坑

当遺跡では，25基の土坑を確認した。そのうち，炉穴，陥し穴及び土壙墓としての性格を有すると思われる12基の土坑について説明を加えることとする。また，土坑内貝塚については(4)の貝塚で解説し，その他は一覧表（表7）で記載する。

(1)　炉穴

第5号土坑（第103図）

位置　調査区の中央部，J6a$_7$区。

規模と形状　掘り方は長軸2.89m，短軸2.13mの長方形で，深さ10cmの炉穴である。底面はやや凹凸があり，壁は外傾して立ち上がる。

長軸方向　N－54°－W

炉　6か所。炉1は北コーナー部分に位置し，径70cmの不整円形で，15cmの厚さで焼土が堆積している。炉2は北東壁中央付近に位置し，長径60cm，短径35cmの楕円形で，10cmの厚さで焼土が堆積している。炉3は東コーナー付近に位置し，径55cmの円形である。炉4は北コーナー付近に位置し，径50cmの円形で，10cmの厚さで焼土が堆積している。炉5は西コーナー付近に位置し，長径65cm，短径50cmの楕円形で，15cmの厚さで焼土が堆積している。炉6は北西壁中央付近に位置し，長径70cm，短径60cmの楕円形である。

炉1土層解説
1　明褐色　ローム粒子・焼土粒子少量
2　明褐色　焼土粒子・焼土中ブロック中量，焼土小ブロック少量

炉2土層解説
1　明褐色　焼土粒子中量，ローム粒子・焼土中ブロック少量
2　明褐色　ローム粒子・焼土粒子少量

炉4土層解説
1　褐　色　ローム粒子中量，焼土粒子少量
2　明赤褐色　焼土粒子・焼土小ブロック・焼土中ブロック中量，ローム粒子少量

炉5土層解説
1　褐　色　ローム粒子・焼土粒子少量
2　明赤褐色　焼土粒子多量，焼土小ブロック・焼土中ブロック少量，ローム粒子極少量
3　褐　色　焼土粒子中量，ローム粒子極少量
4　赤褐色　焼土粒子・焼土小ブロック・焼土中ブロック多量

覆土　8層からなり，人為堆積土層と考えられる。

土層解説
1　赤褐色　ローム粒子・焼土粒子少量
2　褐　色　ローム粒子・焼土粒子少量，炭化粒子極少量
3　褐　色　ローム粒子中量，焼土粒子少量
4　赤褐色　ローム粒子・焼土粒子少量
5　明赤褐色　焼土粒子中量，ローム粒子・ローム小ブロック・焼土中ブロック少量
6　明赤褐色　焼土粒子・焼土中ブロック中量，ローム粒子少量
7　明赤褐色　焼土粒子中量，ローム粒子・焼土中ブロック少量
8　褐　色　ローム粒子中量，焼土粒子少量

遺物　覆土中から3点の縄文土器片が出土している。1，3は炉5の直上から出土しており，2は北西壁中央部付近の壁際から出土している。いずれも縄文時代早期の土器片である。

所見　本跡の時期は，出土遺物から縄文時代早期と考えられる。

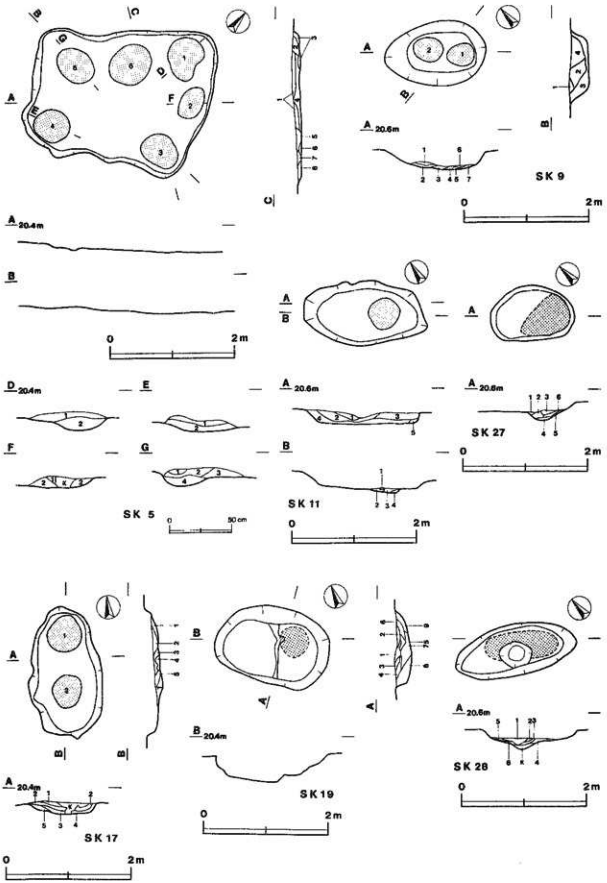
第9号土坑（第103図）

位置　調査区の北西部，I5b$_9$区。

規模と形状　掘り方は長径1.65m，短径1.03mの楕円形で，深さ30cmの炉穴である。底面は平坦で，壁は外傾して立ち上がる。

長径方向　N－48°－W

炉　2か所。炉1は南東部に位置し，長径45cm，短径35cmの楕円形で，5cmの厚さで焼土が堆積している。炉2は中央部に位置し，長径50cm，短径40cmの楕円形で，7cmの厚さで焼土が堆積している。炉1は炉2より古い。



第103図　炉穴実測図

炉1，2土層解説

1　赤 褐 色　焼土粒子中量，ローム粒子・焼土小ブロック少量
2　暗赤褐色　焼土粒子少量，ローム粒子・焼土小ブロック極少量
3　褐　　色　ローム粒子中量，焼土粒子少量
4　暗赤褐色　ローム粒子・焼土粒子・焼土小ブロック少量
5　暗赤褐色　焼土粒子・焼土小ブロック少量，ローム小ブロック極少量
6　褐　　色　ローム粒子中量，焼土粒子・ローム小ブロック少量
7　暗赤褐色　ローム粒子・焼土粒子少量，焼土小ブロック極少量

覆土　5層からなり，人為堆積土層と考えられる。

土層解説

1　暗褐色　ローム粒子少量
2　黒褐色　焼土粒子少量，ローム粒子極少量
3　暗褐色　ローム粒子・ローム小ブロック・焼土粒子極少量
4　暗褐色　ローム粒子・焼土粒子少量

遺物　覆土中から縄文土器片が出土している。4は尖底土器の底部片，5，6は条痕文が施されている土器片で，いずれも縄文時代早期の土器片である。

所見　本跡の時期は，出土遺物から縄文時代早期と考えられる。

第11号土坑（第103図）

位置　調査区の中央部，H6h_1区。

規模と形状　掘り方は長径1.92m，短径1.05mの楕円形で，深さ17cmの炉穴である。底面は平坦で，壁は外傾して立ち上がる。

長径方向　N－59°－W

炉　炉は北西部に位置し，径47cmの円形で，6cmの厚さで焼土が堆積している。炉床は赤変硬化している。

炉土層解説

1　明赤褐色　焼土大ブロック多量
2　明 褐 色　ローム大ブロック多量
3　明 褐 色　ローム粒子・ローム小ブロック・焼土粒子少量
4　褐　　色　ローム粒子・焼土粒子少量，炭化粒子極少量

覆土　5層からなり，自然堆積土層と考えられる。

土層解説

1　褐色　ローム粒子少量，焼土粒子極少量
2　褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・焼土粒子極少量
3　褐色　ローム粒子・焼土粒子少量，炭化粒子極少量
4　褐色　ローム粒子・焼土粒子少量，炭化粒子極少量
5　褐色　ローム粒子・ローム小ブロック少量，焼土粒子極少量

遺物　覆土下層から縄文土器片が出土している。7，8は炉の北西部付近から出土した条痕文が施されている土器片で，縄文時代早期の土器片である。

所見　本跡の時期は，出土遺物から縄文時代早期と考えられる。

第17号土坑（第103図）

位置　調査区の北東部，H7j_3区。

規模と形状　掘り方は長径2.07m，短径1.10mの楕円形で，深さ20cmの炉穴である。底面はやや凹凸があり，壁は外傾して立ち上がる。

長径方向　N－2°－E

炉　2か所。炉1は北部に位置し，径55cmの円形で，10cmの厚さで焼土が堆積している。炉2は中央部に位置し，径50cmの円形で，11cmの厚さで焼土が堆積している。炉1は炉2より新しい。

炉1，2土層解説

1　赤 褐 色　焼土粒子・焼土小ブロック多量，ローム小ブロック中量，ローム粒子少量
2　にぶい赤褐色　焼土粒子多量，ローム粒子・焼土小ブロック少量
3　褐　　色　焼土粒子・焼土小ブロック中量，ローム粒子少量
4　赤 褐 色　焼土粒子中量，焼土小ブロック少量，ローム粒子極少量
5　赤 褐 色　焼土粒子多量，焼土小ブロック・黒色土粒子中量
6　明 褐 色　焼土粒子多量，焼土小ブロック・黒色土粒子中量，焼土中ブロック少量

覆土　5層からなる。中央部は攪乱が激しいが，自然堆積土層と考えられる。

土層解説

1　暗褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，焼土粒子極少量
2　暗褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・焼土粒子少量
3　暗褐色　焼土粒子中量，ローム粒子少量
4　褐　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・焼土粒子極少量
5　褐　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・焼土粒子極少量

遺物　出土していない。

所見　出土遺物がないため，時期は不明である。

第19号土坑（第103図）

位置　調査区の北部，H6j$_8$区。

規模と形状　掘り方は長径1.80m，短径1.23mの楕円形で，深さ28cmの炉穴である。底面は皿状で，壁は外傾して立ち上がる。

長径方向　N－56°－W

炉　南東部に位置し，径48cmの円形で，5cmの厚さで焼土が堆積している。炉床は赤変硬化している。

覆土　9層からなり，自然堆積土層と考えられる。

土層解説

1　赤褐色　焼土粒子中量，焼土中ブロック少量
2　褐　色　ローム粒子・ローム中ブロック中量，焼土粒子少量
3　褐　色　ローム粒子・ローム小ブロック・焼土粒子少量
4　褐　色　ローム粒子・ローム中ブロック・焼土粒子少量
5　褐　色　ローム大ブロック・焼土粒子少量
6　褐　色　ローム粒子・焼土粒子少量
7　赤褐色　焼土粒子中量，ローム粒子・焼土小ブロック少量，ローム小ブロック極少量
8　褐　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック・ローム大ブロック・焼土粒子少量
9　褐　色　ローム粒子中量，ローム中ブロック・焼土小ブロック少量

遺物　覆土中から縄文土器片が出土している。9は口縁部片で条痕文が内・外面とも横方向に施されている縄文時代早期の土器片である。

所見　本跡の時期は，出土遺物から縄文時代早期と考えられる。

第27号土坑（第103図）

位置　調査区の北部，I6h$_3$区。

重複関係　本跡は第4号住居跡と重複している。本跡を第4号住居跡が掘り込んでおり，本跡の方が古い。

規模と形状　掘り方は長径1.35m，短径0.90mの楕円形で，深さ10cmである。底面は平坦で，壁は緩やかに外傾して立ち上がる。

長径方向　N－53°－W

炉　本跡の北西部に位置し，長径80cm，短径50cmの不整楕円形で，16cmの厚さで焼土が堆積している。

炉土層解説

1　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・焼土小ブロック極少量
2　赤褐色　焼土粒子多量，焼土小ブロック中量，ローム粒子極少量
3　赤褐色　焼土粒子中量，焼土小ブロック少量，ローム粒子極少量
4　褐　色　ローム粒子・焼土粒子少量
5　明褐色　ローム粒子中量，焼土粒子極少量
6　褐　色　ローム粒子中量，焼土粒子少量，焼土小ブロック・ローム小ブロック極少量

遺物　出土していない。

所見　出土遺物がないため，時期は不明である。

第28号土坑（第103図）

位置　調査区の北部，I6h$_3$区。

重複関係　本跡は第4号住居跡と重複している。本跡を第4号住居跡が掘り込んでおり，本跡の方が古い。

規模と形状　掘り方は長径1.98m，短径0.82mの長楕円形で，深さ10cmの炉穴である。底面は平坦で，壁は緩やかに外傾して立ち上がる。

長径方向　N－58°－W

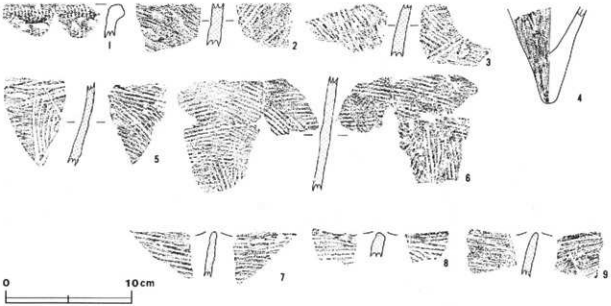
炉　本跡の中央部に位置し，長径120cm，短径42cmの長楕円形で，11cmの厚さで焼土が堆積している。

炉土層解説

1　暗赤褐色　ローム小ブロック・焼土粒子・焼土小ブロック中量，ローム粒子少量
2　暗赤褐色　ローム小ブロック・焼土粒子・焼土小ブロック中量，ローム粒子少量
3　にぶい赤褐色　焼土粒子多量，ローム粒子・ローム小ブロック・焼土小ブロック中量
4　赤褐色　焼土粒子中量，ローム粒子・焼土小ブロック少量
5　褐　色　ローム粒子・焼土粒子中量，ローム小ブロック少量，焼土小ブロック極少量
6　褐　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，焼土粒子・焼土小ブロック極少量

遺物　出土していない。

所見　出土遺物がないため，時期は不明である。



第104図　炉穴出土遺物拓影図

第９号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第104図 4	尖底深鉢 縄文土器	B（7.6）	底部片。天狗鼻状の尖底部で外面に顕著な削り痕を残す。	砂粒，長石，雲母 明赤褐色 普通	P11 5% 田戸下層式

(2)　陥し穴

第７号土坑（第105図）

位置　調査区の北部，I6a₂区。

規模と形状　掘り方は長径3.60m，短径1.60mの長楕円形で，深さ1.16mである。底面は平坦で，壁はほぼ垂直に立ち上がる。

長径方向　N－20°－E

覆土　７層からなり，自然堆積土層と考えられる。

遺物　覆土中から縄文土器片が出土している。１～４は夏島式の土器片である。５～８は条痕文が施されている土器片である。

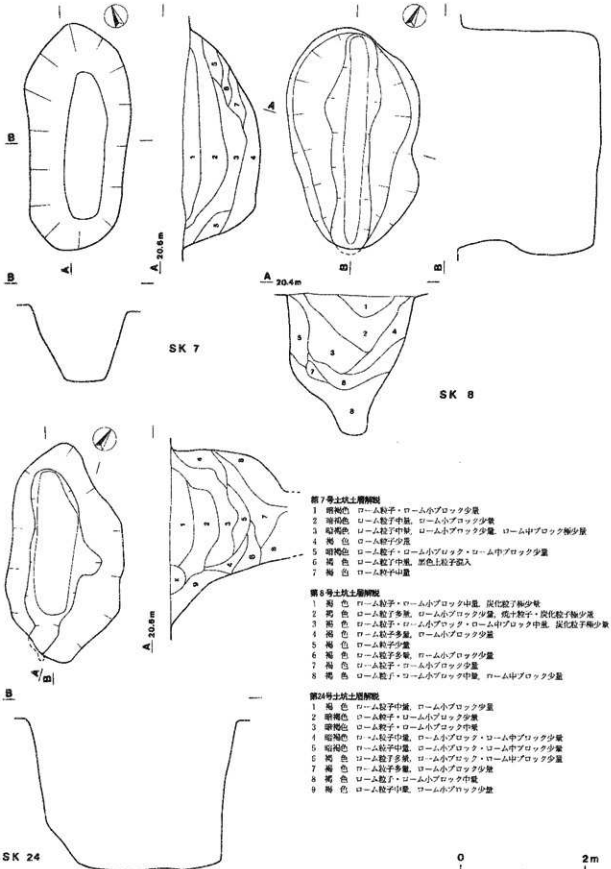
所見　遺構の形態から陥し穴と考えられる。本跡の時期は，出土遺物から縄文時代早期と考えられる。

第８号土坑（第105図）

位置　調査区の北部，H6j₁区。

規模と形状　掘り方は長径3.55m，短径2.08mの楕円形で，深さ2.20mである。底面は平坦で，壁はほぼ垂直に立ち上がる。

長径方向　N－23°－W



第105図　第7，8，24号土坑実測図

覆土　8層からなり，自然堆積土層と考えられる。

遺物　覆土中から縄文土器片が出土している。9は井草式，10は夏島式の土器片である。11～13は糸痕文が施されている土器片で，いずれも縄文時代早期の土器片である。19は覆土中から出土した石錘である。

所見　遺構の形態から陥し穴と考えられる。本跡の時期は，出土遺物から縄文時代早期と考えられる。

第24号土坑（第105図）

位置　調査区の北東部，I7e₅区。

規模と形状　掘り方は長径3.45m，短径1.80mの楕円形で，深さ2.35mである。底面は平坦で，壁はほぼ垂直に立ち上がる。

長径方向　N－44°－W

覆土　9層からなり，自然堆積土層と考えられる。

遺物　出土していない。

所見　遺構の形態から陥し穴と考えられる。出土遺物がないため，時期は不明である。

第29号土坑（第106図）

位置　調査区の北西部，I5e₈区。

規模と形状　掘り方は長径2.60m，短径1.75mの楕円形で，深さ1.70mである。底面は平坦で，壁は垂直に立ち上がる。

長径方向　N－17°－E

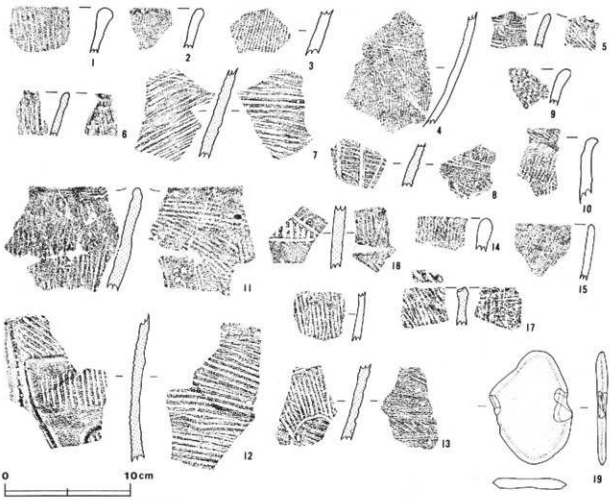
覆土　9層からなり，自然堆積土層と考えられる。

遺物　覆土中から縄文土器片が出土している。14，15は口縁部片である。14は口唇部外面から縄文が垂下して施されている。15は撚糸が斜方向に施されている。16は胴部片で無節の縄文が垂下して施されている。17，18

第106図　第29号土坑実測図

は貝殻条痕文系の土器片で，17は口唇部に刻みが施され，18は沈線で三角に区画された中に短沈線で文様が施されている。

所見　遺構の形態から陥し穴と考えられる。本跡の時期は，出土遺物から縄文時代早期と考えられる。



第107図　陥し穴出土遺物実測図

第８号土坑出土石器

図版番号	器　種	計測値				石　質	出土地点	備　考
		長さ（cm）	幅（cm）	厚さ（cm）	重量（g）			
第107図19	石　錘	6.0	4.4	0.6	19.4	泥　岩	覆土中	Q7

(3)　土壙墓

第18号土坑（第108図）

位置　調査区の北東部，H7h$_4$区。

規模と形状　掘り方は長軸1.50m，短軸0.90mの隅丸長方形で，深さ0.40mである。底面は皿状で，壁は垂直に立ち上がる。

主軸方向　N－15°－E

覆土　５層からなり，ロームブロックを含む人為堆積土層と考えられる。

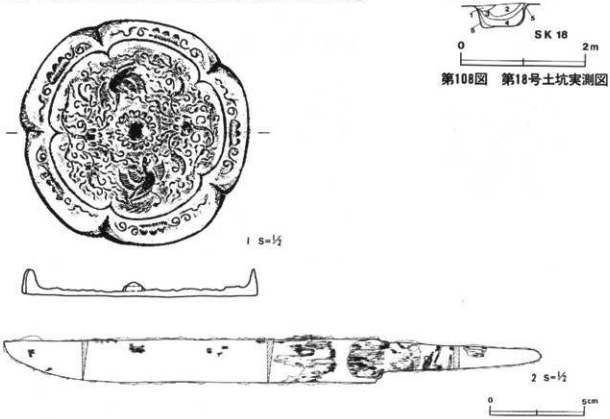
土層解説

1　黒褐色　ローム粒子・ローム中ブロック少量
2　黒褐色　ローム粒子少量，ローム小ブロック・ローム大ブロック極少量
3　暗褐色　ローム粒子少量
4　暗褐色　ローム粒子・ローム小ブロック・ローム中ブロック少量
5　褐　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量

遺物　北西部の底面から1の和鏡（瑞花双鳳五花鏡）と2の刀子が出土している。和鏡は鏡背面を下にし，刀子は鏡の直下に刀部を内側にむけて置かれていた。

所見　本跡は，出土遺物から平安時代後期の土壙墓と考えられる。

第108図　第18号土坑実測図



第109図　第18号土坑出土遺物実測図

第18号土坑出土金属製品観察表

図版番号	器種	計測値				備考
		長さ（cm）	幅（cm）	厚さ（cm）	重量（g）	
第109図1	銅鏡	面径 11.4	内区径 8.2	縁高 1.15	248.54	紐座径1.9cm，紐径0.85cm，紐高0.4cm，M1，床面
2	刀子	28.4	2.4	0.3	80.0	M2，床面

(4)　貝塚

第2号土坑（第110図）

位置　調査区の中央部，16j6区。

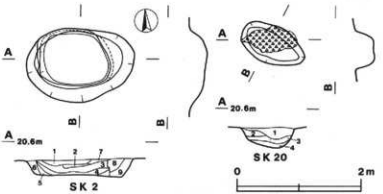
規模と形状　掘り方は長径1.20m，短径0.92mの楕円形で，深さ25cmである。底面は凹凸があり，壁は外傾して立ち上がる。

長径方向　N－19°－E

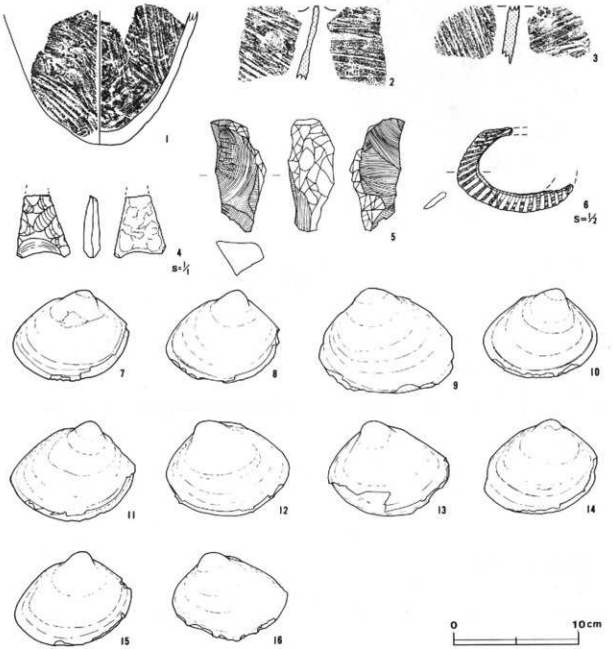
覆土　9層からなる。土層1～4，7に貝を含んでおり，人為堆積土層と考えられる。

土層解説

1　盛土貝層　マテガイ多量，ハマグリ・ハイガイ・オキシジミも多い，その他数種類，黒色土粒子混入
2　盛土貝層　マテガイ多量，ハマグリ・ハイガイも多い，その他数種類，黒色土粒子少量
3　純貝層　マテガイ・ハマグリ・ハイガイ・オキシジミ多量，その他数種類，黒色粒子極少量
4　盛土貝層　ハイガイ・ハマグリ多量，ローム粒子・ローム小ブロック中量
5　黒褐色　ローム粒子・ローム小ブロック少量，ソフトロームブロック極少量
6　褐　色　ローム粒子中量
7　黒褐色　混貝土層でハマグリ・ハイガイ・シオフキなど少量
8　褐　色　ローム粒子中量
9　暗褐色　ローム粒子・ローム小ブロック少量



第110図　第2，20号土坑実測図



第111図　第2号土坑出土遺物実測図

遺物　覆土中や各貝層中から縄文土器片や石鏃が出土している。1は縄文土器の底部から胴部片である。2，3は表裏に貝殻条痕文が施されている。底部が丸底気味で表裏に貝殻条痕文が施されていることから，野島式か鵜ケ島台式の土器片と考えられる。4の石鏃は土層3の純貝層から出土している。5の剥片は確認面からの出土である。6はサルボウ製の貝輪，7～16はハマグリ製の貝刃でともに貝層中から出土している。土層3，4からは貝に混じって胡桃などの炭化した木の実が出土している。

所見　本跡は土坑内貝塚である。貝以外にもカニや炭化した木の実などが出土している。貝層中の出土遺物から，本跡の時期は縄文時代早期と考えられる。ハマグリについては貝殻成長線分析を行い，その結果は付章に示すとともに，測定可能な1,678個について殻長分布をグラフ（第113図）で示した。

第2号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値（cm）	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第111図 1	深鉢 縄文土器	B（10.7）	底部から胴部にかけての破片。丸底。胴部は内彎気味に外傾しながら立ち上がる。内面は横位，外面は縦位の貝殻条痕文が施されている。胎土に少量の繊維を含む。	砂粒，石英 明赤褐色 普通	P10 20% 野島式

図版番号	器種	計測値				石質	出土地点	備考
		長さ（cm）	幅（cm）	厚さ（cm）	重量（g）			
第111図4	石鏃	1.7	1.4	0.5	0.9	チャート	覆土中	Q5 先端欠
5	剥片	3.0	1.5	0.95	3.2	黒曜石	覆土中	Q6

第20号土坑（第110図）

位置　調査区の北東部，I7f₃区。

規模と形状　掘り方は長径1.08m，短径0.61mの楕円形で，深さ35cmである。底面は平坦で，壁は外傾して立ち上がる。

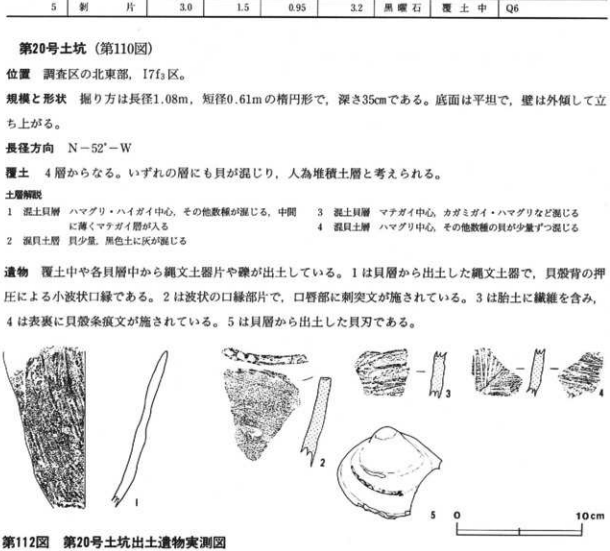
長径方向　N－52°－W

覆土　4層からなる。いずれの層にも貝が混じり，人為堆積土層と考えられる。

土層解説

1　混土貝層　ハマグリ・ハイガイ中心，その他数種が混じる，中間に薄くマテガイ層が入る
2　混貝土層　貝少量，黒色土に灰が混じる
3　混土貝層　マテガイ中心，カガミガイ・ハマグリなど混じる
4　混貝土層　ハマグリ中心，その他数種の貝が少量ずつ混じる

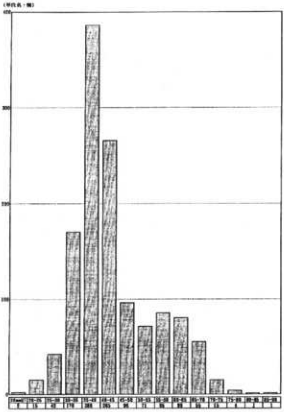
遺物　覆土中や各貝層中から縄文土器片や礫が出土している。1は貝層から出土した縄文土器で，貝殻背の押圧による小波状口縁である。2は波状の口縁部片で，口唇部に刺突文が施されている。3は胎土に繊維を含み，4は表裏に貝殻条痕文が施されている。5は貝層から出土した貝刃である。



第112図　第20号土坑出土遺物実測図

表7　第2号土坑内貝塚動植物遺存体組成表

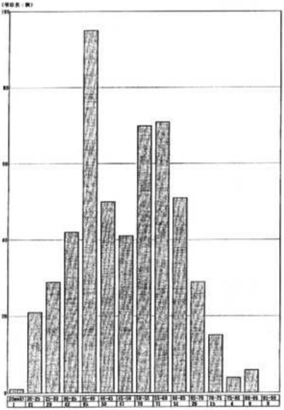
	貝種名	個体数 左殻	個体数 右殻	個体数 最小個	総重量 (g)	個体別重量 左殻	個体別重量 右殻	その他	組成比 (%)
腹足綱	アカニシ			19	412.9		379.9	33.0	0.62
	アラムシロ			1	0.4		0.4	0.4	-
	ウミニナ			38	39.6		38.5	1.1	0.05
	カワアイ			1	0.2		0.2	0.2	-
	スガイ			26	44.4		42.7	1.7	0.06
	巻き貝の蓋			14	2.6		2.6	0	-
	小計			99	500.1		464.3	36.4	-
斧足綱	アカガイ	1	3	3	20.8	1.1	8.0	11.7	0.03
	アサリ	7	7	10	36.7	14.7	17.8	4.2	0.05
	イチョウシラトリ	12	10	14	15.4	4.4	3.8	7.2	0.02
	ウネナシトヤマガ	2	2	2	0.6	0.3	0.3	0	-
	オオノガイ	17	40	40	1,086.4	65.6	113.1	907.7	1.63
	オキシジミ	965	999	1,002	6,118.8	2,196.3	2,367.5	1555	9.19
	カガミガイ	124	121	133	3,546.3	1,229.4	1,403.7	913.2	5.33
	カキ	27	39	43	3,849.5	880.0	1,041.0	1,928.5	5.78
	サルボウ	0	0	0	0	0	0	0	-
	シオフキ	222	245	245	726.5	319.0	210.0	197.5	1.09
	ハイガイ	1,103	1,133	1,159	6,415.5	2,861.8	3,256.3	297.4	9.64
	ハマグリ	1,819	1,808	1,883	23,189.8	9,853.3	10148	3,188.5	35.87
	マテガイ	4,168	4,043	4,239	20,863.0	690.5	681.5	20,282.2	31.36
	ミルガイ	0	1	1	63.2	0	39.0	23.3	0.09
	ヤマトシジミ	0	1	1	2	0	0	0	-
	小計	8,467	8,452	8,775	65,936.5	18,116.4	19,290.0	29,316.4	99.11
	フジツボ			8	20.4		3.3	17.1	0.03
	カニ			0	6.0		6.0	0	-
	ツノガイ輪切装飾			10	0.4		0.4	0	-
	貝輪（製品）			1	7.0		7.0	0	0.01
	貝輪（片）			7	56.9		56.9	0	0.08
	くるみ			0	1.2		0	0	-
	炭化木の実			0	0.1		0	0	-
	合計			8,900	66,528.6		37,944.3	29,369.9	99.23
他	石	○							
	土器片，炭	○							
	カルシウム	○							



第113図　第2号土坑ハマグリ殻長分布図

表8　第20号土坑内貝塚動植物遺存体組成表

	貝種名	個体数 左殻	個体数 右殻	個体数 最小個	総重量 (g)	個体別重量 左殻	個体別重量 右殻	その他	組成比 (%)
腹足綱	アカニシ			31	1,486.8		1354.8	132.0	4.12
	アラムシロ			2	0.5		0.5	0	-
	ウミニナ			873	1,366.5		1251.7	114.8	3.79
	カワアイ			2	0.8		0.8	0	-
	キサゴ			1	0.6		0.6	0	-
	ツメタガイ			1	2.6		2.6	0	-
	小計			910	2,857.8		2,611.0	246.8	-
斧足綱	アカガイ	0	0	0	7.8	0	0	7.8	0.02
	アサリ	3	2	3	3.2	1.3	1.7	0.2	-
	イチョウシラトリ	2	4	4	6.4	0.8	2	3.6	0.01
	ウネナシトヤマガ	3	2	5	0.7	0.4	0.3	0	-
	オオノガイ	2	0	2	40.4	2.8	0.4	37.2	0.01
	オキシジミ	261	259	283	1,549.5	617.3	623.4	308.8	4.3
	カガミガイ	132	129	136	4,875.3	1,967.3	2147.3	760.7	13.53
	カキ	14	16	19	362.8	42.0	71.4	249.4	1.0
	サルボウ	3	0	3	11.0	8.2	0	2.8	0.03
	シオフキ	183	213	221	291.6	88.7	123.2	79.7	0.8
	ハイガイ	449	491	506	2,036.3	830.4	1,203.6	122.3	5.65
	ハマグリ	753	753	786	12914	5,922.4	5,811.5	1,180.1	35.86
	マテガイ	3,259	3,123	3,326	10,766.2	594.0	590.9	9,581.3	29.89
	ミルガイ	0	0	0	0	0	0	0	-
	ヤマトシジミ	0	2	2	4.5	4.5	0	0	-
	小計	5,064	4,994	5,296	32,869.7	10,070.1	10,575.7	12,333.9	99.11
	フジツボ			1	276.9		0.2	276.7	0.76
	カニ	片		0	4.9		4.9	0	0.01
	ツノガイ輪切装飾			1	0.1		0.1	0	-
	貝輪（片）			0	2.2		2.2	0	-
	くるみ	片		0	0.3		0.3	0	-
	穿孔キセルガイ			5	0.3		0.3	0	-
	合計			6,213	36,012.2		23,264.8	12,857.4	99.88
他	石	○							
	土器片，炭	○							
	カルシウム	○							
	鉄分	○							



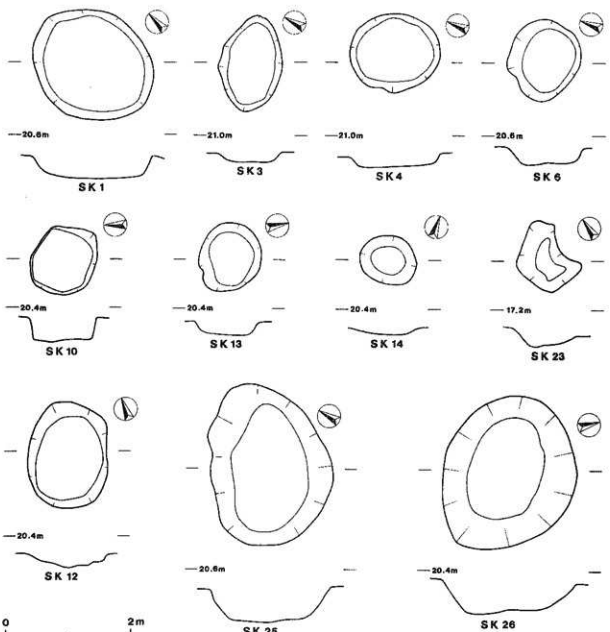
第114図　第20号土坑ハマグリ殻長分布図

所見　本跡は土坑内貝塚である。貝以外にもカニや削穂などが出土している。貝層中の出土遺物から，本跡の時期は縄文時代早期と考えられる。ハマグリについては貝殻成長線分析を行い，その結果は付章に示すとともに，測定可能な525個について殻長分布をグラフ（第114図）で示した。

第20号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・硬度	備考
第112図 1	深鉢縄文土器	A 13.0 B 12.6	底部及び口縁部一部欠損。胴部は直線的に外傾して立ち上がる。貝殻背の押圧による小波状口縁。内面は縦位，外面は斜位の貝殻条痕文が施されている。胎土に少量の繊維を含む。	砂粒，石英，スコリア 明赤褐色 普通	P 12 40% 野島式

(5)　その他の土坑

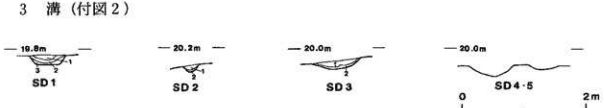


第115図　その他の土坑実測図

表7　下高井向原Ⅰ遺跡土坑一覧表

土坑番号	位置	長軸方向（長軸方位）	平面形	規模 長径×短径（m）	規模 深さ（cm）	壁面	底面	覆土	出土遺物	備考 新旧関係（古→新）
1	J6da	N−13°−W	楕円形	2.05×1.75	43	外傾	ほぼ平坦	自然	縄文土器片	
2	I6je	N−19°−E	楕円形	1.30×0.92	25	外傾	凹凸	自然	縄文土器片，鏃，貝	土坑内貝塚
3	I5fa	N−73°−E	楕円形	1.53×1.00	14	外傾	ほぼ平坦	自然	縄文土器片	
4	I5gf	N−31°−W	楕円形	1.45×1.26	19	外傾	凹凸	自然	縄文土器片	
5	J6a7	N−54°−W	長方形	2.89×2.13	10	外傾	凹凸	自然	縄文土器片，土師器片	炉穴
6	I6fd	−	円形	径 1.15	24	外傾	凹凸	自然		
7	I6a7	N−20°−E	長楕円形	3.60×1.60	116	緩斜	ほぼ平坦	自然	縄文土器片，土師器片	陥し穴
8	H6ji	N−22°−W	楕円形	3.55×2.08	220	垂直	平坦	自然	縄文土器片，鏃	陥し穴
9	I5bo	N−48°−W	楕円形	1.65×1.03	30	垂直	平坦	自然	縄文土器片	炉穴
10	H6hi	N−32°−W	不整楕円形	1.12×1.00	39	垂直	平坦	人為		
11	I6if	N−52°−W	楕円形	1.92×1.65	17	緩斜	凹凸	自然	縄文土器片，鏃	炉穴
12	H6ie	N−38°−E	楕円形	1.70×1.25	26	外傾	平坦	人為	縄文土器片	
13	H6hy	N−46°−W	楕円形	1.15×0.97	22	外傾	平坦	自然	縄文土器片，鏃	
14	H7ij	N−72°−W	楕円形	0.90×0.78	10	緩斜	皿状	自然		
17	H7ja	N−2°−E	楕円形	2.07×1.10	20	外傾	やや凹凸	自然	縄文土器片	炉穴
18	H7hi	N−15°−E	隅丸長方形	1.50×0.90	40	外傾	平坦	自然	剥片，刀子	上壙墓
19	H6ja	N−58°−W	楕円形	1.80×1.23	28	外傾	ほぼ平坦	自然	縄文土器片	炉穴
20	I7fa	N−52°−W	楕円形	1.08×0.61	35	外傾	凹凸	自然	縄文土器片，石，鏃	土坑内貝塚
23	K7ei	N−29°−E	不定形	1.15×0.77	23	外傾	凹凸	自然		
24	I7e3	N−44°−W	楕円形	3.45×1.80	235	外傾	皿状	人為	縄文土器片	陥し穴
25	I7fe	N−46°−E	楕円形	2.63×1.92	60	外傾	皿状	人為	縄文土器片	
26	I7e6	N−56°−W	楕円形	2.63×1.92	55	外傾	凹凸	自然	縄文土器片，鏃	
27	H6h3	N−33°−W	楕円形	2.60×2.15	10	緩斜	平坦	自然	縄文土器片	炉穴　本跡→SI−4
28	I6h3	N−58°−W	長楕円形	1.98×0.82	10	外傾	平坦	自然	縄文土器片	炉穴　本跡→SI−4
29	I5ea	N−17°−E	楕円形	2.60×1.75	170	垂直	平坦	人為	縄文土器片，鏃	陥し穴　本跡→SI−3

3　溝（付図2）



第116図　溝土層断面実測図

表8　溝一覧表

土坑番号	位置	方向	形状	規模 長さ（m）	規模 上幅（cm）	規模 下幅（cm）	規模 深さ（cm）	壁面	底面	覆土	出土遺物	備考 新旧関係（古→新）
1	I7ℓ	東→南	L字状	27	100	60	16	緩斜	凹凸	自然	縄文土器片，鏃	
2	I7ℓ	東→西	直線状	13	60	20	23	緩斜	凹凸	自然		

土坑番号	位置	方向	形状	規模				壁面	西面	覆土	出土遺物	備考 新旧関係（古→新）
				長さ(m)	上幅(cm)	下幅(cm)	深さ(cm)					
3	I7区	西→東	直線状	5	80	20	10	緩斜	凹凸	自然		
4	I7区	北→南	直線状	4	60	20	16	緩斜	凹凸	自然		
5	I7区	東→南	直線状	4	60	20	7	緩斜	凹凸	自然		

4　遺構外出土遺物（第117～120図）

当調査区の遺構外から出土した遺物について，縄文土器は拓影図で紹介し，他の遺物は一覧表で紹介する。

縄文土器片拓影図（第117～118図）

第1群の土器（第117図1～34）縄文時代早期に比定される土器を本群とする。

a類　井草式に比定される土器

1～8は口唇部が肥厚し，外反が著しい。口唇部外面や胴部に縄文が施されている。口縁部下に無文帯を持つものもある。

b類　夏島式に比定される土器

9は口唇部の肥厚が小さく，外反も少ない。10～12は胴部片で縄文が縦位に施されている。

c類　稲荷台式に比定される土器

13，14は口縁部片で撚糸が粗に施されている。15は胴部片で撚糸が縦位に施されている。

d類　鵜ケ島台式に比定される土器

16～34は条痕文系の土器片である。16～19は口縁部片で，16，19は口唇部に刻みが施されている。18は小波状口縁である。20～22は胴部片で縦位，横位の条痕が表裏に施されている。23～27は口縁部片で口唇部に細い円筒状工具で押擦を加え，小波状を呈している。24は口縁部下に横位の細隆起線で区画された中に短沈線での文様や円形刺突文が施されている。25は細隆起線で区画した中に沈線で文様が施されている。26，27は波状口縁で，細隆起線で区画された中に短沈線で文様が施され，交点に刺突文が施されている。28～34は胴部片で細隆起線や沈線で区画された中に沈線で文様が施されている。28，29は交点に刺突文が施されている。胎土に繊維を含むものが多いが微量である。

第2群の土器（第117・118図35～38）縄文時代前期に比定される土器を本群とする。

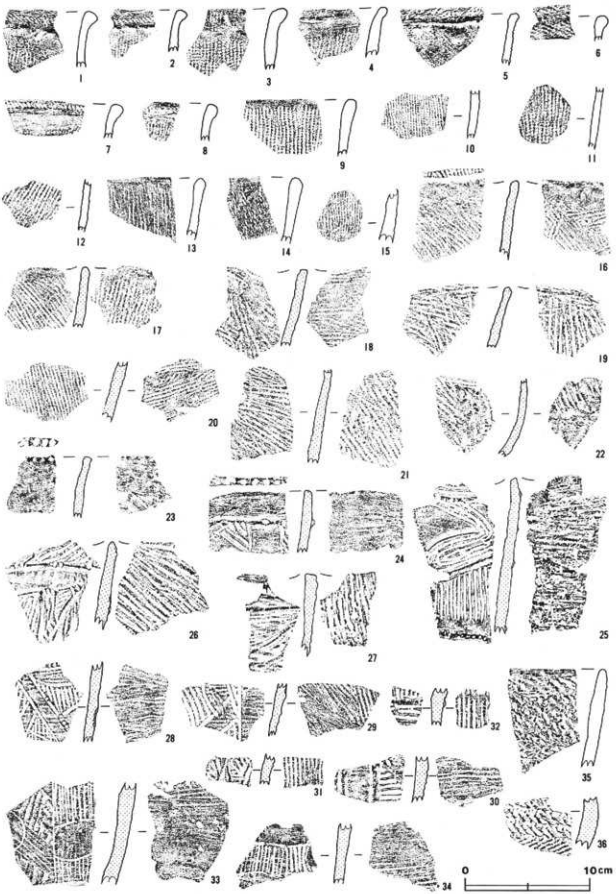
a類　関山式に比定される土器

35，37，38は口縁部片で斜位に縄文が施されている。36は胴部片で羽状縄文が施されている。胎土に繊維を少量含む。

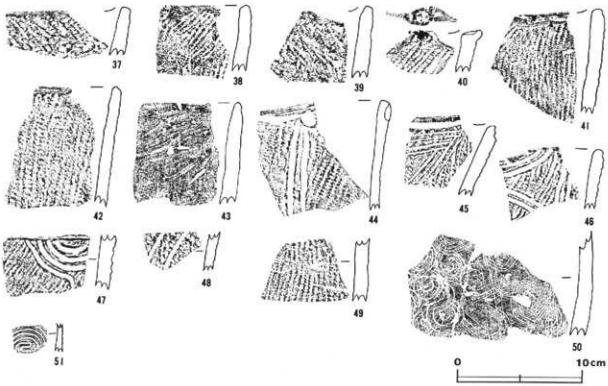
第3群の土器（第118図39～51）縄文時代後期に比定される土器を本群とする。

a類　堀ノ内式に比定される土器

39～46は口縁部片である。40は波状口縁で波頂部に指頭による押擦がある。43は無文である。44は口縁部下は水平に，胴部には斜位に2本の平行沈線を巡らし，区画内に縄文が施されている。沈線の交点に刺突文が施されている。44は口唇部を外削ぎ状にした後沈線を巡らしている。胴部は半截竹管で斜位，横位に区画され，区画内に縄文が施されている。46は波状口縁で口縁下や胴部に半截竹管による沈線が巡らされ，区画内に縄文が施されている。47～51は胴部片で，47は縄文地文後沈線で同心円的文様が施されている。50は数本の櫛歯状工具により直線，曲線及び円形の文様が施されている。51は沈線で同心円的文様が施されている。



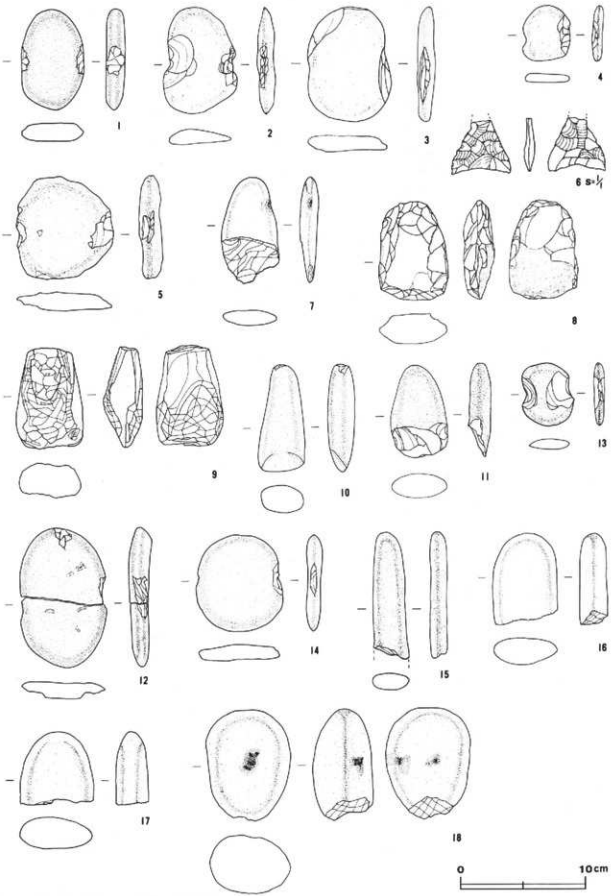
第117図　遺構外出土遺物拓影図(1)



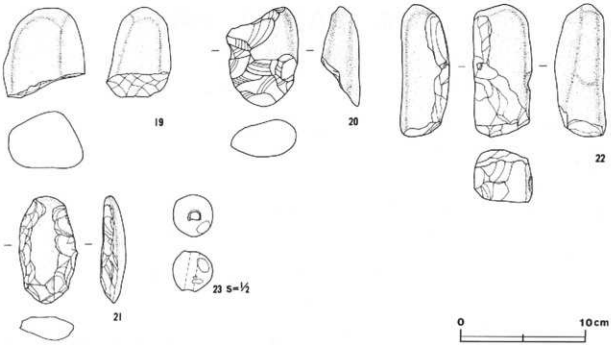
第118図　遺構外出土遺物拓影図(2)

遺構外出土石器

図版番号	器種	計測値				石質	出土地点	備考
		長さ（cm）	幅（cm）	厚さ（cm）	重量（g）			
第119図1	石鏃	5.4	3.3	1.0	28.4	砂岩	表面採集	Q10
2	石鏃	5.7	4.0	1.2	20.9	凝灰岩	表面採集	Q11
3	石鏃	6.1	4.6	1.0	35.5	緑泥片岩	表面採集	Q12
4	石鏃	2.9	2.5	0.7	5.0	安山岩	表面採集	Q13
5	石鏃	6.5	5.1	1.3	34.2	安山岩	表面採集	Q14
6	石鏃	1.4	1.5	0.3	0.5	チャート	表面採集	Q15
7	礫石斧	8.5	4.6	1.2	55.8	粘板岩	表面採集	Q16
8	打製石斧	7.9	5.7	2.5	137.3	砂岩	表面採集	Q17
9	磨製石斧	8.1	5.4	2.7	157.0	砂岩	表面採集	Q18
10	磨製石斧	8.6	3.7	2.2	94.8	砂岩	表面採集	Q19
11	礫石斧	7.5	4.6	1.9	78.0	蛇紋岩	表面採集	Q20
12	石錐	7.4	4.6	1.9	45.3	安山岩	表面採集	Q22
13	石錐	3.4	2.8	0.6	5.6	凝灰岩	表面採集	Q24
14	石錐	5.1	4.6	1.9	31.3	安山岩	表面採集	Q25
15	石棒	6.8	2.0	1.0	16.6	粘板岩	表面採集	Q26
16	礫	7.3	5.2	2.1	130.7	安山岩	表面採集	Q30
17	礫	5.9	5.8	2.5	127.2	安山岩	表面採集	Q31
18	礫	9.0	6.8	4.7	389.8	石英片岩	表面採集	Q32
第120図19	礫	7.2	6.6	4.6	273.3	石英片岩	表面採集	Q33
20	礫石斧	8.0	5.8	3.0	136.2	泥岩	表面採集	Q34
21	礫石斧	8.7	4.6	2.0	85.4	砂岩	表面採集	Q35
22	スタンプ型石器	10.7	4.7	3.9	299.0	石英斑岩	表面採集	Q36



第119図　遺構外出土遺物実測図(3)



第120図　遺構外出土遺物実測図(4)

図版番号	器種	計測値 最大長	最大幅	孔径	重量(g)	備考
第120図23	球状土錘	1.9	2.0	0.5	7.9	DP1，覆土中

第4節　まとめ

今回の調査によって，当遺跡は縄文時代に小集落が形成され，しばらく途絶えた後，再び古墳時代及び平安時代になって人々の生活が営まれたことが判明した。

縄文時代の遺構は，竪穴住居跡4軒，屋外炉7基，陥し穴3基及び土坑内貝塚2基が確認されている。これらの遺構からは，いずれも縄文時代早期の条痕文系土器が出土していることから，同一時期に展開されたものと思われる。ところで，土坑内貝塚出土の貝は，ハマグリ，アサリ，マテガイなど鹹水産の貝類が主であり，ハマグリを使った貝刃や貝輪，ツノガイ製の垂飾などの装飾品も出土している。遺跡の存在する台地周辺は，当時海が広がっていたことが窺える。

古墳時代の遺構は，5世紀前半の第2号竪穴住居跡1軒が確認されており，土師器の甕，高坏及び埦が出土している。当遺跡内で確認されたこの時代の遺構は住居跡1軒だけであるが，集落が遺跡西側の台地縁辺部に広がっていた可能性が考えられる。

平安時代の遺構は，第18号土壙墓1基が確認されている。形状は長軸1.5m，短軸0.9mの隅丸長方形で，深さ40cmである。長軸方向はN－15°－Eで，底面はやや中央部が窪む状態である。副葬品として和鏡と刀子が出土しており，人骨等は確認できなかった。和鏡は白銅質で重量感があり，全体に暗い灰緑色である。表面の剝落や傷及び吹き出した錆もほとんどなく，鏡背文様の鋳出しも鮮やかで丁寧に製作されている。さらに，鏡面もよく研磨されており，出土鏡としては極めて保存良好な状態である。

参考文献　茨城県教育財団　『高崎貝塚』　茨城県教育財団文化財調査報告書第88集　1994年

第５章　下高井向原Ⅱ遺跡

第１節　遺跡の概要

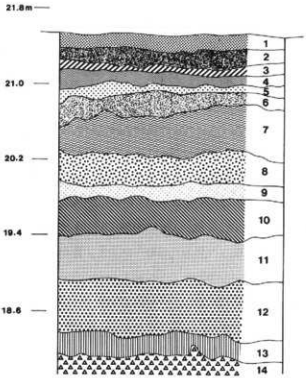
下高井向原Ⅱ遺跡は，取手市北西部，小貝川右岸から南西方向に入り込む支谷に面した標高18～22mの舌状台地上に位置している。当遺跡の東方700mには甚五郎崎遺跡，南側には下高井向原Ⅰ遺跡，東側には高井城跡がある。現況は山林で，面積は11,532㎡である。

今回の調査によって，縄文時代の竪穴住居跡１軒と土坑12基を確認した。他に時期不明の土坑13基，溝21条を確認した。

遺物は，遺物収納箱（60×40×20cm）に12箱出土している。縄文時代の出土遺物は，早期から後期までの縄文土器片，石鏃及び磨製石斧である。中・近世の遺物は，常滑の陶磁器片である。

第２節　基本層序

調査区域南西側の台地平坦部（E8g$_7$区）にテストピットを設定した。深さ3.58mまで掘り下げ，第121図に示すような土層の堆積状況を確認した。



第121図　基本土層図

第１層　厚さ17cmの暗褐色土で，ローム粒子を極少量含む。粘性，締まりともやや強い。

第２層　厚さ15cmの暗褐色土で，ローム粒子を極少量含む。粘性，締まりともやや強い。

第３層　厚さ10cmの黒褐色土で，ローム粒子を少量含む。粘性，締まりともやや強い。

第４層　厚さ13cmの褐色土で，暗褐色土粒子を極少量含む。粘性，締まりともやや強い。

第５層　厚さ12cmの褐色土で，暗色帯である。粘性，締まりともやや強い。

第６層　厚さ20cmの褐色土で，暗色帯である。やや粘性があり，締まりは強い。

第７層　厚さ50cmの明褐色土で，暗色帯である。硬質部と軟質部がある。粘性があり，締まりは強い。

第８層　厚さ30cmの褐色土で，暗色帯である。ハードローム層である。粘性があり，締まりは特に強い。

第９層　厚さ16cmのにぶい褐色土で，ハードローム層である。粘性があり，締まりは強い。

第10層　厚さ40cmの黄褐色土で，ハードローム層である。粘性があり，締まりは強い。

第11層　厚さ50cmの褐色土で，ハードローム層である。粘性があり，締まりは強い。

第12層　厚さ55cmの褐色土で，ハードローム層である。粘性があり，締まりは強い。

第13層　厚さ27cmの黄褐色土で，ハードローム層である。黒色礫を少量含む。粘性があり，締まりは特に強い。

第14層　厚さ15cmの粘土層で，暗茶褐色土粒子を少量含む。粘性，締まりとも特に強い。

第3節　遺構と遺物

1　竪穴住居跡

第1号住居跡（第122図）

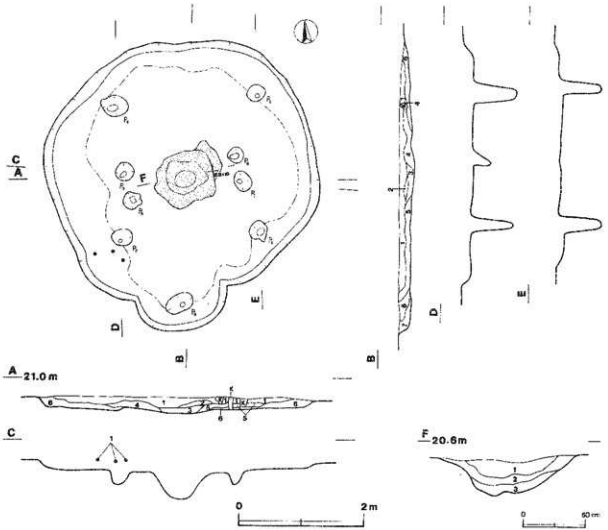
位置　調査区の南西部，E8f₀区。

規模と平面形　径4.20mの円形で，南側に径1.5m程の半円形の張り出しがある。

長径方向　N－12°－E

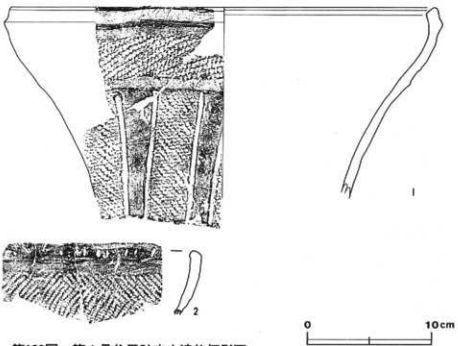
壁　壁高は14cm～20cmで，外傾して緩やかに立ち上がる。

床　ほぼ平坦で，炉の周辺を中心に踏み締められている。



第122図　第1号住居跡実測図

ピット　9か所（P_1～P_9）。P_1は長径30cm，短径25cmの楕円形，深さ65cm，P_2は径30cmの円形，深さ72cm，P_3は長径35cm，短径25cmの楕円形，深さ66cm，P_4は長径47cm，短径35cmの楕円形，深さ68cmで，いずれも主柱穴と考えられる。P_5は長径47cm，短径28cmの楕円形，深さ10cmで，張り出し部分の中央にあり，床の硬化した面が周辺に見られることから出入り口施設に伴うピットと思われる。P_6～P_9は長径25～35cm，短径22～25cmの楕円形，深さ10～30cmで，いずれも炉に関係するピットと思われるが詳細は不明である。



第123図　第1号住居跡出土遺物拓影図

炉　中央部にあり，長径100cm，短径80cmの不整楕円形，深さ30cmの地床炉である。炉床部分は熱を受け，赤変硬化している。

炉土層解説

1　黒褐色　ローム粒子中量，炭化粒子・焼土粒子少量
2　暗赤褐色　ローム粒子・焼土粒子中量
3　暗赤褐色　ローム粒子・ロームブロック多量，焼土粒子・焼土ブロック中量

覆土　6層からなり，自然堆積土層と考えられる。

土層解説

1　褐　色　ローム粒子・炭化粒子・焼土粒子少量
2　極暗褐色　炭化材多量，焼土粒子中量
3　暗褐色　焼土粒子中量，炭化物少量
4　褐　色　焼土粒子少量
5　褐　色　焼土粒子・炭化物少量
6　明褐色　ローム粒子多量

遺物　覆土中から縄文土器片や礫片が出土している。1，2は南西部出入り口近くの覆土下層より出土した土器片（加曽利E3式期）を接合したものである。

所見　本跡の時期は，出土遺物から縄文時代中期後葉と考えられる。

第1号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値（cm）	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第123図 1	深鉢 縄文土器	A 34.4 B 15.4	胴部から口縁部にかけての破片。胴部は外傾して立ち上がり，口縁部は内彎する。口縁部文様帯は，2本の太沈線で区画され，縦位の複節縄文LRLが施されている。胴部文様帯は，地文縄文に2本の太沈線で区画された磨消帯が垂下している。	砂粒，長石，石英 褐色 普通	P1 5% 覆土中

2　土坑

当遺跡では，25基の土坑を確認した。そのうち，陥し穴と思われる12基について解説し，その他は一覧表（表9）で記載する。

(1) 陥し穴

第2号土坑（第124図）

位置　調査区の中央部，E10a$_7$区。

規模と形状　掘り方は長径2.63m，短径1.35mの楕円形で，深さ1.77mである。底面は平坦で，壁はほぼ垂直に立ち上がる。

長径方向　N－72°－E

覆土　5層からなり，自然堆積土層と考えられる。

遺物　覆土中から縄文土器片5点が出土している。

所見　遺構の形態から陥し穴と考えられる。出土遺物がいずれも細片であるため，時期は確定できない。

第3号土坑（第124図）

位置　調査区の中央部，E10b$_3$区。

規模と形状　掘り方は長径3.23m，短径2.00mの楕円形で，深さ2.00mである。底面は平坦で，壁はほぼ垂直に立ち上がる。

長径方向　N－73°－W

覆土　9層からなり，自然堆積土層と考えられる。

遺物　出土していない。

所見　遺構の形態から陥し穴と考えられる。出土遺物がないため，時期は不明である。

第4号土坑（第124図）

位置　調査区の中央部，E9e$_9$区。

規模と形状　掘り方は長径2.59m，短径0.75mの長楕円形で，深さ1.30mである。底面は凹凸があり，壁は垂直に立ち上がる。

長径方向　N－6°－E

覆土　10層からなり，自然堆積土層と考えられる。

遺物　出土していない。

所見　遺構の形態から陥し穴と考えられる。出土遺物がないため，時期は不明である。

第5号土坑（第124図）

位置　調査区の中央部南寄り，E9f$_8$区。

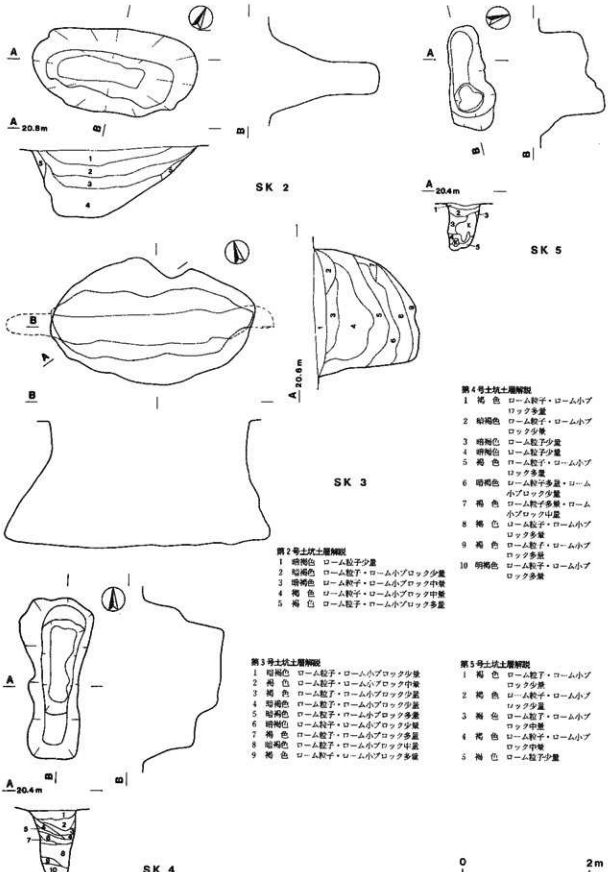
規模と形状　掘り方は長径1.67m，短径0.58mの不定形で，深さ0.77mである。底面は凹凸があり，壁は垂直に立ち上がる。

長径方向　N－63°－E

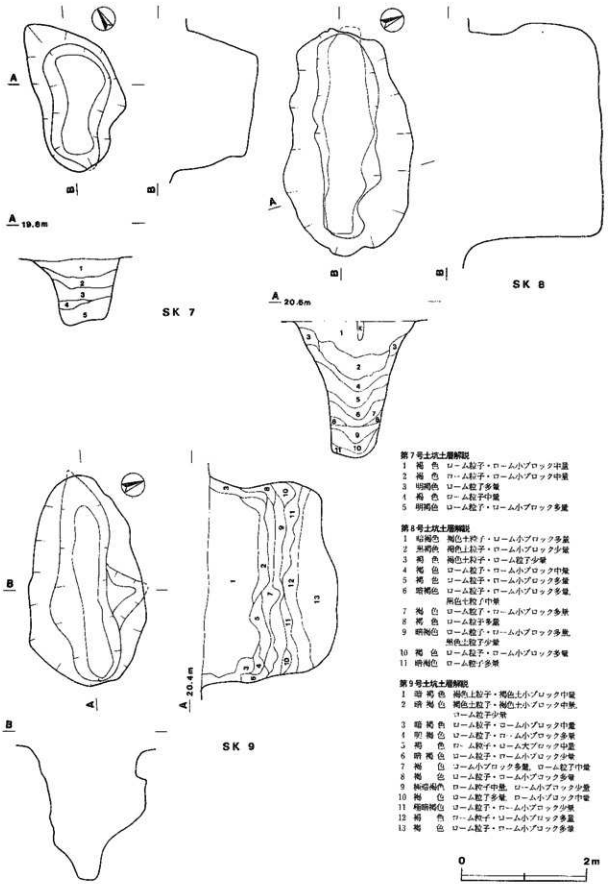
覆土　5層からなる。覆土中層に攪乱があり，人為堆積土層と考えられる。

遺物　覆土中から縄文土器片1点が出土している。

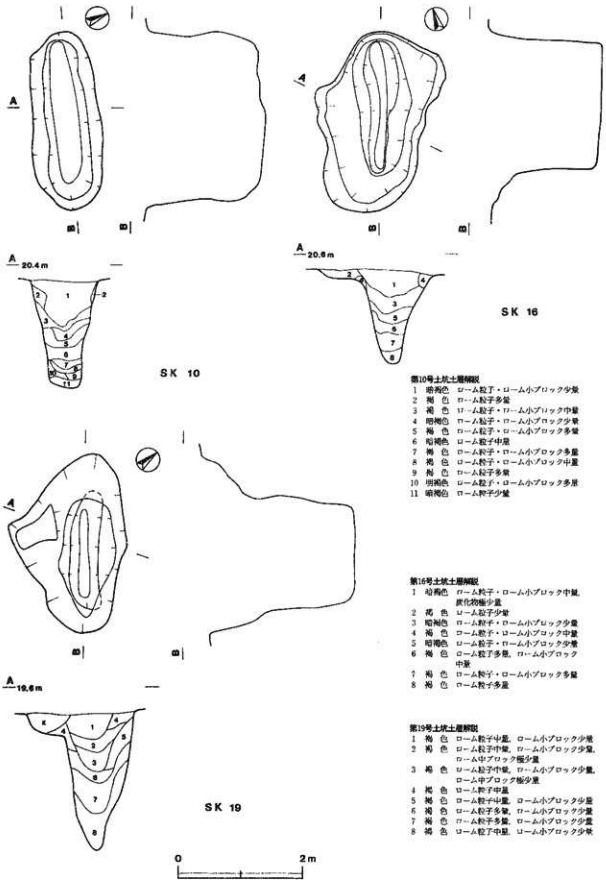
所見　遺構の形態から陥し穴と考えられる。出土遺物が細片であるため，時期は確定できない。



第124図　第2，3，4，5号土坑実測図



第125図　第7，8，9号土坑実測図



第10号土坑土層解説

1 暗褐色 ローム粒子・ローム小ブロック少量
2 褐 色 ローム粒子多量
3 褐 色 ローム粒子・ローム小ブロック中量
4 暗褐色 ローム粒子・ローム小ブロック少量
5 褐 色 ローム粒子・ローム小ブロック多量
6 暗褐色 ローム粒子中量
7 褐 色 ローム粒子・ローム小ブロック多量
8 褐 色 ローム粒子・ローム小ブロック中量
9 褐 色 ローム粒子多量
10 明褐色 ローム粒子・ローム小ブロック多量
11 暗褐色 ローム粒子少量

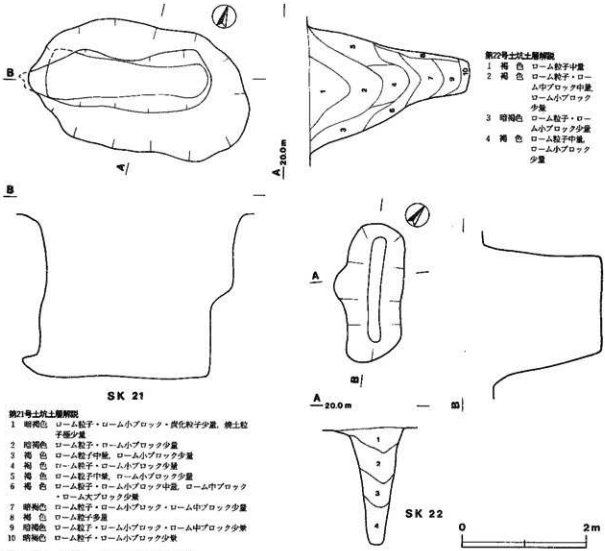
第16号土坑土層解説

1 暗褐色 ローム粒子・ローム小ブロック中量，炭化物極少量
2 褐 色 ローム粒子少量
3 暗褐色 ローム粒子・ローム小ブロック少量
4 褐 色 ローム粒子・ローム小ブロック中量
5 暗褐色 ローム粒子・ローム小ブロック少量
6 褐 色 ローム粒子多量，ローム小ブロック中量
7 褐 色 ローム粒子・ローム小ブロック多量
8 褐 色 ローム粒子多量

第19号土坑土層解説

1 褐 色 ローム粒子中量，ローム小ブロック少量
2 褐 色 ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，ローム中ブロック極少量
3 褐 色 ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，ローム中ブロック極少量
4 褐 色 ローム粒子中量
5 褐 色 ローム粒子中量，ローム小ブロック少量
6 褐 色 ローム粒子多量，ローム小ブロック少量
7 褐 色 ローム粒子多量，ローム小ブロック少量
8 褐 色 ローム粒子中量，ローム小ブロック少量

第126図　第10，16，19号土坑実測図



第127図　第21，22号土坑実測図

第７号土坑（第125図）

位置　調査区の北西部，D8c₀区。

規模と形状　掘り方は長径2.12m，短径1.35mの不整楕円形で，深さ1.05mである。底面は傾斜があり，壁は外傾して立ち上がる。

長径方向　N－38°－E

覆土　５層からなり，自然堆積土層と考えられる。

遺物　出土していない。

所見　遺構の形態から陥し穴と考えられる。出土遺物がないため，時期は不明である。

第８号土坑（第125図）

位置　調査区の西部，E9a₁区。

規模と形状　掘り方は長径3.60m，短径1.93mの楕円形で，深さ2.17mである。底面は平坦で，壁は垂直に立ち上がる。

長径方向　N－66°－W

覆土　11層からなり，自然堆積土層と考えられる。

遺物　覆土中から縄文土器片が出土している。1は縄文土器の胴部片である。

所見　遺構の形態から陥し穴と考えられる。本跡の時期は，出土遺物から縄文時代と考えられる。

第9号土坑（第125図）

位置　調査区の西部，E9c$_3$区。

規模と形状　掘り方は長径3.35m，短径1.70mの楕円形で，深さ2.21mである。底面は凹凸があり，壁は垂直に立ち上がる。

長径方向　N－73°－W

覆土　13層からなり，自然堆積土層と考えられる。

遺物　出土していない。

所見　遺構の形態から陥し穴と考えられる。出土遺物がないため，時期は不明である。

第10号土坑（第126図）

位置　調査区の西部，E9d$_4$区。

規模と形状　掘り方は長径2.87m，短径1.06mの長楕円形で，深さ1.93mである。底面はほぼ平坦で，壁は垂直に立ち上がる。

長径方向　N－70°－W

覆土　11層からなり，自然堆積土層と考えられる。

遺物　覆土中から縄文土器片が出土している。

所見　遺構の形態から陥し穴と考えられる。出土遺物がいずれも細片であるため，時期は確定できない。

第16号土坑（第126図）

位置　調査区の南部，E9i$_8$区。

規模と形状　掘り方は長径2.88m，短径1.70mの楕円形で，深さ1.80mである。底面は平坦で，壁は垂直に立ち上がる。

長径方向　N－38°－E

覆土　8層からなり，自然堆積土層と考えられる。

遺物　出土していない。

所見　遺構の形態から陥し穴と考えられる。出土遺物がないため，時期は不明である。

第19号土坑（第126図）

位置　調査区の南部東寄り，F10c$_9$区。

規模と形状　掘り方は長径2.85m，短径1.55mの不整楕円形で，深さ2.23mである。底面は平坦で，壁は垂直に立ち上がる。

長径方向　N－53°－W

覆土　8層からなり，自然堆積土層と考えられる。

遺物　覆土中から縄文土器片1点が出土している。

所見　遺構の形態から陥し穴と考えられる。出土遺物がいずれも細片であるため，時期は確定できない。

第21号土坑（第127図）

位置　調査区の南部東寄り，E10i_9区。

規模と形状　掘り方は長径3.45m，短径1.80mの楕円形で，深さ2.35mである。底面は平坦で，壁は垂直に立ち上がる。

長径方向　N－79°－E

覆土　10層からなり，自然堆積土層と考えられる。

遺物　覆土上層から縄文土器片が出土している。2は焼土とともに覆土中より正位で出土している。

所見　遺構の形態から陥し穴と考えられる。出土遺物は覆土上層からのみであり，土器片の周辺に少量の焼土や炭化材が見られる。本跡の時期は，出土遺物から縄文時代と考えられる。

第22号土坑（第127図）

位置　調査区の南部東寄り，E11i_1区。

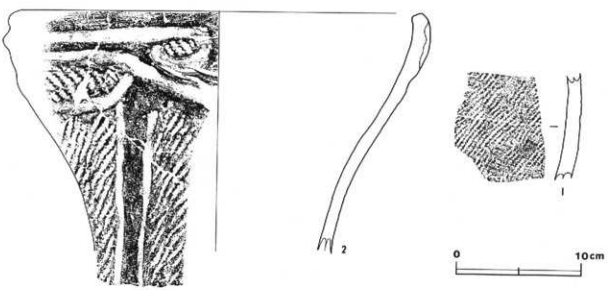
規模と形状　掘り方は長径2.22m，短径0.93mの長楕円形で，深さ1.85mである。底面は平坦で，壁は垂直に立ち上がる。

長径方向　N－35°－W

覆土　4層からなり，自然堆積土層と考えられる。

遺物　出土していない。

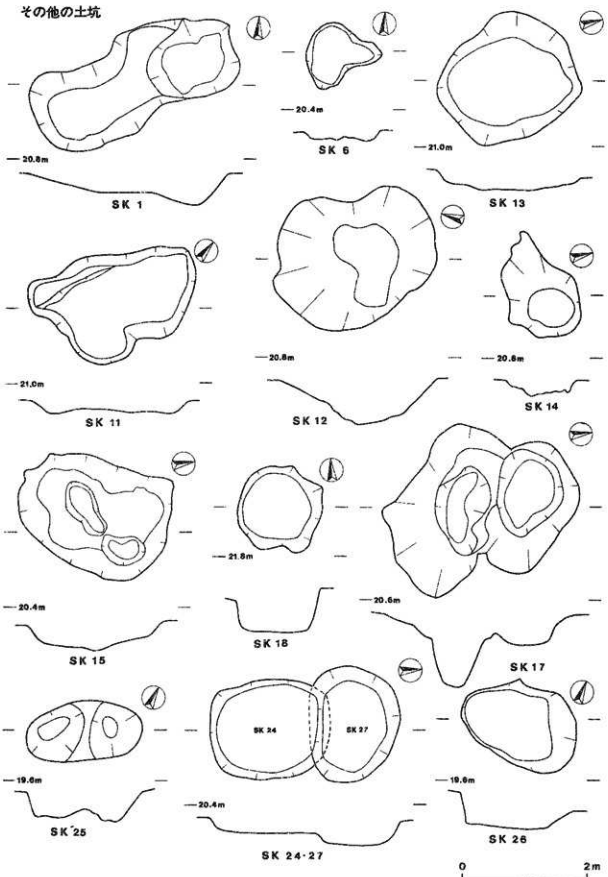
所見　遺構の形態から陥し穴と考えられる。出土遺物がないため，時期は不明である。



第128図　陥し穴出土遺物実測図

第21号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値（cm）	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第128図 2	深鉢 縄文土器	A 33.9 B (19.3)	胴部から口縁部にかけての破片。胴部は外傾して立ち上がり，口縁部は内彎する。口縁部文様帯は，沈線間の隆帯により長楕円形及び楕円形に区画され，内側に横位の縄文RLが施されている。胴部文様帯は，地文縄文に沈線間の磨消帯が直線的に垂下している。	砂粒，長石，スコリア にぶい橙色 普通	P2 40% 覆土中



第129図　その他の土坑実測図

表9　下高井向原II遺跡土坑一覧表

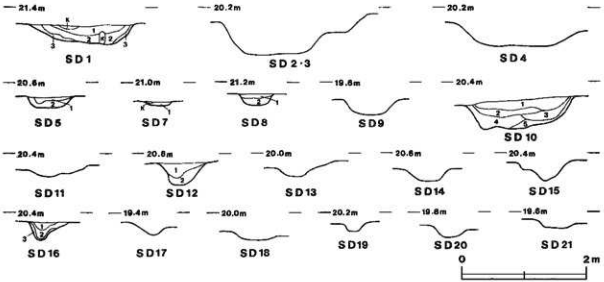
土坑番号	位置	長径方向（長軸方向）	平面形	規模 長径×短径（m）	規模 深さ（cm）	壁面	底面	覆土	出土遺物	備考 新旧関係（古→新）
1	D10i8	N−49°−E	不定形	3.62×1.30	40	緩斜	傾斜	自然		
2	E10a7	N−72°−E	楕円形	2.63×1.35	177	垂直	平坦	自然	縄文土器片	陥し穴
3	E10b3	N−73°−W	楕円形	3.23×2.00	200	垂直	平坦	自然		陥し穴
4	E9e9	N−6°−E	長楕円形	2.39×0.75	130	垂直	凹凸	自然	縄文土器片	陥し穴
5	E9f8	N−63°−E	不定形	1.67×0.58	77	垂直	凹凸	人為	縄文土器片	陥し穴
6	E9f8	N−19°−E	不定形	1.07×1.00	18	緩斜	凹凸	自然		
7	D8c0	N−38°−E	不整楕円形	2.12×1.35	105	外傾	傾斜	自然		陥し穴
8	E9a1	N−66°−W	楕円形	3.60×1.93	217	垂直	平坦	自然	縄文土器片	陥し穴
9	E9c3	N−73°−W	楕円形	3.35×1.70	221	垂直	凹凸	自然		陥し穴
10	E9d4	N−70°−W	長楕円形	2.87×1.06	193	垂直	ほぼ平坦	人為	縄文土器片	陥し穴
11	E8g9	N−41°−E	不定形	2.66×1.40	20	緩斜	凹凸	自然	縄文土器片，陶器片	
12	E9g2	N−44°−W	不整楕円形	2.20×2.00	70	外傾	傾斜	人為	縄文土器片	
13	E9h2	N−17°−E	不整円形	2.29×2.10	25	緩斜	ほぼ平坦	自然		
14	E9h3	N−71°−E	不整楕円形	1.56×1.15	22	外傾	凹凸	自然		
15	E9g7	N−22°−E	楕円形	2.48×1.70	45	外傾	凹凸	自然		
16	E9i8	N−38°−E	楕円形	2.88×1.70	180	垂直	平坦	自然		陥し穴
17	E9c9	N−7°−W	不定形	3.14×2.10	57	緩斜	凹凸	自然	縄文土器片，鉄滓	
18	E8a5	N−53°−W	円形	1.35×1.33	65	垂直	平坦	人為	縄文土器片	
19	F10c9	N−53°−W	不整楕円形	2.85×1.55	223	垂直	平坦	自然	縄文土器片	陥し穴
21	E10i9	N−79°−E	楕円形	3.45×1.80	235	垂直	平坦	自然	縄文土器片	陥し穴
22	E11i1	N−35°−W	長楕円形	2.22×0.93	185	垂直	平坦	自然		陥し穴
24	E11e1	N−87°−W	隅丸長方形	(1.92)×1.60	24	外傾	平坦	自然	縄文土器片	SK−27→本跡
25	E12d1	N−70°−E	楕円形	1.83×0.95	50	外傾	凹凸	人為		
26	E12c7	N−86°−W	不整楕円形	1.95×1.26	52	外傾	傾斜	自然		
27	E11e1	N−16°−E	楕円形	1.84×(1.45)	42	外傾	平坦	自然	縄文土器片	本跡→SK−24

3　溝（付図3）

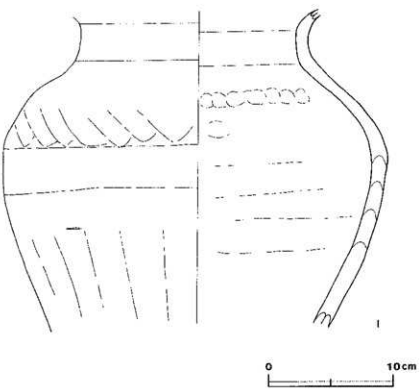
当遺跡から21条の溝を確認した。第1号溝は，覆土中から12世紀後半の常滑産の陶器片が出土しており，中世前後の遺構であることが確認できる。その他の溝については，出土遺物も少なく，時期の判定や性格は不明である。全測図から数条の溝によって方形に区画されているようにも考えられるが，区域内に関連する遺構や遺物が確認されていないため，時期の判定や遺構の性格は不明である。当遺跡で確認された溝については，表10の一覧表で紹介する。

第1号溝出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値（cm）	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第131図 1	壺 陶器	B（25.1）	体部から口縁部にかけての破片。体部に最大径を持つ。頸部でわずかに直立した後，口縁部は外反する。	内・外面ナデ。頸部から体部上位にかけて緑釉が施されている。	砂粒，長石 にぶい赤褐色 良好	P3 40% 覆土中



第130図　溝土層断面実測図



第131図　第1号溝出土遺物実測図

表10　下高井向原II遺跡溝一覧表

溝番号	位置	方向	形状	規模				壁面	底面	覆土	出土遺物	備考 新計関係（古→新）
				長さ(m)	上幅(cm)	下幅(cm)	深さ(cm)					
1	E8区	西→東	コの字状	65	200	100	40	緩斜	平坦	自然	縄文土器片，土師器片，陶器片	本跡→SD－2，3
2	E8区	南→北	変線状	76	110	50	40	外傾	平坦	自然	縄文土器片，土師器片，陶器片，瓦片	SD－1→本跡→SD－3
3	E8区	南→北	変線状	76	120	60	55	外傾	平坦	自然	縄文土器片	SD－1→SD－2→本跡→SD－5
4	E9区	南→西	L字状	75	160	100	38	緩斜	平坦	自然	縄文土器片，土師器片，陶器片，鐵	SD－1と重複，不明
5	D8区	西→東	変線状	29	100	60	17	緩斜	平坦	自然		SD－3→本跡

調査番号	位置	方向	形状	規模 長さ(m)	上幅(cm)	下幅(cm)	深さ(cm)	壁面	底面	覆土	出土遺物	備考 新旧関係（古→新）
6	E11区	南・北	コの字状	13	70	40	25	緩斜	平坦	自然		
7	E8区	西→東	直線状	9	30	20	11	緩斜	平坦	自然		
8	E8区	西→東	L字状	9	50	30	29	外傾	平坦	自然		
9	D8区	南東→北西	直線状	9	100	50	18	緩斜	平坦	自然	瓦片	
10	D10区	北西→南東	弯線状	34	140	80	35	緩斜	凹凸	自然	縄文土器片，土師質土器片，陶器片，鐵	SD－11と重複 不明
11	D10区	東→南西	L字状	14	200	130	25	緩斜	平坦	自然	縄文土器片，土師器片，陶器片，鐵	SD 12→本跡 SD-13,12と重複 不明
12	D10区	東→西	直線状	37	80	40	19	外傾	平坦	自然	縄文土器片，土師器片	SD-15と重複 不明 本跡→SD-11
13	D10区	南→西東	L字状	27	100	40	33	外傾	平坦	自然	土師器片	本跡→SD－11
14	E10区	北→東	L字状	61	100	30	37	外傾	ほぼ平坦	自然	縄文土器片，土師器片，鐵	
15	E10区	西→東	弯線状	13	90	30	27	外傾	傾斜	自然		SD－12と重複 不明
16	E11区	南・北	直線状	13	60	10	28	外傾	平坦	自然		本跡→SD－18
17	E11区	西→東	弯線状	9	60	20	20	緩斜	平坦	自然		
18	E11区	西→東	ほぼ直線状	14	74	22	13	緩斜	平坦	自然		SD－16→本跡
19	E11区	西→東	弯線状	14	50	10	10	外傾	平坦	自然		
20	E11区	南→北	ほぼ直線状	10	46	14	10	緩斜	平坦	自然	土師器片，陶器片	SD－21→本跡
21	E11区	東→北西	ほぼ直線状	6	64	22	6	緩斜	平坦	自然		本跡→SD－20

4　その他の遺構

第1号不明遺構（第132図）

位置　調査区の北東部，D8a$_1$区。

重複関係　本跡は，第2号不明遺構と重複している。本跡を第2号不明遺構が掘り込んでおり，本跡の方が古い。

規模と形状　東側が第2号不明遺構に掘り込まれているため全容は不明である。調査範囲での結果は，掘り方は長軸4.45m，短軸1.10mの不定形，深さ33cmである。第2号不明遺構の下層に径20cmの円形，深さ33cmの柱穴が確認された。本跡に関係するピットと思われるが，性格は不明である。

長軸方向　N－14°－E

壁　外傾して緩やかに立ち上がる。

床　緩やかに傾斜しているが，南側の一段深く掘り窪められた部分に長径85cm，短径50cmの楕円形，2cmの厚さで焼土の堆積が見られる。焼土の周辺はやや踏み締められている。

覆土　3層からなり，自然堆積土層と考えられる。

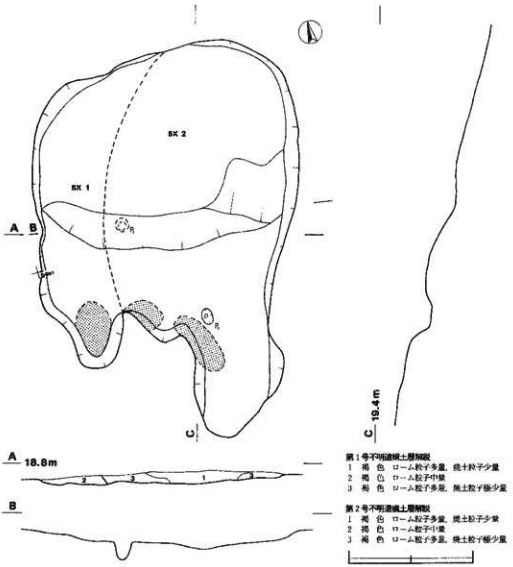
遺物　覆土中から縄文時代早期の口縁部が肥厚する撚糸文が施された土器片が出土している。

所見　本跡の時期は，出土遺物から縄文時代早期と考えられる。遺構の性格は，炉穴と推定される。

第2号不明遺構（第132図）

位置　調査区の北東部，D8a$_1$区。

重複関係　本跡は，第1号不明遺構と重複している。本跡は第1号不明遺構を掘り込んでおり，本跡の方が新らしい。



第132図　第1，2号不明遺構実測図

規模と形状　掘り方は長軸4.80m，短軸3.05mの不定形，深さ35cmである。南西部に長径25cm，短径20cmの楕円形，深さ15cmの柱穴が確認された。本跡に関係するピットと思われるが，性格は不明である。また，南東部に径20cmの円形，深さ33cmの柱穴が確認されたが，第1号不明遺構に関するピットと思われる。

長軸方向　N－21°－E

壁　外傾して緩やかに立ち上がる。

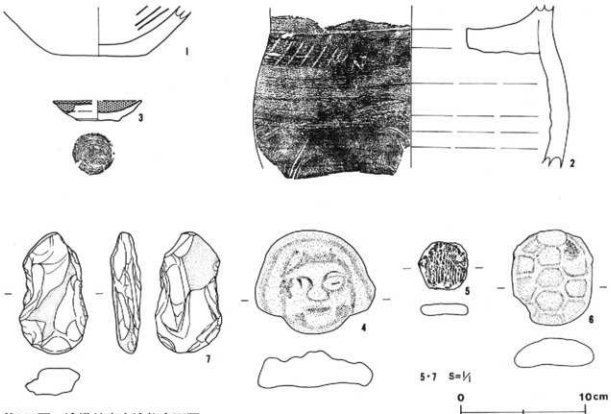
床　緩やかに傾斜しているが，南西側の一段深く掘り窪められた部分に，長径105cm，短径38cmの長楕円形と長径57cm，短径35cmの不整楕円形の2つの焼土の薄い堆積が見られる。

覆土　3層からなり，自然堆積土層と考えられる。

遺物　覆土中から縄文時代の土器片が出土している。

所見　本跡の時期は，出土遺物から縄文時代と考えられる。遺構の性格は炉穴と推定される。

5　遺構外出土遺物



第133図　遺構外出土遺物実測図

遺構外出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第133図 1	深鉢 縄文土器	B (4.0) C 7.0	底部片。平底。胴部は外傾して立ち上がる。胴部下位にかすかに縄文が施されている。	砂粒、スコリア 褐色 普通	P4 10% 覆土中

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第133図 2	七厘 陶器	B (13.0) 孔径 8.6	体部片。体部下位から内彎して立ち上がり、体部中段に中底を持つ。	内・外面ナデ。	砂粒、長石 にぶい橙色 良好	P5 10% 表採
3	坏 陶器	A [7.2] B 1.6 C 3.4	底部から口縁部にかけての破片。平底。底部は突出気味。体部は大きく外傾して立ち上がる。	内・外面ナデ。底部回転糸切り。内面から口縁部外面施釉。	砂粒 浅黄色 普通	P6 70% 表採

図版番号	器種	計測値 (cm) 最大長	最大幅	最大厚	重量 (g)	現存率 (%)	備考
第133図4	泥面子	2.8	3.2	1.0	7.2	100	DP1、覆土中
5	土製円盤	3.9	4.0	0.9	15.1	100	DP2、覆土中
6	泥面子	2.5	2.1	0.8	3.1	100	DP3、覆土中

図版番号	器種	計測値 長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	石質	出土地点	備考
第133図7	打製石器	9.7	5.4	2.5	112.9	安山岩	表面採集	Q1

第4節　まとめ

今回の調査によって，当遺跡から縄文時代の竪穴住居跡1軒と土坑23基の他に溝21条，不明遺構2基が確認されている。遺物は縄文時代早期から中期までの土器片が主に出土し，土師器片，陶磁器片及び石器も少量出土している。

住居跡は径4.2mの円形で，主柱穴を4本有し，南側に径1.5mの半円形の張り出し部を持っている。張り出し部の中央にはピットを有しており，出入り口施設と考えられる。また，炉の周囲を囲むように4本のピットを有しているが，詳細は不明である。遺物は約30点の縄文土器片が出土しており，そのうち覆土中層から出土した土器片は加曽利E III式期である。本跡の時期は，出土遺物から縄文時代中期の住居跡と推定される。

また，時期不明のものが多いが12基の陥し穴が確認されている。第21号土坑の覆土上層から住居跡と同時期の土器片が出土しており，第21号土坑は縄文時代中期かそれ以前のものである。陥し穴については，判定する遺物が少なく時期の詳細は不明であるが，いずれも台地縁辺部に沿って配置されており，同時期のものと考えられる。

不明遺構については，覆土中から縄文時代早期の土器（井草式期）片が出土している。底面近くから少量の焼土が出土しており，屋外炉の可能性が考えられる。

第1号溝は，南側の調査区外から北方向に5m直進し，調査区南西部で直角に東に折れて60m直進した後，第4号溝と合流して南側の調査区外へ直進している。全容は不明であるが，「コ」の字状か方形に区画されていたものと考えられる。覆土中から12世紀後半の常滑産の壺が出土していることから，中世の遺構と考えられる。第2～5号溝も同時期のものと考えると，これらの溝によって方形に区画したものと推定される。しかし，区画内に中世に係わると思われる遺構は存在せず，第1号溝も調査区域外に延びており，詳細は不明である。

参考文献　取手市教育委員会　『取手市史原始古代（考古）資料編』　1989年3月

付章１　自然科学分析

１．甚五郎崎遺跡から出土した炭化材の樹種

パリノ・サーヴェイ株式会社

はじめに

茨城県では，これまでに多くの遺跡で住居構築材の樹種同定が行われてきた。その結果，県内における過去の用材選択の地域性などが明らかとなりつつある。しかし，これまでの調査例は，古墳時代がその多くを占め，他の時代については資料の蓄積は充分ではない。

本報告では，甚五郎崎遺跡の平安時代（9世紀末～10世紀初頭）の住居跡から出土した，構築材と考えられる炭化材の樹種を明らかにし，平安時代の用材選択に関する資料を得る。

１．試料

試料は，平安時代（9世紀末～10世紀初頭）の住居跡（SI－3）床面から出土した，住居の上屋材と考えられる炭化材2点（SI－3　No.8，No.12）である。試料によれば，No.8は住居のやや西壁寄り，No.12は住居南壁付近から出土した。

２．方法

木口（横断面）・柾目（放射断面）・板目（接線断面）の3断面の割断面を作製し，実体顕微鏡および走査型電子顕微鏡を用いて木材組織の特徴を観察し，種類を同定する。

３．結果

炭化材は，SI－3　No.8がコナラ属コナラ亜属コナラ節に，No.12がコナラ属コナラ亜属クヌギ節にそれぞれ同定された。各種類の解剖学的特徴などを以下に記す。

●コナラ属コナラ亜属クヌギ節（*Quercus* subgen. *Lepidobalanus* sect. *Cerris* sp.）

ブナ科

環孔材で孔圏部は1～3列，孔圏外で急激に管径を減じたのち，漸減しながら放射状に配列する。道管は単穿孔を有し，壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性，単列，1～20細胞高のものと複合放射組織とがある。

●コナラ属コナラ亜属コナラ節（*Quercus* subgen. *Lepidobalanus* sect. *Prinus* sp.）

ブナ科

環孔材で孔圏部は1～2列，孔圏外で急激に管径を減じたのち，漸減しながら火炎状に配列する。道管は単穿孔を有し，壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性，単列，1～20細胞高のものと複合放射組織とがある。

４．考察

構築材と考えられる炭化材は，クヌギ節とコナラ節が各1点であった。この結果は，これまで県内の主として内陸部の台地上から出土した古墳時代から平安時代の遺跡で行われた構築材の樹種同定結果と調和的である。このことから，本地域ではクヌギ節・コナラ節が住居構築材として多く使用されていたことが推定される。

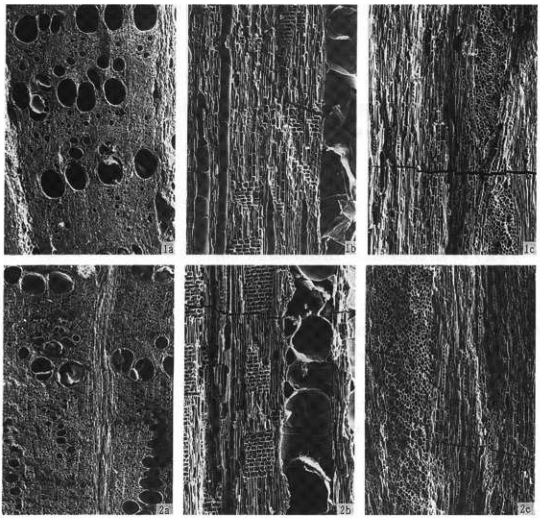
住居構築材の用材選択には，遺跡周辺の植生が密接な関係にあったことが，関東地方におけるこれまでの調査結果から明らかとなっている（高橋・槙木，1994）。関東地方中央部の台地上に位置する遺跡では，古墳時代

にクヌギ節・コナラ節が圧倒的に多く，平安時代になるとクリも比較的多くみられるようになる。茨城県内では，平安時代における住居構築材の調査例として，諏訪遺跡（嶋倉，1980），馬場遺跡，行人田遺跡，白石遺跡2次，前側遺跡，平出久保遺跡（いずれも未公表）などが知られている。これらの結果を比較すると，沿海地に位置する諏訪遺跡，白石遺跡，前側遺跡，平出久保遺跡ではアカガシ亜属やシイノキ属などの常緑広葉樹が多くみられる。これは内陸部のクヌギ節やコナラ節を中心とする樹種構成とは異なっており，高橋・植木（1994）の指摘する植生の違いを反映した結果と考えられる。しかし，内陸部の平安時代の用材選択に関する資料は充分とはいえず，今後さらに資料を蓄積する必要がある。

〈引用文献〉

嶋倉巳三郎（1980）日立市諏訪遺跡出土木炭の樹種について。「諏訪遺跡発掘調査報告書」，p.188，日立市教育委員会。

高橋　敦・植木真吾（1994）樹種同定からみた住居構築材の用材選択。*PALYNO*，2，p.5－18。



1．コナラ属コナラ亜属クヌギ節（SI－3 No.12）

2．コナラ属コナラ亜属コナラ節（SI－3 No.8）

a：木口，b：柾目，c：板目

200μm：a
200μm：b, c

2．下高井向原Ⅰ遺跡出土ハマグリの貝殻成長線分析について

西本豊弘・徳永岡子

はじめに

今回の調査では，第2号土坑と第20号土坑の2つの遺構内から貝層が検出されている。本報では，これら遺構から出土した貝種のなかでハマグリ（*Meretrix lusoria* RÖDING）の貝殻成長線分析を行い，貝層の堆積季節（期間），および貝の採取活動の季節性について検討した。

1．分析試料について

貝層の堆積時期は縄文時代早期の茅山式期である。貝層は径1m内外を測るやや大型の土坑内にレンズ状に堆積しており，出土貝については全部採取し，水洗後，種毎に選別をおこなっている。貝層の内容はマテガイ・ハマグリが主体で，その他にはハイガイ・オキシジミなどの鹹水産の貝で構成されている。また，ハマグリについては大きさを測定して，殻長組成を表示している。（詳細は(4)．貝塚の項目参照）。その行程を経た後，層位ごとに採取したサンプル中のハマグリについて貝殻成長線分析をおこなった。

通常，成長線分析では保存状況が良好で，完形もしくはそれに近い形の試料を抽出し，しかも分析が死亡季節査定を目的とする場合は，ハマグリの人きさが殻長30～40mm前後の試料を使用する。しかし，本遺跡の貝層は小規模な上に，主体貝種がマテガイであった為に土の混入量が多かったと思われ，ハマグリの保存状況が悪く，大部分の貝について縁辺が欠損しており，分析に使用できる試料は非常に限定された。

以上の条件のなかで，抽出分析をおこなった試料は，第2土坑の1～4・7層の5サンプルと，第20土坑の1～4層の4サンプルの合計9サンプルより151点を数えたが，死亡季節査定が可能な試料は43点と少ない結果となった。

2．分析方法

抽出した試料については，基本的に小池の方法（Koike 1980）に従って，プレパラート作成をおこない，死亡季節の査定をおこなった。具体的な作業手順を以下に説明する。

1）試料に試料番号を注記し，殻長，殻高を計測する。

2）試料を殻頂から殻縁に向かって正中線に沿って，デンタルドリルを用いて，半分に切断する。

3）切断した試料はポリエステル系合成樹脂に包埋した後，切断面を研磨する。
　尚，今回は特に保存状況が悪い試料については，樹脂包埋した後に半分に切断し，試料の内部に空洞がある場合には，再度切断面に樹脂が浸るように樹脂包埋をおこなった。

4）研磨の後に，切断面を洗浄し，0.1N希塩酸に約10秒間浸して脱灰エッチング）をおこなう。試料の崩壊を防ぐために，今回は脱灰時間を極端に短くしている。

5）脱灰した貝の断面に，酢酸メチルを滴下して，アセチルセルロースフィルムを貼付する。

6）十分な乾燥後に，フィルムを剥がし，スライドクラス2枚に挟み収縮を防止する。スライドグラスの端をメンディングテープで固定し，試料番号を記入して，プレパラートの作成は完了する。

7）プレパラートはそのまま顕微鏡の40～200倍で観察する。

8）成長線の間隔が狭い箇所を冬輪とし，最も貝縁辺に近い箇所を最終冬輪と設定する。

9）最終冬輪から縁辺までの成長線の本数を数え，その本数により1～45本（春季前半），46～90本（春季後半），91～135本（夏季前半），136～180本（夏季後半），181～225本（秋季前半），226～270本（秋季後半），271～315本（冬季前半），316～365本（冬季後半）の8期に区分して，季節推定をおこなう。

3．分析結果

第2号土坑は27点，第20号土坑は16点，合計43点について死亡季節査定をおこなった。しかし，試料劣化の為に第2号土坑の2・7層，第20号土坑の2層については，査定可能な試料は得られなかった。死亡季節査定を行った結果は分布図に示す。以下，各遺構ごとに死亡季節分布の特徴および堆積期間を述べる。

1）第2号土坑

死亡季節査定の結果は夏季後半から秋季前半にかけての限定した範囲での分布を示した。特に3・4層では最終冬輪から180～230日に集中して採取されている。しかし，すべての試料が一括で採取されているものではなく，3層では204日前後で死亡するグループと，あきらかに220日前後で死亡する固体のグループが見られることから，同時に採取され，廃棄された貝ではない可能性が高い。

次に，堆積速度についてであるが，この遺構では試料を抽出する際に，各層位を通じてどの貝にも表面に成長異常（停滞）を示す明確な輪肋の「くぼみ」が見られた。断面観察の結果，大部分の試料について，この成長異常は冬輪の直後に位置していた。このような最終冬輪と成長異常のパターンは極めて特徴的で，この遺構から出土したハマグリは，つまり同じ年に採取された貝であるといえよう。

2）第20号土坑

第2号土坑よりもやや小規模な貝層の堆積であるが，死亡季節の分布は第2号土坑よりも広範囲の春季前半から秋季後半までの時期にみられた。

ここでの貝は，第2号土坑と比較しても，保存状態の烈火が著しく，殻長40㎜以上のやや大きめのハマグリで，死亡季節査定をおこなった。その為に冬輪は類似した成長線の間隔のつまる箇所が実際の冬輪の数よりも多く検出され，この中から特に成長の遅い箇所，および前年度の冬輪から最終冬輪までの数が365本近く検出される箇所についてを最終冬輪とした。冬輪が2つ以上あり，どちらとも区別がつかない試料については，第2表で成長線本数が2つ設定されている。

各層位の試料の点数が不十分ではあるが，4層は夏季を中心とした，1層は春季を中心とした堆積の傾向がある。3層については春季と秋季の2期に分散する傾向にあるが，先にも述べたような冬輪の設定の違いの可能性もある。

おわりに

今回分析をおこなった結果，試料の保存状態が悪く十分な検討ができたとはいえないが，第2号土坑においては興味深い結果が得られた。すなわち，第2号土坑における貝の死亡査定の結果，夏季後半から秋季後半までに集中する傾向が得られた。しかし，細かく見ると，死亡日のこの範囲のなかにも2分に別れ，両者の死亡日のピークにも約15日の差があることがわかった。以上の結果から，第2号土坑に廃棄された貝は，同時に採取され，一括廃棄された貝ではない可能性は高いものの，比較的短期間の廃棄によって形成された貝層であることは，死亡季節の集中のまとまりから間違いないであろう。この点を追認するように，どの試料にも冬輪直後に成長異常（停滞）を示す輪肋の「くぼみ」が存在しており，同じ年に採取された貝である事が判明した。これらの点を総合して考えると，第2号土坑に形成された貝層は同一年度の秋という限られた期間に採取された貝であることが分かった。

こうした第2号土坑と比較して，第20号土坑の貝の死亡季節の分布を見てみると，春季前半から秋季後半までとばらつきがある。すなわち，層別に見ると，夏季を中心に採取・廃棄がおこなわれた4層，春季を中心とした1層である。このように同一遺跡内に存在する，類似した2つの土坑における廃棄行動の違いが成長線分析をおこなうことによって指摘できたといえよう。

最後にプレパラート作成および試料の検討に際して，日本学術振興会特別研究員の櫻泉岳二氏のご協力をいただいた。末筆ながら深く感謝いたします。

引用文献

Kike H. 1980 Seasonal dating by growth line counting of the clam, *Meretrix lusoria*. *The University Museum, The University of Tokyo*, Bulletin No. 18

下高井向原Ⅰ遺跡出土貝類種名表

マキガイ綱（腹足類）Gastropoda

1 イボキサゴ *Umbonium (Suchium) moniliferum*
2 スガイ *Lunella coronata coreensis*
3 ウミニナ *Batillaria multiformis*
4 カワアイガイ *Cerithideopsilla djadjariensis*
5 ツメタガイ *Glossaulax didyma*
6 アラムシロガイ *Reticunassa festiva*
7 アカニシ *Rapana venosa venosa*

ツノガイ綱（掘足類）Scaphopoda

8 ツノガイ科の一種 *Dentalium* gen. indet.

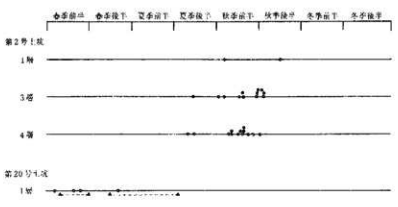
ニマイガイ綱（二枚貝類）Bivalvia

9 アカガイ *Scapharca broughtonii*
10 ハイガイ *Tegillarca granosa*
11 サルボウガイ *Scapharca subcrenata*
12 マガキ *Crassostrea gigas*
13 ヤマトシジミ *Corbicula japonica*
14 ウネナシトマヤガイ *Trapezium liratum*
15 ハマグリ *Meretrix lusoria*
16 カガミガイ *Phacosoma japonicum*
17 アサリ *Ruditapes philippinarum*
17 シオフキガイ *Mactra veneriformis*
18 ミルクイガイ *Tresus keenae*
19 イチョウシラトリガイ *Anomalocardia (Meretrix) cuspidata*
20 マテガイ *Solen strictus*
21 オオノガイ *Mya (Arenomya) arenaria oonogai*

種名・配列は波部忠重『学研生物図鑑　貝Ⅰ・Ⅱ改訂版』1990 学習研究社による

表2　ハマグリの成長線分析試料一覧

区　域	層位	資料番号	殻長(mm)	殻高(mm)	右殻/左殻	成長線本数
第2号土坑	1層	1	35.6	31.4	右殻	188
	1層	3	36.8	31.0	右殻	247
	3層	7	35.4	30.6	右殻	142
	3層	2	41.4	34.4	左殻	230
	3層	3	34.1	29.8	左殻	221
	3層	5	39.5	33.2	左殻	222
	3層	8	30.0	27.3	左殻	204
	3層	9	32.5	28.9	左殻	206
	3層	10	39.9	33.6	左殻	230
	3層	11	34.5	29.9	左殻	229
	3層	13	36.9	31.1	左殻	155
	3層	16	38.1	32.8	右殻	189
	3層	18	38.8	31.0	左殻	207
	3層	19	36.8	32.5	左殻	223
	4層	1	37.5	31.6	左殻	212
	4層	2	41.9	34.7	左殻	208
	4層	4	38.8	32.4	左殻	196
	4層	6	28.6	23.1	左殻	150
	4層	10	37.6	32.9	左殻	196
	4層	12	31.5	27.2	右殻	156
	4層	13	38.8	33.7	右殻	226
	4層	14	33.6	28.8	右殻	206
	4層	15	34.4	30.3	左殻	219
	4層	16	30.0	26.7	左殻	209
	4層	18	38.4	32.7	右殻	203
	4層	19	34.9	30.5	左殻	193
	4層	20	36.8	32.0	右殻	209
第20号土坑	1層	1	25.6	22.8	右殻	75
	1層	2	37.1	30.9	左殻	67or149
	1層	3	42.1	35.1	右殻	29
	1層	4	42.6	33.5	右殻	37
	1層	5	47.7	40.9	右殻	9
	1層	6	50.6	42.7	左殻	15or55
	3層	1	31.8	26.2	右殻	65or192
	3層	2	46.4	38.7	右殻	199
	3層	4	24.0	21.1	左殻	70
	3層	5	51.3	43.3	右殻	176
	3層	6	62.8	50.0	右殻	40
	4層	2	26.3	23.2	左殻	144
	4層	3	38.5	33.1	左殻	122
	4層	7	48.3	42.7	右殻	225
	4層	8	36.5	31.8	左殻	151
	4層	10	23.5	20.7	右殻	101

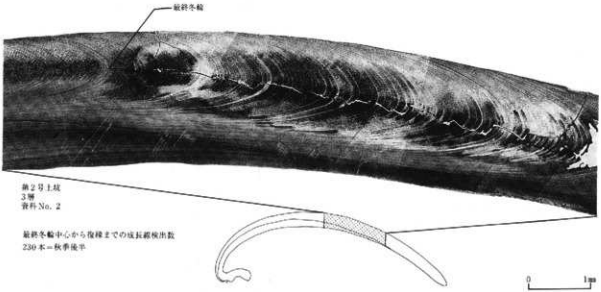


最終各論から腹縁までの1成長線数

● は試料1個体の推定値

▲…▲ は最終冬輪の位置に複数の可能性がある場合の推定値の範囲

ハマグリの死亡季節分布図



付章2　化学組成分析

茨城県取手市で出土した銅製品の蛍光X線分析

東京国立文化財研究所保存化学部化学研究室
平　尾　良　光，小　林　直　子

1．資料

茨城県取手市下高井向原I遺跡出土の和鏡（瑞花双鳳五花鏡）1点について，蛍光X線分析法で化学組成を測定した。

2．分析法

化学組成の測定には非破壊で分析できる蛍光X線分析法を用いた。蛍光X線法による化学組成の測定はフィリップス社製波長分散型蛍光X線分析装置PW1404LSで行った。機器の使用条件はスカンジウム管球を用い，60kV，50mAで一次X線を発生させて，資料に照射した。資料から発生する二次X線は元素毎に波長が異なるため，フッ化リチウムの結晶でX線を角度毎に分散させ，分散角度におけるX線強度を測定した。

3．蛍光X線分析および結果

蛍光X線による鏡の化学組成の測定は，見かけ上錆のみられない鏡表面および，鏡裏面（模様が描かれている面）の外縁部分で行った。

蛍光X線分析法では測定部表面から約10マイクロメートルまでの深さの化学元素組成に関する情報が得られる。それ故，表面に錆などがあればその影響を受けて化学組成は必ずしも本体金属部分を反映しない場合がある。この点を考慮して定性的な結果を次にまとめた。

測定された蛍光X線スペクトル図を図1～図2で示した。図の横軸は資料から発生したX線の分散された角度である。X線は元素毎に異なった角度に分散されるので，特定の波長は特定の元素を意味する。縦軸はX線の強度，即ち元素の量である。図のaは全体の様子であり，図bは縦軸を拡大して，小さなピークを検出できるようになっている。これら各元素のX線強度を銅の強度と比較して表1で示した。

結　　果

和　　鏡：測定した2箇所とも，ほぼ似た元素組成であった。主成分として銅，スズ，鉛が含まれるほか，少量，微量のアンチモン，銀，ヒ素，水銀，ビスマスが見られた。金，亜鉛，鉄は見られなかった。

4．所見

和　　鏡：測定結果から，主成分は銅，スズ，鉛合金であると判断される。銀，ヒ素，アンチモンは弥生時代の資料をはじめとして，江戸時代までの古代青銅製品に一般的に見られる元素組成である。したがって，この化学組成から本資料は古代青銅製品と同様の材料でできていると判断できる。

元素毎に見ると，スズの強度がかなり高い。これは錆の影響あるいは表面に水銀があることと考え合わせると鍍スズの可能性を示唆する。またヒ素が割合に多いことが一つの特徴である。さらにビスマスが存在している。ビスマスは古代製品にそれほど頻繁に含まれることはないので，今後このような資料が増えてくれば，銅，スズ，鉛の産地との関連が考えられる。

図1－a 和鏡　鏡面の蛍光X線スペクトル図

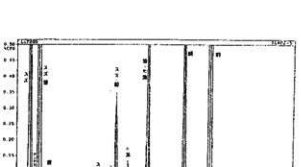


図1－b 図1－aの縦軸を12倍に拡大したスペクトル図

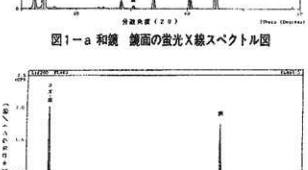


図2－a 和鏡　裏面の蛍光X線スペクトル図

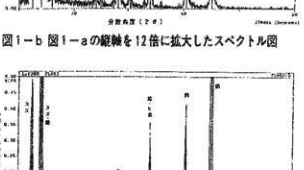


図2－b 図2－aの縦軸を5倍に拡大したスペクトル図

表1　茨城県出土資料の蛍光X線分析法で測定された元素のX線強度比※2)

角　度※2	アンチモン (13.5)	スズ (14.0)	銀 (16.0)	ビスマス (27.4)	鉛 (28.3)	ヒ素 (34.0)	水銀 (35.9)	金 (37.0)	亜鉛 (41.8)	銅 (45.0)	ニッケル (48.7)	鉄 (57.5)	銅強度 (cpm)
和鏡　鏡面 (FL402)※6	1.1	86	1.8	＋	5.7	12	＋	·	－	100	－	－	4400
和鏡　裏面 (FL403)	4	110	2.4	＋	2.9	15	－	－	·	100	--	－	1700

※1）数値は銅（角度45.0度における）のX線強度を100としたときの各元素の強度比
但し金属環No.26は金の37におけるX線強度を100とした
※2）2θで表された各元素の励起X線の位置
※3）鉛のピークはスズの影響を，ヒ素のピークは鉛の影響を補正した値
※4）FLは当研究室の蛍光X線測定番号
※5）＋は微小ピークがあることを示し，－は検出限界以下を表す

写 真 図 版

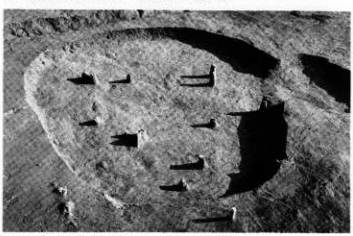
甚 五 郎 崎 遺 跡

下高井向原Ⅰ遺跡

下高井向原Ⅱ遺跡

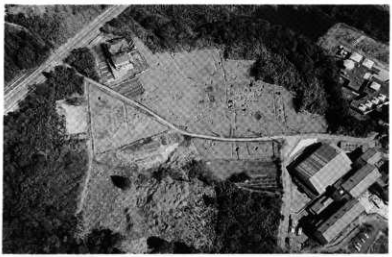
甚五郎崎・下高井向原Ⅰ・下高井向原Ⅱ遺跡遠景

甚五郎崎遺跡南東部・調査終了後全景



甚五郎崎遺跡第１号住居跡遺物出土状況

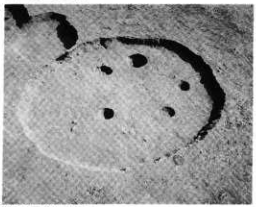
PL 2



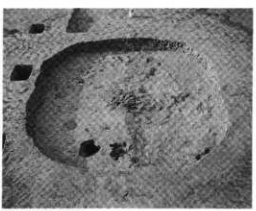
甚五郎崎遺跡全景

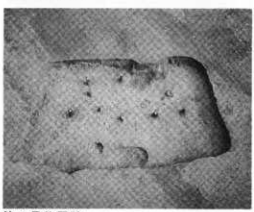
下高井向原Ⅰ遺跡全景

下高井向原Ⅱ遺跡全景


第 2 号住居跡

第 3 号住居跡

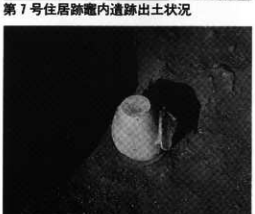

第 4 号住居跡


第 7 号住居跡

第 6 号住居跡

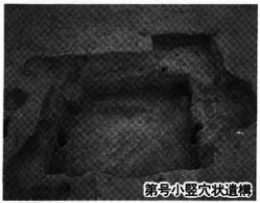
第 7 号住居跡竈内遺跡出土状況

第 8 号住居跡


第 8 号住居跡竈内遺跡出土状況

第1号小竪穴状遺構

SK－29


第号小竪穴状遺構

SK－119

SK－138

SB－7

SK－176

SD－29

遺構完掘状況

第 2 号住居跡遺跡出土状況

第 2 号住居跡遺跡出土状況

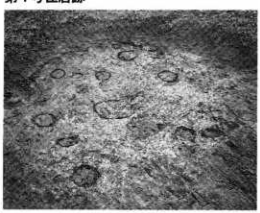
第 2 号住居跡

第 2 号住居跡貯蔵穴遺跡出土状況

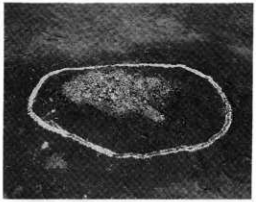
第 3 号住居跡遺跡出土状況

第 4 号住居跡

第 4 号住居跡遺跡出土状況



第 5 号住居跡遺跡出土状況



第2号土坑貝出土状況

第2号住居跡

第2号土坑貝出土状況

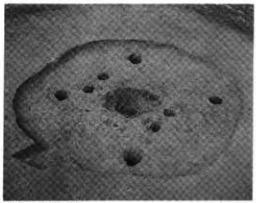
第18号土坑，鏡出土状況

第20号土坑貝出土状況

第20号土坑

第20号土坑貝層断面図

第29号土坑


第1号住居跡

第1号住居跡土層断面図

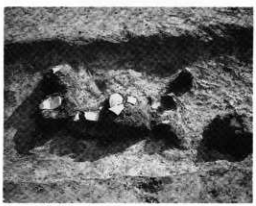
第1号住居跡遺物出土状況

第10号土坑

第17号土坑

第1，2号不明遺構

第1号溝

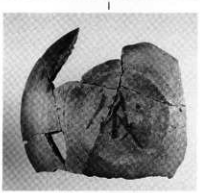

第2号溝遺物出土状況

SI3－1

SI3－6

SK29－2

SK29－1



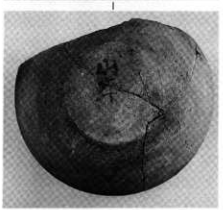
SK18－1

SI3－4

SI3－13

SK29－6

SI3－16



SI3－7

SI3－3

SI3－2

SI7－2

SI3－6

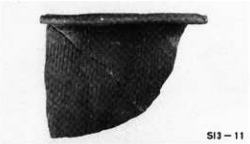
SI7－3

SI7－6

SI7－5

SI7－4

SI8－3


SI3－11

SI3－12

第1号小竪穴－3

SI3－9

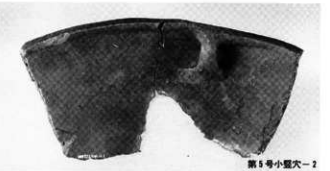
SI3－10

SI7－7

SI8－3

SK29－5

SK29－9


第5号小竪穴－2

SK119－3

SK177－2

SI8－5

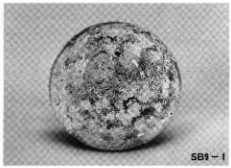
SK29－8

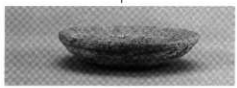
SK169－2

SK119－4

SD2－1

SK119－7


SB9－1



SI8－1

SK29－7

SK119－2

SD5－3

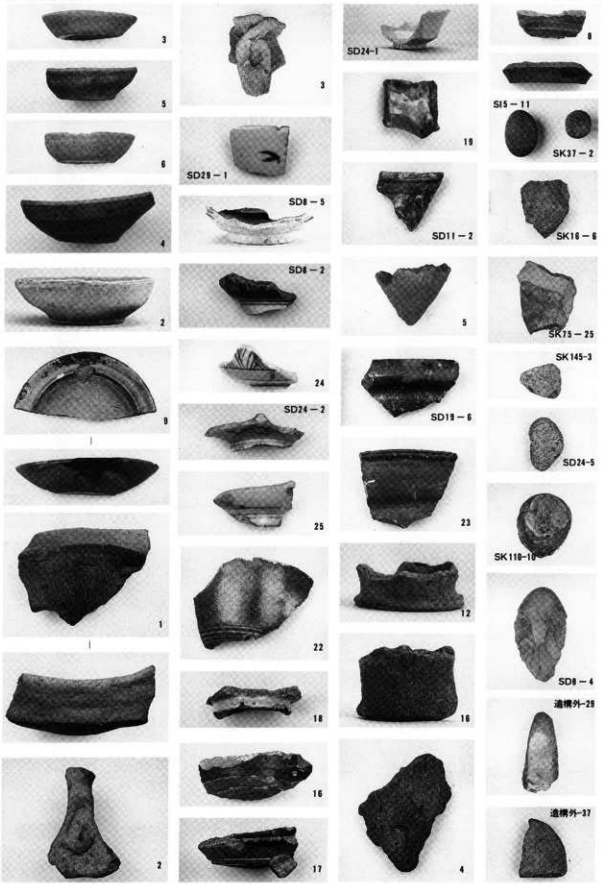
SD8－1

第5号小竪穴－1

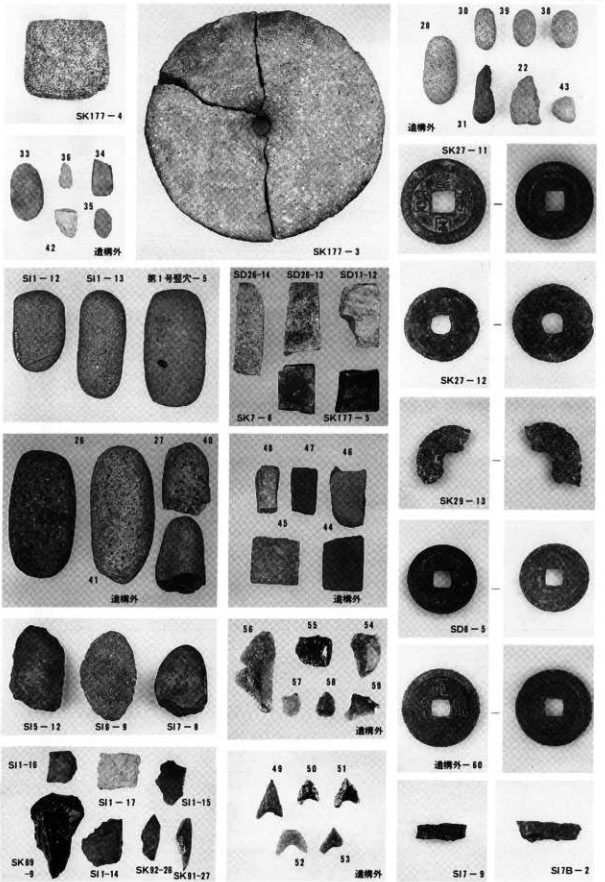
SD8－3

SD11－2

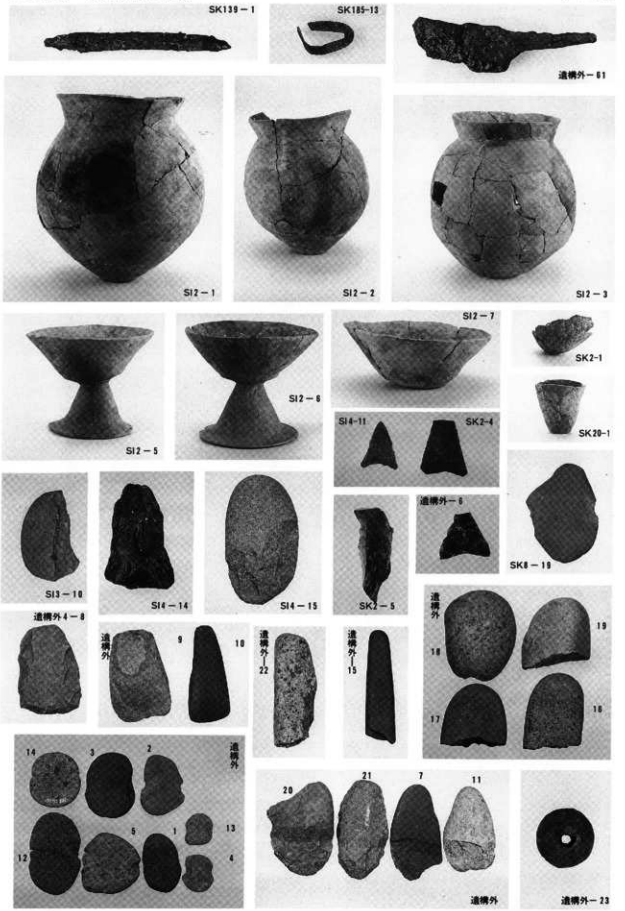
SD7B－1


3
5
6
4
2
9
1
2
3
SD29－1
SD8－5
SD8－2
24
SD24－2
25
22
18
16
17
SD24-1
19
SD11－2
5
SD19－6
23
12
16
4
8
SI5－11
SK37－2
SK16－6
SK75－25
SK145-3
SD24-5
SK110-10
SD8－4
遺構外-29
遺構外-37

土坑，溝，遺構外出土遺物


SK177－4
SK177－3
28
30
39
38
22
43
31
遺構外
33
36
34
35
42
遺構外
SK27－11
SI1－12
SI1－13
第1号竪穴－5
SD26-14
SD28-13
SD11-12
SK7－6
SK177－5
SK27－12
26
27
40
41
遺構外
48
47
46
45
44
遺構外
SK29－13
SD8－5
SI5－12
SI8－9
SI7－8
56
55
54
57
58
59
遺構外
遺構外－60
SI1-16
SI1－17
SI1-15
SK89
-9
SI1-14
SK92-28
SK91-27
49
50
51
52
53
遺構外
SI7－9
SI7B－2

出土遺物


SK139－1
SK185-13
遺構外－61
SI2－1
SI2－2
SI2－3
SI2－5
SI2－6
SI2－7
SK2-1
SK20-1
SI4-11
SK2-4
SI3－10
SI4－14
SI4－15
SK2－5
遺構外－8
SK8－19
遺構外4－8
遺構外
9
10
遺構外－22
遺構外－13
遺構外
19
18
17
16
14
3
2
遺構外
13
12
6
1
4
20
21
7
11
遺構外
遺構外－23

出土遺物

SK18－1

SK18－2

SI1－1

SD1－1

遺構外－1

SK21-2

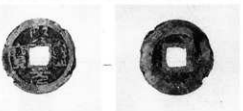
遺構外－2

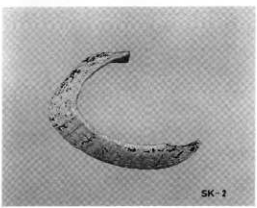
遺構外－5

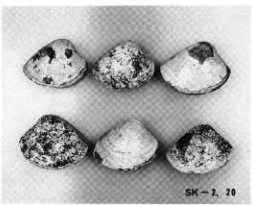
遺構外－7

遺構外－4

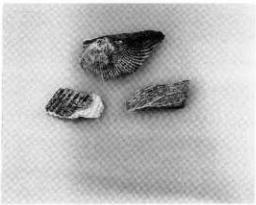
遺構外－8



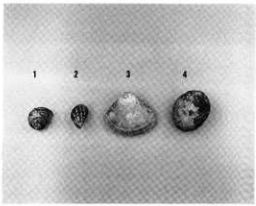

SK－2


SK－2, 20

出土遺物

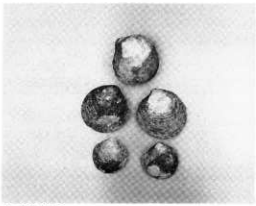


マテガイ



1.キサゴ　2.カワアイ　3.ヤマトシジミ　4.ツメタガイ

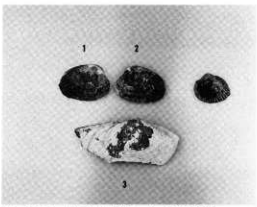
カキ



オキシジミ

オオノガイ

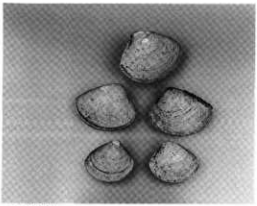
カニ



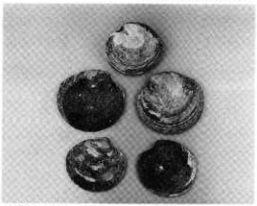
1.アサリ　2.サルボウ　3.ミルガイ

1.ヤマトシジミ　2.アラムシロ　3.ツメタガイ

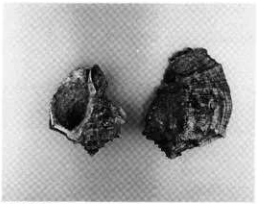
第2・20号土坑出土貝



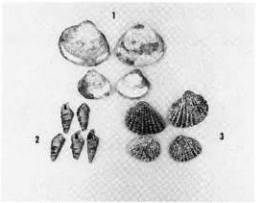
ハマグリ



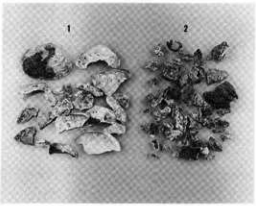
カガミガイ



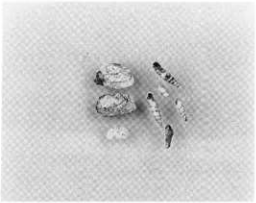
アカニシ



1.シオフキ　2.ウミニナ　3.ハイガイ



1.イチョウシラトリ　2.フジツボイガイ



1.ウネナシトヤマガイ　2.キセル貝

オキシジミ

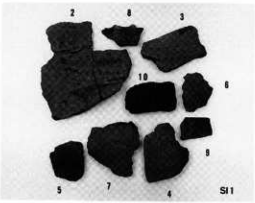
マテガイ

ハマグリ

ハイガイ

シオフキ

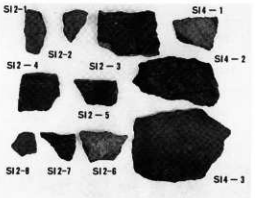
カキ



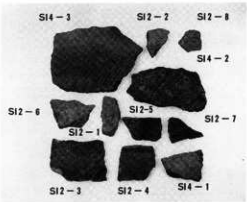
第1号住居跡出土縄文土器片

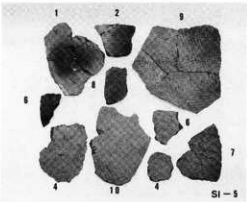
鉄，クルミ，カルシウム

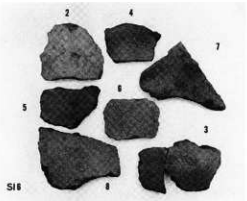
第3号住居跡出土須恵器



第2，4号住居跡出土縄文土器片


SI4－3
SI2－2
SI2－8
SI4－2
SI2－6
SI2－5
SI2－7
SI2－1
SI2－3
SI2－4
SI4－1


1
2
9
8
6
6
7
4
10
4
SI－5


2
4
7
6
5
3
SI6
8

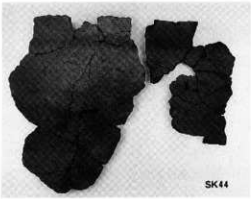
SI8－6

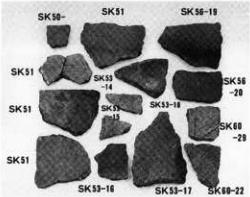
SK29－11

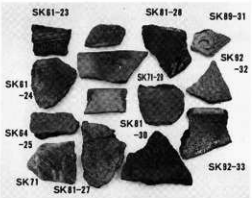
SK22
SK4－1
SK4－2
SK22
SK5
SK22
SK9
SK9
SK9－
SK9

SK30－6
SK31－9
SK41
SK39
SK30-7
SK41
SK39
SK31－8
SK39
SK41

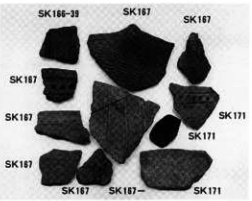
住居跡・土坑出土土器片


SK44

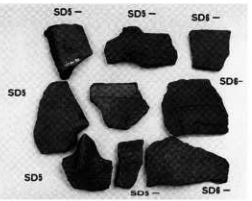

SK50-
SK51
SK56-19
SK51
SK53
-14
SK56
-20
SK51
SK53
-15
SK53-18
SK60
-29
SK51
SK53-16
SK53-17
SK60-22

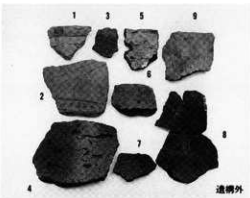

SK81-23
SK81-28
SK89-31
SK92
-32
SK81
-24
SK71-26
SK84
-25
SK81
-30
SK92-33
SK71
SK81-27

SK115-36
SK125A－
SK125B
SK161
SK115-37
SK161
SK112
-34
SK125A
SK112-44
SK125A
SK125A
SK161-38

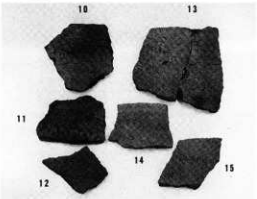

SK166-39
SK167
SK167
SK167
SK167
SK171
SK171
SK167
SK167
SK167－
SK171

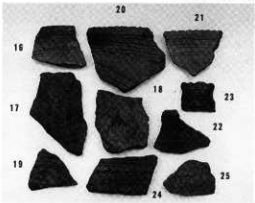
SK175-42
SK175-43
SK178-45
SK178
-47
SK175
-44
SK178-46
SD2－
SD2

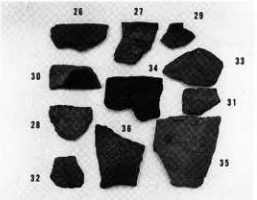

SD5－
SD5－
SD6－
SD6-
SD5
SD5
SD5－
SD6－

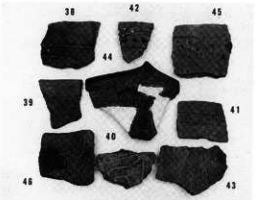

1
3
5
9
6
2
8
7
4
遺構外

土坑・溝出土土器片

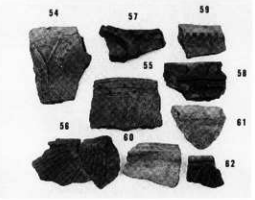

10
13
11
14
15
12

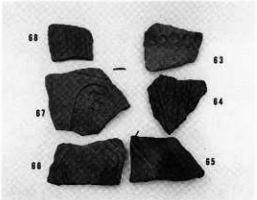

20
21
16
18
23
17
22
19
25
24

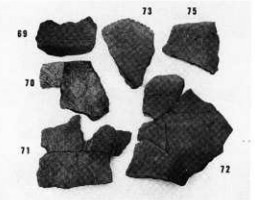

26
27
29
33
30
34
31
28
36
35
32


38
42
45
44
39
41
40
46
43

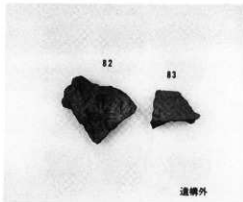
49
48
51
50
53
47
52

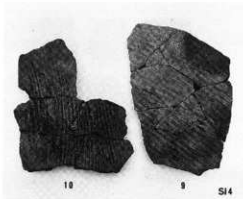

54
57
59
55
58
56
61
60
62

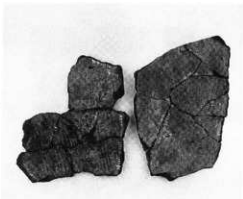

68
63
64
67
66
65

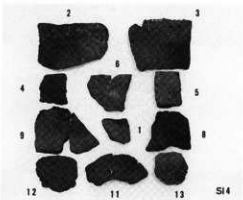

73
75
69
70
71
72

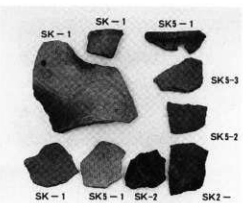
遺構外出土土器片

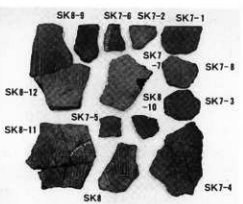




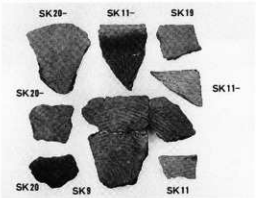


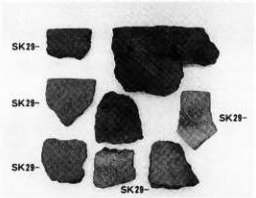


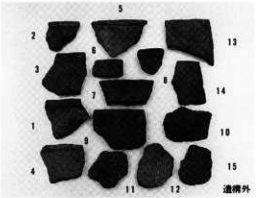


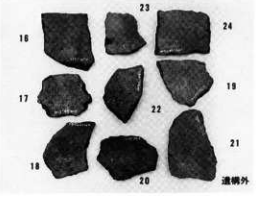


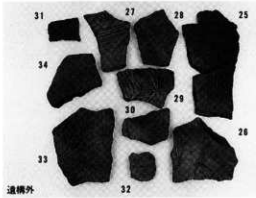
住居跡・土坑・溝・遺構外出土土器片

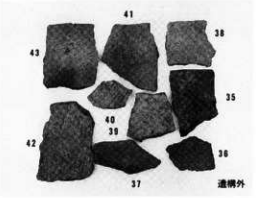


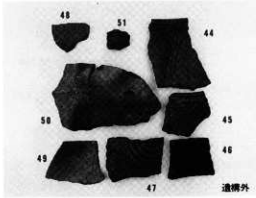


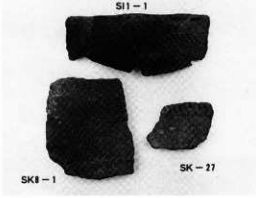












住居跡・土坑・遺構外出土土器片

茨城県教育財団文化財調査報告第107集

取手都市計画事業下高井特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書

甚五郎崎遺跡
下高井向原Ⅰ遺跡
下高井向原Ⅱ遺跡

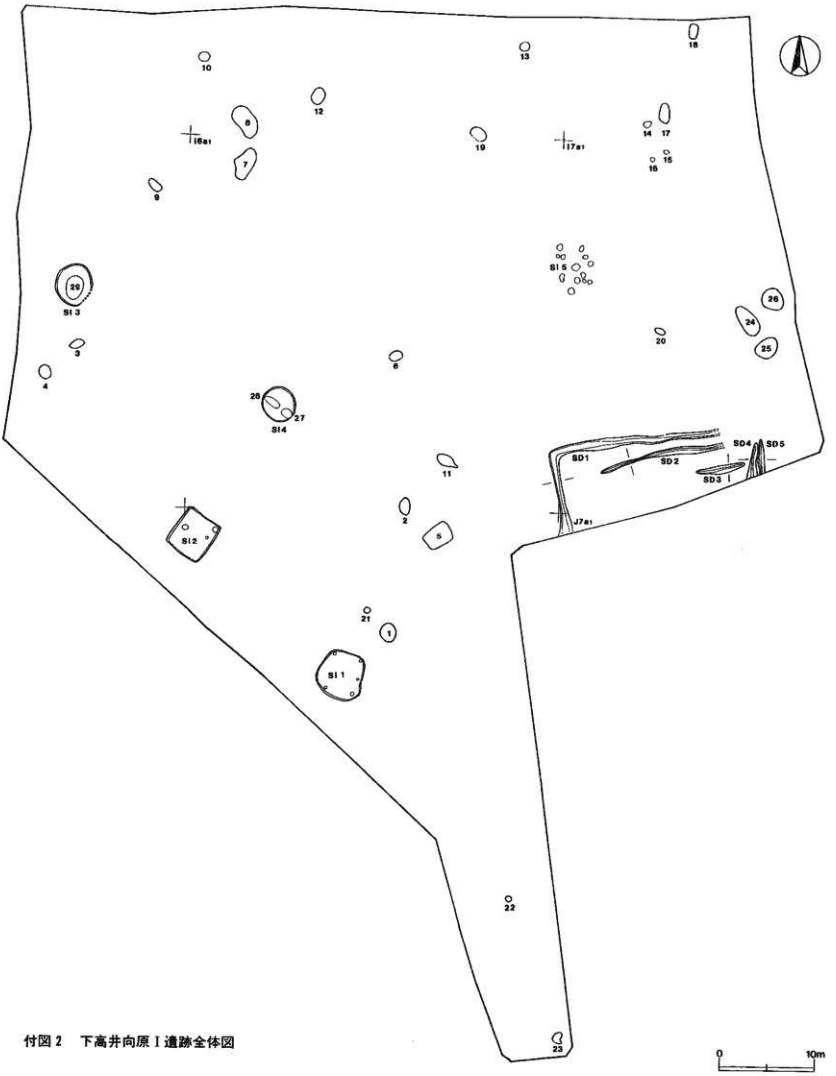
平成8（1996）年3月31日　印刷
平成8（1996）年3月31日　発行
発行　財団法人　茨城県教育財団
水戸市見和1丁目356番地の2号
茨城県水戸市生涯学習センター分館内
TEL 029 225-6587
印刷　ワタヒキ印刷株式会社
TEL 029－221－4381

附　　図

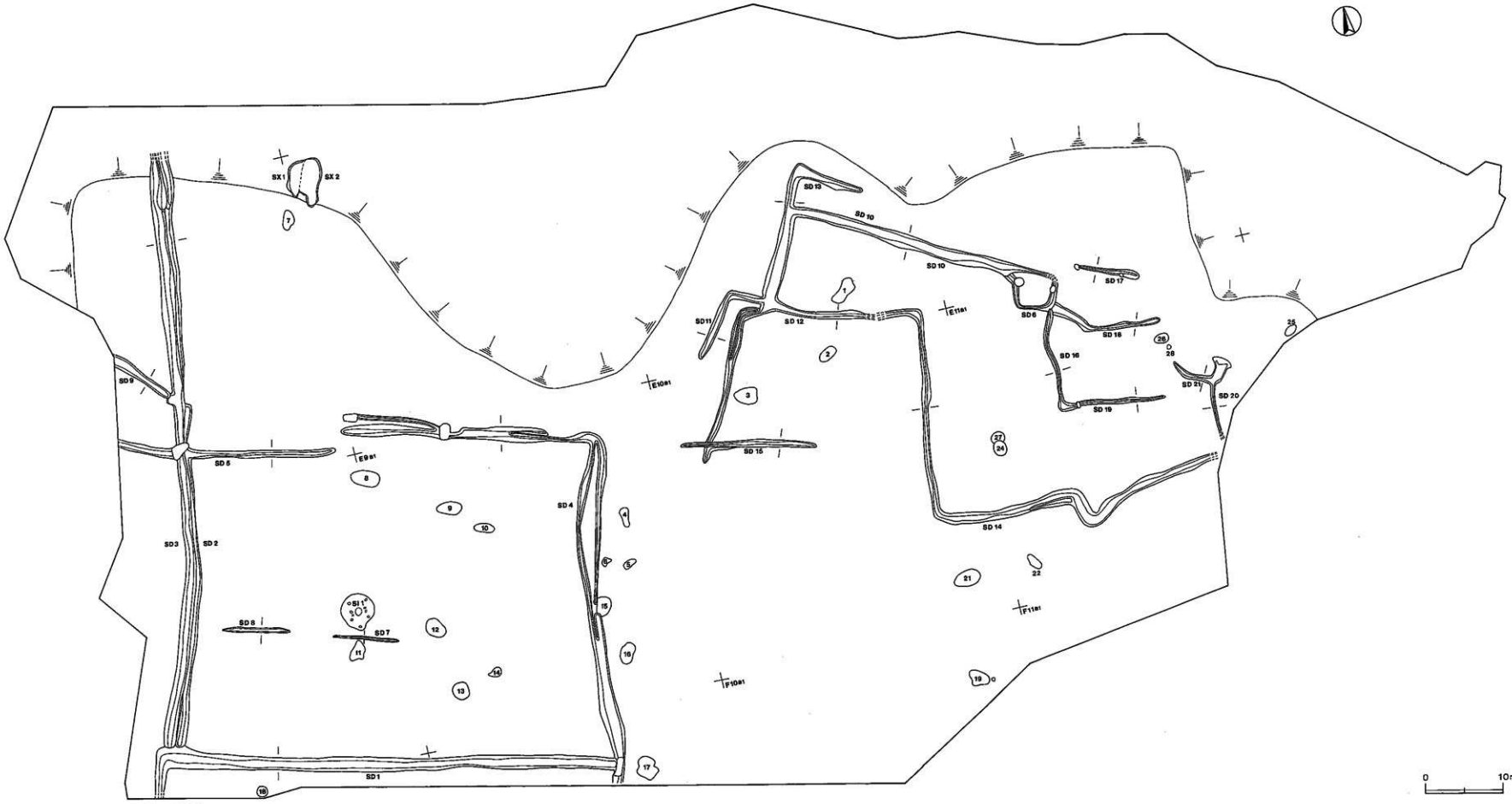
茨城県教育財団文化財調査報告107集

甚五郎崎遺跡
下高井向原Ⅰ遺跡
下高井向原Ⅱ遺跡

付図１　甚五郎崎遺跡全体図



付図 2　下高井向原Ⅰ遺跡全体図



付図 3　下高井向原Ⅱ遺跡全体図